

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Texts of tape-recorded conversations in Japanese dialects (Volume 5)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002274

方言談話資料(5)

—岩手・宮城・千葉・静岡—

国立国語研究所資料集 10-5

国立国語研究所

1981

方言談話資料(5)

——岩手・宮城・千葉・静岡——

国立国語研究所

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、「『各地方言資料の収集および文字化』のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話を録音し、その文字化（標準語訳・注つき）を行った。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得て実施された。

その成果は、機を得て、順次刊行する予定であり、昨年度までに、『方言談話資料(1)―山形・群馬・長野』『方言談話資料(2)―奈良・高知・長崎』『方言談話資料(3)―青森・新潟・愛知』『方言談話資料(4)―福井・京都・島根』を刊行した。本年度は、その第五集を刊行する。

本書に収めた録音・文字化資料は、もっぱら、本堂寛（岩手県担当地方研究員・岩手大学教授）、加藤正信（宮城県担当地方研究員・東北大学助教授）、加藤信昭（千葉県担当地方研究員・千葉大学教授）、日野資純（静岡県担当地方研究員・静岡大学教授）の四氏の尽力によるものである。また、話者もしくは司会者として、菊地政勝、吉田ケサエ、若松林平（以上岩手県）、内海春吉、木村精一、本郷しげ（以上宮城県）、鈴木与一、武田金市郎、広瀬ます（以上千葉県）、後藤百々代、佐藤とし、山本俊男（以上静岡県）の各氏の協力を得たほか、有志の助力があった。記して深く感謝の意を表する。

昭和56年 1 月

国立国語研究所長 林 大

方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部長

飯 豊 毅 一

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

徳 川 宗 賢（現在，大阪大学教授） 佐 藤 亮 一（室長） 真 田 信 治（研究員）

沢 木 幹 栄（研究員） 白 沢 宏 枝（研究員）

国立国語研究所地方研究員（五十音順）

秋 山 正 次	愛宕 八郎康隆	五十嵐 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	笥 大 城	加 治 工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄 一 郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼 一 郎	後 藤 和 彦	小 松 代 融 一	斎 藤 義 七 郎	迫 野 虔 徳
佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世	田 尻 英 三
種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊	日 高 貢 一 郎
日 野 資 純	広 戸 惇	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄	本 堂 寛
馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉 治 郎	村 内 英 一
室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋	山 本 俊 治
和 田 實				

「方言談話資料」(5) 編集担当者

飯 豊 毅 一 佐 藤 亮 一 真 田 信 治 沢 木 幹 栄 白 沢 宏 枝

収録・文字化担当者

岩手…本 堂 寛 宮城…加 藤 正 信 千葉…加 藤 信 昭 静岡…日 野 資 純

目 次

刊行のことば	3
まえがき	7
凡 例	10
I 岩手県江刺市本町	
解説	13
1. 小学校時代の思い出	17
2. 若い頃の思い出など	84
II 宮城県亶理郡亶理町荒浜	
解説	135
1. 電話交換嬢とのデート	142
2. 自転車で土手から落ちたこと	150
3. 若夫婦の御年始	154
4. ねずみのお汁	159
5. 昔の子供の様子	169
6. 学校の弁当	174
7. お祭	179
8. アイスキャンデーとお婆さん	188
III 千葉県館山市相浜	
解説	195
昔の漁業	200
IV 静岡県静岡市南字中村	
解説	243
1. 静岡の集中豪雨	251
2. 米作状況	275

3. 関東大震災の思い出	281
4. 静岡地震の思い出	286
5. 復員のころの思い出と戦後の復興	292
6. ベトナム僧のお経	296
7. 昔の生活と今の生活	303
8. 兵隊生活と君が代	311
9. 昔の生活の思い出	315

ま え が き

研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

録音・文字化を実施した府県は次の通りである。

青森^{*}、岩手、宮城^{*}、山形、群馬、千葉、新潟、石川^{*}、福井、長野、静岡、愛知、京都、奈良、鳥取、島根、広島、愛媛、高知、長崎、宮崎、鹿児島^{*}、沖縄

51年度は収録地点を4地点減らし(*印の県を割愛した)、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で、(a)目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b)老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c)場面設定の会話、の3項目についての録音・文字化を行い、なお、このほかに収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「(旅行などに)誘う」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「けんかをする」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した。

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50・51両年度分について逐次刊行していく予定である。本書は、50年度に収録・文字化を行った老年層話者による談話資料のうち、「岩手県江刺市本町」「宮城県亶理郡亶理町荒浜」「千葉県館山市相浜」「静岡県静岡市南字中村」の4地点分についてのものである。

話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

1. 老年層話者による談話(50年度)

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者で

も差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話(51年度)

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員(校長など)対その土地の一般的職業(農業・漁業など)に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者(地方研究員)に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

3. 老年層男性と若年層男性との対話(51年度)

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20~30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

4. 場面設定の会話(51年度)

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手であれば可とした。

司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつかなかった。

録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量(51年度については、各項目平均20分、合計60分程度)について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分(話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など)を選択して文字化することとした。

文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音的カタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化

作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。
4. 聴き取りが困難な箇所や、言いよどみ、言い重なり、言い直し、笑い声などについては、これらを一定の符号で表わすことにした（凡例参照）。

文字化には、標準語訳、および、場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお、標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え、訳が問題となるような箇所については、できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。

収録方言・表記・収録内容についての解説

文字化原稿とは別に、収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。解説には、原則として次の事項を記すこととした。

A. 収録地点とその方言について

1. 地点名
2. 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）
3. 収録した方言の特色
 - ①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
 - ②音声・音韻上の特色
 - ③文法上の特色

B. 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明など。

C. 収録内容の概説

1. タイトル
2. 録音年月日
3. 録音場所
4. 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴など
5. 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

凡 例

1. 場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し、該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号（かっこつき）で示した。
2. 発言や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には~~~~~線をつけた。
例 スッドネ <18ページ4段>
3. 最終的に聞き取り不能の箇所には~~~~~線のみを記した。
4. 言いよどみは、その末尾に-----線をつけた。
5. 複数の発言が重複した場合には、重複部分に_____線をつけた。
例 Cクラスシ スシテルガラネ（Bソーナンダ）（Aイヤヤ）<20ページ9段>
6. 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分にxxxxxxxをつけた。
例 ホノ ホノハ <19ページ9段>
xxxxx
7. 笑い声、咳ばらいなどは、（笑）、（咳）のように示した。
8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や、録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には、該当箇所に*の符号をつけた。

I . 岩手県^{え さし}江刺市^{ほん ちょう}本町

収録・文字化担当者 本 堂 寛

A 収録地点とその方言について

1. 地点名

岩手県江刺市本町

2. 収録地点の概観

水沢市の北東約8キロメートル。バスで約20分。一面田畑で江刺米と言われる米の産地。この地点は、もともと江刺郡の中心町岩谷堂にある。昭和33年11月、江刺郡全町村が合併して市に昇格。昭和33年当時、人口50,567人、戸数8169戸であったものが、昭和50年8月現在人口37,407人、戸数8834戸になっている。一時、人口はかなり減じたが、ここ3、5年少しずつではあるが増加している。岩谷堂町としては、昭和50年12月現在、人口9334人、戸数2559戸である。

3. 収録した方言の特色

①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

南奥方言地域に属するが、北奥方言地域に隣接している。このため、北奥方言の特徴の影響もかなり受けている。

②音韻上の特色

モ-ラ体系

wa	a	i	u	e	o	ja	ju	jo	N	R	Q
	ka	ki	ku	ke	ko	kja	kju	kjo			
	ga	gi	gu	ge	go	gja	gju	gjo			
	sa	si	su	se	so	sja	sju	sjo			
	za	zi	zu	ze	zo	zja	zju	zjo			
	ta			te	to						
		ci	cu			cja	cju	cjo			
	da			de	do						
	na	ni	nu	ne	no	nja	nju	njo			
	ha	hi	hu	he	ho	hja	hju	hjo			
	ba	bi	bu	be	bo	bja	bju	bjo			
	pa	pi	pu	pe	po	pja	pju	pjo			
	ma	mi	mu	me	mo	mja	mju	mjo			

音声的特徴

- (イ) i は単独の場合、[e] である。したがって、e における [e] の発音に近づいてくる。
- (ロ) ai, oi, ui は、[ɛ:] になることが多い。
- (ハ) ki, gi, si, zi などの i は、[i] となる。
- (ニ) ku, gu, su, zu などの u は、[ü] となる。
- (ホ) hi は [çi] となることが多い。
- (ヘ) k, t, c は、語頭以外の位置では、ある条件のもとでほとんど有声音化する。
- (ト) N, R, Q は、明瞭な拍とまらないことが多い。
- (チ) se, ze は、それぞれ [je], [ze] と発音される傾向がある。
- (リ) 語頭以外のカ行音、ダ行音、ザ行音、バ行音の直前に、ある条件のもとで鼻音が挿入されることが多い。

③ 文法上の特色

- (イ) 可能表現に ～ニイイを多く用いる。「書ぐにいい」「起ぎんにいい」となる。しかし、その打消表現は、ラ(エ)ネーとなつて、「書ぐえねえ」「起ぎらえねえ」となる。
- (ロ) 推量、意志表現には、ベーを多く用いる。「行くべえ」「見んべえ」
い順接仮定表現のうち、助動詞「た」の場合、タレバとなるのが普通である。「書いだらば」「そうしたらば」
- (ハ) 逆接確定表現は、ゲント(モ)を用いる。「雨降るげんとも行く」
- (ホ) 方向、目的を表す助詞にサを用いる。「学校さ行く」「見さ行く」
- (ヘ) 手段を表す助詞にバを用いる。「お前ば連れて行がね」「水ば飲む」
- (ト) 丁寧語としてガス・スがある。「そうでがす」「これが楽す」
- (チ) 指小辞コが頻用される。「米っこ」「草履っこ」

4. その他

「収録した方言の特色」の項で述べたように、北奥方言に接した南奥方言の最北地域であることが、この地点を選定した最大の理由である。つまり、旧伊達領に属していながら、旧南部領つまり北奥方言の特徴もかなり入り込んでいるであろうと考えたのである。

B 表記について

表記の仕方は、「割付用紙への記入」のカタ表記方式に従った。そのほか、次のような表記も用いた。

中古母音 [i] [ü] は、それぞれ \hat{i} , \hat{u} と表記する。したがって、[ki] [kü] について、それぞれ $\hat{k}i$, $\hat{k}u$ と表記し、[si] [sü] について、それぞれ $\hat{s}i$, $\hat{s}u$ と表記する。

C 収録内容の概説

1. タイトル

(1) 小学校時代の思い出 (2) 若いころの思い出など

2. 録音年月日

昭和50年8月14日

3. 録音場所

岩手県江刺市本町3番地5号 若松林平宅

4. 話し手の特徴

A 若松林平 (男)

大正5年生まれ。木材業。岩谷堂青年団副団長、岩谷堂中学校PTA副会長をし、現在、本町の納税組合長、本町町内会幹事としている。満州に2年間兵役で行った以外、他地で生活したことはない。

B 菊地政勝 (男)

明治42年生まれ。左官業。現在、岩谷堂大工組合理事、南町町内会班長をしている。9年間、中国大陸で従軍した。それ以外は現在地。方言はかぎり保有している方。三人の話者のうちで年長者なので昔の話をよく知っている。それほど話し上手というほどではないが、話好きの方と見受けられた。

C 吉田ケサエ (女)

明治45年生まれ。主婦。現在、岩谷堂婦人会本町班長。在外居住歴なし。方言を充分保有している。話し好き。

5. 録音環境

親しいおの同士の三人なので、話しはなごやかにスムーズ。ことに進行役の(A)若松林平がうまく話題を提供し、話を展開させていったので、途切れることなく話は進んだ。

(1) 小学校時代の思い出

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	若松林平	男	大正5年生まれ
B	菊地政勝	男	明治42年生まれ
C	吉田ケサ江	女	明治45年生まれ
<D	本堂 寛	男	昭和7年生まれ>

A マー トニカグー コ アノー アメッコ カ アメッコ
xxxx xxxxxxxx xxx
 とにかく あのう 館 を 館 を

ヒトズー ナンダ ミッツ ミ オラ ミッツ イッシェンダナー。
xxx
 一つ あれば 三つ 三つ 一 銭だったなあ。

C ヤギメシス ニギギテネ。(Aン) アノー アワドネ (Aン)
 焼 飯を 握 っ て あの 粟 と

ムギド ソノ コメドス。(Aン) モ ナントガ コノ
 麦 と 米 とね。 ぞんとか

バンツァ⁽¹⁾ (笑) アノー アワンダノ ムギ イレネデ。
 お婆さんが 粟 や 麦を 入れないで

(^A イレネコメ。) シ アワバリデモ イーガラ イレネデー
 入れない米。 粟 だけでモ いいから 入れないで

ニギ (^A ニギソメスア。) アノ モッテッテ ミデド オモッテ
 にぎソめしを。 持っていて 見たいと 思って

ガッコーサ。 ソシス テネ バンチャー アノ インズデモ
 学校に。 そしては、 お婆さん いつでも

イッカイ ソノ アノ コノ ヤギメスア アワ イレネデ
一回 あの この 焼飯に 粟を 入れずいで

(^Dアー。) ネ コーイフニヌ ワゲルド ホラ ミッツ
(ああ。) こうように 分けると ほら 三つ

ミイロダガラ シログ ミンナダ ムギ サット イレデ
三種類だから 白く みんなは 麦を ちよつと 入れて

クルノニヌ アワ マジェル (^Aシー。) スツドネ。 アノー
くるのに 粟を 混ぜるのです。 (うん。) そうするとね。

アノナー オメ ソステ ワ アノ アブレコ ⁽²⁾ コーユフナ
あのは お前 ちよつと 焼き網、 こうゆうふうな

アブレコ ソイズサ シス バネ タイ キー タグ シバ オツテ
焼き網、 それに 柴 は ^{xxxxxx} 木を 焚く 柴を 折って

(^Bソー ソー ソー ン。) (^Aンダ ンダナー。) ソシステ
ちよつと、 ちよつと、 ちよつと。 (うん、 うん、 うん、) ちよつと

コーユフニ ワダシステス ヤギメシヌ ニヌギツテネ (^Bアズ
こうように 渡して 焼飯 握ってね あれは

アノー コゲー クツカネーニヌ。) (^Aアンマソル クツカネー)
あのを 焦げが かつかないのだ。(あんまり かつかないのだ。)

ソシステ サット ニヌギ ^{xxxxxxxx} ヤイデガラ (^Bアブリゴ)
ちよつと あつさり 焼いてから 焼き網

コンドアー ミソ ツケデ (^Aン。) ハアー オ ガッコサ
今度は 味噌を つけて (うん。) ああ ああ ^{xxxx} 学校に

モッテター クーゴドー アノー カンゲアルド ヤッパソル
持って行って 食べることを 考えると やっぱソリ

オラモー ムギバリル イレダー ヤギメシヌ モツギデグテ
私も 麦だけを 入れた 焼飯を 持っていきたくて

(^B 笑い) (^A ホンダガラ ア ナルホドネー。) ソシ^ハテネ
それだから 成程だね。 そしてね。

バンチャー アノ アワ イッカイデモ イーガラ イレネデ
お婆さん、 あの 粟を 一回でも いいから 入れないで
ニヌギッテ ケロツテ イッタノ。 シス^ハタレバネ マジズ^ハノ
握って くださいと 言ったの。 そしたら 町の

ヒッタズア アワ イレネデ クルツテ イッタノ ミンナ。
人達は 粟を 入れないで 来る と 言ったんです。 皆が。

シス^ハタレバネ マズノ ヒッタズナー サンゴグ⁽³⁾ カワレネガラ
そしたら 町の 人たらはね、 三穀を 買われないから
ソノ コメノ ママダノネ ムギママ モツテグノデ サンゴグ
米の まま 麦の手子^ハで持って行くので 三穀を

カエネガラ モツテガネノダッツ ヨーニヌ (^A 笑い。)
買えないから 持って行かないのだと いうように (^B ンネア。)
そうだね。

オシエルダモネ。 ソシ^ハテ アドー ホニヌ シス^ハンブンモ
教えるんですね。 そして あと 本当に 新聞も

トツテネンダガラ ナーニヌガ⁽⁴⁾ カ アラ (^B ホノ⁽⁴⁾ ホノハ。)
取っていないので 何か あれ (^B xxxxx 朴の葉)

ホノハ アーユーノサ ツズンデネ。 (^B ホノ ハッパ アリヤー
朴の葉。 ああゆうのには 包んでね。 朴の葉 あれ。

~~~~~ ) ( <sup>A</sup> ホノ ハ~~~~~ニヌモ ツカッタ<sup>(4)</sup>ンダジャナ ネ  
朴の葉 にも 使ったんだよね。

アイズネ。 ) ( <sup>B</sup> ソー ソー ソ。 ) ソシ<sup>ハ</sup>テア アノ フルシスギ  
あれは。 ( <sup>B</sup> そう そう 。 ) そして あの 風呂敷

ホン ツズムノワ フルスギデ。 ガッコサ イツテ ハグ  
本を 包むのは 風呂敷で。 学校に 行って 履く

ワラゾーリル ソイズサ ソノ ベントノ ニギリッコド  
藁草履 それに 弁当の おにぎりと

イッショニヌ ~~~~~サ ショッテ コ ワツコニヌ<sup>(5)</sup>ネ。

いっしょに 背負って 首に結んで背負ったね。

B アノー フルシスギサネ コー ワツコニヌ ショッテ システ  
あの 風呂敷に こう 首で結んで背負って して

アダバ ベントバ コサ オニギリ コサ コー ギッチ<sup>(1)</sup>ッリ  
あとは 弁当を こんにに おにぎりを こんにに しっか<sup>(1)</sup>りと

(<sup>C</sup> ユツケデス。) ~~~~~コロ コロ コロド ~~~~~ (笑い)  
結びつけて。 ころころころ ころと

(<sup>A</sup> 笑い) ショシステ ハシエ アルイダ モダオナ。 (<sup>C</sup> ~~~~~)  
して 走り 歩いた ものだね。

オナシスダナー オダケモネ。 ) アー アー オナジズデガス。  
同じだね。 そうだったね。 同じですよ。

C ソーユフニヌ オシスエデネ サンゴグ マズ<sup>xxxxx</sup> ンデネンダモ  
そういうふうに 教えてね。 三 穀。 町。 そうではないのだよ。

マズノ ヒタズワ アノー ソレゴソ イー クラスシ  
町の 人達は それこそ 良い 暮しを

スシテルガラネ (<sup>B</sup> ソーナダ。) (<sup>A</sup> イヤヤ。) アワ タベネン  
しているから (そうなんだ。) (いやいや。) 粟を 食べないん

ダオンネ。

だものね。

A ソレ ワラズリ ~~~~~エデ コシエダ ワラズリ<sup>(1)</sup>ルネ。  
それ 藁草履 自分の家で 作った 藁草履ね。

(<sup>B</sup> ワラズリ ワラズリ アーアー ソーソーソー。) )  
藁草履 藁草履 ああ そうそう。)

C ツギッコ イレデ マンゼデ オッコ タデレバ シート  
 布片 を 入れて 混ぜて 緒と たてると とて  
 良くなるのでね。 ( <sup>A</sup> ~~~~ アギヤ オッコノ アギヤ オッコノ  
 赤い 緒の 赤い 緒の  
ゾールツッコダ ソレゴソ。 )  
 草履 買った。 それこそ。 )

B オラー アバレンボ ダガラ アノー ゴーリルナド  
 俺は 暴れん坊 なのぞ 草履 ぞど  
 ハガネガッタ ンダオン。  
 履かなかったんだものね。

C ダレ ベダベダ ( <sup>B</sup> ンー ) ( <sup>A</sup> ベダベダ~~~~ ハガネデ。  
 だって ベタベタと (はだ)でね) ( ベタベタと 鞋にも履かないで。  
~~~~ ダッタネ。 ) ( <sup>B</sup> ンー マズワ ハ。 ) ソレゴソ ションベ  
 だったね。) (先ずは。) それこそ 小便と
 タレルッタッテ ドゴサ イグッタッテ ハ ヒトツズキ
 する のにも どんに 行くにも 一続き
 ナンダネー。
 買ったからね。

B ゴーリルツッコナド ハガネンダオンノ。
 草履 ぞど 履かないからね。

C イマノ ゴダー ホントニヌ アイツ カンゲット ハ ユメ
 今に なるって 本当に あの時のことと考えると 夢の
 ミデダ。
 ようだ。

A アー イマノ ベント ナダー ソレゴソー オフルメサ ⁽⁶⁾
 ああ 今の 弁当 ぞど それこそ お振舞いに

イッタヨーナ モンナンダ^アオンネ。ネッ。

行ったように ものなんだから。

C ソイズサ ウメッコガ ミソズゲ イレダバリ。

それに、梅干か 味噌漬けを入れただけのものだ。

A ナットー オラ ナットー モツテッタ ゴド アルナー。

納豆、俺は 納豆を 持っていった ことがあるが。

ナットー モツテグズドァ クセクテナー ナ オヒルノ
納豆を 持っていくと 臭くては。 お昼の

ジズカンナンテナ。 (^B 笑い)

時間 などは。

C オライノ ジーチャンダネ ムスコー ホリヤ ムスコモ

私の家の 爺さんは 息子は それ、息子も

サイゴノ ムスコ ダガラネ ナンダリ イレデ ヤットア

最後の(昔の) 息子 だから は 色々 入れて やると

カンネデ ノゴシステ クルドゴダ。ソッスドネ ナヌニガ ^タ
食べないで 残して くるんです。 そうすると、何か ^{xxxx}

クモノ イレデ ヤラネバ アノー サッパド クツテ
食べるものを 入れて やらないと 少しも 食べて

コネガラ (^B アー。) ツアラバ オラナドナー ミソズゲダノ
味ないから (あゝ) したら、俺などは 味噌漬けや

ナヌニスカ イレデ ヤンネノニヌ ナヌニー ソンタヌニ
その程度のものか 入れて もらえなかったのに なにを そんなに

ゼジェータグ サセデッテ ユンダッケオンヤ。 (^{A.B} ンー。
贅 沢を させて と 言うんです。 うん。)

ンダッテ カンネデ クルモノ ノゴシステ クルモノ

だって 食べないで 帰ってくるもの、残して 帰ってくるもの

モッテネーッテ ユー。 (^B ンー。) ソスツドネ ノゴステクル
モったいざいと 言ったら。 (うん。) そしたら。 残してくる。

ア カンネデ ノゴスシテ クルドア カンネンダラバ
食べないで 残して くるのばら 食べないのばらば

カンネンデ ソノママデ イーガラ マイニヌズジ カンネデ
食べないで そのままで いいから 毎日 食べないで

クッコッテ ネーガラネ (^B アー。) ソナニヌ ニヌグダノ
帰ってくるのばら ないから (ああ。) そんなに 肉 だの

ナダノ イレデ ヤッコド ネット ジズブン イワレダ
なんだのと 入れて やるとは ないと 自分自身が 言われた

オガサレダゴドオ ユツテネー ソシステ ムスコダジズ ~~~~~
育てられた(当時の)ことを 言ってね。 そして 息子たちに

ユッタヨ。 (^A オガサレダ~~~~~) ホーントニヌ。
言っていますよ。 育てられた~~~~~。) 本当に。

B ソナニヌー イマノー ソダデガダドー ヤパリ ワレワレ
そんなに、 今の 育てかたと やっぱり 我々が

ソダデダドギャー モ ジズダイガ ゼンゼン チツカウガラ
育てられた時とは、 もう 時代が 全然 違っていただけから

スー ウーン (^A ~~~~~) アワメシス カセラレダッテ。
ね。 粟御飯を 食べさせられたってね。

C ソシステネー アサシスゴドニヌネー ゼツテニネ ナニヌガ
そしてね、 朝 仕事にね 絶対に 何か

アサシスゴド シスネバネ ガッコサ ヤラセライネンダオ。
朝仕事を しなないと 学校に 行かせられないものだったよ。

A ンダ ンダ イダメフギドガ (^C ナニヌガサ。)
そうだ。そうだ。 板ふきとか (何かに。)

ニワハギドガネー ナニ^ニガ カニ^ニガ ソー
庭掃除とかね、 何か かにか。

C チューセドギァ ソノ クレデ オッキグ ナレバ コンダー
小さい時は その 程度で 大きく ねると、 今度は
ハダゲサ イッテ ^A ワッパガ⁽⁸⁾ スシゴド ハダゲサ
島 に 行って (割り当てられた仕事を。) 島 に

イッテ アズギ ショッテ イツカイ ショッテ クンノネ。
行って 小豆を 背負って 一回 背負って 来るのだね。

イエネ ショッテ クンノッテ ソーシステ ネー ヒャクショー
稲を 背負って 来いと言って そして 百姓

ダガラー ^A ンダ マンズ ンデネバ マンズ マッチャ
だから (そうだ、 まあ、 それでなければ まあ 町に

イッテ トーフ カッテ コノー ナンダノ カンダノッテネ。)
行って 豆腐を 買って 来いとか なんとか かんとか言ってね。)

マジズド ゼーンゴデモ チッカッタ^ニンダベナ。
町と 田舎とでも 違ってたんだらうね。

B ンー マンズー ゼーン^{xxxxx} ゼー^{xxxx} マズノ ヒトアズズノア
うーん まず 町の 人達というのは

ナンデネガエंगा。 ンー アギンド システルドゴード ヤッパ
あれではないだろうか。 商店を している家と ヤッパ

オヒャクショー ステットゴドノ コドモダズノ ソダデガダ
お百姓 を している家の 子どもたちの 育てかたと

モジズ^ニロン ツガッタ^ニンダス。 ^A ンデモー アギネ
もちろん 違ったんだよ。 (でも 商店)

C イズバーン オレ オショスト オモッタノネ ログネンシェ
一番 私が 恥ずかしいと思ったのはね、 小学六年生

グリーンダ ンー ヨネンシェーダガ ンー ゴネンシェカ
ぐらいの頃 四年生だけ 五年生だけ

ログネンシェダナー (^B ンー。) アノー マーッスグニヌ
六年生だったかなあ。 うん。 ああ、 まっすぐ

カドオガガラ マッスグニヌ (^B ンー。) コノ マズサ キテス
片岡から まっすぐに (^B うん。) この 町に 来て

(^B ンー。) ソジステ アノ マメタマ (⁹) アリヤ (^A ン マメタマ
うん。) そして ああ 豆玉。 ああ、 (^A うん 豆玉

マメタマ。) コヤシヌニヌ スル マメタマナ アイス
豆玉。 肥料に おお 豆玉は、 あれを

ショワセラインデガステ ホニヌ ハンゲン (^A コノアレ アルヨ。
背負わせられたんです。 本当に 半間 (この位 あるよ。)

ハン コノ (^B ニヌシャク ゴジヌン グレエ アル。) ニヌシャク
半、 この (ニ尺 五寸 ぐらい ある。) ニ尺

サンジャク シスホン グレ アンデネ。ネ。
三尺 四方 ぐらい あるのではいいか。

A ソンナニヌ オッキグネーデー (笑い)
そんなに 大きくはないよ。

B ニヌシャク コスン グレエシャ。
ニ尺 五寸 ぐらいだよ。

C ニヌシャク ゴスン グレ (^B ソイズ~~~~) アイス
ニ尺 五寸 ぐらい (それは。) あれは

イジズバーン アノ ジズ ユーニヌ ナンネノ。 ワラダノ ソノ
いちばん 自由に ならないんだ。 藁 や

マメダノ ソユーナノワ ナンボガ ソノ ユーゴド。
豆 や そういうものは いくらか 自由になる。

ギポント⁽⁴⁰⁾ シスタ コンナ アズ^{xxxxx} アズノダオネ コノ クレ
ずっしり とした ンんま 厚いものだからね。これぐらい

グレ アズンデネ (^A ンー アズ アズ。) ソーシスタ
厚いはずだね。 (うん 厚い 厚い。) そして

コンドァ ソイズガネ カンラダサ アノー ユーゴド
今度は それが 体 に 自由に

キカネオネ ギポント⁽¹¹⁾ ナッテノ。 ソイズ ショウノ
ならないうで ずっしりと なっているんだ。それを 背負うのが

イジズバーン ヒデガッタヨ オボデスネ。ゼンゼン……。
いちばん 大変だったよ。おぼえていますよ。

A ア アイズ^{xxxx} ショッテ アル^ッッタノ。
ああ あれを 背負って 歩いたの？

C ンー。
うん。

B ンー ンダッタベナ。
うん。 そうだったろうね。

C ンー アイズ ショッテコッテ イワレダドギ ヤスミナンカニネ
うん あれを 背負って来いと 言われたとき、 休みなどに

マージズカラ ショッテコッテ イワレダドギ アイズ ハ
町 から 背負って来いと 言われたとき、 あれは

イジズバーン ヒデガッタ。
いちばん ひどかった。

B イマ ネーモンナ アー~~~~。
いまは ないものね。 ああ いうのは。

C ショ イヤスグネンダ アレワネ。 (^A イマ イマ^{xxxx} マメタマ
背負い易くないんだ。 あれはね。 (いま いま 豆玉は

デテコネ ~~~~~。) ネー ネー。 (^B シー。) シー。 アノ
ないものね。) ないよ。 ないよ。 (うん。) うん。

タガギスル ⁽¹²⁾ アダリル ネット。 (^B シー ンダネ。) タガギスル
田掻きする 頃 に ね。 (そうだね。) 田掻きする

アダリ フルー コナシステ フルノナンダオ。
頃 に ~~xxxxxx~~ くだいて ぶり散くのだね。

A シュリョヤノ ウエサ ミセサ カサナツテダンダオナー
肥料屋の 上に、 店に 重ねて置いてあったよね
アイズァー。
あれほ。

C シュツテスペ。
知っているでしょう。

A ン?
え?

C シュツテルベ。
知っているでしょう。

B タガイダノ ⁽¹³⁾ ヤマサンデ ⁽¹⁴⁾ アリヤミムセデァンダオ シー。
高栄 や 山三で あれほ 店であったよね。

C アド アリヤ イマ アノー。
あといほ。 あれほ いま あのう……。

A オラ ハジズメ ナニヌダ アイズ ナニヌナンダエド オモツテ
俺は 初め、 何なのか あれほ なになんだろうと 思って
ミデ アルツツテランダオナー。
見て 歩いてたものだったなあ。

B アド アブラッカス ツンデ アノ ⁽¹⁵⁾ ワツパ ミデナ カッコ
それから、 油粕を 重ねて わっほ みたいや 形に

ナツタノ アツタ ~~~~~ ネ。

なつたのが あつたね。

C センソー トー^ハジズ アノ マメカスダツテ ユツタチャー。
戦争 当時は、あの 豆粕 と 言ったでしょう。

(^B クッター タベダー) タベダー。 (^B タバダー アー
食べた、食べたね。) 食べた。 (食べた、

タバダオ) ソレゴソ クツタンダヨ アノー。
食べたね) それこそ 食べたね。

B ヒリョーニ スンノネ。

肥料 に するのをね。

C ンネー ヒリョーニ^ヌ スンノ。

そうだね、肥料 に するのをね。

B アリヤ アブラ シス^ボツテ ナニヌ シス^タノ^ダオネ。

あれは 油を 絞って 作ったのだからね。

C ソノ カスナ^ダオネ マメカス^ツテ アブラ トツタ。

その 薄 せん^ダものね。豆粕というのは 油を 絞った。

B アレ マンシュア^ダリガラ キタモン^デネガネサ。ンダ^ベネ。

あれは 満州 あたりから 来たものでないだろうか。そうだろう。

C ナガサ アナ^ツコ アイ^デネオ。 アイ^デネ。

中に 穴 が あいていないね。 あいていないね。

B ン アイ^デ アイ ア^デネノ。タダ シス^コシス コー^ネ

ん あいて あいていないよ。ただ、少し こう

マンマルコ^デナ スコ^シス コー カ^デッポ ヒグ^メニ^ヌ

まんまるで 少し こう 片一方が 低めに

ナツテルノ。

なっているんだ。

A ヒコマツテルノ。

低めになっているんだ。

C ソー ソー マンナガネ。

そう そう。まん中がね。

A ⁽¹⁶⁾
~~~~~ ベゴースト ヒコマツテルノ。

へこんでいるんだ。

C ンー アイズ イジズバーン ショーニヌ ヒデモンダ。イマー  
うん、あれは いちばん ほんとうに ひどかったよ。今

ソナゴドシステ <sup>ガ</sup> <sup>xxx</sup> ガッコサナド イグ ヒトアー  
そんなことをして 学校などに 行く 人は

ヒトリモ ネオナー。

一人も ないだろうね。

A アー アサニヌ ホヌー シジー ナニヌガ ソゴイラヘンノ  
ああ。朝に 本当に いつモ 何か そんなの

ニヌワッコ ハググレナノハ イルベゲント シヌンブン  
庭を 掃くぐらいの子どもは居るだろうが。新聞

ハイタズハ <sup>(17)</sup>  
システ アルグ ワラストズ ハ イッケントネ。  
配達を して 歩く 子ども は 居るだろうがね。

B ンー マー シヌンブンハイタズ ダネー。 ンー ンー  
うん。まあ。新聞配達 だね。

A ムガシスガラ <sup>カンダ</sup> <sup>xxxxxxxx</sup> ムガシスガラ カンゲツツド ナニヌモ  
昔から 昔から 考えると 今にも

カニヌモ ネクテ ラグサ。

今にも なくて 楽だよ。

D ショーガッコーノ ドギ アソビッテノワ ドンナ アソビ  
小学校の 時の 遊びというのは、どんな 遊びを

シタンデスカ。

したんですか。

A ウー アサー アノネー ~~~~。  
うん。 あのね。

C ナーンニ<sup>ハ</sup>モ オモチャ ネーガラネ カツツガッコ<sup>(18)</sup>ダオ  
なんにも おもちゃが ないからね。 遠いかげんとか  
ガグレガ<sup>~~~~</sup>。  
かくれんぼ ( A カツガッコ。 )  
遠いかげん。

B ガグレガッコダノ ジズントリルダノ。<sup>(C)</sup> ( ジズントリル。 ) ン  
かくれんぼ とか 陣取り とか。 陣取り。 うん  
ジズントリルダノ。<sup>(A)</sup> ( ジズントリ。 )  
陣取り とか 陣取り。

A ソレガラ アンダズア<sup>~~~~</sup>ー ン<sup>(C)</sup> ( オハジズギ。 ) オハン<sup>(C)</sup>ジズキ  
それから あなただけは おほじぎ。 おほじぎ  
ダ<sup>~~~~</sup> オデダマ<sup>(19)</sup> ( ダマツギ。 ) ダマツギ。 オデダマ  
お手玉。 お手玉。 お手玉。  
デネー ダマツギダ オハ<sup>(C)</sup>ジズギニ<sup>(ハ)</sup>ス ダマツギダナー。  
ではなく だまっさだ。 おほじぎに だまっさだね。

B ヤッパー オラー ガッコー ヤッパ シスゴネエンセー  
やっぱり 俺は 学校。 やっぱり 四・五年生  
アダリニモ ヤッパリ ヤキューズノワ ヤッタモンダヤー。  
あたりにモ やっぱり 野球 というのは やったもんだけえ。

アリヤ アリヤ アノー キレデ コセデ タマッコ コセデス。  
あれ あの 布で 作った 球を 作って  
ヤパ<sup>(ハ)</sup>リル。  
やっぱり。

C アド オヒナツコダオ。 <sup>(20)</sup>  $\left( \begin{matrix} A \\ \text{オヒナツコ。} \\ \text{人形遊び。} \end{matrix} \right)$  カミノネ。 カミオ  
 それから人形遊びだものね。 紙のね。 紙を  
キッテ オヒナツコ ~~キ~~ ソー ~~フグ~~ フグナンツモノー  
 切って 人形遊び そう 服などというものを  
タマーニヌ ツグッテ イショーツグリル ナンダオ イツソ。  
 たまに 作って 衣裳作り 作ったよ いつも。  
 ハサミデ アスンデ。  
 はさみで 遊んで。

B ヤキューナント ハ ヤッタンダナー アノー キレデ コヤダ  
 野球 などを やったんだね。 あのう 布で 作った  
タマッコ〜〜。 ンー。  
 球 で。…… うん。

A アー ンダ ンダ。 ソゴラヘンノ ボッキレデ タダイデナ。ン。  
 ああ そうだ そうだ せんへんにある 棒切れて 打ったね  
 $\left( \begin{matrix} B \\ \text{ンー。} \\ \text{うん。} \end{matrix} \right)$  ソイズ ハ ~~ヤ~~ マネコド ハジズ マッタッタガ  
 それほ (野球の) まねごとが 始まったかも  
 シェネナ。 マンズ アドヤ バッタウジズ<sup>(21)</sup>ダオナ。  
 しれないね。 まあ あとは めんこ遊びだったな。

B ンー マー バッタウジズ<sup>(21)</sup>ニヌ ~~コヌ~~ コママシス。  
 うん。 まあ。 めんこ遊びに 独楽廻し。

A バッタウジズダ。ナー モー。 メンコズヤズダネ。 バッタウジズ。  
 めんこ遊びだね。 めんこというものだね。 めんこ遊び。  
 エー。

C イジズバン キオグニヌ ノゴルノネ ワラジスノ コロ オレ  
 いちばん 記憶に 残っているのは。 子どもの 頃に 私が

ムツゴロ<sup>xxx</sup> ノドギネ オラヨリ ミツツガ ナンボクレ  
 六オジラ の時に 私ヨリ 三オカ いくつぐらい  
 ウエノ ヒタズス アネダノ ナンテネ。オードゴダジズガラ  
 上の 人たち。姉とか 弟とかね。男の子たちとか  
 ミンナ アズメデネ スガリルアラシス ヤンダッテジエ。  
 みんな 集めて 蜂 荒らしを やったんだよ。

A スガリルアラシス？ (C 笑い) ヤヤヤヤヤー ソイズァ ハ  
 蜂 荒らし？ いや いや いや それほ  
 オダヤガデネナ。  
 大変なことだ。

C コゴイラダラバ イマナダ ホントニヌ ヨゲ ヨゲルオンネ。  
 今の辺ならば、 今ならば 本当に 逃げろのにはね。  
 ソイズ スガリル イルガラネ。 ~~ス~~ アノー ガガサンダノ  
 それなのに 蜂が 居るからね、 あのう、お母さんや  
 ツァツァンダノ ンート ヒデガッカラ、アイズ アラシステ  
 お父さんだめが 困っているから、その蜂の巣を 荒らして  
 スー トルベズーゴド カンゲーダッタンダッケオ。ソジステ  
 取ってしまおうと 考えたんだよ。 そして

ホラー ~~ヨ~~<sup>xxxxx</sup> イーツズガ ヨーツツダガ イズズノ  
 ほら、 五オカ 四オカ 五オカ

ドギダッタ マダ ワラシスダガラ ソノコロ オラ  
 時だったと思うがまだ 子供だから その頃は 私ほ

マジエライネノス。(B ハー。) ソジステ アネダノ アネダノ  
 (仲間)に入れてもらえないのです。(はあ。) そして、 姉や 姉や

トモダジズ オドゴダズ アズマッテ ソーユーノオネ (B ハー)  
 友だちや 男の子たちが 集まって そういうのをね。(はあ。)



ナーニヌンダベド オモタ ムシスロ (A ン。) (B ハー。) アノ一  
何をするのかと 思ったら 葎を (うん) (ほあ) あの

ワラデ ツグッタ ムシスロネ ソイズ カブッテス コーユーノ  
葎で 作った 葎ね それを かぶって こんなのを  
カブッテネ ソシステ タゲデ ジョギ ジョギ ツズグノ。  
かぶってね。 そして 竹棒で じよき じよきと 突くの。

ソイズ ホラ トブガスベジャ スカリ。ソイズ ワラスダガラネ  
蜂は。 それ 飛ぶでしょう 蜂は。 そんな 子どもだからね

コステ オレ ~~チラッ~~ タッテ ミデダンデガステ。 ドーゴガ  
こうして 私は 立って 見ていたんですよ。 どこかを

ササレデ ナイダモンダオナ。 ソシスタレバー ンート ~~ガー~~  
刺されて 泣いたんですよ。 そうしたら。 うんと。

ソー ~~オガ~~ ガサマニヌ オゴラレデ (A アーレー ソレゴソ  
お母さんに。 叱られて (あれえ。 それこそ

イー カッコダッタンエナー) ログナゴドモ システネッテネー。  
いい 格好だったろうね。 良いことを してって。

ステ スカスカ アブネガラ ソッチャ ヒッコンデロドモ  
そして 危ないから そっちの方に ひっこんでいこうと

ナントモ イワネンダモノ。 ワレダズバリ ムシヨロ カブッテ  
なんとも 言わないものだからね。 自分たちばかり 葎を かぶって

タゲデ ツズグンダッケオ。 ンデ ソイズ ホラ ワラシスダガ  
竹棒で 突くんだけれね。 それで ほら。 子ともお母ものだから

ラ コーシステ ミデダンデガステ。 オレ ササレデ ンート  
こうして 見ていたんですよ。 私は 刺されて。 そして

ソノ ヒタズ アネダズ オゴライダノネ。(笑い) アネノ  
その 人たち 姉たちは 叱られていたね。 姉の

トモダジズダ キテ オドゴダズ スカ<sup>○</sup>リル アラスンダッケオ。  
友<sup>○</sup>たちが 来て 男<sup>○</sup>たちが 蜂<sup>○</sup>を 荒らすのだからね。

ソーヤッテ トッタノ。 ソレガラ ダンダン ~~~~~ ッテ  
そうして 取ったんです。 それから だんだん

ヒー ツケデ ソシ<sup>○</sup>ステ アド ヤイダ<sup>(22)</sup>リナンカ スンダッケオネ。  
火をつけて、そして、あとは、焼いたリなど したんだよ。

オドナダジズ。ナンニ<sup>○</sup>スモ シャネガラ ソンナゴド  
大人たちは。 何にも 知らないから そんなことを

スンダデバ オモ<sup>xxxxxx</sup> アノー アソビモノカ<sup>○</sup> ネーガラ。  
したんだよ あのう 遊ぶものが ないからね。

A トニ<sup>○</sup>カグー アー ナニ<sup>○</sup>ガカニ<sup>○</sup>ガ メツケダ<sup>○</sup>ンダオネー。  
とにかく 何か かにか 見つけたんだよね。

イダンズラ スルゴド ハ カダッパジ<sup>○</sup>スガラ。( <sup>B</sup> ~~~~~ )  
いたずらを すること を かたっぱしから。

C デー ナニ<sup>○</sup>ソレ オヒルマデニ<sup>○</sup> ナニ<sup>○</sup>ソレ ステロヨッテ  
それで、何々を 昼までに 何々を していきいよと

イーズゲデ デハラインダオネ。( <sup>A</sup> ンーダ ダ。 ) スト  
言い付けて(観に)出ていかれるからね。 そうだ。 ) そうすると

ナンニ<sup>○</sup>モ ヨーネーガラネ オドゴノ トモダジズダ<sup>○</sup> アノー  
なんにも 用がないから、 男の 友<sup>○</sup>たちは

スズメノコトリルナンダッケ。

雀の子取りと いうことに なるからね。

A ン アイズ ハ アガッタモンダ。

うん、あれは。 のぼって行って取ったもんだね。

C スズメトリル。

雀取りね。



ソノ ドギ チョード ケツテ キテス。ソシ<sup>ハ</sup>ステネ ソノ  
 その 時 ちやうど(親が) 帰<sup>リ</sup>て 来<sup>テ</sup>ね。 そしてね。 その  
 ハーシ<sup>ハ</sup>ゴ トラレンダー。(笑い) スト オズラエネ  
 梯子 を とられてしまった。 なんて 降りられない  
 ゴッタオナー (笑い) ~~~~~ オズラエネデー。  
 ようだったよ。 降りられないでね。

A オナゴダズァ アリャー アノー オナゴダズ アノー  
 女の子たちは あれほ 女の子たちは あのう  
 ケツケナゲ<sup>(25)</sup> テ ケツケナゲデネ。 ( <sup>C</sup> イシ<sup>ハ</sup>スコハズギネ。 )  
 石 なげ 石なげをしたらう。 石はじきね。  
 イシ<sup>ハ</sup>スコハズギモ シ<sup>ハ</sup>スタ<sup>ハ</sup>ンダエ。 ( <sup>C</sup> シ<sup>ハ</sup>スタヨ。 ) イシ<sup>ハ</sup>スコ  
 石はじきも したらう。 ( したよ。 ) 石はじき。  
 ハズギ。 ( <sup>B</sup> ~~~~~ コ マルッコ アリャ コー ツケデ。 )  
 田 を 田 を こう 書いて。  
 マルッコ カイデ マルッコ カイデ ( <sup>B</sup> ンー ) ソシ<sup>ハ</sup>ステ  
 田 を 書いて。 田 を 書いて。 そして  
 イシ<sup>ハ</sup>スコハズギ。  
 石はじき。

B コー ヒトズデ ヒタツツ オイデ ヒトズ オイデ ヒタツツ  
 一つ おいて 二つ 置いて 一つ 置いて 二つ  
 オイデ<sup>(26)</sup>ネ。  
 置いてね。

A ソシ<sup>ハ</sup>ステ ヤッタ<sup>ハ</sup>ンダナー。 オドゴモ ヤッタゴド ~~~~~。  
 そうして やったんだね。 男の子も やったことがあるよ。  
 ( <sup>B</sup> ンー。 )  
 うん。

C アド クニヌツコ クニヌツコトリ<sup>(27)</sup> ムガシスノ ソノ  
そのほか、 国 国 取りといて、 昔 の

サムライノ マネデネンダベガネ。ン。 ( <sup>A</sup> クニヌツコトリ コレ  
武士の まねをしたのではないだろうか。 ) 国 取り、これを

ヤッテナ コレ ヤッテ クニヌツコトリ ジャンケンシテ コレ  
やって これを やって 国 取り じゃんけんして、 これ

ヤリナガラ。) ソーユーゴドー ワガラネンダベガネ。  
を やりながら。) そういう遊びは 分らないだろうか。

センサーダワ。

先生は。

D コレワ ワカルケドモネ。

この遊びは 分かるけれどもね。

C ンダ。コーヤッテネ。 ドンドン コツカラ コー ダンダン  
そうだ。こうやってね。 どんどん。 ここから このように だんだん  
トツテグンダオネ。テノクレニヌ。

取っていくのだよね。 手のひろがる大きさで。

A クニヌツコトリルズナネ アノネ ケツケナゲ ケツケナゲ ッテ。  
~~xxxxxxxxxxxx~~

国 取り というのはね、あのね。 石投げ、 石投げって。

B ジャンケン シヌテサ。

じゃんけん して。

A ジャン ジャンケンテテ ~~~~~ ジャンケンダ。 ジャンケンタッタガ。  
~~xxxxxxxxxx~~ <sup>(28)</sup>

じゃんけんして。 じゃんけんだ。 じゃんけんと言ったのだろうか。

( <sup>B</sup> ーン。 )  
うん。 )

C ジャンケンダヨ。

じゃんけんだよ。

A ヤッパリル (シー。)  
やっぱり そうだっけかな？

C コツカラ ハジメメデネ  
ここから 始めるのだよ。

A ソジステ カッタ カッタホーワ。  
そして 勝ったほうが。

C カッタヒトガラ コーユーフニヌ トルワゲ。 ( <sup>B</sup> カッタ カデバ  
勝った人から、 こういうふうに 取るのだ。 勝った 勝てば。  
シー。 )

A イツカイバリダッタエガ。 ( <sup>B</sup> イツカイ ~~~~~ )  
一回 だけ取ったほうが。 一回 ~~~~~。

C イツカイ。 ( <sup>A</sup> コーイフニヌ。 ) シー。  
一回 ンのように。 うん。

B クニヌツコトリナンテネ。  
困 取りまじとってね。

C ソジステ マダ ケンジステ コンダ コノ <sup>(29)</sup> シヌマツコガラ  
そして また じゃんけんをして、今度は 隅の方 から  
コー トルンダオ。ンデ マダ コツカラ コージステ。  
こう 取るんだよ。そして また 此処から このようにして。

A ハヤグ イッペ トツタホー。  
早く たくさん 取ったほうが。

C トツテス ソジステ ヒローグ トツタホーガ イイノ。  
取って そして、 広く 取った方が 勝ちだ。

A ソンナー ゴド ヤッテ アー テーグズダガラ。  
そんな ことをして 退屈だからね。

C ソーユーゴドバリル システネ。 ( <sup>A</sup> クニストリルダノ  
そうゆうことばかり したんだよ。 ( 国取りや  
ケツケナゲ ~~~~~ )  
石けり ~~~~~ )

B ~~~~~ アソビズノワ ソイッタ モンダベナー。  
遊びというのほ そういった ものだらうね。

C ナーンニヌモ オモチャ ネガッタオネ。 アーユドギハ。  
なんにも おもちゃというものが なかったものね。 あの頃は。

A アノー マッコワ?  
あのお 竹馬ほ?

B マッコ <sup>xxxx</sup> ヤー アー タゲウマッコ アー オドゴワラジスタズ  
竹馬 ああ 竹馬 ほ 男の子たちが

ヤッタノ。 ( <sup>A</sup> オドゴワラジスタズ ソイズァ ~~~~~ ) ウーン  
やったんだね。 ( 男の子たちが その遊びは ) うん

ヤッタモンダネ アノ。アノ コー アリャ コ <sup>xxx</sup> ナニヌ  
やったものだったね。 なし

ピヤッコシステ <sup>(30)</sup> アノ アルグノネ。 アイズァ ヤッタナー  
少しして 歩くだね。 あの遊びほ やったね。  
ン。

A マダ バッタズジズダス ( <sup>B</sup> バッタブジズナダジス ) ホガニヌ  
亦。 めん遊びだし。 ( めん遊びなんだね。 ) そのほか

ジズントリル。 カグレガッコ ( <sup>B</sup> ン ) カツカッコ  
陣取り遊び。 かくれんぽ” かくれんぽ”

カグレガッコ ワガリマスカ。 ( <sup>B</sup> ウーン カグ カグ マア )  
かくれんぽ” 分かりますか。 ( うん )

カグレカッコ。 ) カッツカッコズノ。カッツカッコズノァネ。  
かくれんぼ ) 鬼ジラコというの。 鬼ジラコというのほね。

トニヌカグ (C 笑い) カッツゲバイーダ。 (C ウンドーカイ  
とにかく 追いつけば いいんだ。 ) 運動会

ミデナノ ) ウンドーカイ ミデナノ。マー カグレカッコズノ  
のようなもの。 ) 運動会の ようなもの。 まあ かくれんぼというのほ

ハ カグレデ ガグレダダ ~~~。カッツカッコズナ カッツ  
かくれて かくれたんだ。 鬼ジラコというのほ

カッツイデ サワレバイノダオン グレグレド<sup>(32)</sup> ドゴダ  
追いついて (相手に) 触れれば いいのだよ。 無理ヤリに

ドゴデモイガラ ハシエデ。 (C ダレデモイー。 ) ンデネバ  
どこでもいから 走って。 誰でもいい。 ) そうでなければ

アドー (D オニゴッコミタイナ )  
あとに。 ( 鬼ジラコみたいなもの )

B ウーン マズ イマノ オニゴッコ ~~~。 (A ~~~。 )

うん まず いまの 鬼ジラコ

(C ~~~ ネー オニゴッコダッタベネ。 )  
おにジラコだろうね。

C オニゴッコズノ チガウデガッチャー。オニヌゴッコズノワネ  
鬼ジラコというのほ 違うのではないの。 鬼ジラコ というのほ

コゴ<sup>(33)</sup> ヲツケンダヨ フサイデ オシエンダヨ。 (A ン

..... 此処を (は) ぼって (目を) ふさいで つかまえるんだよ。 うん

アズァ オニゴッコダ。 ) カッツカッコワ タダ ハセデッテネ  
あはほ 鬼ジラコだ。 ) 「かつがらこ」は ただ 走って行って

サワレバ コンダ ソノ ヒト オニヌニナル ワゲ。

触れれば 今度は その 人が 鬼 に なるのだよ。



カツカレネヨニ<sup>ハ</sup> ハセンダオネ。 ( <sup>B</sup> シー シー ) ア ンダ  
 追いつかれないように 走ったんだよね。 ( うん。うん。 ) あ そうだ

オニ<sup>ハ</sup>ゴッコワネ メー シー マナグ ユツケデサ  
 鬼 ジャン はね 目 目を しぼって

メーネグスンノ。

見えなく するのだよ。

A ソナー マナグ マナグ ユツケデ ナニ<sup>ハ</sup> ヤルナンツ  
 そんなに 目を しぼって やるなんていうことは

ゴドア シスネガッタナ ジェンジェンネ。  
 しなかったね。 全然 ね。

C シスツタヨー。 ( <sup>A</sup> スネーナ ) アンダダズア スネンダガ。  
 し たよ。 ( しないね。 ) あなたちは しなかったの？

オラハ マナグ ユツケデ オシエンノダッタ。  
 私は 目を しぼって おでえのだったよ。

B ソニー ヤツパー オナゴダズノ ホー アレダベナー ~~~~~。  
 それは やっぱり 女の子たちの おが あかをしたんだろうね。

A ンダッタエナー。 オラ マナグ ユツケデ ヤツタゴドア  
 そうだったろうね。 俺は 目を しぼって やったことは

ネーナー。シー。 ソーデネクタッテサゲー ~~~~~。  
 ないね。 うん。 そういふことをしなくても ~~~~~。

C オシヨカズダッテネ ハネツギズゴドモ ネース。 ( <sup>B</sup> ソーソー。 )  
 正月だったね。 羽根つきというともしなかったね。 そうそう。

ン。モジ<sup>(34)</sup>タモレコンコッテ モジ<sup>ハ</sup> モレサ アリルグノダ。  
 うん。「餅給れ こんこ」といって 餅を 貰いに 歩いたものだよ。

(笑い)

A <sup>(35)</sup> デアー アンダダジズノ カミム ソーストユード カミム  
 ねえ あなただたちの 髪は そうすると 髪を  
 ユツテ アノー ユッタヨナノド ナニヌー アノ  
 結って あの 結ったようなのよ  
 モモワレッコガ。 ( C ンー ) ヤッパリル。  
 「桃割れ」というものか? ( うん ) やっぱり。

C イジョ ケシス タドガネ。  
 「銀杏返し」だね。

A ナンダ。イジョ ケシス ャッテ ナンジョ ナノダ。  
 なんだ。「銀杏返し」というのは どんなものなの?

C アノネ。モモワリツツノワ ( A モモワレッコズノワ タダ )  
 あのね。「桃割れ」というのは 「桃割れ」というのは、タダ

コー イマ ナンテ ユンダエ クルント コーシステ <sup>(36)</sup>  
 こう 今 何と 言ったらいいか くるりと こうして

タゲナカ <sup>(37)</sup> システネ ソシステ ユツケダモンダオネ。キモノ  
 「丈長」にしてね、そして 結んだものだよ。着物を

キテス。イジョ ケスズノワネ タゲナカ シス ネノス。 ( B アー )  
 着てね。「銀杏返し」というのは 「丈長」を しない結い方だよ。

タゲナカ <sup>(38)</sup> ャッテ コーネ。 ( B ウーン ) マルッコ コーイフニヌ  
 「丈長」というのは こうするんだよ。 うん 丸く こういうように

シスタドゴサ マエサ コー ( A アー ) タゲナカスノ。  
 ( たところに 前に ) こう ( ああ ) 丈長をするのだよ。

イジョ ケスズノワ タゲナカ カワレネガラ ビチツット  
 「銀杏返し」というのは 「丈長」を 買うとが出来ないから きちりと

ヒスイデ ビシス タ ユイガダ シスタノ。 ( B ン ハー ハー )  
 押さえて 押さえた 結い方を したんだよ。 うん ああ ああ

ン一 ) コーイフニヌ コイズ<sup>(39)</sup> ユツテモレデグテナー  
　　) 　　このように　　これを　　結ってもらいたくて

クルント　　コー　　ヤツテ　　ソイズ　　タゲナカワ　　アノー　　アダリデ  
くちと　　こう　　やって　　それは、「丈長」は　　あの　　頃で

ニヌシエンカ　　サンシエンダッタベヨ。

ニ　　銭　　か　　三　　銭　　だ　　っ　　た　　だ　　ら　　う　　よ。

B　　タゲナカズノア　　コレクレノア　　ハバッコノンデ　　ン一　　ナニヌカ  
「丈長」というのは、　　これ位の　　幅　　ので　　何か

イロッコ　　ツカッテ　　( <sup>C</sup> ソー　　ソー　　モヨーノ　　アルノ )  
色　　を　　つけて　　(　　そう　　そう　　模様　　の　　ある　　だけ　　ね　　)

ナニヌガ　　カイデ　　ソジステ　　コー　　キツテ　　アノー　　コーユー  
何　　か　　書いて　　そして　　こう　　切って　　このように

キチツット　　サステ　　( <sup>C</sup> コッチッ　　キツテ　　コッチッ　　キツテ )  
きちっと　　刺して　　こちらと　　こちらを　　切って

ン一　　ン一　　ソジステ　　サシスンダツケ。

うん　　そして　　刺したんだよ。

C　　ソジステ　　コ　　サジス　　アシエルノ。( <sup>A</sup> ハーシ )　　ソイズ  
そして　　こう　　刺して、　　合　　れ　　せ　　る　　ん　　だ　　よ。(　　ほ　　あ　　)　　「丈長」を

カワレネドネ　　( <sup>A</sup> ン一 )　　モモワリルノ　　コーイフニヌ  
買　　え　　ぞ　　い　　と　　「桃割れ」というものを

ユワネンダモ。　　ビチョット　　コーイフニヌ　　システネ  
結うんとはできやいんだよ。　　ぴちっと　　このように　　結うだけだよ。

A　　ア　　ソイズア　　イジョゲシズノ。

ああ　　それを　　「银杏返し」というの？

C　　ン　　イジョゲス。

うん。「银杏返し」だよ。

B ケツキョグ モー コーイフニ<sup>ニ</sup>シテ コゴサ  
結局、 こういうようにして、 ニンに

タゲナカ コー イレルノダオ。  
「丈長」を 入れるのだよ。

C ソー コーイフニ<sup>ニ</sup>ネ。 ( <sup>A</sup> タンダノ オサケズノ<sup>ニ</sup>ア<sup>ニ</sup> )  
そう、 こういうようにね。 ( <sup>A</sup> タンダの おさげというの<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup> )

コーイフニ<sup>ニ</sup> ユツテシス。 システ コゴサ タゲナカ ソノ  
こういうように 結うのだよ。 そして、 ニンに 「丈長」を  
タゲナカオ システ モレデガツタンダドモ ソノ タゲナカ  
「丈長」を 入れて 貰いたかったんだけども 「丈長」を  
カウ ジェニ<sup>ニ</sup> ネンダオ。 ジェニ<sup>ニ</sup> <sup>xxx</sup> <sup>xxx</sup> モツテネガラネ  
買う お金 が なかったんだよ。 お金 が なかったから。  
サンシエングレ ダツタベヨ。 ソイデネ。  
三錢 ぐらい、 丁度だろ。 それでね。

A サンシエンツドギヤー タイキンダモンネ ンー マンズ  
三錢 というのは 大金だからね。 ます  
イズニ<sup>ニ</sup>ズノ コズゲー。  
一日の 小遣いだからね。

C デモ オラ ゴリルンワ ツカワネヨ。 サンシエングレ ソイズ  
でも 私は 五厘は 使わなかったよ。 三錢ぐらいも お金を  
モツテネガラ ホレー アノー イジヨケシスニ<sup>ニ</sup> ( <sup>A</sup> ミツカ  
持っていないから 「銀杏返し」に 三日か  
ガ ヨッカ タメナクテヤナンネナ ) ツブシスタ ユイガダ  
四日の小遣をためなければ だめだったね。 つぶした 結い方を  
スノ。 ソノ タゲナカオ カゲデ キモノノ カスリルノ  
したんだよ。 その 「丈長」を かけて、 着物の 緋の

イショドガネ ゲンロクノ イショー キテ キシエライルバ  
着物とか 元禄の 着物を着て、着せらねると  
シート イーノ。イードゴノ ムスメダッタノ。 ゼーンゴダガラ  
とても喜んだものだよ。(そいうものを着るのは) 良い家の娘だけだったから。田  
ナー ホントニヌ。

舎だからね。ほんとし。

B コノ カミム ユワネグナッタズノアー ヤッパ センソーマエハ  
この 髪を 結わなくなったのは。 やっぱり 戦争前は  
~~~~ テアンダベオネ。

(結わなくなった) のだろうね。

C センサーメーデ ブーツ メーダヨ。
戦争前どろでなく すっと 前だよ。

A オサゲ~~~~ ダナー。
「おさげ」に なっていたんだだろうね。

B マンシュヅヘン トーヅー ウー マンシュヅヘン
満州事変 当時、 満州事変

ツゴドァ ショーワ スシー ハヅネンコロダガラサ
というんとは 昭和 8年頃 だから。

ヤパシ ソノ メー ハ ジステー ~~ハゴ~~ オハグロ ツケダ~~~~。
やっぱり それより前 は していたね。 お歯黒も つけていたし。

(A ~~~~~ マダマダ)
おだおだ)

C タイショーネ ゴロクネングレー タイショハヅメダベヨ
大正 5.6年頃、 大正 初めだろうよ。

モモワリ ナンカニス ソノー ユッタノア (^B ウーウーン)
「桃割れ」 などに 結ったのは。 (ウーン)

A ダッテ オラー。 (^C シス ッテル) オラ ジズ ユー イジズ ネンニ
 だって 俺は。 (知ってるの?) 俺は 11 年に
 イジズ ネン シェーサ ヘツタドギ ナーニヌ アイズラ ナニヌ。⁽⁴⁰⁾
 小学 1 年生に 入学した時、 なあに あの人たちがなあに。

B システ カミュイサンテ ハヤッテヤモンデッテヤ。 オラ
 やして 鬚結いさんという仕事は、 はやっていたもんだよ。 俺が
 オーギグナル コーサ オラ ~~~。 (^C オドナワネ。)
 大きくなる 頃には、 (大人たちはよく行ったね)

(^A カミュイサンガ ~~~) ウン、 ヤッワリル オラ ~~~ サ
 (鬚結いさんが。) うん、 やっぱり 俺は
 コー バサット シスタヨーニヌ システ。
 こう 鬚を ぼさっとしたように してね。

C デモネ ワラシスタズワ ソーデネベ アド オサケニヌ
 でもね、 子どもたちは そうではないだろう。 あとは 「おさげ」に
 ナツタンダオ。 (^B アー ソーガ) タゲナカ ユツケ
 なったんだよ。 (ああ そうか) 「丈 鬚」を

シスネデネ モモワリルシスネデ オサケニヌ シスタンダオ。
 しないて 「桃割れ」にしないて 「おさげ」に したんだよ。

(^A ~~~ オサケダ オサケダ モモワレツコズノア ~~~。)
 そうだ、 「おさげ」だ、 「おさげ」だ、 「桃割れ」というのは。

(^B シー) ドゴマデーモ ナカグ ソイズモ イマノ ヒタズ
 うん) どごまでも 長くして、 それも 今の 人たちは

ミデニヌ バサート シスネデ アンデ ニヌホンニヌ
 みたいは ぼさっと しないて 編んで ニ本に
アンダリルネ。

編んだりしてね。

- A モモワリッコモ ソッパニヌ システモ イーゲントモ シスラミ
「桃割れ」に リッパに しても いいんだが 風を
タゲデ クルヤズ イデナー、ナント マンズ。 (^C ソイズ ハ
つけて くる子が いたなあ。 なんと まあ。 それほ
アッタノス) マンズ シスラミム オナゴワラシステ ハ
居たねえ) まず、 風、 女の子もで
シスラミムノ イネノア ホニヌ カネモジズ (笑い) ネット。
風の いないのは 本当に 金持だけ だね。
- C カネモジズダツテ イダベッチャ ~~~~~ ヤンダゴドヤー。(笑い)
金持だって 居ただろうよ。 いやだなあ。
(^A ンダベナー アノ) イマ デーデーデー デデガラダデバ
そうだろうね。) 今ほ D.D.T が あるから
イネノ。
居ないんだよ。
- B ンダエネ シスラミズノ。
そうだろうね。 風というのほ。
- C ン ノーミム ヤラネ (^A ノーミ ハー マズ) イダンダー。
うん 蚤とかね。) 蚤ほ まず居たね 居たんだね。
- B ノミ シスラミムズノ マー ドゴデモ イダガモ シエネヨ。
蚤や 風 というのほ どんにでも 居たかも しれないよ。
(^A ン マズ イダツタベス。 アノ アダリル) ン マー
うん、まず 居ただろうよ。 あの頃ほ) うん、まあ、
ユーフグナ ~~~~~ 。
金持 (の家以外はね。)
- C ヒマナドギ シスラミムトリル シスタンデネーガー オヤダス。
ひまな時は 風取り を していたのじゃないか。 親達は？

(笑い)

A デー ナーニヌ ガッコーデデサギャー アンダー アノー
なあに、 学校でイェ

オヒ^{xxxx} オヒルヤスミムダノ アソビジズカンニヌ シスラミムトリ
お昼休みや 遊び時間に 風取りを

(^Cシスタ。) オダゲァーニヌ アンダダジズア シスラミムトリ
(したね。) 友達同士 あな方が 風取りを

シスネガッタガ。

しなかったの？

C オーラ ソンナゴド シスネゾー オラハ。(B 笑い)
私は そんなとは しなかったよ。 私は。

A アイデノナ トツテケネガッタ。
相手の風を 取ってやらなかったの？

C ソンナゴド ハ シスネー (A ホー) エーデワ トツテ
そんなとは しなかったよ。 家に帰ると 取って

モラッタベナー。

貰っただろうね。

A ンダッテ オラ ^{xxxx} オダゲァニヌ トツテケダノ ^{xxxxxx} ミデー
だって、俺は お互いに 取ってやっているのを

ミダガ° ミデ オベデダゲントナー。ナンボモナー。

見て おぼえていたんだがなあ、何度もね。

B シスラミムナントホニヌ イマ ナーシステ イネンダガナー。
風 など 本当に 今ほ どうして 居ないのだろうね。

C デーデーデー デギデガラ アーユーモノガ デギデガラ
D.D.T が 出球だから ああいう薬が 出球してから

イネグナツタノデガス。ウン。

居なくなったのだよ。 うん。

A マーズ シェンゴダナ ホントニヌ シスラミム イネグナツタノ
まず 戦後だね ほんとうに 風が 居なくなったのは、
ホントニヌ インデネアー シスラミム ナニヌ タマニヌ
ほんとうに、 そうでなく 風が ずに たまに
ント ゼンゴガラ クルヒタズノ ~~~~~ニヌ イダッタ~~~~~。
田舎から 来る人達の ~~~~~に いたよ。

B トニヌカゲー エリニヌ コー モソモソ アルイタ~~~~~。
とにかく 裸に ンう モソモソ 歩いていたよ。

C ソシステネー オラネー アノー オライノ ジーチャンノ⁽⁴¹⁾
そして、 私ね、 私の家のお爺さんの
キョーダイ ホラー イッパダベー システ アド コンドア
兄弟は ほら たくさん居たでしょう、そして 今度は
オライノ ナントモ トリダデモ ナンニヌ モ ネーガラネ
私の家では、 なんとモ (風) を取りきれないので、

オラ フユー アノー ユギノ ドゴサ ブンナゲデ
私は、 冬に 雪の 上に (衣服) を 投げ捨てて
オイダндаヨ。(笑い) (B アーン) ソツツドァ~~~~~。
おいたんだよ。 そうすると~~~~~。

A コノヘンノ サム~~xxxx~~ ウー サムイノデ シスラミム シス又ベガ。
この辺の 寒さで 風は 死ぬだろうか。

(^C ユギノ ナガサダモノ) ユギナガサ。 シス又ベガ。
雪の 中に 投げるのだもの 雪の中に? 死ぬだろうか?

アゲグハ ナル シスミツツドァ アゲグナндаガラ サ。
赤く は なるよ、 凍ると (風は) 赤くは なるんだからさ。

B シス ヌヨリネ ソーシステダネ シス ヌンデネデ ケツキョグ
 死ぬのではなくて、そうしてだね。死ぬのではなくて、結局
 ンダネンダヨ アイズアネ ソシステデネ アド ホーギデ
 そうではないんだよ、あははは。そしては、あと、幕で
 ホログズド ボドボドボド⁽⁴²⁾ ~~~。 (^C マッサガー ソンナニヌ。)
 落とすと ほとほとほとと ~~~。 (まさか そんなには。)
ンー ホント ホント、オジズルンダヨ コレ オラ
 いや、本当だよ。 落ちるんだよ、風は、俺は
ヤッタンダモン。 (^A ホント ソイズ オラ マンシュエデ
 やって見たのだよ。 本当だよ、それを 俺も 満州で
⁽⁴³⁾
ヤッテキタンダガラгентモサ コノ ヘンデモ。) (^C ホー
 やってきた だからさ、 この 辺でも。) (ヘー
ソンナニヌ インノ。) ンー ンダシスサ コゴノ ヘンダッテネ
 そんなに 居るの。) うん、そうだよ、この 辺でも
 シスラミムズノ イギデレバ ナニヌ ~~イギ~~ マー シスミダ
 風 が 生きていけば 凍った
 ヨーナ ~~カマー~~ サムイボグ シャレネバ⁽⁴⁴⁾ イー スシミダヨーナ
 ような 凍ったような
 カッコニナッテ シログナルガラ アイズ (^C ハー)
 形になって 白くなるから、あはは
 ンダラ シスガッテ イレネグナルガラネ ホロゲバ オジズルン
 (衣服⁽⁴⁾) 取りついて いられなくなるから 振ると 落ちるの
 ダモノ。 (^C ハー) ンー。 マンシュエアダリデ ~~~。
 だよ。 満州 あたりで ~~~。

A シス ンダノデ ネガベデァー。
 死んだのではないだろうね。

B シスナネノ。シスグ アイズァ ホドマレバ マダ イギガエツテ。
死なないのだよ。すぐ あれば 暖かくなると、また 生き返って。

C (笑い) キモジヅワリル。(笑い)
気持ちが悪いなあ。

A ンデアー ソノー ホロツタドゴー ヒーツケデ タグー~~~~。
それでは。その 振り落としたヒソを 火をつけて 焼いてしまう。

B アー アイズァ ナガナガ シスナネモンダヨ アイズァ。
ああ 風は なかなか 死なないものだよな。 あれば。

C (笑い) ソンナゴドモ シスネンダオネ アー ソンデモス。(45)
そんなことは しないんだよな。 ああ、それでよね。

A アイズァ シスナネ、シスナネ シスラミワー ホニヌ
風は 死なないよ、死なないよ。 風は 本当に
シスナネモンダデバ。ンダガラ。(46)
死なないものだよ。 だから。

B オラ ソーンナニヌ イデデ ンート シスラミ ソレゴソー
俺は そんなに 風が 居て 風が それこそ
ホニヌネ イッコブンダイデ ⁽⁴⁷⁾オラ コレクレノサ ヨル ハ
本当には 一ヶ分隊で 俺は これぐらいで、夜になると
マズー ヒー テアーデ シスラミトリル ナンダヨネ。(A 笑い)
まず 火を たいて。 風取り なんだよ。

イッペニヌ トツテネ。 ソシステ アドア ガバット ⁽⁴⁸⁾
たくさん 取って そして それから たくさん

マゲツツド バジズバジズバジズド (C バジズバジズバジズ
火に投げ入れると パチパチパチと パチ パチパチと

《笑い》) ナー コレ ムツツソルナンダガラ。 ソレゴソ
のようには 一杯なんだからな。 それこそ

ムギツブグレニヌ ナッテンダオ。マー ハ。 ホーニヌ
麦粒ぐらいに 大きくなっているからね。 本当に。

ンデモネ シヌラミ イネズド サムクテ ヒデガッタ。サッパド
でもね。 風が (体^に) 居ないと 寒くて ひどかったよ。 全部
トルド。 (D 笑い)
(風を) 取ってしまうと。

C ナンデー。 (A アンダダズアー ウーン)
どうして? (あなた^は ……)

A ソー アンカネ シヌラミニヌ カレデネ カイバネ トニヌカグ
あれはね。 風^に 食われて かゆいと とにかく
コレ カグツツドネ ホー シヌラミ ネーズバ ヤパ サム^{xxxx}
かくとね。 風が 居ないと やっほり

サムイツツノ。
寒いんだよ。

C (笑い) ダーレ ソンナゴド ハ ネンダ。
まさか そんなと は ないでしょう。

B ホント ホントダ ホントダヨ ウン。 ウン。
本当。 本当 本当だよ。 うん

A ソイズア ホントダ ソイズア ヘーテサ イッタヤズデネバ
それは 本当だよ。 それは 兵隊に 行った人でなければ
ソイズダゲ ハ ワガネナ ソイズア ヘーテノ ハナシヌ
それだけでは 分からないね。 それは 兵隊の 話し
ダゲントモサ。ホニヌ (B シヌラミ ……)
たけれどもね。 本当に。

C ソンデ アレガナ テー^{xxxx} アノ コー ケ^{xx} アノ ケズエギカ^o
それで あれだろうか。 血液が

アレナルノガナ。 (^B ソーソー カユーガラナー)
あれになるのかな。 そうそう かゆいからね

カグタメニヌ。

搔くために。

B コレ カグ ~~~~。 チッノメグリ イーノダオ。 (^A チッノ
これは 搔く ~~~~。 血の巡りが 良いのデからね。 血の
メグリ イグナルガ。)
巡りが 良くなるのデ。

C ンダ チッノメグリ イグナンノダネ。 (^B ン)
そうデ 血の巡りが 良くなるのデね。

A ソイズ イーケント マズ ソノ ~~~~ ハナスシ ハ
それは 良いけれども まず その 話しは
イートモサ。アノー アンダダズサ イッテ アメ
それで良いけれども。 あの あなた方は 一体 雨が
フッタドギァ カラガサ サズシテタンダベ。
降った時に、 唐傘を さして行ったんじろう。

C (笑い) サツサネンデネーガナー オソラグ。
ささなかったんじろう。 多分。

A カラガサ ネーヒタズ アツタンデネーガ。
からかさがない人は 居たんじゃないかな。

B ミノツコズノ アツタンダ。 (^A ナーニヌ) ミノズノ アラ。
蓑というのが あったんじよ。 (なに?) 蓑というのが あれば。
(^A ミノ キ……) コーコー サンカグノ キテ。
(蓑を 着て) ニウいう 三角になったのをきて。

A アーアー サンカグノ。
ああ、 三角のものね。

B ンー アズネー オラー イツカイ キタゴド アル。 ンード
うん、あれはね。 俺は 一度 着たことがあるよ。 ええと、
ミシエヤデ アイズ ウッタモンダベカネ オラ ミノッコ
店 で あれを 売っていたものだろう。 俺は 蓑 を
キシエライセイライダゴドアルヨ。
着せられたことがあるよ。

A カラガサダノ ホニヌ オラ チャックドギァ ヨーヤット
唐 傘などは、本当に 俺が 子どもの頃に ようやく
デハッテキタ ヨーナモンダッタガ。 ジェータグナ
出てきた ようなものだったよ。 せいにくな
モンダッタモナ。
ものだったね。

B ミノッコ。
蓑 が。

C ソノメー ナニヌ キタベ。
それ以前は何を 着ただろうか。

A オレモ ワガネデバ。
俺も れからがないな。

B アイズァネー ナンドネ オラー。
あれはねえ。 あれはね。

A アブラッコガ。 アブラガミ ハ カブッテ アルッタオナ。
油紙かな？ 油紙 には かぶって 歩いたね。

アブラガミデ ナニヌガ デギダノ アッタベ。 (^B ウーン〜)
油紙で 何か 作ったのが あっただろう。 (うん)

B オラ ゴザデ コヘダ アノ ~~~ キテキタ ゴド アルナー。
俺は ゴザで 作った あの ~~~ を 着てきた ことは あるね。

- C ~~~~ オラダジズ ティーセドギ カラガサ アメ
 私たちが 子どもの頃は、 雨が
 フンネデネーが。(笑い) (A 笑い) ワーシェダヤ。(A ナーニ~~~~)
 降らなかつたのではない？ 忘れてね。
- B ナンデカデ コーモリル ハ ヤッパ アッタゾ コーモリルハ。
 とにかく、 こうもり傘は やっぱり あつたよ。 こうもり傘は。
- A ア アシスタ ハ ハイデ アソルッタネ。
 足駄 は 履いて 歩いたね。
- C カラガサド コーモリルデ コーモリルガ サギニ デダノダベガ。
 唐傘と こうもり傘で、 こうもり傘が 先に 出たのぢらうか？
- B サギデダノ。(A コーモリルノ ホア サギダベ。)
 先に出たんだよ。(こうもり傘の方が 先だらう。)
- C ンデ コーモリルダガモシエネナ。
 それでは、 こうもり傘の方が 先かも しれないね。
- B ン コーモリル コーモリルダッタベヨ オラ ナニヌア ミナ
 うん。 こうもり傘。 こうもり傘だつたぢらうよ。 俺は 先に、 みんが
 ホネア シャ アレ オレダノネ ン ンデモ キレデ~~~~。(49)
 骨が 折れたのね。 それで 切れて~~~~。
- C ダーレ アダソルメノ マンゾグナノダノ シスネンダモノ
 ます、 あたり前の 満足な傘は 丁度よかったんだもの
 ホントニヌネ マニヌアワセバリ。
 本当に 間に合わせばかりだよ。
- B フラジスタズノー モ サジスタリ~~~~ イッタングゲントモ
 子どもたちの傘も さしたりして (学校に) 行ったんだけれど
 アド ガッコーナンカデ コヘデ ヤッパ アノ トーズモ
 あと 学校 でも 修繕して あの頃は

ヤッター アリヤ カシスタナンカ シスタモンダツケ ヤッパ
修繕してヤッター 貸したりなど したものだわ
オダギ⁽⁵⁰⁾ アダリルデモ。ンデモ ヤッパリ ナガツズギ
愛宕 あたりでも。それでも ヤッパリ 長続き
シスネンダツケオナ ワラシス カシステモーネ ボッコシステ
しなからたものは。 子どもに 貸しても 壊して
クルシスス ン。
くるしね。

C ン ミジズメダナー ムガシスノ ワラシスタジズ ハ
うん、かわいそうだな。 昔の 子どもたち は。
ホントニス イマ カンケデミット。オラー (A ~~~~~)
本当に 今 考えてみると、 私は、
センソートーシズ オカスドギモ ソーイッタンダ イッペダガラ
戦争当時、(子どもたちを) 育てるときも、 そう言ったんだよ。 子どもがたくさ
サギノ チューセ ワラシスタズ サギニス ダシス ヤットギャ
んだから、いちばん小さい 子どもたちを 最初に 出して やるときには
カサ ミンナ アズゲンノ。 アド オッキノ ネグナットネ
傘を みんな 持たせてやるんだ。 それから、 大きな 子どもになるとは。
カサ サスノ ネグナンダオネ コド^{xxxx} ワラシスタジズ
傘を さすのが なくなるからね。 子どもたちが
イッペダガラ。ドーロイデ アラ アノヒトサ イレライデゲ
たくさんだからね。 道路に出て、「あれ、あの人に 入れてもらいなさい」
ナンテ (笑い) (A 笑い) ゲンブ オセグイグ ヒタズ
などと 非常に おそく出かける 人達に
(笑い) ソーシステ タゴズイデ。⁽⁵¹⁾ ダーレ ホラ キョーデダジズ
そうして 入れてもらって。 ほら 兄弟たち

ガラ (^B ソイズ ハ アッタナ) ナニ^ニシ^スロ
から (そういふことはあったらうね) せ

ワラジ^ス タズダガラ イレライデゲッテ ソー イワレダモンダオ
子どもたちだから (他人に) 入れてもらって行きなさいって、言われたものだ
ナッテ イマ ユワレルヨ。~~~~。

よと、 今、(子どもに) 言われるよ。

B シ^ス コシ^ス グレノ アメ ガッコサ イグドギダッテ ナンダッテ
少しくらいの 雨なら、学校に 行くときだって 傘も持って
ササネデハー オラモー ナンダヨ アノ ハギモノナド
大丈夫で、 私も 履物など

ハガネデ マズ アメノ フットギナド スッパシヨソルシステ
履かずにます 雨が 降るときは 裾をからげて

(^A スッパシヨソルシステガー) ハダジ^ス デ ハシエダモンダ
裾をからげて はだしで 走ったものだよ。

オラ。 (^A (笑い) スッパシヨソルシステナー) アノ コーワツコ
俺は。 裾からげてね。 このように背中から

ワシャリ コサ コー アノ フルシギ サゲデネー ソジ^ス テ
肩掛けたしてニニニ 風呂敷を 上げて そして

フットンデツタノ ハー。ガッコサ ヘッタモンダジャー ン。
ふっとなでいたんだよ。学校に 行ったものだよ。

A ンダガラ ロクサマニ^ニ アジ^ス モ アラワネデ ドゴドゴド
Tジから ろくに 足も 洗わないで、べたべたと

ヘッタナー ガッコノ ナガサナー。
入ったものだよ。学校の中に。

B ンー マーズ イマナレバ ホンニ^ニ。
うん ます 今だったら、本当に

A アンダ アノ オダツキノ ショーガッコー ニゲダデニ
あなたは 愛宕の 小学校 が ニ階建に
デギダ ドギダッタ。
なつた 時だったの？

B アー デギデスタサー。
ああ、出来てましたよ。

A デギダッタ。フルインダオネ アイズネー ン。
出来てたの？ 古いのだね。 あの建物ね。

B フルインダオ イワヤドー イナセー オダキ フルインダオ ン。
古いのだね、 岩谷堂、 箱瀬、 愛宕と 古いのだね。

C オラ マスクニ アソゴノ イマノ ホラ マルツノ ドゴ。
私は 最初から、 あそこの 今の そら「丸通」の所にあつた。(小学校)

B ンー アー アズーワ ダレ メーヅー ナンネンダッケゾー。
うん、 あれば、 明治 何年だかだったよ。

ハエンダッケオン。
早かったんだよ。

A ハエンダ アー アノ ガッコー ホニ モグゾーコーシャデハ。
早いんだよ。 あの 学校は 本当に 木造校舎としてね。

B ンー ンダガラ ハエンダ。システ アノ ガッコー ウエサ
うん、 だから 早いんだよ、 そして 学校の上。
アゲダノ ホラ ショーワ ンド ジューニネンナダオ。
ニ階建にしたのは、 昭和 ええと 十二年だよ。

C ハー ソレゴソ (B ~~~~~) イマミデニ コズゲーモ
それこそ 今みたいに 小遣いも

モラネデナー コズゲーナンツモノ ゼンゼン ネクテ マジズサ
もらわないでね。 小遣などというものも 全然 なくて、 ます

ヨッタスニヌ イッタドギシスカ アノー イズジリンタマネ
用事を言いつかった時に、行った時だけ 一厘玉を

ヒトツツズズナダオ (A ヨッタシスニヌ イッテ キタラ
一つずつもらったものぢね。 用足しに 行って きたら
ナンボ ケツカラ ナンボソレ ナンボ ンー イツシエン)
いくら やるから、 いくら いくら 一銭

ヒトリルサ。 ソイズモ マイニヌズデネンダモ。 オヤガー
一人に。 それモ 毎日ではなかつたものね。 親が

ヨーダシスニヌ マッチャ イッテ ケアールニヌ ソイズ
用足しに 街に 行って 帰りには お金を

ヒトズ モラウノ ハ タノシスミデネ。 ソンナノ
一枚 もらうのは 楽しみでね。 そういふとを

ヨロゴビニヌ システイダダベ。
楽しみにして いたんだらうね。

B ンダガラ ソノ イマダレバ ゼニヌツコ モラッテ
だから 今だったら、 お金を 貰って

パン カウノー アイスクリームを カウノッテ ユーダゲントモ ソノ
パンを買うとか、 アイスクリームを 買うとか、 言うだけだけれども その

トージズ マー ジェニヌモ モラワネース。 ソーユー
頃は、 まず お金も 貰わなかつたんだよ。 そんな

ウルモノモ マー イマノ ヨーニヌ ネーガラネ。
売るものも 今の ようには なかつたからな。

(A ミシエモノモ トツケモノダオナ、アツタツテ)
見せ物も なかつたし、 ⁽⁵²⁾ くらいさぐらいただものは、あつたとしても

トニヌカグー ノドギーワ ソノー クダモノノネ
としかく の時は、 果物の

(53)
 ジズンベダノ モモナンツモノ イマ デデネス。 (A アー
 椿桃 や 桃などというものは 今ほ 出てないよ。 ああ
 クダモノノ) コレグレナノネ ソイズ ドゴデモ アルンダオナ。
 果物の) これくらいの大きさは すれば どこにでも あるのだよね。
 (A モモナンツナ) アッタノス ハナタレモモツテ。
 桃 などはね あったんだよ、鼻たれ桃と言って。

C ハーナタレモモズノア ワルグオカッタノダー (B 笑い)
 鼻たれ桃というものは 出来が悪く 成育したのだよ。

ソッパナノモ アッタノサネ。
 ソッパな桃も 売っていたのだよ。

A ソイズサ モツテキテ アノ チャゴミダ (54) ナンテモ
 それに 加えて ぐみ などというもの
 ウツテダダス (B ンソーソー) (C チャゴミノ アドアネ)
 売っていたよね。 そうだ、そうだ。 ぐみに あとは。

アド マスコダノ オワンコデ ハガツテ。
 料ヤ お碗で 計ってね。

B アド シク (55) アリヤ。
 そのほか すぐり、 あれほ。

A スグリ (B ン) チャゴミモダオナ。
 すぐりに ぐみもだものね。

C ソーデネグネ アリヤ (A ~~~~) クワノギサ アガツテ
 そうではよくね、 桑の木に のぼって

クワゴ トツテ (B ンー カゴナ) ス スー ソジステ。
 桑の実をとって うん、桑の実ね して

A クワゴ クワゴ ハ クツタ クツタ アイズ ハ。
 桑の実、桑の実ほ 食べた 食べた あれほね。

C イショノ ソレゴソ ゲンログ アノ コノ ゲンログサ
 着物の それこそ 元禄 この 元禄に
マワシスタドゴサ イレットネ (^B マズ アーユーモノー
 まわしたところに 入れていると まず、あのようなものを
オモニヌ クツテアンダナ) ソレカ^o ミンナ クワゴツテ アノ
 主として 食べていたんだが、それが 全部 桑の実で あの
 (^B ンー) クワノギサ デル ナンテ ミーナンダネ。アレデ
 桑の木に なる なんていう 実だろうか。ね。
 ス アノ ムラサギニヌ アツテネ。
 紫色に なってね。

A アイズ タモドサ イレデ アルツタノガ。
 あれを 袂に 入れて 歩いたの？

C オゴラレデ ンー オラ ソシステ クイナガラ アルツタンダ。
 (親に) 叱られてね。 私は、そして 食べながら 歩いたんだ。
 (笑い) (^A ナーシステ タモドサ イレデアー クツテ スメバ
 どうして 袂などに 入っていたの？ 食べてまえば
イーゴド) クワレネクレ ヤッパ タグワエ キレネガツタベガ。
 良かったのに。 食べ残すほどに やっぱり もち きれなかったんだらう。
 (^A 笑い)

B マズー ホニヌ ゼニヌッコ モラツタツテ ツケクジズ
 まず、本当に お金を 貰ってモ、 使いようが
ネアーヨナモンダツタノサ。(^A ~~~) ネー ナーニヌ ~~~
 ないようなものだったんだよ。 なんにも。
ン ダガラ ホガノ エサ イッテ マー トモダジズノ アルー
 だから、ほかの 家に 行って まあ 友達の 家で

ソイナモノノ オカッテダドゴサ イッテ アスンデデ ソジステ
そのようぢものが 生えていたところに 行って 送んでて、 そして
モイデ クーノ[〜] (^Cキサ アカッテネ ソイズァ[〜]) キ^{xxx} ン[〜]
木からモゴとて食べるんだ。 木に のぼって それを[〜]。 うん

アドァ エサ キテ ハ ハラヘレバ カマヒックリゲシステ
それから 家に 帰って来て 腹がへると、 釜を ひっくりかえして、
オママ ^{xxx} ナニ[〜]モ アシエネデナ。 ン[〜]。
御飯を 釜にも おかすししないてね。

C オズゲ ^{xxx} アセ カゲデ クーグレ。

味噌汁を (ごはんに) かけて 食べるぐらい。

B オズゲァーオ カゲデ。

味噌汁を かけて。

A コケッコーサ コケッコー アノ ヒックリゲスシテ オズゲ
御飯のおんげ、おんげを ひっくりかえして 味噌汁を
カゲデ[〜]。

かけて[〜]。

B オズゲ カゲデ ハ ⁽⁵⁶⁾サオザオド クッテ[〜]。 ン[〜]。

味噌汁を かけて ごおごおと 食べてね。

A ン[〜]デー ネゴナミム ダッタナー。(笑い)

それでは 猫牙みだったね。

B オズゲズノァ オジスル カゲデネ。 (^Cソーダヨ ン[〜])

「おつけ」というのは 味噌汁で、それをかけて食べるのだよ。 そうだよ。

C ソイズカ[〜] イジズバン イーノデ。(^A [〜]) ハラ ヘッタラ
それが いちばん よかったんだ。 腹が へったら

マンマケデ (^B ソーソー) バンツァ ハラ ヘッターッテ
御飯を 食べると言われて。 「お婆さん 腹がすいた。」 と

ユード ハラ ヘッタラ マンマ ケーッテ ユワレレバ ハ
言うと、「腹が ずいたら 御飯を 食べなさい」と言われると
ソソデ オワリダカラ。

それで 終わりだからね。

A ~~~~ ソゴイラヘンニヌ アル オゴゴダオナー アドナー
そのへんに 置いてある 漬物だね。 あと
ナニヌー。

何を おかすにしたかな？

B アー マーズ アバレデ アリルッテ オドゴワラジヌナド ハ
まず 遊んで来て 男の子などは

カマー セックリゲジヌター ク メジヌ クーノワ
釜を ひっくりかえして 御飯を 食べるのが

セーイッペダッタベナー ンー。

なによりの食物だっただろうね。

A ホニヌ ナニヌ クッタガ ワシエダナー ハラヘッタドギナー。
本当に、何を 食べたか 忘れたね。 腹が ずいたときは。

C ソーユーフーニヌ⁽⁵⁷⁾。

そのように。

B マズ ソレマデ ゴハンニ サンゴグメジヌ デモ イッペ
まず それほじく 御飯に 三穀飯でも たくさん

タイデ オガネバ ネアガッタオ ワラジヌ イッペ アルド。
炊いて おかないと ならなかったね。 子どもが たくさん 居ると。

C タイデダシタオネ。(B ンー)(A ~~~) ソノドギノ ホレ
炊いていたんだよね。 その時の、 ほら

ジヌ ラミム デネアグ ヘアッコノ イルゴド。

虱ではなく 蠅が 居ると居ると。

A ンー ヘッコ〜〜。

うん、蠅がね。

C コーユー ゴハン ミナ スツツドァネ。 (^B ンー ンダオ。)
こういう 御飯を みんな こうしておくとね、 (うん そうだね。)

クログ ソイズ コーシステ ~~ホロ~~ フイダリルシステ
(蠅が) 黒く、それを こうして 吹いたリして

ウスジワモ ネーヨーナ モンダオ。 (^B ンダラ システサ
うちれも ないようだったからね。 (そういえば 中国に

イッテ シスゴガッタオ。) ビョーギモ シスネデナー。 (^B ンダラ)
行って ずじかったよ。) 病気も (なかったね。 (それなら、

(^A〜〜)

B ンダラ システジズンガ アノ ヘアッコ タガネナー カ
それなら、 中国人が 蠅も つかないようや。

ヘアッコ タガネクレナモノ ヒトモ カシネンダツテ
蠅も つかないようなものほ 人間も 食べられなくて

イッタナ ナンテ イッタнда (^A ゴツツオデネアガ ((笑い))
言っていたね、 などと 言っていたよ。 (ごちそうでは ないのかな？

ヘアッコモ タガラネノ ゴツツオデネガ) アマリル オラ
蠅も つかないようなものほ 御馳走ではないのかな。) 俺が

チャッケ アダリルモ ヤッパ ヘアッコ ハ タガッタノ
小さい 噴も やっぱり 蠅が ついたものほ

ナントモ オモワネガッタндаオナ。 ンー ソノクシェ タイシタ
なんとモ 思わなかったんだよ。 うん、 それなのに、 たいした

ビョーギズモノモ、 ヤハリル アノ ミジズ ワリタメニ
病気というものも (なかった。) やはり 水が 悪いので

コノ イワヤドーズドゴァー ハヤグ スイドーガ
 この 岩谷堂というところには 早く 水道が
 ハイッタモンダガネ。ダレ ショーワ コゴァ ニ^ニサンネン^ニス
 入ったものだよ。 なにせ。 昭和 二、三年に
 シュイドー ハイッタドゴダガラネ コゴワ。 テューゴドワ。
 水道が 入ったところだからね。 こんは。 ということは。

A オラカ ショーカッコ ログネンシェーノドギダガ ゴネンシェーノ
 俺が 小学校 六年生の 時か 五年生の
 ドギダゾー スイドー ヘッタノ。
 時だよ。 水道が 入ったのは。

B ンー ショーワノ ニ^ニス シヨ^シヨ^ヨー (^A タイシヨー タイシヨ)
 うん。 昭和の (大正 大正)
 ショーワデネグ (^A ショーワ ショーワノ ハジ^ニメダナ) ンー
 昭和ではなく (昭和、 昭和の 初めだよ)
 ソ (^A タイシヨ ジューゴネン) ンー キンシヨ シヨ^シヨ シヨ^シヨ
 そう (大正 十五年)

ショーワ ガンネン^ニス オンベオ。 (^A アレ タイシヨー)
 昭和 元年に なるだろう。 (あれ 大正

ジューゴネンツノワ ショーワガンネンダベ) デー
 十五年というのは 昭和 元年 だろう。) それで

ニ^ニネン^ニスワ ラクシェー^ニスギ ヤツタンダオ。 ンダガラ
 二年には 落成式 を (したんだよ。 だから

ソノ トー^ニズワ デンセンビョー ハ セギリビョーズノア
 その 当時は。 伝染病 は 赤痢病というのが

イッペ アツタンダス ンー セギリネ ン ヤッパ ミズ
 あちこちに あったんだよ。 うん 赤痢は やっぱり 水が

ワリルカラ。

思いから。

C ア イガッタネ イッピギノ ヘアツコ キニヌ

あ、⁽⁵⁹⁾ 知らなかったね。一匹の 蠅 が 気に
カガツテアッタ。

なつてうるさかった。

A コノー ウラノ カワー コノ ウラノ カワー アノ

この 裏の 川、 この 裏の 川で

ナズナツツドァ イマドギナツツドァネ ミンズアビダノ

夏になると、 今頃、 夏になるとね。 水浴びなどというものを

ナンテネ ワラジスタズァ ソッチッノ ホーデ ミズアビ

子どもたちは、 そちらの 家で 水浴びを

ヤツタンダモ。 ウーン ナズナツツドァ ミズアビ イジズバン

やったね。 うん、 夏になると、 水浴びがいちばんよかった

ナンダ。 ナンニヌ モネー キャンプダノ ソンナ ソノ ヰズノ

んだよ。 なにもなかった、 キャンプとか そんなものは。

インダオハ。 (B シー マンズネ コゴァ ホントニヌ
よかったんだよ。 うん、 まず 此处は 本当に

イマゴロ ガボガボツテ) ナーニヌ マン アガフンドシヌ

今頃は がぼがぼと水で遊んで) なに、 赤禪

シヌメデ。(B シー) シヌテ。

しめてね。 そして

C ナーニヌ ジェンゴタロデー ホニヌー オラグレノ ドギ

なに、 田舎者で 本当に 私ぐらいの年の頃は

フンドシヌモ ナニヌモ シヌネンダー。

禪 も なにも しなかったよ。

A ~~~~ ショーガッコノ ドギァ シスメダゴド ネアーヨ。
小学校の 時は、 しめタンとは なかったよ。

ショーガッコノ ドギ~~~~。
小学校の 時は。

B ログネンシェーアダリルダッテ オナゴダッテ ナニス ベズニス
六年生 ぐらい だって、 女の子 だって なんにも 特別に

ナニモ シスネー。(^A ンダー ンダー)
なんにも (勝) なかったよ。 そうだ そうだ

C オドゴダッテ オナゴダッテ スシネンダオー ンー。
男の子でも、 女の子でも なかったよ。

B ソノコロ ヒゲッコ ネーゴッテ ネガッタネガ。(^A 笑い)
その年頃には「ひげ」も なかったのではないの。

C ダレ ソンナ エレグネンダオ。(^B 笑い)
だって、 そんなに 偉くないからね。

A ~~~~~。

C アダリメナ キ システナー ソンデ。
普通のつもりでいたんだよ。 そして。

B ンー ヤッパ ミンナ ソーユー セズダガラネ ナントモ
うん やっぱり 皆、 そのような 時代だからね、 なんとも
オモワネガッタんだネー。(^C アダリルメノ キ システ)
思わなかったんだね。 あたり前の 気でいたんだよ。

A アドァ キノゴ ンダ アギニナツツドァ イマコロ ナズヤスミ
それから 茸だね、 そうだ、 秋になると、 今頃 夏休みにも
ニモ スズム^ハトリサ イッタネ。
鈴虫取りに 行ったね。

B ンー イッタ。
うん、行ったよ。

A ナズヤスミムアダリ スズム スズムシストリルダ ミズアビニ
夏休み頃に 鈴虫取りとか 水浴びに
スズムシストリ ナンダオヤ。スズムシストリルサ イ

鈴虫取り だったね。鈴虫取りだよ。
アノアダリル アノー カンブドムシ⁽⁶⁰⁾ナンツノ ミムギモ
あの頃は、 かぶと虫 芋虫というものは、問題に

シスネガッタオネ。 (イッペ イダ^Cンダオナー。) イッペ
しかなかったよ。 たくさん 居たからね。 たくさん

イダ^Cンダ。ヘッピーリ ヘッピーリムシステ イッテ オラ
居たんだよ。屁っぴり。屁っぴり虫といって 俺たちは

ミムギモ シスネガッタ^Cンダオ。 (イッペ イタ^Cンダ。)
みむぎも しかなかったのだよ。 たくさん、居たからね。

オニ⁽⁶¹⁾ムシスノ アノー イッカイッカズノー (B ンー) ネット
鬼虫 の あの ジョフイ虫

アノー アイズスカー アイズダノー アイズラ モッテッテ
あれを あれとか あれを もって行って

ガッコテ ケンカ サセダノダオヤ。
学校で けんか させたものだね。

B スズムシスズノ アリヤ ハゴロッコヤマニ⁽⁶²⁾ イッペ
鈴虫 というのは あれは 羽黒山に たくさん

イダ^Cモンダオネ。
居たものだね。

A ンー ンー タンモズガ⁽⁶³⁾ニ^Cネ。
うん 母後塚にね。

B ンー タンモズガニ^ニ ンデ コイナ コップ[°] モッテッテ ホラ
うん 母後塚に。 このよ^うな コップを もって行って

アナ コーヤッテ コッチガラ フーット フグド パーント
穴に ンうやって ンちから ふっと 吹くと ぽんと
ヤルガラ スグ コーヤッテ。 (^A ~~~ スズムジ^ニストッテ ~~~)
なるから、 すぐ ンうやって。 鈴虫をとって

C フェビモ イネグナツタジャ ナ。
蛇も 居なくなつたね。

A ンー ヘンビモ スグネネ。 (^B ウーン~~)
うん 蛇も 少ないね

C ヘビモ イダンダジャー アノ アダリ^ル。
蛇も 居たんだけ。 あの あたりには。

A ムジ^ニストリ^ル アダ^アー アギ^ニ ナツト キノゴトリダオ。
虫取りに、 それから 秋に なると 茸取りだからね。
アノ アダリ^ル ナ^ニ ソゴラヘンサ イグズド^ア キノゴ
あの 頃には、 その辺に 行くと 茸を
トッテキタンダ^オネ。 (^B ンダ^オネー。) ンー。 ナ^ニ ハグダ^ゲ。
取つてきたんだよ。 そうだね。 ねに、 掃くぐらいたくさん
エー マー ドゴサ ハシエラレット。
まあ、 どこにも 行けたんだね。

C コーシ^テ キーデミット^ーネー コゴノ ヘント モリ^ルオガ
ンうして 聞いてみるとね。 この あたりと 盛岡
アダリ^ルモ ズイブン チッかうモネ ナ^ニー ムガシ^ノ
あたりと 随分 違うものね、 ねに。 昔の
ヒタジ^ツア^ツ ア^ツア インサズヤノ ヨスサンダ^ズド ハナ^シ
人達と、 あの 印刷屋の「おしさん」たちと 話しを

システミットネ マルツキリ コゴイラド チツカウケッヨ。
してみると すっかり この辺と 違うようだよ。

(^Aアソビガダガ) ン。(^Bンー) ヤッパ トゴロニヌ
遊び方か? うん。 やっほり 土地に

ヨッテ アノヘンワ ムガシヌ バシヨダツタベドモ コツツァ
よって、あの辺は、昔は良い土地だっただろうが この辺は

ホントニヌ ゼーンゴナンダオンネー。

本当に 田舎だったんだよ。

A トニヌカグ ジズドーシャズモノ ネーガラ フユ⁽⁶⁴⁾ ナズデモ ハ
とにかく、自動車というものが ないから 冬 夏でも

ナズ スズメデア ダシステ ミスズミムデアサ
夏に 涼み台を 出して 見涼み台に

ヒックリルゲッテ ウズワッコデ アオクニヌ イガツタンダオネ。
ひっくりかえって うちわで あまぐ ことができたんだよ

(^Cソーソーソー) (^Bダレ オボンテ イエバ ミナ~~~~)
そう、そう) (だって、お盆と 言うよ みんな)

バシャヤノ バシャヤサンダズ ヨゲデイッタタンダモノ (笑い)
馬車屋の 馬車屋さん達が、(涼み台を) かけて通って行ったんだよ。

オハヨスーナンテ。ヨッテガッシャイナンテ ^バウマッコ
「お早う」などと言って。「寄っていらっやい」などというよ 馬を

ツナイダママ ソシステ ナニヌカ ハナシヌカダリルシステル。
つないだまま、そして、 互にか 話しをしていく。

フユア フユデ ソノトリル バソリルダオ。~~~~。
冬は 冬で、同じように馬そりでね。

C ソダガラ コノヘンノ ヒタズガ トーキョーダノ ナンダノサ
 だから、この辺の人たちが東京やどこかに
 イッテデ ヨゲ ボヤート シス テンダベヨ。(A 笑い)
 行って おげい ぼやと ぬけているのだろうよ。
 ドーゴガ ヌゲダミデナ カンジズダ。オーショシスクテ オラー
 どんか ぬけたような 感じだ。 恥ずかしくて、 私は
 アノ ウエノ アノ トーキョエギ オー ~~~~ トーキョエギサ
 あの、上野の、あの、東京駅で、 東京駅に

イッテ ホラ (B イーマデ オンナズダベヨ シー) オンナス
 行って、ほら (今なら 同じだろうよ、) 同じ

ドツカラ イッショニヌ イッテ ハナシス ステットダネ
 所から いっしょに 行って 話を していると、

カズコ⁽⁶⁵⁾ダ カーチャン タゲグ カダンナ ミロ アリヤ ミンナ
 和子が、「お母さん、高い声で話すな、見なさい、あのように皆
 ミデツツォ カーチャンダズドゴ ミデツカラ ターゲグ
 見ているよ、お母さんたちを 見ているから、高い声で

カダンナッテ。

話をするな」と言うた。

A ソイズワ ソダ。 ソイズワ ソダ。
 それは そうだ。 それは そうだ。

B ンダゲント モゴモ ワガネガラナ ナーニヌ カダッテンダベド
 しかし、向こうの人も分からないから 何を話しているのだろうと
 オモッテ オント。
 思っているのだよ。

C ンダガラ オレネ ナーニヌ インデネノ オラモ アリヤ アノ
 だから、私はね、「なに、いいだろうよ、私も あの

ガイコグノ ヒタズナンテ カダンノ コーシステ
外国の 人たちが 語っているのを こうして

キーデッケントモ ソノヨーナ キーシステ キーデンダベツテ
聞いているのだけれども そのような 気持ちで 聞いているだろう」と
ユード ハイエンダツツオネ コゴノコドバ。
言うよ。早いんだってね。 この辺のことばは。

A ハイエノデネクテネ ネ ハイエノデネノ。
早いのではなくて。 早いのでは ないのだよ。

C ワゲ ワガネノ。
わけが。 分からないのか？

A はい、ワゲ ハヤイト ユーゴドオ ハイエト カダルゴドダオ。
早い。 「早い」と 言うことを 「はいえ」と 語ることだよ。
コリヤ ハヤイ デショ。 ハイエデ フタツツダオ。 ソノクシエ
これは 「ほやい」 でしょう。 「はいえ」 で 二つだものね。 そのくせ
ツメデ カダツテ (ハー) シスムノダ。
つめて 語るのだよ。 それで 滴むのだからね。

C イソカシガ ラナ。 (笑い)
いそがしいからね。

B ハイエガ ハヤイダオナ。
「はいえ」 が 「ほやい」 だからね。

A ン ツメデ。 オレネ ホーニスネ。 (他人 ゴメン クダサイ。⁽⁶⁶⁾)
うん。 つめてね。 俺ね。 本当にね。 (ごめんください。)

(Bハイ) イズノ リヨカンサ トマッタドギネ ワゲ
伊豆の 旅館に とまった時にね。 意味が
ワガネツテ イワダツタケント カンゲデミット ハイ ハア
分からないと 言われたけれど 考えてみると 「はい。 ほう

カーチャンカ⁽⁶⁷⁾ (チョコット⁽⁶⁸⁾) バーチャン テョコット タド
 母さんか? (ちよと 婆さん ちよと たって。
 ヤ。へしヤ。⁽⁶⁹⁾ (C ナンダ⁽⁷⁰⁾ ナニ⁽⁷⁰⁾) (A モシス⁽⁷¹⁾ コシス⁽⁷¹⁾ ネ「笑い」)
 入りやさい。 (なんだ。なに) (もう少しね)

A トニヌカグ フルー アス~~~~。
 とにかく 古い ~~~~~。

B ~~~~~ンダガラ コゴノ コドバズノワ ホニヌ マー ヤグシス⁽⁷²⁾ テン
 丁から 二の ことばというのほ 本当は まあ 約している
 ノダモナ。
 の丁からね。

A リヤグシステ カダツカラネ。カダツカラテスペ。カダリマス
 略して 話可の丁からね。「カダツカラ」でオカラね。「カダリマス」
 ダオネ。ホーンダガラ ハヤグ キケンノダオ。イーズノ
 丁からね。丁から 早く 聞こえるの丁よね。伊豆の
 リョカンサ トマッタ ドギネ。オギャクサンダジツ⁽⁷³⁾ ナンテ
 旅館に 泊った 時よね。「お客さんたちは なんて
 イッテルンデスカッテ⁽⁷⁴⁾ ユッテルンデスカッテ。シ テョット
 言っているんですか。」と「言っているんですか。」と言うん丁。「ちよと
 ソノ ハヤイガラ ユックリ カダツテ クダサイッタ⁽⁷⁵⁾ノ。
 その 早いから もっと ゆっくり 話して 下さい」と言うん丁。
 ユックリ カダツタツケア マダ ワガネーツンダオ。
 ゆっくり 話したら、 丁が 分からない と言うん丁よ。
 カンケデ ミダツケア ホントニヌ シ ウマイデスズノ
 考えてみると 本当は 「うまいです」というのほ
 ウンメアデガスペ。ネー。ハイエグ モッテコズノ
 「うめえ」でしょう。ねえ、「ほいえぐ モってこ」というのほ

ハ~~イ~~エ~~グ~~ ハイエグ モッテコジヤ モッテ キテ クダサイダノ
「はいえぐ もってこじや」「もってきてください」とか

ナンダノズノ ネーノダガラ ワガネンダツケオ。 オラ キュー
ヤンとか言うのは 正しいだから わからないんだね。 俺が 九
シューベン ワガネド オナジズナンダツケオ。 (^Bンダベネ)
州 弁 が 分からないと 同じことなんだよね。 (そうだろう)

キューシューベンモ ワガンネヨー。 ワガンネドワ カダラネ
九 州 弁 も 分からないよね。「わがんね」とは言わなくて
ワガリマシェンダオネ。 ワガンネデネクテ マ ソノクシエ。
「わがりましえん」だからね。「わがんね」ではなくて、そのくせ。

B ヤッパリ ンダガラ コゴデァ ンート マ ヤズジステツツーン
やっぱり 正から。 こんでは まあ 約している

モノダオナ。

からね。

A ンー マズネー (^Bンー) ホニヌ カエルデネクテ ビッキッテ
うん ますね。 ほんとうに、「かえる」ではなくて「びっき」と

カダッテ ジス マッタヨーナノド オナジズデ ミンツケグ
言って (まったほうのと 同じで 短く

ナッテ ジス マウガラネ。 ワガネァノ。 (^Bビッキ)
なって (もうからね。 わからないのだよ。「びっき」)

C ハー マワリルケデグ ソノ トーリル カダンネノ コノヘンデ
まあ、まわりくどく、その 通り 言わないんだよ。このへんで

アダリルメナ キ ジステ カダッテルオナ。(笑い)

あたり前の 気 で 話しているのだからね。

A ナーニヌ アダリルメニヌ カダッツド アノ (笑い) コイナノ
まあに、あたりまえに 話すと こういう言い方を

コーイフニヌ カダッテルンダガラ ハヤグナル ワケダ シー。
こういうように 話しているのだから、早くなる わけだよ。うん。

C ナーnde コゴデバ^ルダベ。 ムゴーノ ホーサ イグドー。
どうして この辺でだけ 早いのだろう。あちらの 遠い方に行くと。

A ソーデネーデバ ナーニヌ ~~~~~。
そうではないのだよ。なあに。

B ヤッパリ モーリオガサ イゲバ モリオガデ シー ミナ
ヤッパリ 盛岡に 行くと 盛岡で みんな
ソゴノ ⁽⁷⁶⁾ジズ^ゴーリベンガ アンノサ。
その土地の 土地争が あるのだよ。

A ア アノネー ソノ トジズド トジズノ ヒター アズバズダー⁽⁷⁷⁾
あのは その 土地と 土地の 人が 集まると
ソーイフニヌ ナッテ シス^ムノデ ホガノ ヒトド
そのように (方言に) なってしまうので。他の土地の人と
ブツツカッツダ ヤンベクセニヌ コー マノビジステ
接すると、丁度良いぐらいに 間のびして
カダルヨーニヌ ナンノス。
話すように なるのだよ。

C シー ソンデモ アレダオナー。アノー ソッツノ ヒタズド
うん。それでも、あれだからね。あちらの土地の人達と

カダ^ラ ジス^ラネドゴノ トズジノ ヒトド カダンノダラ
知らない土地の 人たちと 話すのなら

イーゲントモ コーイフニヌ システ ムガイアッテデ トモダジズ
いいけれども こういうようにして むかい合って 友だち
ワレノ トモダジズ ニダヨーナ ヒタズド ハナシス
自分の 友だち、似たような 人たちと 話し

シヌ テデガラニヌ ソノ アイデカ デモネー ワダシヌー
ていて その 相手が 「わだし

アノニ⁽⁷⁸⁾ (A リルッパナ コドバ ツカッテガ) ンー ワダシヌワ
あのお」 リッパナ ンとぼを使ってか? うん。「わだしほ

コーダヨ⁽⁷⁹⁾ ナンテ イワレツド コツグテグナルオナー
こうだよ」などと 言われると くすぐったくなるよな。

コッソー。⁽⁸⁰⁾ (笑い)
くすぐったく。

A (笑い) ナーニヌ カダッテル クソード⁽⁸¹⁾ オモウナー。
なにを 話している、この野郎と思うなあ。

C ン ナーニヌ ドツカラ オベダベド オモウ。(笑い)(A 笑い)
うん、なあに。 どんで おぼえたのだろうと思うよ。

ソー オモウツケヨ。 ドーツカラ オベダベ ナーニヌ
そう思うことがあるよ。 どんで おぼえただろう、なに

ニヌダヨーニヌネ ンー ニヌダヨーニヌ⁽⁸²⁾ (A ナーニヌ
似たような所で、 似たような所で) なに

バーガナゴド カダッテル ギャーグニヌ バガナゴド
馬鹿なことを 話している、 反対に、 馬鹿なことを

カダッテルド オモウンダオナ。) オカッタンダモノ
話していると 思うんだよね。) 育ったんだから

ヤンベニヌ カダッテ アダリルメニヌ カダッテモ イーノニヌ
ほどほどに 話をして、 ぶつうに 話しても いいのに

コノヒト ドゴデ オベデキタンダネ ドー コレカラ
この人は どんで ンのンとぼを覚えたのだろうと、 これから

ソーユーフーニヌ ユンダベガド オモウズド コンダ
そういうように (気取って) 言うのだろうかと思うと、 今度は

ソ^{C.A}デネオネ。(笑い) ニ^ニカイメ イギ^イアット コンダ
そうではないものね。 二度目に 行き^イ会うと 今度は

ソーデネンダツケモノ。 ンダガラ オラハ コノ コドバデ
やではないからね。 だから 私は こんの 方言で

ソレゴソ ヒョー^{ヒョ}ジュンゴ ツカエッテ イワレダッテ
それこそ 標準語 を 使えと 言われても

ツカレネгентモ コゴノ コドバデ ヒョー^{ヒョ}ジ^ジュンゴミデナ
使えないけれども、 こんの ことばに 標準語 のような

フ^フジ^ジ ツケダモ オガ^{オガ}ジ^ジス^ス トー^トキョー^{キョ}ノ アダ^アリ^リル^ルノ
節を つけても おかしい。 東京の あたりの

ヒョー^{ヒョ}ジ^ジュンゴノ コ^コ コドバデ フ^フジ^ジス^スデ コゴノ ネ
標準語の ことばの 節で こんの 方言の

ハナ^ハジ^ジス^ス タモ オガ^{オガ}ジ^ジス^ス ガ^ガス^スペ。 ンダガラ ヤッ^ヤパ^パリ^リル
話し方をしても おかしいでしょう。 だから、 やっぱり

ソノママ ナッ^ナテ^テジ^ジス^ス マウ^{マウ}モン^{モン}ネー。 カン^カケ^ケデ^デミ^ミレ^レバ ^{ジ^ジヤ^ヤン^ン}
そのまゝのことばに なってしまうものね。 考えてみると

ホントニ^ニ ゼン^{ゼン}ゴ^ゴダ^ダナド オモ^{オモ}ワ^ワレ^レン^ンダ^ダベ^ベド^ドモ^モネ。

ほんとうに 田舎者なのだなあと 思われるのだろうがね。

B ン^ン ヤッ^ヤパ^パリ^リル コノ^{コノ} コゴノ ベン^{ベン}テ^テッ^ッノ⁽⁸³⁾ ~~~~~
うん、 やっぱり こんの こんの -----

ヤ^ヤア^アリ^リル ナン^{ナン}ボ^ボニ^ニ コノ^{コノ} ナン^{ナン}デ^デネ^ネガ^ガエン^{エン}ガ^ガナ^ナー。

やっぱり いくら、 こんの、 なんでしょう。

ショ^{ショ}ー^ージ^ジュン^{ジュン}ゴ^ゴズ^ズン^ンダ^ダガ^ガ ヒョ^{ヒョ}ー^ーズ^ズジ^ジュン^{ジュン}ゴ^ゴズ^ズン^ンダ^ダガ^ガ ト^トショ^{ショ}リ^リル^ルモ
標準語 だか 標準語 だかしらないが、 老人も

ハー ア マズ⁽⁸⁴⁾ ソー^{ソー}デ^デス^スナ^ナナン^{ナン}ツ^ツノ^ノハ アン^{アン}マ^マリ^リル

ます 「そうですな」 などというのは、 あまり

シマベネグナツタオネ。 マーダ アンダダズ ダツテ マズ
言わなくなったね。 それに あなた方も まあ

ホニス ヒョージズンゴサ チツケ。 (^A ン ンダ ソ ン デ ス ナ
本当に 標準語に 近いよね。 そうだ、「そうですな
ンテネ。)
などと言ってね。)

C ネー ナンテ カダンネンダオナ。 アノナツテ コーユーオネ。
「ねえ」などと 言わないものね。 「あのな」と こうゆうようにね。

アノナー ドゴソレノ ダレアー コーダドヤーット ユーテ
「あのなあ、どんさんの 誰が こうだそうだよ。」と 言って

ジスマウ。 (^B ア ン ー ソ ー ダ) ナンダデ オメヨ
(もうものね。 ああ。 そうだ。) 「どうして、お前は

アーンーツテ イワネンダデーツテ コンダ オヤニス イワレデ
『ああん』と 言わないようにしなさい」と 今度は、親に 言われて
ソンデモ ワカネンダツケオナー。
それでも 直らないものだからね。

A アンダダジズ シューカグソヨコー ドゴダ。 モソル オカサ
あなた方は、 修学旅行は どんに行つたの？ 盛岡に
イッタ シロエンデー。
行つたの？ それとも 仙台？

B オラ モソル オカサ チュツツ イツタダゲデ イッタゴドネオ
俺は、盛岡に 行つただけで、あとは行つたことはないよ。
ン ー (^A ア ノ ア ダ ソ ル サ) ン ダ オ オラ ログネンシェーネ
あの頃はね。 そうだよ。俺は 六年生にね。

ン ー ン デ ハ。 ~~~~~
うん それで。

A ゼシエニヌカー ネクテ イガネノ オショシヌクテ
 お金が なくて、行かれないのが 駄目かしくて
 カグレダリルナンカ シヌタゴド アッタモンダオナー。
 かくれたりなど しんじが あったからねえ。

C オラ ヨネンシエエーノ ドギ モリルオガダッタオナー。
 私は、四年生 の 時、 盛岡 だったからね。
 シヌテ ヒトバンドマリルダッタモンダガラ。
 そして、 一晩どまりだったからね。

A ヨネンシエーデ モリルオガダッタ。 (^C ン。) (^B オー
 四年生で 盛岡までも行ったの? うん。) (あれ
 ンダツタベガナー) ゴネンシエーダナ ゴネンシエエーダ
 そうだったかな?) 私は 五年生の時だよ、五年生だ
ンー ゴネンシエエダ。
 五年生だ。

C ゴログ ゴログネンセ ゴネンシエエダ。シヌテネ ヨネンセー
 五、六年生ジラダ、五年生だった。 そしてね 四年生
 ダガデワネ ヒライズミダッタノ。 (^A ヒライズミダオ。)
 ジラではね、 平泉 だったよ。 (平泉だね。)
 ソシステ アノコロ ヨンジズユーゴセン ヨン ジズーゴセン
 そして、 あの頃は 四十五銭、 四十五銭 だった
 カナ。 (^A チャント ネダン オベデアナ 《笑い》) (^B ヨン
 かな? 正確に 値段まで 知っているのだね)
ジズーゴセン) ヨンジズーゴセンダガ ヨン ヨンジューゴセン
 四十五銭?) 四十五銭 だね? 確かに 四十五銭
 ダナ。 (^B ジュー ヨンジズーゴセン アー) (^A ンダガ
 だよ。 四十五銭か、 ああ、) (そうかも

シエネネー ン。) ソジス テネ ソゴサ タダヤライネノ。
知れないね。) としては、牙泉に、無条件でやてもらうなかつた。

ウッショノ ヤマサ イッテ アノー マツプクリル ヒロツテ
後の 山に 行って あの、 松かさを 拾って
コチャエンツテ ⁽⁸⁵⁾カマスサ ヒトズ ゴーセンデ カウガラツテ
来なさいと言って、「かます」に 一つ 五銭で 買うからと言われて。

(B ン)(A ハー。) シス テネ ソノ マツプクリ ヒロツテネ
そして、 その 松かさを 拾ってね

ソノー ヨンジュゴセンアデ ⁽⁸⁶⁾ヒロウノァ イーズズ ヒロワネバ
その 四十五銭に相当する位 拾うので、 五かます 拾わなければ

ネー。 ソジス テ ヤライダオ ゼツテ タダ ヤライ
ならない。 として 修学旅行に やられたものだ。 絶対に、 ただで、

ガッコサモ ヤライネガッタヨ ンー。

学校にも やられなかつたよ。

A ナニス シュカグリヨコーノ ドギ ゲダッコ ハイデッタ。
なに 修学旅行の時 下駄を けいて行ったの？

B ンー (A ナニス ハイデッタ) ズック ズックナンツモノ
うん。 (なにを履いていったの?) ズック靴などというものは

ネーノダガラナ ンー。 ⁽⁸⁷⁾(A ダルマクス アリャ アノ。))
ないのだからね。 うん。 だるま靴、 あれは あの。

ダルマ オドゴ フラジス タズァ ダルマクスツコ

だるま靴、 男の 子どもたちは、 だるま靴を

アツタンダジャ。 ネ アノー ゴムノス (A ホー ナニス)
履いていたね。 あの、 ゴムで作った (ああ、 何を

ハイデッタタンダベナー) (C ハー) アズハ アツタナー。
履いて修学旅行に行つただろうね。 あの靴は あつたよね。

C ゲダダベヨ。 (A ゲタッコダネー。
下駄だらうね。 下駄だよね。)

B ンー アッタンダカー オラノ ドギァ ゲダダガモ シェネナー。
うん。靴はあったらうか？ 俺の 時は、下駄かも知れないよ。

C フラジズド ゲダシスカ ネガッタンダガラ トニヌカグ
「わらじ」と「下駄」しか なかったんだから。

(88)
ユズギド ハギモノニヌ スレバ。

藁靴と 履物で 言えば。

A ヨダヨ⁽⁸⁹⁾ンダハー フラジズ^{xxxxxx} ハ モリル^{xxxxx} ワラジズ イッソグ
依田栄^{さん}は わらじ 一足を

モッテ イッソグ ハイデ イッタモンダズ モリルオガサ。 (B
持ち 一足を 履いて 行ったものだそうだ。 盛岡に。

ンー。) (C ダレス) ミンツァマデ アリルッタンダモス。 (C
うん。) (誰?) 水沢まで 歩いて行ったそうだよ。

ダレ) ヨダヨ ヨダヨー アノ ヨダヨーノ ダンナドノ
誰) 依田栄、あの 依田栄の 母那で。

イマノ、トヨサガノ オラホノ ホンケノ アニヌキダ。 トニヌ
今の。 豊坂の。 俺の家の 本家の 兄貴だ。 とに

カグ ハイダホガニヌ イッソグ モッテ (B ンー) ミンツァマデ
かく 履いたほかに。 一足 持って 水沢まで

アリルッテ キシャサ ノッテ ソジステ モリルオガノ
歩いて、 汽車に 乗って、 そして 盛岡の

マジズ アリルッテ ミデ アルッテ キタンダズ (B ハー
街を 歩いて 見て、 歩いて 来たそうだ) (ああ、

ンデァサ。) ツギノ ヒ イッソグ タゲデルド。
(90)

そうだろう。 次の日は、もう一足を おろして履いたそうだ。

B ~~~~~。

A ン ソダツケ。 ン アンダダズ ヤッパリ ンデ ゲダツコ。
そうだ、そうだよ。 あなた方は、やっぱり それで 下駄なの？

C ゲー ゲダダベヨ。 クズナンツモノ ネガッタンダモノ。
xxxx
下駄だろうよ。 靴などと いうものは なかったのだから。

B ンダッタベネ。 ンー ダルマクス ナンツノ ハ。
そうだろうね。 だるま靴 などというのよ。

C アッ ゾーリルハ アッタヨ ゾーリル。
ああ、草履は あったよ。 草履は。

A ダルマクスー ダルマクスカ アドー。
だるま靴。 だるま靴か そのほか。

B ダルマクスズノ ヤッパ ズットー ショーワノ ウー
だるま靴というのよ、やっぱり おっと 昭和の
ナニダベンオ ンー。
頃だろうよ。

C ゲダダネ。
下駄だね。

B ショギダオ ウン。 (A ホンダッタタテ。)
初期だよ、うん。 それでもね。

C ゲダダ フロジスキ ショウクレーダオ ゲダナンダ。
下駄だよ。 風呂敷を 背負うくらいだから 下駄なのだよ。

B ゲダツコ ン ゲダツコナンダ。 ゲダツコナ。
下駄だ。 下駄なのだよ。 下駄だね。

A フロジスキ ギッテ アリヤ アミムッコ ショッタンダエッチャ。
風呂敷というよりは、あれは 網を 背負っただろうよ。

~~~~~。

B シー ンダネー。 ~~~~~ ノホ アッタベンドモ マ  
そうではないよ。 あっただろうが

フロジスギダオ。(Aハ-) シー。  
風呂敷だよ。

A アリヤ アノ アミムッコデ アノー (C ガバン ホジスクテ  
あれ、あの 網で あの。 かばんが ほしくて。

ホジスクテ カッテモライネデ。 ニヌ モツ イレルヨニヌ  
ほしくて 買ってもらえないでね。 荷物を 入れるように

デギダノ アッタンダナー。  
出来たのが あったんだよ。

B アー アーユーモノモ アッタダゲントモネ マー フロジスギ  
ああゆうものも あったけれどもね、 まあ 風呂敷  
ダネ。

だよ。

A イマデモ ネ アイズモ アイズ ショッタリルナンカ  
今でも ああゆう(網)ものを 指買ったリなど

ジスタヒトモ アッタッタネ。  
した人も 居たね。

B シー ソユー ヒタズジモ アッタッタベカナー マーズ。  
うん、そういう 人たちも 居ただろうが まあ。

## (2) 若い頃の思い出など

話し手

| (略号) | (氏名)  | (性) | (生年)      |
|------|-------|-----|-----------|
| A    | 若松林平  | 男   | 大正5年生まれ   |
| B    | 菊地政勝  | 男   | 明治42年生まれ  |
| C    | 吉田ケサ江 | 女   | 明治45年生まれ  |
| < D  | 本堂 寛  | 男   | 昭和7年生まれ > |

- C ホナゴワラジス アネ ガッコ ソレゴソ ショーカッコジスカ  
女の子もたちはね、学校、それこそ、小学校しか  
アルガネガラ ナーダテ オショジス モンダド オモテアッタ。  
行かないから、なんと言っても、恥ずかしいんが あったのだよ。  
ショーカッコ アルッテ コンドア サイホ ナ サ  
小学校を 終って、今度は 裁縫を  
ナラセラエンダオネ。ゼーンゴダガラ ソノ サイホーサ  
習わせられるのだよ。田舎だから、裁縫に  
イグニヌ モネ フユ ジズューイジズカズド ジズューニヌ  
行くにも 冬の 十一月 と 十二。  
ショーカジズ ニヌカズ サンカズニヌナレバ ハ  
正月、二月、三月になると、もう  
ムギザギキリルナンダオナ。(B ンー) ソノネー イズズギノ  
麦踏みの時期になるのだよ。その、五ヶ月間  
ウジズニヌ サイホーサ ソノ ヤラインノニヌネ (B ンー)  
の間に 裁縫を習いに やらねるのに

メーニヌ コヤジヌ アケ<sup>(91)</sup> ジヌ ロツテ ソワレデヨ (A ン  
その前に「ンヤし上げ」を (3と) 言われてね。 うん

アー アー ~~~~~ コヤジヌ アケ アー アー ) コヤジヌ アケ  
ああ。 肥やし上げね。 肥やし上げを

オナゴワラジヌ サネ コヤジヌ アケ サジセエダモンダオ。  
女の子どもにね。 肥やし上げを させたものだからね。

(B アー) デ オショ ジヌ クテ ダレガ ムゴーガラ  
そんで 取すかしくて 誰が 向うから。

ソンドギ ユギノ アルアダリルナンダヨ フユダガラ。(A ンー)  
その時。 雪の ある頃 なのだよ。 冬だから。

ジヌ テネ ムゴーガラ ダレガ クルド オショ ジヌ ガラ  
そして、 向うから 誰か 来ると 取すかしいから

ハヤグ イグンダオネ。 ソジヌ テ ムゴーガラ ダレガ クルド  
早く 歩いて行くのだよ。 そして 向うから 誰か 来ると

ハ オショ ジヌ ガラ コサ アノー オロジヌ テサ (B ンー)  
取すかしいから 此処に 下ろしてね。

ソジヌ テ テンビン コーユフニヌ ジヌ テ ソサ コジヌ カゲデ  
そして 天びんを うちやうように して、 そんに 腰かけて

スランカオジヌ テ ナンボダベヤ ジューサンカ  
知らないふりして、 いくつだっただろうか。 ナニオカ。

ナンボベヨー。(B アン アン) イッペニヌ イラレネガラネ  
いくつだろうね。 桶に肥やしをたくさん 入れられなから

ジヌ ズ<sup>xxx</sup> メグレニヌ ジヌ テ コジヌ テ カズイデネ  
七分目ぐらいに して、 うちやうに かついて

ジ<sup>xxx</sup>エ<sup>xxx</sup>コ<sup>xxx</sup> マズジガラ ジューゴマデジヌ。(A ~~~~~ )  
町から 田舎までね。

ソーマッテ ソイズ コンダー ハダゲサ モッテッテ フッテ  
そうやって、それを 今度は 畠に 持って行って、撒いて  
ソージステ <sup>ガッ</sup> ソジステ ガラ サイホーサ ヤライダ。  
そうして、 そうして から 裁縫に やらせたのだよ。

(<sup>B</sup>アー) ( <sup>A</sup> アノアダリ サイホー -----  
その頃、裁縫 ----- )

B シン マジズ ガラ ア アゲデグノ。

うん 田から 肥やしを 桶に入れて行くの？

C アリヤ イマノ ミキサ<sup>(92)</sup>ンッテ カミイーサン アルエン (<sup>B</sup>ン)。  
あの 今の「みきさん」という 髪結いさんがあるでしょう。

アソゴガラ アペンダ<sup>(93)</sup>ッチャ。カドガ<sup>(94)</sup> ドーレンジズ アダリマデ。  
あそこから、「肥やし」をあげたんだよ。片岡、百蓮寺あたりまでね。

A トニ<sup>(95)</sup>カグー オナゴワラジ<sup>(96)</sup>スタジズ ハー サイホーサ  
とにかく 女の子どもたちは 裁縫に

アリルッタ<sup>(97)</sup>ンダオネ。ガッコー オワルド ショーガッコーナンカ  
行ったものだよ。学校を 卒業すると、小学校などを

オワツツドネ。

卒業するとね。

C オッソラグ オラエクレ<sup>(98)</sup>ンモンダベ ソーイゴド サセダノ。

多分 私の家ぐらいなものでしょう。そういうことをさせたのは。

オレノ オヤクレ<sup>(99)</sup>ンモンダベ。ゼッテ タダワ オガネンダ。

私の 親ぐらいなものだろう。決して、只では 置かなかった

ン。

のだから。

A アリヤ ドゴノ シ<sup>(100)</sup>セエンシエ<sup>(101)</sup>ダッタエ サイホノ シ<sup>(102)</sup>セエンシエ。

あれは、どの 先生 だったろう。裁縫の 先生は？

C サイホノ シ<sup>セ</sup>エンシエワ モジズ<sup>(95)</sup>ダダッタオ。  
裁縫の 先生は 餅田の人だったよ。

A ホー モジズダサ イッタノ。  
へえ。餅田まで 行ったの？

C ンデネノ モジズダガラ キテル センシ<sup>セ</sup>エー。 (A ハー  
そうではないよ。餅田から 来た 先生だよ。 はあ。  
モジズダ。)  
餅田ね。)

B ンデア アリア マルシ<sup>ョ</sup>ーノ ッテ マルシ<sup>ョ</sup>デネ キ<sup>キ</sup>キ<sup>キ</sup>  
それでは あれは 「マルシ<sup>ョ</sup>ー」の ッテ 「マルシ<sup>ョ</sup>ー」ではなく

C ンデネモ ソレノ メーダ<sup>モ</sup>。  
そうではないよ。その もっと 以前だよ。

B キクシ<sup>ョ</sup>ーノ アノ シ<sup>ョ</sup>ンツァン アネダ<sup>ネ</sup>グ。  
「菊正」の 「正さん」の 姉さんではなく。

C ン ソレヨリ マエ。  
それより 前

B ホー ホー ンー。  
そうなの。

C アノ コヤシ<sup>ス</sup>アゲ<sup>サ</sup>。  
ああ。あの「肥やし上げ」ね。

A アンダ ヨメコサ ナンボ<sup>デ</sup>キタ<sup>ノ</sup>ダ。  
あなたは 嫁に 何で 来たの？

C イマノ トシ<sup>ス</sup>ダド ジューシ<sup>ス</sup>ズ<sup>ジ</sup>。  
今の 年では 言えば 十七才だよ。

A ン ジューシ<sup>ス</sup>ズ<sup>ジ</sup>。 (C ジューシ<sup>ス</sup>ズ<sup>ジ</sup> ンー。  
え。十七才？ 十七才だよ。)

A ジューシズジズデ ヨメゴサ キタノダガ (C ソー) ムガスタ。  
十セオで 嫁に 来たの? 昔は?

C アンマソル イータメニヌ ハエグモラエダノ。(笑い)  
あまりに キリょう良しのために 早くもらわれたのよ。

A ゼーブン ハヤグ キタンダナヤ。(C ジューシズズ。)  
すいぶん 早く 来たんだね 十セオだよ。

オドロイダ エー タマゲダ。  
驚いたなあ。びっくりしたなあ。

C イマノ トシズダツタラ ジューハジズダベドモ ジューシズズ  
今の 年だったら 十八オナだろうが。 十セオ  
ダベヨ。  
だろうよ。

A オラ ハダジズガ ナンボデ キタベナド オモツテダ  
俺は、二十オか そのあたりで 来ただろうと 思っていたが  
ジューシズズデ キタノナー ホー。  
十セオで 来たのだね。

B ンダサ。 ソノ コロワ ン。  
そうだよ。 その 頃は。

A ソナンニヌ ハエガッタガナー。  
そんなに 早かったのかね。

D ダンナサントワ ステニ コー カオ アワセテタリ チャント  
旦那様とは、すでに 顔を 合わせていたし よく  
シテタノ。  
知り合っていたの?

C ソーデネノ トゴロカ。(D 笑い) (A ン。) アノー ホラ  
そうじゃないのだよ。 ところが。 あの、 ほう



オラエノ トーチャン (A ナニニ) ニニ イッペ ジズーチャン  
うちの 主人 (なに?) に、たくさん、主人に

ニニ キョーダイ アルイー オドゴダジズ。(A ムガジズ。)  
兄弟が あったでしょう。男の兄弟が。昔ほね。

ソレゴソ ミンナ ジューニニン ~~~。 (A ~~~)  
それこそ、みんな。十人兄弟が ~~~。

(B ンー ナルホドナー。) ジューニニンキョーダイ。(A ~~~  
うん、なるほどね。 十人兄弟がね。 (A ~~~

キョーデダナー) キテネ オレカ キテ ンデモ ホラ ミナ  
兄弟だね。 ) 嫁に来てね。私が嫁に来て、それでもほら、みんな

ホゴサ デハッテダガラ ダッタ ドーノ ヒトカ ジズブンノ  
奉公に出で行ってたから、 どの 人が 自分の  
ダンナダカ ワガネンダヨ。

旦那だか わからないのだよ。

A ドー ドーノヒド ジズブンノ ダンナドノダカ ワガンネ。(笑い)  
どの人が 自分の 旦那だか 分からないとは!

C ホントニニ ワーガンネノヨ ホントニニ。  
本当に わからないのだよ。 本当に。

B ニニバンメ ニニバンメニニワ フジズオサン。  
二番目兄弟は 藤雄さんだね。

A フジズオサンダ。(B ンー。)  
藤雄さんだよ。

C ン ジズテネ ムジズメダガラ アサニニネ クサガリル  
そしてね。 娘 だから。 朝に 草刈りを  
ジズテロツテ イッツモ ヤマサ クサガリル ウマッコ  
しろ。 と言われて。いつも。 山に 草刈りに。 馬を

ヒッパッテ クサガリニ<sup>ス</sup> ヤノ キョア ナンデ コノ エノ  
 ひっばって 草刈りに 行くのに 今日ほ、どうして この、家の  
 メーノ クサ カレット ソワレンダベナード オモッテ  
 前の 草を 刈れと 言われるのだからなど 思って  
 ナンニ<sup>ス</sup>モ ヘントー<sup>(98)</sup> シ<sup>ス</sup>ライネンダモ ヒトツツモ ヤンタモ  
 さんにも 口答えなど 出来ないから、ちよつとでも、いやとか  
 ナンダモ イワレネノ。 オヤノ ユートー<sup>リル</sup>ニ<sup>ス</sup> シ<sup>ス</sup>ネバ  
 さんとか 言われないの。 親の 言う通りに (ないといけ  
 ね。 ソシ<sup>ス</sup>テ エノ メーノ クサガリ<sup>リル</sup> シ<sup>ス</sup>テダレバ  
 ないのだよ。 そして、家の、前の 草刈りを していたところが  
 アリヤ アノ マズノサンナ シ<sup>ス</sup>ツパシヨ<sup>リル</sup> シ<sup>ス</sup>テサ。  
 あの「まつさん」が、裾からげ (してね

( <sup>A</sup> ン ン バンツァ マズノサ~~~~。 ) ンー オッシュード  
 うん あの婆さん、まつさん~~~~。 ) 夫の

オドツツァン<sup>(99)</sup> シ<sup>ス</sup>ツパシヨ<sup>リル</sup> シ<sup>ス</sup>テネ ソシ<sup>ス</sup>テ  
 親 が 裾からげ (してね。 そして  
 ナゴード イツツモ クル ソノ オナゴドノ オガサント  
 仲人、 いつも 来る その お仲人の 奥さんと  
 クル コー トー<sup>リル</sup>スギダノ ミムダガラネ ヘンダナード  
 来て 前を 通り過ぎたのが 見えたので、 変だなあと  
 オモッタモンダガ オモワネモンダガ トニ<sup>ス</sup>カグ ソノヒダゲ  
 思ったのか 思わなかったのか、 とにかく、 その日だけ  
 アサニ<sup>ス</sup> クサガリ<sup>リル</sup>ダッタ。 エノ メーノ クサガリ<sup>リル</sup>。  
 朝に 草刈りだった。 家の 前の 草刈り。  
 ( <sup>A</sup> ハー ハー ハー。 ) ソシ<sup>ス</sup>テ モライダ<sup>ンダ</sup>ガラ  
 そうして、 貰われたのだから

(<sup>B</sup>アー ハー ハー ハー。) ドーズ ヨロジスグ。 (笑い)  
どうぞ よろしく。

A ミムデ マズノサンカ ミムデ アノ ムスメダラ イードモツテ  
見て、「まつのさん」があなちを見て。 あの娘だったら良いと思って  
ハー モライダノ。  
貰われたのだね。

C トゴロカネ キテミダツケ コゴレァノ ホラ バンツァダジズネ  
とんろがね。 来て見たら、 この辺の おかみさんたち。  
オガサンダズジカ マズノサンツー ヒトァ ドゴガラ アノー  
お母さんたちが、「まつのさん」という 人は どこから  
ナゴード キテモネ ミサ アルイ ダマーツテネ ミサ  
お仲人さんが 来ても 黙って 見て  
アルイタヒトナンダド。  
歩いた人がそうだよ。

B ンー ドゴノ マズノサン。  
うん。 何処の「まつのさん」？

C オラエノ オシュード オドツツァンス カズオサンノ <sup>(100)</sup>  
私の家の 姑さんだよ。 「和雄さん」の  
オガサンス。 (<sup>B</sup> アー アー オガサン~~~~。)  
お母さんだよ。 ああ お母さんね。

A ナーニヌモ コツツノ オガサンダオ。 オラ ネ。 (笑い)  
なに。 この人の お母さんだよ。 俺はね。

C ミデ アルツタンダド。 ンデモ アノアダリル ソノアダリル  
見て 歩いたそうだよ。 でも、あの頃は。 その頃は  
ミデモ アルガネガッタダオ オヤカ。  
見ても 歩かなかったそうだよ。 親も。

B ナ ナゴードモ シスタヒト。

仲人モ した人なの？

C ナゴード オガサント ミテ アルイダノ。 (B アー アー

仲人の 奥さんといっしょに見て歩いたのだよ。 ああ

ソーガ。)  
そうか。

A ナゴド ドゴソレノ ムスメド ナツツドマ オドツツ アソゴノ

どこそこの 娘だと いふことになると、 あそこの

オドツツァン オガーサンガ コダガラ ンデ モレヤドガ。

父親や 母親が こうだから、それでは貰おうよと言う。

(C オマ イバ モラツタンデネガナ オソラグ。) (B ~~~~~)  
親が良いとそれで貰ったのではないかな、多分。

ナーニヌ オヤジズド オフグロド システ キメテ

なあに、 父親と 母親が 相談して 決めて

シス マツタンダオナー。 オラモ オラノ カガア ミネデ

(買ったのだなあ。 俺も 俺の 妻を見ないで

モラツテシス マツタンダ。 (B 笑い) シ アリヤー ナンテ

貰ってしまったんだよ。 あああれと 思っているうちに

モラツタツケア ナーニヌ ホニヌ ソノ トーソルダツタオノ。

貰ってしまったのだよ。 そしたら本当に その通りだったよ。

C イマノ ゴド ハ タマケルナ。

最近のやり方には 驚くことばかりだね。

A ヨメ モラウドギ ハジメテ ハ オレノ カカガナド

嫁を 貰うとき、 初めて 俺の 嫁かななどと

オモッテ ツラミムデナ マツタグ ショチッネーナ。

思っ て 顔を見て、 全く どうにもしょうがなかったな。

C ン — イマノ ゴド カンゲット ハ タンマケレ ンダガラ  
 うん、最近のやり方を考えると。 驚くことばかりだから  
 ダマッテアホ イジズバン イーオナ。 (B 笑い) (C 笑い)  
 黙っていた方が 一番 いいからな。

(<sup>A</sup> ンダベネ 《笑い》) (<sup>B</sup> オラモ イワネ。) (<sup>A</sup> ダマッテ  
 そうだろうな。 俺も黙っている。 黙って  
 キタッタ。 《笑い》)  
 来たの？

C ワゲワガネウジズ ニス ケラレデ ワゲワガネドゴサ  
 わけが 分からないうちに 嫁に やられて。 わけが 分からないところに  
 ケラインノデガス タッタ。 (<sup>A</sup> ンダー イマ ナニス。) ン。  
 嫁に やられるのですよ。 そうだ。 今ほ なに

B マー ジューシズズジダオナ ン。  
 まあ、十七才だからな。

A ソレゴノ ダマッテ ケルドゴ ケデヨゴスドゴモネス。  
 それこそ、黙って 嫁にくれるところ、くれてよんところもないですよ。

B ジュースッテイエバ マダ チューガッコーナシネンダ。  
 十七才というと、まだ 中学校 なのだね。

C ジュー ムガシズノ トシズダデバ ジュージズデ ショーガッコ  
 昔の 年で言えば、 十四で 小学校  
 ジューズ (<sup>A</sup> ショーガッコ オワッタバリクレーナ モンダ。)  
 十四 小学校を 終わったばかりくらいのものだよ。

A チューガッコ オワッタバリナシ ンダ イマデ。 (<sup>C</sup> ジュージズ  
 中学校 終わったばかりなんだよ / 今で。 十四  
ン ジュージズ。) ジュージズズジドヤ。  
 十四 十七才というと。

B ショーガッコ ジズンジョーコートーショーガッコ。 (A ンー  
小学校、尋常高等小学校。 うん  
ンー。)

C イマノ チューガッコ。  
今の 中学校。

B ンダガラ イズー コーチュエー アノー ムガシ  
うん、だから いつ、 あの 昔  
ジズンジョーコートーショーガッコダベジャ。  
尋常高等 小学校 だろうよ。

A コートーカ オワッテ イジズネンカ ニヌネン。  
高等科を 終わって 一年か 二年たった時だね。

C コートーカワ ニヌネン ンダモ ログ ジューログナンダ  
高等科は 二年だから 十六才 なんてね  
コートーカ オワレバ。  
高等科を 終われば

B ンダガラ ログネンシェーデ オワリル。 (A ンー コートワ  
だから、 六年生で 終わり。 うん、 高等は  
ニヌネン。) アド コートーニヌネンシェーマデダ。 ソノドギ  
二年。 ) あと、 高等二年生までだね。 その時  
ジズーシズガ ニヌネン オワット ン。  
十七才か、 二年生を 終わると。

A ニヌネン オワット ンー カゾエダラバナ (B ンー ンー。)  
二年生を 終わると、 数え年 ならね。

カゾエダラバナ カゾエデ キタノナンダナ アンダワナ。  
数え年 ならね。 数え年で 十八で きたの なの だね。 あげたは。

C カゾエデ ジューハジズ。~~~~。  
教える年で 十八才。

B ンデ チュー<sup>x x x</sup> イマデアバ チューカッコ ソズギョーシステ  
それでは。 今ならは 中学校 卒業して  
スグ ヨメゴダオナ。  
すぐに 嫁に なったんだね。

C ダレネ オレノ アネ アツタンダゲント ソノプレー ハエグ  
あのね、 私の 姉が あったのだけれども、 そのくらい 早く  
ケダタメニヌ カシエグヒト ネガラッテネ (A ~~~~)  
嫁にやめたために、 働く人が いないからと言って  
ゴッコーサ イレラレネガツタンダモ。ソジステ<sup>(101)</sup> シャデ  
学校に 入れられなかったんだよ。そして 弟が  
マダ ソイズガラ ミッツ スグネー シャデー アッテダヨネ。  
姉から ニオ 下の 弟が 居たんだよ。  
ソイズー ンート ヘリデクテ ノーカッコーノ システケン  
その弟が ええと、(学校)に入りたいくて 農学校の 試験を  
ウゲデ ホガノ ヒトサ シスブンサ アガッタッテ  
受けて、よその 人から 新聞に 名前がのったと  
サワカレデデモネ オヤジズ<sup>ハ</sup> ゼッテ カシエカセネバ ネット  
されがれても、 父親は 絶対に 働かせなければ ならないと  
イレネガッタ。 シスタツケ ミツカ コダッサ ネット  
いて、入れなかった。 したら、三日間、こたつに 寝て  
イルノス。 ソーユーフーナノダッタヨ。  
いたのだよ。 そういうような 状態だったんだよ。

A ンダサー アノ アダシル<sup>ル</sup> ヘリデクテ ホニヌ ダマッテ  
そうだよ、 あの 頃は、 学校に入りたいくて、 本当に ニッソリと

ウゲダリルシスタ ワラシスタズツ テンボモ アッタッタ。  
受験した 子どもが いくらも いたんだよ。

(<sup>B</sup> ンー ンダベネ。  
うん、そうだろうね。)

C ンー ヒマクショーネー サシロエネバ クラサレネガッタ ンダベ  
うん、百姓を させなければ 暮らさねえかったんだろう

ジャ イッペ カセデッカラ。

よ、たくさん 働いていたから。

B ンー マズ ムガシスノ (<sup>C</sup> ンー) ヒマクショズノ ホラ  
うん、まず 昔の 百姓というのは、ほら

イマダレバ ミナ アノ ンダオナ フザイジズヌシスデ  
今で言えば みんな 不在地主で

タノー タノー マ ゴログダン モツテルンダ ムガシスノ  
田の 五、六反 持っているのだ、昔の

ヨニス ミナ コサグナンダオナ オソラグ。

ように みんな 小作なのだよ、多分。

C ソレゴソネ オレソノ ジューズジズノ ドギ (<sup>A</sup> ンダオネ。  
それこそ、私が、その 十七歳の 時、  
そうなのだよ)

(<sup>B</sup> コサグナンダオ。  
小作なのだよ。) (<sup>A</sup> コサグナンダオネ。  
小作なのだよ。) ヨメゴサ  
嫁に

クットギネ タンスー。 ジューニヌエン (<sup>B</sup> ジズツピョー  
来る時 算筒 十二俵 (米) 十俵

トレバ ゴビョー トラインダオ。) (<sup>A</sup> タンスー ジューニヌエン  
取れば 五俵は取り上げられるものね。) 算筒 十二俵

ス ンー) ン ソジステネ イツタンノ タネ アイズー  
アジツたの? うん、そしてね、一反の 田が あれが



サンビャグゴジューエンヨ タイツタン。ソジス テネ スコーシス  
 三百五十円だったよ。田が一反。そしてね、少し  
 ミジスカゲノ ワルリータ ヒゲドゴダノ タゲドゴ アノー  
 氷のたまり具合の 悪い田、 低い田や、 高い田、 あの  
 ウマッコノ アジス ササルドゴ ヨーナドゴワネ サンビャグエ  
 馬の 足が ささって抜けないうようなところば、 三百円だっ  
 ン (B ウーン) イツタンデ。 ソイズガ ナンジューネンメ  
 たよ。 一反で。 それが 何十年前  
 ダベ。 ヨンジュー (B ンー) ナンボダ チョット ワガネナ  
 だろうよ。 四十 何年ぐらい前、 ちよっと  
 ジュー。  
 分らないな。

A ショーフゴジュネンダガラ アンダノ トジス アンダ  
 (今年ば) 昭和五十年だから、 あなたの年、 あなたが  
 チャットシスダガラナ ナニ タイショー ジューネンアダリル  
 若い頃だから 大正 十年 あたりには、  
 ニス ンー タイショー ジューネンデネンダナ アンダ  
 大正 十年ではないな、 あなたが  
 ヨメゴサ キタコロダガラ (C ジューシスズジダガラサ)  
 嫁に 来た頃だから 十七才の時だからね  
 ヤッパリ ショーフガンネンアダリルダナ。(笑い)  
 やっぱり 昭和元年頃だね。

C ショーフサンネン。  
 昭和三年。

A アンダ ヨメゴサ キタノ ショーフサンネンカ。  
 あなたが 嫁に 来たのは 昭和三年なの？

C ソーダネ。  
そうだね。

A ソンナニ<sup>ニ</sup> ハエグ キタノダガ。  
そんなに 早く 来たの？

C ンダッテ サンネンメ<sup>ニ</sup> マツコ ウマレダ<sup>ニ</sup>ダガラ (A ソン  
ダッテ、 三年目に 「松子」が 生まれたのだから (そうダ  
ダ ホ<sup>ニ</sup>)。ソ<sup>ニ</sup>ダ ショーワサンネン<sup>ニ</sup>ダオ。  
は、本当に) そうだ 昭和三年だよ。

B ショーワサンネン。 (C アノ アダリル。) アンダ<sup>ニ</sup> ナンネン  
昭和三年。 (あの頃。) あなたは 何年  
ウマレ。

生まれなの？

C オレワ ヨンジューゴネンノ ゴカズダゲド タイショーガンネン。  
私は、 四十五年 の 五月だけけども、 大正元年。  
(B ホー ン-) ログカズ ナンカズダッタ。 (A ン-) アノ  
ほう。 六月、 何月だったの？ あの  
タイショー<sup>ニ</sup>ナッタノ ログ<sup>ニ</sup>。  
大正に なったのは。

B タイショー<sup>ニ</sup> ナッタノワ ジュー<sup>ニ</sup> ジュー<sup>ニ</sup>カズダ。  
大正に なったのは 十二月だよ。  
ジュー<sup>ニ</sup>カズ。  
十二月。

A ジュー<sup>ニ</sup>カズス タイショー<sup>ニ</sup> ナッタノ ジュー<sup>ニ</sup>カズ。  
十二月だよ、 大正に なったのは 十二月。

B タ タ アノ タイショーテンノーズノ ジュー<sup>ニ</sup>カズ  
大正天皇というのは 十二月

ニ<sup>ハ</sup> ジューゴニ<sup>ハ</sup> ズジ<sup>ニ</sup> ニ<sup>ハ</sup> シンダオダガラ。  
二十五日に、 死んだ<sup>ハ</sup> からね。

C ハー ジューニ<sup>ハ</sup> カズジ<sup>ニ</sup> ハー。 (B ウン。)  
ああ、 十二月ね。

A ン ショーワガンネンツナネ イッシュukanグレジスカ ネンダ。  
うん、 昭和元年というのね、 一週間ぐらいしか ないの<sup>ハ</sup> だよ。  
(C ハー。)

B タイショーテンノーカ<sup>ハ</sup> ホラ ニジューゴニ<sup>ハ</sup> ズジ<sup>ニ</sup> ニ<sup>ハ</sup>  
大正天皇が ほら、 二十五日に  
ジ<sup>ニ</sup> シンダノダガラ ン。(C ンー) ンダガラ。  
死んだ<sup>ハ</sup> のだから うん。 <sup>ハ</sup> だよ。

C トニ<sup>ハ</sup> カグ サンビャグー ゴジューエンテ ソッパナタ  
とにかく 三百 五十円で ソッパナ田  
イッタン カウニ イガッタジャ。(B ンー ンダナ) ンー  
一反 買うことができたの<sup>ハ</sup> だよ。(うん、 そうだよ) うん。  
タンジスワ ジ<sup>ニ</sup> シャグタンス ジューニ<sup>ハ</sup> エンネ (B ジューニ  
算筒は 四尺算筒が 十二月だったよ。 十二  
エンナ。)  
田ね。)

A ソレゴソ ホントノ イワヤド<sup>(102)</sup>ータンス ナンボ モッテ  
それこそ 本当の 岩谷堂算筒 いくら 持って  
アルッテモ ビクトモ シネノ (笑い)  
歩いてモ びくとモ しないの<sup>ハ</sup> だよ。

C ソダッタヨー。  
そうだったよ。

B ンダナー ソイズァー イマ ンダガラ モットモナ  
そうぢな それほ、 今ほ ぢから もっともね。  
イジズマンエンサズ フルリマシステ アルツテ。  
一不田札を ぶりまわして 歩いて。

A タンスー ヒトズー モツテキタダゲデモ ハー イガッタオナー  
箆笥を 一つ 持ってきただけでも 良かったのだよ。  
イガッタオナー ヨメコサ クルノニヌ イマデガラ  
良かったんだよね。 嫁に 乗るのに 今だったら  
ナニヌ モツテコネクテネ カニヌ モツテコネクテネ  
女にを 持たなくては いけない。 かにを 持たなくては いけないと  
ジズズジヤガマシズネーゴド<sup>(103)</sup> カダツケントモ (B フ フーン)  
いろいろうるさいとを 言うけれどモ  
ホニヌー ~~~~~。  
本当に。

C タンス タンス ヒトズド キョーデァーモーネ オラハ アズゲ  
箆笥、箆笥 一つと 鏡台モ 私ほ 持たせ  
ラエダゲント ホント ヨグヨグノゴドデネバ キョーデァー  
らけたけれども 本当に よくよくのことではなければ 鏡台は  
アズゲネガッタオナ。 (A ~~~~~) ソンデ イガッタダ。 (B マズ  
持たせられなかったよ。 それで、 よかったんだよ。  
カゴツ マズ カゴツコヨメゴ<sup>(104)</sup> オーガッタベモ。) カシエクサ  
まあ 器量の良さで嫁にもらわれた人が多かったらう) 働ければ  
ゲ スレバイーノダオ オソラグ。  
それで よかったのだらう。 多分。

A ン (B アーン) カシエク カシエカネワ マズ シズ .....  
うん。 働く 働かないほ マズ 問題外で。

(B ンー) モラウノ コーダノ アーダノッテ。

貰うのに こうだの ああだのと言って。

C ソジス テネ モライデキタ ダンナデネグ オシュードサンサ  
そして 貰われてきたが、夫ではなく おしゅうとさんに

ツトメロズヨーニヌ シュードサ ツトメロズヨーニヌ

よくつとめなさいと言うように、おしゅうとに よくつとめなさいと言うように

キョーイグ サレダモノ。 (A ンダネ。) ンダガラ ケツキョグ  
教育 されたものだよ。 (そうだね。) だから。 結局

ドノヒトサ モライデキタモ ミムンナ オドゴダジズキョーダイ  
どの人のところに 貰われてきたか分らないようだった。男兄弟は みんな

オラヨリル ヨゲナダモ フジズオサン。 ンー

私よりも 年上なのだから、藤雄さん。

A ジズブンノ ダンナドノ ワゲワガネガッタ (笑い)

自分の 夫が わからなかったとは。

B ン ア フジズオサン ヨゲダ オレ オレヨリ ヒトズ ヨゲダ。

ああ、藤雄さんは 年上だ、俺よりも 一才年上だよ。

C ヨゲナダモ ミッツモ ヨゲダモノ。

年上なんだよ、三才も 年上なんだよ。

B ンダオナ。オラ コッチッノホー イッテ イエバ イガッタオ。

そうだよ、私は こちらの人のオが良いって言えば よかったのに。

(A 笑い)

C イーマサナレバ オラ イーデ アンデ。 (笑い) (B アー  
今になってみると 私は 良いよ、あれで。 ああ

ソーダッタガ。) オラ アンデ イーノダ。 (A ナカモジズ  
そうだったか) 私は あれで いいのだよ (長持ち

スルホーガ。) ンダガラ オレ ヘンネガラ ワラジスバリルモ  
 する方がね。) だから、私は(学校に)入らないから、子どもだけでも  
 イレデミム デモンダナード モッテ ガッコーサ ホントニヌ  
 入れてみたいもんだと 思って 学校に、 本当に  
ソイズバリル イッジスンデ ハ。  
 それだけの ー心で。

A ナーニヌ ンダ アンダ ~~~~~。 タイシスタ ガンバリヤダ。  
 なあに、 そうだ、 あなたは、 大した 頑張り屋だ。

B イマダレバ ~~~~~。  
 今だったら ~~~~~。

C オラ オショシスガラ。  
 私は 恥ずかしいからな。

B ホニヌ アンダダ ~~~~~。  
 本当に あなたは ~~~~~。

C ホントニヌ ナーニヌモ イジズバーン コマルノネ。  
 本当に なにも 一番 困るのね。

(<sup>A</sup> ホントダ ヨダ キョーイグシスタ ホントダ ~~~~~。)  
 本当だ。 よく 教育した。 本当だ ~~~~~。)

アノー イジズバン ガッコーサ ヘンネデ (<sup>A</sup> ~~~~~  
 あのう、 一番、 学校に 入らないで ~~~~~)

マサカツツァンサンモ ソーダス。) ホニヌ キョーイグッテ  
 正勝さんも そうだし。 本当に 教育って

ソレゴソ ムキョーイグ ムガグツノデ イジズバン コマンノ  
 それこそ 無教育、 無学 っていうので 一番 困るのは

ヨーソサ マズ シスラネデ ムジューニヌ ヲッテ コノ  
 ほかの人に、 まず、 何も考えずに 夢中に なるって

コドモダジズ オカジス テンノ。(B ンー) ワラジス ノコロ  
 子どもたちを 大きくしたんだよ。 子どものころ  
 ワレガ アノ フジズ ユーシス ッカラ ムジューニヌナッテ  
 自分が あの 不自由していたから、 夢中になって  
 オカジス テンケントモ イザ コノ コイフニス オッキグナッテ  
 大きくさせたけれども、 いざ ンううように 大きくなって  
 ホガノ ヒトアネ セゲンサ ダサネバネグナッタドギニス  
 外の 人の前に、 世間に 出さなければならなくなったときに  
 オレノ オモッテデモ ソノ ジズモネ モンクワ ドーヤラ  
 私が 心で 思っても、 字もね、 文句は どうやら  
 ツチズジリカダ ムガジス オレ スギダッタガラ モンクワ  
 綴リネ は 昔 私は 好きだったから 文句は  
 ドーヤラ ツグンニス イーゲントモ ジズ シラネンダモネー。  
 どうやら 作るに いいのだけれども 字を 知らないからね。  
 ンダガラ ソイズデ オレ イジズバン クローシスタ。 アド  
 だから それで 私は 一番 苦労した。 それから  
ダンダン コンダ ケデジスメバ。

だんだん、 ンんどは 娘を 嫁に やってしまうと。

- A ハヤグ ハヤグ テープコーダーデギルバ イガッタナー。  
 早く テープコーダーが出来れば よかったね。
- C ケデジスメバネー コンド タニヌント ツギエァ ジス ネバネオ  
 娘を嫁に やってしまうと、 今度は 他人との つきあいを しなければなら  
 ナー ソイズ イジズバーン フジユーダヨ。 ナ ハイッテル  
 ないので、 それが 一番 不自由だね。 学校に 入った  
 ヒタズ ナニスー ソンナゴドッテ ユーゲントモネ  
 人たちは 「なあに そんなとほ」と 言うけれどもね

ウーソダデバ ハイッタヒタズワ ナンニモ フジズユー  
うん。そうだよ。学校に入った人たちは なんにも 不自由  
ジスネンダドモ ヘンネモンガラ カンゲットァ イジズバン  
しないけれども、入らないものだから、考えてみると。一番  
ソイズカネ フジズユーナンダツケ。  
それが 不自由なのだよ。

B アノ イワサキササ イッテンノワ イジズバン オッキーノ。  
あの、岩崎さんに 嫁に行っているのは 長女なの？

C ソー。(A アー ンダー。)  
そうだ。(ああ、そうだよ。)

B ソノツギァ ナンダツタ アノー ベンリヤシスタノ。(C ンー。)  
その次の娘は、なんだったか、あの 便利屋をした家の。  
ホーン。

A バントジスタ ジスタドゴサ イッテ。  
ソッぽな 家に 嫁に行って。

C ンデネー ミンナー ホニヌ (A ン ン ミンナ~~~~ン。)  
そうではないよ。みんな 本当に。

(B ン ンダネ。) アー ン<sup>(105)</sup>テ ハ オショジスヨナ オヤ  
ああ、そうだね。ああ、うんというて 恥ずかしいような 親が  
オカジスタノダガラ モライトネード ワガネドモッテ。(笑い)  
育てたのだから、もらってくれる人がいないと 困ると思って。

ヤーヤ。

いやほや。

A アンダホダ オドゴワラジス マダ ガッツリル ジステルスナ。  
あなただの家では、男の子どもが、亦 しっかり しているね。



C ンダネデ ( <sup>A</sup> ~~~~~ ) ニダヨータ。

そうではないよ。 似たようなものだよ。

B オドゴワラジス ヒトリルダッタエガ。

男の子どもは 一人だけだったろうか。

C ンダモ。 ( <sup>A</sup> ンダオ。 ) オラエ オドツツァンノ キョーダエ  
そうだよ。 ( そうだよ。 ) 私の家では 夫の 兄弟は

オナゴダジズ イッペデガスベ。 ( <sup>A</sup> ~~~~~ ) イッペデ  
女の子どもが 多いでしょう。 たくさんで、

オナゴー サイゴサ オナゴダオ ジューニメーサ

女の子どもの 最後に 女の子どもだもの。 十二人。

オドツツァンノ トーチャンノ キョーダイ ジューニメサ  
夫の 兄弟 十二人の最後に

オナゴ。 <sup>(107)</sup> ソジステ コンドア オレノナ <sup>(108)</sup> ゴニモ オドゴ  
女の子が生まれ。 そして 今度は 私のオでも 五人も 女を

ツズゲダガラ ログニン オナゴニ ナツテジスマッタ。

続けたから 六人 女の子に なってしまった。

ジステ サイゴサ オドゴ ヒトリルネー ( <sup>B</sup> ン ) ホニ  
そして 最後に 男の子が 一人生まれた。 本当に

イガッタヤー。

よかったよ。

A カンズー <sup>(109)</sup> ホニ チャックドギー アンマリル ジョーブナ

「和」は 本当に 小さい時は あまり 丈夫な

ヨーニメネガッタ アンカイ ( <sup>C</sup> イーマ ン ジョーブナ  
ように 見えなかったが、 意外。 今 丈夫な

ンダガ ンダガ ) ツカ カツット ズシタノ ジョーブニナ  
のたか どうだか ) カ カツリ して 丈夫になっ

一。(<sup>C</sup> ナーシダガー。) だね。 どうだねか。

C オナゴワラシスノ ドゴデバリル オカシス タガラネ シダガラ  
女の子の 中でだけ 育てたので だから  
コレ ハ フニャフニャズー ワラシス ニヌ ナルナードモッテ  
女の子は、 腑抜けの 子に なるなあと思って  
バリル イダッタ ナーニヌ ゴンケ ケッコー ゴンケハギダナ  
だね いたら、 なに、 気まま、 げんご 気ままな性格だね。  
エサ クットエド。( <sup>A</sup> ゴンケカダリル。) ンー。  
家に 帰ると。( 気まま野郎。) うん

D ゴンケハギッテ ナンデスカ。  
「ゴンケハキ」というのは 何ですか。

C エッ。  
え？

A ゴンケカダリルダド。 ゴンケカダリル ゴンケハギノダノ。  
「ゴンケカタリ」だって。「ゴンケカタリ」「ゴンケハキ」とか。

C シダナー ゴンケ (笑い) ゴンケ。  
そうだね。「ゴンケ」 「ゴンケ」

B ~~~~~ ゴンケハグ ~~~~~ ゴンケ マ ズジョツパリルドモ  
~~~~~ 「ゴンケハグ」 ~~~~~ 「ゴンケ」 まあ「強情張り」とも  
ツカウガ。
違ふのかな？

C ゴンケカ ゴンケッテ キママツツー イミダネガナー。(^B ンー
「ゴンケ」か、「ゴンケ」というのは、「気まま」という意味ではないの？ (うん
キママダナー。)) ンー イーデゴド ユツテルズー (^A ~~~~~ (笑い)
気ままだね。 うん。 言いたいことを言うということだ。

ゴンケカダリル。) ソンデモ ミンター ヨス マズ フツー
気まま野郎。 それでも、みんな まず、普通

セゲンノ ヒタズ ミルド ソレガ オドゴダラ ホントダツケオ
世間の 人たちから見ると、それが、男の子だから 本当の姿だと
ネ。 ソイズカ〜〜。

いうのだよ、それが〜〜。

A ンダ ゴンケカダリル クレアクレアデネバ イズ^ニジネノダ。(笑い)
やうだ「気ままにふるまう」くらいでないと 意地がないのだよ。

C ダガラ オナゴバ^{リル}ノ ドゴデ ヘント ヒトズモ ケサレダゴ
だから、女姉妹の 中で 口答え 一つもされたことも

ドネー オナゴバ^{リル} オカジ^ステダガラ コレ ソノヨーニス
ない 女の子どもばかり 育てたから この子どもも そのように

イジズモ ナニスモ ネーネ フニヤフニヤズ ワラジス
意地も 何も ない ぶにゃぶにゃした 子どもに

オドゴニス ナンデネーガドオモツタツケヤ ケー ソーデネ。
男の子に なるのではなにかと 思っていたら そうではなかった。

A ナーニス ナガナガ タイジ^スタモンダ ンカラ^ツ ペロット
なに、 なかなか 大したものだ。 うん。 ほっそりと

ジステ アイズ ジステルヨンダゲントモ ナガナガ キショツポ
していて、あやほ、しているようだが、 なかなか、しんのしんか

ネ アルオ。〜〜 (笑い)

りしたところがあるよ。〜〜

C ンダガラネ アノー ワラジス アノー ダイカクサ イツテア
だからね、 あのう、子どもが 大学に 行ってた

ドギ アノー ナンボニス^ズガ タツテガラ ホラ アネダジ^ス
時、 あの 何日か 経ってから ほら、姉たちは

アノー ツチーサーノデ オドゴワラジス ダガラ ンート
 (この子が) 小さい時から 男の子だから とてモ
 メンケガツテアンダベジヤ。 (B ンー) (A ンダンダ) イーツテ
 可愛いがっていたでしょう。 (うん) (そうだ そうだ) 行って
 ミダレバネ チャーント カミム オカジステ ヘッタノカ
 見たら ソっぽに 髪を伸ばして 大学に入ったのに
 スポント マルボーズニス ナツテアッタド。(A・B ンー)
 すぽんと 丸坊主に なっていたそうさ。
 ナニス ジスタノダツテ ユッタレバネ ソジステ ボージスコ
 何故なのかと 聞いてみたところ、そして、帽子を
 カブツテ キタツタ デハツテ キタンダド。(A ンー) ナーニス
 かぶって きたまま 出て来たそうさ。 どうした
 ジスタンダベド オモツテ ソノ ボージス トラジエデ
 のだろうと 思って その 帽子を 取らせて
 ミダレバ マルボーズニス ナツテアッタド。 ジスタツケネ
 みると 丸坊主に なっていたそうさ。 そしたら、
 カラテサ ヘツテ。 (B アダマ クサエツテ。(III)) (A「笑い」) ア ア
 「空手」に入って、 頭が臭いと言って。 ああ。
 カラテサ ヘツテ) カラテジステアンダ ジステ ミーンナニス
 空手部に入って) 空手をしていたんだよ、そして、みんなに
 ネ アノ ワラジス カズマン カラテズーゴド ネガベツテ。
 あの 子どもが 和やんが 空手などというのほやいだらうと、言
 カラテジステネ チャーント コノアイダモ ミーダゲントモ
 わやた。空手をしては、ちゃんと この間も 見たけれども
 ブツダン カタズゲットギ ミダツケァネー アノー ホラ
 仏壇を 片付けていると 見たら ほら

ガッコーノ キョーイン ^グ アノー キョーインノ
 学校の 教員 あの 教員の
 メンキョシヨージスカ アレド カラテノ ショージョーダノネ
 免許證が あれと 空手の 賞状 だの
 ソンナノ ヘッテ。(笑い) ンー アレネ チューガッコー
 そんなのが 入っていたんだよ。 うん、あの子どもが 中学校
 ミズサー ミズ⁽¹¹²⁾コーサ イッテアドギネ アノー
 水沢 水高に 行っていた時、 あの
 ジスミトモギンコーサ ヤリデダクテ センセーカ。(Aンン)
 住友銀行に やりたくて 先生が。
 ジステ マッタツケ ソノトーリル ビンボーテ ソダデダノダガ
 そして やったら、 その通り 貧乏で 育てたのだから
 ラ ダイイテキボーワ オヤンツァンモ アノトーリル
 第一希望は、 父親も あの通り
 チュータイチョー⁽¹¹³⁾ニヌ ナッテジス マッタガラ ダイイチックキボー
 中風になっちゃったから、 第一希望を
 シューショグニヌ ジスタッタノ。ジステネ ダイニヌキボーワ
 就職に したの。 そして、 第二希望は
 ソノー シンカグッテ ユッタツテ ジスンカグナド ムロン
 進学と 言っても、 進学など もちろん
 サシセルキ ネガッタノス。ジステ ネーヤンダジズモ コゴサ
 させる気は なかったの。 そして 姉たちも この学校に
 アルイテダガラ オメモ コゴノガッコーダッテ ユッテアッタノ。
 通っていたのだから、お前も 此処の学校だよと 言っていた。
 ジスタツケ ダイカグサ イカレネガラ ミンナド イッショニヌ
 したら、 大学に 行かぬから みんなと いっしょに

マダ ケッコー イードゴノ ダンテサンダジズノ
亦、 とても いい家の 旦那さんたちの
ムスコダジズド トモダジズダッタガラネー イーズガ
息子たちと 友達 だったからね。 そのうちいつか
コノ ワラシヤド コノ ワラシス ミンナド ワガレネバ
この 子どもたち、この 子どもは みんなと 別れなければ
ネンダベナード オモッテダッタノ。 ガッコーサモ イレラエネ
ならないだろうなと 思っていたの。 学校にも 入らな
がら。 ジスタツケネ ソノ ジェンジェーモ ソノキニス
から。 そしたらね。 先生も その気に
ナッテ スミトモギンコーサ ヤリタデクテ サンニヌン サギ
なって 住友銀行に やりたくて。 三人、 最初
ナニニヌン キボーシャ アッタナダド。(Bシー) ジステ
七人 希望者が あったそうだし。 そして
ソレ ヤメ^{xxxx} アノー ワガネクテ イツカイ オドサレデ アド
それが 成績がダメで 一回 落とされて、 後に
サンニヌンニヌン ナッタノ。 ジスタツケ ソノー サンニヌンノ
三人に なった。 そしたら その 三人の
ウジズノ⁽¹¹⁴⁾ ソノ アド イツカイ フタゾルデ ムゴサ
うちの あと 一回(落とされて) 二人で むこうで
サンカイ アノー メンセズカ アッテネ ンード サンカイメニヌ
三回 あの 面接が あってね。 三回目には
イガネバ ネガッタノス。(Bシー) ソノ ミツ フズガ
(東京に) 行かなければ ならなかったのです。 その 二日か
ハンニヌズダベガナー ゼーンブ オヤガラネ オラ オレノ
半日 だろうかなあ。 全部、 親から。 私 私の

ジズッカノ ホーガラ オヤンツァンノ キョーデーガラ ミンナ
実家の ほうから、父親の 兄弟から みんな
ジズラベデガラネ ムスメ ゴニエン アッタノニヌ
調べてから 娘が 五人 あったのに

アネダジズ ウエノ ゴニエン アッタノス。 ソイズノネ
姉たちが 上に 五人 あったのです。 その姉たちの
ダンナダジズノ キューソヨーガラ ナニエガラ イズジニジズハ
夫たちの 給料から 牙にから 一日半たか
ンダガ フツカ ソゴノ ウジズノ ゼンブ ジズラベラレダノ。
二日ぐらい その家の すべてを 調べられたの。

ソジステ トード ソイズバ トッ トッテ ムゴーサ イガネ
そして、とうとう、その調査を 通過して 東京に行かすけ
バネグナッタノス。 ジズタツケ ホレァ ツチーセノニヌ
ればすらなくなったのです。 そしたら、ほら 可愛いがって
ジステ⁽¹¹⁵⁾ ソダデダン アノー オカジスタンダガラ ミムンナ
育てた、 大きくしたので みんな

メンケカッテ アネダジズ キテ ミズサワマデ オグッテッタ
可愛いがって 姉たちが 来て 水沢まで 送っていった
モンダオ。(B ンー) ンート イワヤド デットギガラ
ものだ。 それで 岩谷堂を 出発した時から

ドカドカッテアッタダド。 ジズテネ キシヤノナ バスノ
心がトカトカしていたようだ。 そして バスの

ナガデ ネーヤンヨー オラー アノ コンナニヌ ジズテ
中で 姉たちよ、 俺は みんなにして

オグライデ イッタッタッテ ハ ジズ ジズンネーゾッテ
送られて 行ってモ 自信は ないよって

ソータッタオネ。 ソンデモ トード イッタ。 イッタトダンニ
言ったそうだと。 それでも とうとう 行った。 本社についてヒムニ
ガダガダガダガダガダッテ ソノ ギンコーサ ヘッタトダンニ
ガタガタと ぶるえて、 銀行に 入ったとたんニ
フルエダッタド ドカドカドガッテ。(A 笑い) ソーシステ
ぶるえたそうだと トカトカトカ と。 そして

ヘッタツケネ ミーンア シスホーガラ キタンデガスペジャ。
中に 入ってみたら。 みんな 全国四方から 来たらしいのです。

シスタツケ ソノ シスミトモギンコーデネ ヤキュースンノ
そしたら その 住友銀行でね。 野球でできる人が

ホシスガッタンダド。 システ (A 笑い) ナンネンカ マエニ
欲しかったそうだと。 そして 何年か 前に

ネ タワラガラ イッテンノカ ヒトリル ソノ シスミトモギン
田原から 行っているのが 一人 住友銀行に

コーサネ ヤキューノ ヒト トレデアッタノ ンデ ソゴサ⁽¹¹⁶⁾
野球選手が 採れていたの。 それで面接の場に

ヤラレダレバ ホガガラ キタヒトガ ミーンア カダルノサ
やられたら。 よそから 来た人は みんな 話しをする。

シスズモンスンダツケド。 オラ ドッカドッカッテ ナンニモ
質問をするそうだと。 俺は トカトカとぶるえて なんにも

チシギネ。 トーチャンガ ヨワグナッタガラ シスンブンモ
知識がない。 父親が 弱くなってから 新聞も

テレビも ネガッタノス。 ナンニモ アダソルノ アノ
テレビも なかったんだよ。 なんにも。 いろいろの

キョーイグツツーゴド ゼーンゼン オヤジデバ ソレゴソ
教育ということ。 まったく 父親というと、それをそ

バシャヒギダガラ アルッテルッタッテ ナーニ^ニモ
馬車ひオテダから、歩いていると言っても ぎんにモ
キョーイグカンケイ シャカイノ ゴド ワガネンダ^ニ ナンタラ
教育関係 社会の ことほ れからない、 どうして
オライノ トーチャンビソル コンナニ^ニ ワゲワガネンダベナー
うちの 父ばかり ынぎんに 知識がないだろうな
ド オラ オモウゲントモ カンゲデミレバ マッコ クジズノ
と 私ほ 思うけれども 考えてみると、 馬 口の
タダネモノド アゲグレ イッショダモノネ ワーガネハズダモノ
オけない馬と 一日中 一緒だから れからないはずデよね。
ネ。 ソイズニ^ニネ ホカノ オヤダジズ スッカリシステ
それに、 よその 父親ほ しっかりしていて
イードゴサ ミンナ コドモダジズ シューショグサセル
いいところし みんな 子どもたちを 就職させる
オラエノ トーチャンビソルー ショーカッコー オワット
うちの 父親ばかり 小学校を 終わると
ジスグ^ニ カサレデ ジューネン ホーゴー オメ エサ
すぐに 他人にあずけられて 十年、 奉公、 「あまたが 家に
キタドギ^ニ エサ クルノ シャネガラ ジューネンモ
帰って来た時に 家に 来ることを 知らないから 十年も (他人の家に)
イダベジャ ナンテ セズッテ オレニ^ニ イワレデス ホ
居ただろうよ」 ぎんと 馬鹿にして、 私に 言われて
ソジステ イダッタ。 サア コドモダジズ ミンナ オカッテ
をして いっしょに居た。 丁あ 子どもたちが みんな 大きくなって
シューショグド ナッタッケネ。 ナーニ^ニモ ドゴサモ アノー
就職と ぎんたら ぎんにモ どにモ

ツッテカネーガラ ワガンネーガッタノ。 カンゲデミレバ
つてがないので、 ためだったの。 考えてみると

オヤンジズバリル イジズメダッテ ワガネナー コドバノ
父親ばかりを いじめても ためなのぢやあ、 言葉の

デネモノド イッショニヌ アルグノダモ オベルヒマ
言えない馬と 一緒に 歩くのだから 知識をおぼえる時間が

ネーベジャド オモッタゼントモス。 ソーシステ イダッタ。
ないだろうやあと思っただけぢやあね。 そして いっしょに居たの

テレビモ シュンブンモ ネーガラ ナーニヌモ イエネガッタド。

テレビも 新聞も ないから、 なんにも 言えなかったやうだ

スモトモ ~~スミトモ~~ サ イッテ ソンデ ソゴ オジャンニヌ
住友に 行って それで ソンガ ために

アッタ。 フタソルトモ ドレモ トレネデ。 ン

なつた。 受験した二人とも 採れなかった。

A テレビド シュンブント イエバ ムガシヌ シュンブンナンツノ
テレビと 新聞と 言えは 昔は 新聞などというもの

トツテットゴ ホントニヌ スグネガッタベネ。

は 取っているとこは 本当に 少なかつたろうね。

B ネーガッタダベオ。

なかつただろうよ。

A ンー ラジズオワ アンダダジズ ナ イツコロガラ。

うん、 ラジオは あなたは いづころからなの？

C ソシステネ。

そしてね。

B オラネ シューセンゴデガスト ラジズオ ウーン。

俺はね、 終戦後ですよ ラジオは。

C シューセンマエ アノ マツコカネー ソノ タイ ショーワログ
終戦前に 松子が その 昭和六
ネンウマレノ ワラジスガ ライネン モスカモ ジョカッコーサ
年生まれの 子どもが 来年 かも 女学校に
イレデナード オモッタキオグアツカラ ワレ ヘンネガラネ
入れたいなあと思った記憶があるので、自分が 入らないので
イモートド ムスメ ジョカッコーサ イレダキオグ アツカラ
妹と 娘を 女学校に 入れた記憶があるので
ゴシヘンズズ タメデダノデ ラジズオ カッタオネ。 ソノ
五銭ずつ ためてたので ラジズオを買ったのだよ。 その
シューセンノ ドギネ ワカマツツァント オラエダゲダツタモ。
終戦の 時に 若松さんと 私の家だけだったもの。

A ラジズオ ホー。
ラジオが？ ほう。

C ソーシスタツケ ホラ ワカマツツァンテ マズ
うん。 そうしたら ほう。 若松さんという家は。 まあ
コユードゴダガラ ムガシスカラノ ダーレモ オショシスガラ
ンという立派な家だから 昔からの 誰も 取すかしくて
イガネンデガステ。 オラエサ ミーンア アズバツテサ アノ
行かなかったんですよ。 私の家に。 みんな 集まって あの
シューセンノ アイス キーダ^ンダヨ。
終戦の あれを聞いたのだよ。

A アイス キーダノ ラジズオデ。
あれを聞いたの？ ラジズオで。

C ゴーセシズズ タメデダノデ ラジズオ カッタノネ
五銭ずつ ためてたので ラジズオを買ったのだよ。

ワラストズサ キカセシデクテ。 シス タツケ オヤズ^{ジニ}ニ
子どもたちに 聞かせたくて。 そしたら。 父親(夫)に
モツテネー ソナモノカッテ。(A 笑い) (笑い)
勿体ない そんなものを買って。

A ホンニヌ ネー。(C ウーン)
ほんといひえ。

B ラジズ オズノワ シュ ホニヌ シューセンマデワ ホドントネ
ラジオ というのは。 本当に 終戦までは ほとんど
イードゴデネバ ホニヌ ネガッタベ アンダ アノ テレビノ
いい家でないよ 本当に 早かったらうね。 あなた方、あの、テレビの
ラキュー ハエンダナー。
普及は 早かったね。

C ンダオネー。 ソシステ ヒルマワネ アノー ウダ^ン ミンヨーナン
そうだね。 そして。 昼は あの 歌。 民謡 などを
カ キカセデサ。 システ タダミヤデ カセーデル ヒタズサマデ
聞かせて。 そして。 畳屋で 働いている 人たちにまで
キケルヨーナ アリヤ ナンダ⁽¹⁷⁾ガ ツケデ ヨルワ ソノ
聞こえるように あれ あんたかをつけて 夜は
オナゴワラシス タジズ イモートド ソノ ワラシス タジズ
女の子もたち。 妹と その 子どもたちが
ゴニヌンモ ログニヌンモ アツカラ ソイズラサ ベンキョー
五人も 六人も。 居たから、その人たちに 勉強
サセンノネ。 ヨルダゲダッタモ オラエデ(A ン) ワラシス タ
イセるのだよ。 夜だけだったものね。 私の家で。 子どもたちは
ジズ ミンア バシヤノ テズダイニヌ アルグノダオ アサダノ
みんな 馬車の 手伝いに 歩くのだよ。 朝や

ヨル オレモ サセライダガラ ケッキョグ ワラジス タズモ
校、私モ サせられたから 結局 子どもたちモ
ソー サセダンダネ ヨルダゲ ベンキョー。
そう(守伝いを) サせたのだね。 夜だけ 勉強だった。

A ~~~~~ ショーワニジズーネンアダリマデワ ラジズオモ
~~~~~ 昭和二十年頃までは、 ラジオモ  
メズラジスガッタナ。  
珍らしかったのだよ。

B ン ホンデ ~~~ マズ メズラジスガッタベネ。 オラモ  
うん、それで ~~~ まず 珍らしかったらうね。 俺モ  
シューセンゴナンダオ ラジズオナンテ イレダノ。  
終戦後だね。 ラジオなどというものを 置いたのは。

C ハー シューセンメーニヌ カツテネ ログネンウマレカ  
はあ、終戦前に 買ってね。 六年生まれが  
xxxxxxxxx ジョカッコーサ ヘットギ ヘルメーニヌ カツテ  
女学校に 入るときに 入る前に 買って  
アレジスタッター ホーントーニヌ ビンボーグラジス  
あれをしたね。 ほんとうに 貧乏暮らし  
セーイッペー。 イヤー  
精一杯ね。

B マ ジスカダネンダナー。  
まあ、仕方ないねえ。

A ~~~~~。  
~~~~~。

C ンダガラネー ホーニヌ オラー ワラジスカラ オカルドギノ
だからね。 本当に 私は 子どもの時から 大きくなる時の

ゴド ミンナ ヨメゴサ キテノ ズーットノゴド ホニエ
こと、みんな 嫁に 来月から おうこのこと 本当に
ナンニエガ コー カイデ ミデモンダナド モッタッテ
何か 書いて 見たいものだと 思っても
ソノトーリル ヒマモネージュエサ カセシガネバネスス。
この通り ひまもないし 働かなければならなかったしね。

A カグ カグツモリルデ コー カダラエンヤ (笑い) カグミダネ
書くつもりで 話しをしないよ。
(118)
ーガラ。

C ヒマネージュエネ ホントニエ ホニエ イマ カンゲレバ
ひまがないしね。 ほんとし。 本当に。 今 考えてみると
ヒデガッタナーツツゴド ハ ソロソロ ワシエルヨーダネ。
大変だったなあ ということは、そろそろ 忘れるようだね。

B モー ワシエスタベジャ ハ。 ~~~~ ワラスシタズ オーキグ
もう 忘れたでしょう。 ~~~~ 子どもたちは 大きく
ナッタオナー。
なったしね。

A ワーシエラエネゴド アルサ ウーン。
忘れることができないこともあるよね、うん。

C ワシエダネー イズー イズー イショ コシエデ コノ
忘れたね。 いつ、いつ、 着物を作って
ワラシマドサ キシエダッタベド オモイヤスカ。 ダーレ
子どもたちに 着せたのだろうかと思ひますよ。 かにせ
キョーダエ イッペダ イエバダドモ キョーデー イッペナンダ
兄弟が たくさんだった。 言ってみれば 兄弟が たくさんなんだ

オナ ホーントニヌ。

よ、本当に。

A マサカツツァン ナンボデ ヨメゴ モラッタ ヨメゴツテ

正勝さんは 何で 嫁を 貰ったの？ 嫁って

ヨメゴ モラッタノガ ムゴサ キタンダガ ドッチ。

嫁を もらったのか 聲に 来たのだから、どっちか。

B オレワ ニ ニジュー オレ ニジュージス。

俺は 二十 俺は 二十四才。

A ハー ソノドギ。 (ン イン ジェ コドモワ ニジュージスズ。)
ああ、その時。 うん、 子どもは 二十七才の時

ン マダ ヘツカ ヘツテガラ ケツテキタド チカウガ。

うん まだ 兵隊から 帰ってきた時と 違うか。

B ア ケツテキタ。(A ア) ウン。(C ンー ンー)

ああ 帰ってきたよ。 うん。

A カラマズジニヌ⁽¹¹⁹⁾ イタドギガ。

川原町に 居た時なの？

B ンダオ ジス テー ヒサオワ⁽¹²⁰⁾ ニジュージスズ^ズノ コガ。

そうだよ、そして、 夕男は 二十七才の時の 子どもかな？

A ンダベネ。 (B ン ン)

そうだろうね。

D ソノコロ ケツコンシキト イマノ ケツコンシキトワ ズイブン

その頃の 結婚式と 今の 結婚式とは ずいぶん

チカッテルンデスカ。

違っていらぬのですか。

B ンー ヤッパリ。

うん やっパリ。

- C アンマソル チッカワネンデネガスカ。
あんまり 違わないのじゃないですか。
- A ヨースルニヌッシャ イマー ホラ ソーソルヤナンテデ
つまり、 今、 ほう 料理屋などで
ヤッケントモ ソノ アダソル エデ ヤッタダオ。 (C エデ
やるけども その 頃は、 家で やったんだよ。 家で
ジスタダゲデネ。) モジズ ツイデ カナラジズ モジズ ツイダオネ
しただけでね。) 餅をついて 必ず 餅をついたものね
ゴジヌキノ ドギ ハ。
御祝儀の 時はね。
- C エデ ジスタダゲデ ツチカワネーネ。 (B ンー ンー マズネ。
家で しただけで そのほかは 違わないね。 うん。 うん。 まずね。)
- A マーズ ソンデモ。
まず それでも。
- D コノアタリ シキタソツテ ドンナ シキタリノ ケッコンシキ
このあたりの (アタリ) というのは、 どんな (アタリ) の 結婚式を
ヤッタデスカ。
やったんですか。
- A ヨメカー ハー。
嫁が はあ
- C マーズ ミアイナンツゴド ネース。
まず 見合いなどというとは ないしね。
- A ミアイナンツゴドモ オヤ キメデ ジヌ マウダガラネ。
見合いなどということも、 親がきめて しまうのだからね。
(B ムガジヌアネ。) アド サッキ イッタトーソルネ。
昔はね。) その他は、 古く言った通りにね。

- C ソジステ チョット アレナドゴデア ソノー カドイレッテ⁽¹²¹⁾。
 そして ちよっと ソッぽの家では その「門入れ」と言て。
- A ア カドイレズゴド ジスタノ。
 ああ、「門入れ」ということでしたの？
- C ゴシュギ ジスネウズニヌネ イツカイ ~~xxxxx~~タ キタンダオネ。
 御祝儀を しないうちに 一回 婚家先に入ってきたんだよね。
- A カドイレタド。
 「門入れ」だして。
- C オラー ソンナゴド ツカゲ⁽¹²²⁾ テエデコライダゲントモ。
 私は そんなこと いさなり 連れて来られたけれどもね。
- A ~~xxxxxxx~~ ブツツ ブツツゲホンバンダッタ。(笑い)
 ぶっつけ本番だったね。
- C ソーユー ブツツゲホンバンダガ。
 そういふ ぶっつけ本番だね。
- B コンダ アノ フグミサ⁽¹²³⁾ タワラガラ マッパ モ モラウゴドニヌ
 今度 あの「福三」に 田原から やっぱり 嫁をもらうんとい
 ジスタノデサ ジステ ナー ヒサオナー マズ タノマレナゴ
 したのですね。そして、は、久男は まず頼まれ仲人
 ドニヌ オレ ヤルノダゲントモ マズ ヒサオ オメア クジズ
 に 俺がやるのだけれども、「まず 久男 お前が 口を
 カゲダンダカラッテ ンデア ナンダツケ ンードネ ン
 かけたのだから」と言て それで なんだって ええとね う
 ナンダツケ アイズワー テウジズ⁽¹²⁴⁾ ザゲガ アレ タデデネ
 なんだって あれは 「手打酒」か あれを して
 ンデ オレ サギニヌ ホンター アノー オラ デイソドガ
 それで 俺が 先に 本当に あの 俺 「出入」とか

ナンツノ イマ カタル アレ ⁽²⁵⁾ (A デイリソメダ。) ン。
なんというの、今 言っている、あれは、「出入り初め」だ。」 ン。

デイリソメネ アレ ヤラネウジズニヌ オレ マダ アノー
「出入り初め」ね、あれを やらないうちに、俺は まだ、あの
ナンスダー アリヤ アノー ナンダ アイズ ナンツモンダツケ
なんと言ったろうか、あれは、 あれは なんというものだ。

アノー ンード ナニヌカ タデルノ。
あの、ええと 子にか 用意するもの。

C カドイル。

「門入れ」?

B カ ^{xxxx}カドイルダネグ アリヤ。 (C サゲタデ。) (A サ ^{xxxx}コザケ
「門入れ」ではなく、あれは。 「酒たて」? 「小酒」

コザケ ⁽¹²⁶⁾コザゲ コザケッコ) コザゲタデダガラ ソノアド
「小酒」「小酒」「小酒」?) 小酒立てたから そのあと

デイリソメシス ネデル ウジズニヌ アリヤ アノ ホラ アノ
「出入り初め」を (しない)しているうちに あの ほら

アリヤ ナンダッタ アリヤ アノ ナンダガ アレ ヤッタリル
なんと言ったって あの 子にか やったリ

トツタリルスルモノヨ。 (C ユイノー) ユイノー。
取ったリするものよ。 「結納」? 「結納」。

A ユイノー ハ ムガシスカラ ユイノーダ。

「結納」は 昔から 「結納」だ。

B ユイ ユイノー ユイノー サギ ヤツテカラ デリソメダト
「結納」、「結納」を先に やってから 「出入り初め」だと

オモッタレバ デリソメヤツテダガラ アド ソノママ イーバ
思っていたら、「出入り初め」をやってから、そのあと、その子も良ければ

モラウノデ デイソソメワ サギ サシエエデデ イッテ
貰うので 「出入り初め」は 先に させていて、 行って
トマッタソル キタソル スンノナンダモナ。(C ホー。) デ
泊ったリ 来たり するのだものね。(ほう。) それで
イマ ヤッテルンダ デイソソメ。 ヤッテネー ヨメコダ
今 やっているのだよ。「出入り初め」を。 やっているのだよ。 嫁御は。
イッテ トマリサ イッテ トマッタソル アド。
行って 泊りに 行って 泊ったリ、 それから。

C ムガシス フーダネ。 イマワ。(B ンー) ンー ヤッパソルネ。
昔 風 だね。 今 ね やっほりね。

B ソジステ アルドッカラ イワレダンダヨ。 ジャー フグミクン
そうしたら ある所から 言われたのだよ。 やあ 福三君

ソイナ デイソソメサシエダノ サシエデ ナジョナゴドニヌ
そのほうで 「出入り初め」を させて どんざにとし

ジステアンス ダガラ オレ ンダー コレトノダツケ
するつもりですか。 だから 俺は、 先に、 ンねのだよと

ツタノサ。 アノー マズー マルヤサー バンサ キテ
言ったのです。 まず 「おるや」に おばあさんが 来て

ソジステ ナニヌノ ヒ^{xxx} ジステ デイソソメ ナニヌ
そして 「出入り初め」を

ジスタンダスヤ。 ソシテネ イッテ トマッタソル ジスタソル
したんだそうだよ。 そしてね、 行って 泊ったリ (たり

ジステサ ジスタバ アルヒトガラ ムガシスー ソノ
して、 そうしたら、 ある人から 昔は

デイソソメズノ サギ ヤッテネー ソジステ ナンボクレ
「出入り初め」というのは、 先に やつ して どれくらい

ツトメル ヨメゴダガ ナンダガ ソイズミデ。

しっかりやる 嫁だか どうだかを 見て。

A ン ン オドツツァン オガサンナ。

うん。 父親と 母親がね。

B スツツダネ オガサンミデ ソジステ アドア オガ オドツツァン

すると、 母親が見て きて そのあと 父親

オガサン モ モゴ ハ モジズ ロン イガベドモ ソジステ
母親 聲 は もちろん いたろうが。 きて

オイデデモ オンツァマダノ オバサマ キテ ナーニ

(聲の家)に 置いてると、 おじさんや、 おばさんが来て、 なに

アンタノ モラッタラ アド クローズンダツテ

あんたの家を もらったら 後々 苦労するだろうと

ソイグナルンダド。 ンダネバ デイソルソメ サセルンダラバ

そういうことになるのだ、と言われた。 だから「出入り初め」をさせるのならば

ハヤグ ハ アノー カ アレオ アリヤ アノ (A ユイノーガ)
早く あの 結納か?)

ン チャント ハ ケッコントドゲジステ (A ン ユイノー
確実に 結婚届を して うん、 結納

ジステ) ギツツケソルジステ ジスマネバ アト ハンザズニ
して) しっかりして ほめないと あとで面倒ごと

ナンダゾナンテ ユウ ~~~~~ ユー ヒト アツタンダツケガネ。

なるのだよなどと 言う 人が あったんだよ。

A ナーニ ソンデモ イマー ムガジステ ダレバシャ オドツツァン
なに けれども 今 昔ならば 父親

ダノ オガサンダノ ソノー ジステンセギノ ホー サギニ
とか 母親とか 親類のほうと 先に

キメンダ。 イーマ ホンニヌンドーシヌダオネ (^B ンー デモ
 止めたものだ。 今ほ 本人 同士だからね。 うん デモ
アノトール フグミダガラネ。) ホンニヌンドーシヌノホア
 あの通り 福三だからね。 本人 同士 の ほうが
 ユーシエンシヌテ キメラシエライツカラ。
 優先して 止めるンとになっているからね。

B ンデ ヤッパ ムガシヌドールナンデネン デイソソメ シヌタリ。
 デモ やっぱり 昔通りなのだよ。 「出入り初め」をしたり。

A ンダ ホレ キメルヒトガ ホンニヌン。 ムガシヌミデニヌ
 そうだ。 それ、止める人が 本人なのだよ。 昔のように
オヤズ オホ アノー。
 父親や 母親、 あのお。

B デイソソメモ カドイレモ オンナジズカ。
 「出入り初め」も 「門入れ」も 同じなのか？

C ソングネ ソダベネ。
 そうだね、 そうでしょう。

A カドイレモ デイソソモ (^B ン ン オンナジズ) オンナジズダ。
 「門入れ」も 「出入り初め」も ン、 同じだよ 同じだよ。

カドイレズノァ カドイレ デイソソメ ドツツチ
 「門入れ」というのは、 「門入れ」「出入り初め」 どちらを
 カダツテダング ムガシヌ ソーホー カダツテラガナー。
 言っていたのだらう。 昔、 両方 言っていたのかなあ。

ンダガモシエネター。 (^B ンダベナー。) (^C オンナシヌゴドダ。)
 そうかも しれないな。 (そうだらうね。) (同じンとだよ。)

トニヌカグ オド ムガシヌアー オ ソヨ オヤズダノ
 とにかく 昔ほ 父親や

オフグロカ オモテノデ イマワ ホンニ^ニソド^ニシカ
母親が 主だったのが 今は 本人 同士が

オモテノデ タダ ソゴカ チックダゲダネー。 (^B ンー
主なので、 只 せんが 違うだけだね。 うん、

ンダベネー) アドア ゴシュキノー ンー ゴドナンツノモー
そうだろうね) そのほか 御祝儀の ンとなどというのほ

ハー ムガシス ゴシュキノ バン モゴモー ヨー

昔は 御祝儀の 夜は 聲は 用が

ネガッタンダオネ。 (^B ンー ナニ^ニー。) オメナド ソッチ
なかったんだよ。 うん、 なししろ。) お前など そっちに

イッテロデ ハ。

行、ていなさい、というンとで。

注記

- (1) 話者の祖母。
- (2) 魚・握り飯などを焼く時に使う金網。
- (3) 三種類の穀物。どれどれを指すかははっきりしない。
- (4) 朴の木の子葉。広く大きな葉。握り飯を包むのに使った。
- (5) 背中に背負った風呂敷包を、胸のところで結ぶこと。
- (6) 「お振舞い」結婚披露宴などを祝い事。
- (7) 「食べせられ」
- (8) 割り当てられた仕事の量。
- (9) 田圃にまく肥料の一種。大正時代から昭和10年頃にかけて、満州から輸入したもので、大豆のしぼりかすを固めて乾燥させたもの。60センチ、80センチぐらいの長方形で、かなり重い。
- (10) 擬態語。標準語で適当に訳す語がない。体にかぶりこたえるような重さを持ち、しかも密度のある容量のものについていう。
- (11) 同上。
- (12) 春に田圃を掘り返すこと。田面をかきならして平らにすること。
- (13) 肥料店の店名。
- (14) 同上。
- (15) まるい玉にして重ねたもの。
- (16) 擬態語。へんんでいる状態。
- (17) 「居るけれどもね」
- (18) 「鬼ジッコ」の遊びに似た遊び。
- (19) 「お手玉」の方言。
- (20) 人形遊び。厚紙などで作った人形に、色紙の着物を着せたり、ぬがせたりして遊ぶ。
- (21) めんこ遊び。
- (22) 蜂の巣を焼いたこと。
- (23) 家の両側面にある切妻屋根の端の山形としたところ。煙出し。
- (24) 巣を作ることを「巣をくう」と言う。
- (25) 「ケツケナゲ」と「イシコハジキ」とは、別だという人と同じだとい

う人があった。

- (26) 遊びの説明。
- (27) 遊びの一種。
- (28) 「じゃんけん」の別の言い方を思い出そうとしている。
- (29) 隅
- (30) 前後の意味があまり通じない。
- (31) 担当研究員に対する問いかけ。
- (32) 擬態語。無理やりに。
- (33) 目を指す。
- (34) 「餅を下さいこんこ」という意味のとなえ文句。
- (35) 相手に対する呼びかけのことば。
- (36) 手で示している。
- (37) 髪の結い方の一つ。
- (38) 手で形を示す。
- (39) 「桃割れ」を指す。
- (40) 女の子たちの髪の結い方に、注目していたことを言おうとした。
- (41) 「夫」を指す。
- (42) たくさん落ちる状態をあらわす擬態語。
- (43) 「から」「けれども」の二つの接続助詞がつづいた表現。
- (44) 「しうれなげ」の約形。「出来ない」の意味。ただ、その直前から意味がはっきりしない。
- (45) ことばを続けようとして、そこで途切れる。
- (46) 同上。
- (47) 軍隊で、自分の所属していた分隊。
- (48) 量の非常に多いことばの擬態語。
- (49) 「切れて」か「布で」かはっきりしない。前後の意味から「切れて」としておく。
- (50) 地名。
- (51) 「タゴズグ」の連用形。「つかまっていく」の意味。
- (52) くじ引き。

- (53) 「つばいもも」。桃の一品種。古くから東北・北陸などで栽培。果
実ほ桃よりやや小さく、外面に毛なく、紅熟して光沢を有する。
(『広辞苑』)
- (54) 「ぐみ」。木になる小さい赤い実の植物。
- (55) 木の実の一種。
- (56) 御飯を流し込む状態を示す擬態語。
- (57) 「そのようにして子ども時代を過ぎたんぢよ」という意味のこと
を言いかけて、途切れる。
- (58) 意味が理解できない。
- (59) この部分、目の前を飛んでいた蠅を言っている。
- (60) 甲虫とは別種の虫。
- (61) これが甲虫。
- (62) 山の名。ただ、当てる漢字があまりはっきりしないらしい。「ジ
ろジロ山」とも言う。
- (63) 「丹後塚」。会話ではタンモズカと言っている。間違っ、て覚えてい
たらしい。
- (64) 間違っ、た言い方。
- (65) 娘の名前。
- (66) 来客の声。
- (67) 来客に對することば。
- (68) 来客のことば。
- (69) 来客に對することば。
- (70) 来客に對することば。
- (71) 来客に對することば。
- (72) 「リャグシテ」(略して)とも聞きとれる。
- (73) 旅館の人のことば。
- (74) 同上。
- (75) 同上。
- (76) 「地郷弁」。
- (77) 「集まる」の意。

- (78) 気取った東京弁。
- (79) 同上。
- (80) 話が途切れている。
- (81) 「糞」の意味。
- (82) くり返し。
- (83) 意味不明。
- (84) 方言的な表現のつもりだが、実際は方言にはなっていない。
- (85) 「むしろ」や「わら」で方形に作った袋。
- (86) 「値」
- (87) 靴全体がゴム製の短靴。靴先が丸いので、この名称があるのかも
しれない。
- (88) 「ゆずけ」と言う。雪の上を歩く時に穿くわら靴。
- (89) 町の実力者「依田栄二郎さん」の経営している店の屋号。
- (90) 「たける」。身につけること。
- (91) 「肥やし上げ」というのは、便所から人糞を桶に入れ、田畑に撒き
散らすこと。
- (92) 人名。
- (93) (94) いずれも地名。
- (95) 地名。
- (96) 「菊正」というところを「マルシヨウ」と言い間違えている。
- (97) 店の屋号。
- (98) 「返答」。相手の言うことに文句をつけたり口答えをすること。
- (99) 「舅お父さん」。ここでは「姑親」つまり夫の親を指す。「しうとめ」
のこと。
- (100) 話手の夫の名前。
- (101) 「舎弟」。「弟」のことだが、話者の弟である。
- (102) 古くからの特産品。
- (103) 「セやかましくないこと」。「いろいろうるさいこと」。
- (104) 録音を何度きき返しても「カコッコヨメコ」と聞こえたが、あとで
話者に確かめたら、「カオッコヨメコ」のよし、つまり、「顔の美しい

ことでもうわれた嫁」の意味。

(105) 運送業。

(106) 話があったところに、そのままやっってしまうこと。

(107) Cの話のこの部分は、話されたことばだけでは正確に意味をつかみとれない。内容は次のようなこと。夫の兄弟に女(の子ども)が多い。十二人の兄弟の最後が女だった。

(108) 「オトコ」と言っているが、「オンナ」の言い間違い。夫の兄弟の最後に女が生まれ、それにつづけて話者の子どもが五人とも女だった。そこで、この家では六人つづけて女の子どもと言うことになった。そして最後にようやく男の子が生まれた。

(109) 「カズ」とか「カズヤン」とか呼んでいる。話題の息子の呼名。ただし正式の名前は不明。

(110) 「気性骨」

(111) Bは「空手」の意味がわからなかつたらしい。

(112) 水沢高等学校。

(113) 「中隊長」。「中風」のこと。

(114) 東京の本社で。

(115) 「小さいのにして」。いつまでも小さい子どもとして。

(116) 「そに」の意味。

(117) 「やんだか」。拡声器のことか。

(118) 意味不明。

(119) 川原町。岩谷堂の町名の一つ。

(120) Bの息子。

(121) 「門入れ」。結婚式を後ですることにして、実質上の結婚をすること。

(122) だしぬけに。いきなり。

(123) 「福三」。名前。

(124) 「手打酒」。嫁、智双方の家の親たちがそろって、酒をくみかわすこと。また、その酒。

(125) 「出入り初め」。あとで説明があるように、「門入れ」と同じ。

(126) 「小洒立て」。結納の取り交わしをし、正式に婚約すること。

II. 宮城県わたりり巨理郡わたりりちようあらはま荒浜

収録・文字化担当者 加 藤 正 信

A 収録地点とその方言について

1 地点名 宮城県亶理郡亶理町荒浜

2 収録地点の概観

位置——宮城県東南部

交通——仙台から東北本線・常磐線で約40分、亶理駅下車、バスで東へ約3km、10分の終点。

地勢——阿武隈川の河口の南側に位置し、東は太平洋、北は阿武隈川をへだてて岩沼市・仙台圏に対し、西は亶理町中心部とその西の標高100～200mの阿武隈丘陵の最北端が横たわり、南は沼・潟および海岸小平野が福島県境へと続いている。県下一温暖な地域。

行政区画——この地方は古代陸奥の国から石城国に分割され、中世は亶理氏の支配、近世は伊達氏の支配下となる。亶理に伊達の分城が置かれ、荒浜はその亶理伊達氏の知行地であった。

明治22年に、北隣の高須加部落とともに荒浜村となり、昭和18年に荒浜町となる。昭和30年に荒浜町(人口5454人)、亶理町(人口2014人)、逢隈村(人口5143人)吉田村(人口4014人)とが合併して、亶理町となる。

戸数・人口——昭和54年9月1日で、戸数6262戸、人口27864人。年々増加の傾向にある。

主な産業——近世、阿武隈川の河口港として、内陸の福島方面、海を通じて遠国との廻船で栄えた。現在は半漁、半農、南にある潟、鳥ノ海におけるカキ、ノリの養殖がなされている。

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

宮城県の方言は、東北方言の中でも、山形県内陸部や福島県と同じく南奥羽方言に属するとされており、全県下、旧伊達藩

領のため、県内の方言差はあまりないとされている。しかし、県北のアクセントのある方言と、仙台および県南のアクセントのない方言とに大きく分けることができる。さらに、県南でも、福島県境方面には単語などある程度、福島方言が侵入している。収録地方の方言は、その県南方言のうち、県境ほど著しくはないが、若干、福島的な現象もある。しかし、大きくは県南の代表的な方言であり、仙台方言などと似た性格を持っている。

②音韻上の特色

- ① 「イ」と「エ」を区別せず、「息」と「馱」、「鯉」と「声」を同じに発音する。実現される音声は、東京語の「イ」と「エ」の中間的なものより、やや「エ」に近い[e][é]であるが、これはこの方言のエ段音一般と同じであるので、この方言は「イ」を欠くことになる。
- ② 子音と結びついたイ段音とエ段音とは各行にわたって区別があるものの、イ段音は中古の[i]、エ段音は上述のようにせまい[e][é]で音声的には近い。
- ③ 「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」の区別をせず、「梨」と「茄子」、「知事」と「地図」、「乳」と「土」などを同じに発音する。実現される音声は、東京の「シ」と「ス」の間より「ス」に近い中古母音を持つ[sü][dzü][tsü]などである。これらは、体系上「ス」「ズ」「ツ」ということになる。
- ④ 上記以外の行のイ段音とウ段音はそれぞれ中古の[i]、中古の[ü]で音声的にはかなり近いが、一応区別はされている。
- ⑤ 「シュ」「ジュ」「チュ」にあたるものが長音、短音とも、ほとんど「ス」「ズ」「ツ」に発音される。「手術」[sü~dzüdzü]など。
- ⑥ ア段音に母音単独音節のエが連なる連母音「アエ」（東京語の「アイ」「アエ」にあたる）は規則的に広い「エー」[e:]になっており、本来の「エー」[e:]と区別される。たとえば、蠅[he:]（塀[he:]と区別される）。これは各行にわたって見られる。この方言には[a, i, u, e, o]のほかにもこのような[e]もあるので、6

個の母音を持つことになる。

- (7) 「ユ」の音が摩擦で発音され[ɸ]となる。たとえば、「言う」[ɸü:], 「お湯」[oɸü]。この音は、「囀」など本来の「ズ」の音[dzü]と区別される。「ヨ」「エ」についても、まれに、あるいはかすかにこの摩擦の聞かされることがある。
- (8) 語頭以外のカ行音・タ行音は、原則として、有声化し、「竹」は[taɸe], 「的」は[mado]となる。これは若い世代でも盛んである。ただし、無声母音に接する場合、促音、撥音の直後では有声化しないのが普通である。
- (9) 語頭以外のガ行音は鼻音である。したがって、上記のカ行の有声化音とは区別される。
- (10) 語頭以外のダ行音・ザ行音・バ行音は、直前に軽い鼻音を伴って、たとえば、「窓」[ma~do], 「ひざ」[çi~dza], 「壁」[ka~be]のようになることがしばしばある。これによって、ダ行音は上記(8)のタ行音の有声化したものと区別される。ただし、この軽い鼻音を伴う現象は老人のみ、しかもまったく規則的というわけではなく、この録音においても時々しか現われていない。
- (11) 逆に、語によっては「あずける」を「アツケル」, 「首」を「クツピタ」というように鼻音プラス無声音となる傾向へもある。
- (12) 「セ」「ゼ」は口蓋化して[ɸe][ɸe], [dɸe]と発音される。
- (13) 「キ」「ギ」は口蓋化して「チ」「ジ」に近い[ci][cçi], [ɸi]のように発音されるが、本来の「チ」は「ツ」, 「ジ」は「ズ」と発音されるので、混乱は生じない。
- (14) 「シ」にラ行音を接する場合、促音的に[ɸɸ]が現われる。たとえば「白い」[ɸɸoe], 「知らない」[ɸɸame]など。
- (15) アクセント
「箸」と「橋」などを区別することのない、無アクセント方言である。その時の感情や言いまわしで、語にその場かぎりの高低のつく場合もあるが、一般には平らかやや尻上がりのイントネーションである。

③ 文法上の特色

- (1) 動詞の活用に関係するものとして、ラ行五段や一段動詞に「カラ」「ケンドモ」「ベー」「トキ」などが接続すると、「降ッカラ」「降ッケンドモ」「降ッペ」「隣ットキ」のように促音便となる。ほか個別的には「歩く」が「歩ッタ」,「行く」が「エンカラ」などとなる。
- (2) 推量,意志ともに「ベー」を使う。「ベー」が音便で「ペ」となる場合は前述の通りである。
- (3) 過去,完了だけでなく,現在の強調,存在の確認などに「タ」を使う。たとえば「居タカ」(居ますか)。
- (4) 過去の回想,大過去に「タッタ」を用いる。
- (5) 目的格を示す格助詞「を」にあたるものは使わず無助詞である。この位置に「本バ読む」のような「バ」が現われることもあるが,これは格助詞というより,むしろ強調の係助詞と思われる。
- (6) 主格を示す場合も比較的無助詞が多い。内省による文法調査では「か」「ワ」「ア」などが得られるが,録音を勸察すると,主格の無助詞傾向も大変強いことに気づかれる。
- (7) 方向を示す助詞に「サ」があり,共通語の「へ」のほか「に」の一部(「東京に」など帰着点,「机の上に」など存在場所,「遊びに」など目的)に使われている。
- (8) 敬語はあまり発達していず,特に文中の主語になっている第三者への尊敬表現はほとんど使われていない。
- (9) 命令や勧誘をていねいに表現する「読マイン」「読マッセ」は比較的多く使われる。ただし,後者は福島方面からの影響か。
- (10) ていねい表現は「行ギス」「読ミス」のように連用形プラス「ス」が用いられている。
- (11) 間投助詞には「ナ」「ナレ」「サ」「シャ」「ネレ」などがあって,この順にていねいの度合いが強くなって行くようである。「シャ」の発音は「シャ」と「ヒャ」の中間音[ɕa]である。

- (12) 終助詞のうち「ッチャ」が目立つ。これは「よ」「のはずだ」「じゃないか」などのニュアンスを持つ。これに推量・当然の「ベー」のついた「ベッチャ」も使われている。

4 地点選定の理由

- ① 仙台市は都会で方言の残存度が少ないので、その郊外の当地を選んだ。仙台の北はアクセント、イントネーションが仙台と異なるので、南側の郊外を選んだ。
- ② この町は、担当者が昔居住し、また非常勤として高校に勤務したこともあり、仙台市以外では最も土地の様子を知っていた。
- ③ 50年、51年に仙台市の西側で加藤が収録した会話は、録音・話題ともよいものではなかったもので、のち、ここに変更した。ここは、熱心で綿密な現地の世話係（教育委員会の木村氏）が得られて成功した。

5 作業分担

ここに収録したものは、協力者佐藤和之が録音作業を行い、文字化・注は担当者の加藤正信が行った。なお、文字化したものの原稿を、後日、加藤が録音を再生しながら全部話者に点検、確認を乞い修正した。また、佐藤も録音と文字化原稿を照合し意見を述べた。

B 表記について

音韻記号としてではなく、発音式のカタカナを用いている。特殊なものについては、次に箇条書きで示す。()内は、A3②「音韻上の特色」にしるした事象の項目である。

- ① 「イ」と「エ」、「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」などの音声は中間的であるが、一応、「エ」「ス」「ズ」「ツ」などに統一した。ただし、特にはっきりした、きれいな「イ」「シ」「ジ」「チ」が聞かれる場合はそのまま表記した。(1)(3)
- ② 広い[ɛ:]は「ヶァー」「テァー」とし、「ヶー」「テー」などと区別して

示した。(6)

- ③ 「ユ」などの摩擦の強いものは「ズ」と表記した。そして「注」でその旨音声記号などで示した場合もあるが、多くは下の共通語記の単語との対比で見当をつけることになる。(7)
- ④ 語頭以外の無声子音の有声化は、録音で聞きとれればカナに濁点を施したが、程度の判定に問題も残る。中ば有声化した程度のものは原則として濁点をつけていず、また、特別な記 も用いていない。(8)
- ⑤ ガ行の鼻音は「カ」「キ」「ク」のように表記した。
- ⑥ 本来の濁音の直前に現われる軽い鼻音は「ヒンザ」のように「ン」を小書きにして示した。ただし、判定に迷う軽微なものが多く、また頻度も少ない。(10)(11)
- ⑦ 「セ」「ゼ」の口蓋化音は「シェ」「ジェ」と表記した。ただし、特に、「ヒェ」のように聞こえた場合のみそのように表記した。(12)
- ⑧ 「キ」「ギ」の口蓋化は多少目立っても「キ」「ギ」で表記した。ただし、特に「チ」「ジ」に大変近い場合のみ、そのように表記した。(13)
- ⑨ 語頭の〔SS〕は「ツシ」と表記した。(14)
- ⑩ 母音の無声化はときどき聞かれるが、特に印をつけていない。
- ⑪ アクセント、イントネーションの記号はつけていない。(15)

C 収録内容の概説

- 1 タイトル 1.「電話交換嬢とのデート」～ 8.「アイスクンデーとお婆さん」
- 2 録音年月日 昭和54年12月20日
- 3 録音場所 宮城県亶理郡亶理町亶理 中央公民館
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・居住歴・言語的特徴など
内海春吉(男)大正8年3月28日生まれ

荒汝生まれ、荒汝育ち。荒汝尋常高等小学校卒業後、半漁・半農のかたわら農協その他にも勤務していたこともあった。戦時中2年ほど関東方面へ徴用に行っていた

ほかは荒汝だけに居住。方言を多く保有し，しかも話がはっきりしており，話題も面白い。

本郷しげ（女）大正7年9月20日生まれ

荒汝生まれ，荒汝育ち。荒汝尋常高等小学校卒業後，電話交換手をつとめ，荒汝町間に嫁す。他に居住したことはない。夫は郵便局勤務。声に張りがあり話し方が生き生きしている。方言は普通程度持っている。

木村精一（男）大正7年10月6日生まれ

荒汝生まれ。荒汝尋常高等小学校を卒業後，宮城師範（仙台）を経，主として亶理郡内の小学校に教員として勤務。仙台圏に数年勤務していたときを含めて大部分荒汝の自宅から通勤。現在教育委員会に勤務。方言保存は，他の2人よりやや少ないし，話しぶりはやや沈んだ調子。話し手としてより，むしろ紹介者，世話役として協力してもらった。

5 録音環境

① 同席者

各話題とも，常時上記3名の話者と，収録者佐藤和之。話者のうち木村氏は最後の2つの話題以外は録音中ほとんど発言せずと同席。

② 話者3名は小学校時代の同級生で，気のおけない同士なので，大変スムーズに自然に話かはずんだ。特別な話題や話の流れを決めず，ある程度自然に話せた。同級生が寄り集まったせいかな，話題は昔の思い出話が多くなった。

③ 外部とへだてられた新築の公民館の和室で録音し，各自マイクを使用したステレオ録音。録音状況は良好。

④ 録音時間は連続1時間。

1 電話交換嬢とのデート

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |

A アー オラー エロケ デガゲダ コロダオンナー
おれが 色気 出かかった頃のことだよな。

B アエズ ハズガズガラ ハズマッタ⁽¹⁾ンダオンナ (A ソー) オラ
あれは 八月から 始まったもんだもんな。 わたしは

(A ン) スズガズニ コーシュージョサ ヤラッテサ (A ソー)
七月に 講習所へ やられてさ。

エッカゲズガンツノー コーシュエ ヤラシェラッテ (A ソーソ)
一か月間というもの 講習を (受け)させられて

ソーシテ ホンニ スポラッタモンダッタ エッカゲズガンツノ
そして ほんとに しぼられたもんだった 一か月間というもの。

A ンダゲットモ スポラッタカモ スンネァゲットモヤー アラマサ⁽²⁾
だけど しぼられたかも 知らないけれどもね 荒涼に

デンワ ハズメデナンダオン (B ソン) ホンドギ アノー
電話 初めてなんだもの。 その時

オメァーラ アレー ハガマ ハエデ アルグドギ オラ ホンニ
お前たち(が) 袴(を) はいて 歩く時 おれは ほんとに

ウッショガラ ミデ ホンニ ホレタ モンダッタナー
後から 見て ほんとに 惚れた ものだったな。

B (笑) マダ コレー ホンニ
また これ ほんとに。

A ホステ マダ ホンニ デンワ カゲツツード ホンニ アノ
そして また 電話 かけるというは ほんとに
コエ ナンツーガ ワヒェランニエ⁽³⁾ガッタ モンダドヤ ソニ
声(が) 何というか 忘れられなかった ものだったよ。

B エマ スワクチャババニ ナッテ ワカンネァ ワナ
今 しわくちゃ 婆に なって だめだね。

A オダゲァニ コレナ (B ソー) ホンデモ
お互いに これね それでも。

B デモ ハルサン⁽⁴⁾ カワンネァ ノー
でも 春さん 変わらないね。

A オメァラ ホンデモー ナンダ (B ス) コエ エーガラ ハリ
お前たち それでも なんだ 声(が) いいから (声に)張り(が)

アッカラ エーケンドモヤ (B ソー) アノー トース マダ
あるから いいけれどもね。 当時 まだ

デンワバンゴー ナー アノー オラ ソー セリバ
電話番号(についてはね) おれは 魚市場に

エタンダエットモ⁽⁵⁾ ヨンバンダナンテ アンツケラッテナー
いたんだけれども 四番だなんて(縁起の悪い番号を) あずけられてね。

(B ソー) ステ アドー アレー ヨンズークバンツノ アノ クス
そして 四十九番というの 薬

リヤデ トッタンダエナ デンワバンゴーネ (B ソー) ソエズ
屋で 取ったんだよな 電話番号 それ

ホガデ ヨン_{xxxxx} ヨンズークバンツノ スンジュー クロー スル
ほかで 四十九番というの 始終 苦勞 する

スンジュー クロー スルッテ ダレモ トンネェガッタ モン
始終 苦労 するといつて 誰も 取らなかつた もん

ダエ (B ソー) ホースタツケ アレ クスリヤノ オヤンズ
だよ。 そうしたら 薬屋の 親父が

オレ トルッツテ ナンダツツッタランバ⁽⁶⁾ ヨク ナオルッテ
おれが 取るといつて(いた)。 どうしてだと質問したら よく 治るって

エツバン エーンドガガラツッテ (B 笑) アノ ホノ バンゴー トッ
一番 いいんだからって その 番号を取っ

タモンダッタドヤ (B ソー) オラ アエズー キーデデ⁷ ナルホ⁸ドト
たもんだったよ おれ それを 聞いていて なるほどと

(笑)オモッタッタ⁽⁷⁾ ゴド アッタッタナー (B ソー) ソー
思った こゝろ あったっけな。

B ヨーグ コノ ハルサンモ⁽⁸⁾ ヨ^{xxx} ヨルサエ ナツツート デンワ
よく 春さんも 夜に なるという 電話を

カゲデ ヨゴスタモンダッタ トマリデナー
かけて よこしたものだ 泊りでね。

A ンダー オラ マエニズ トマッテダガラ (B ホソニ) ソー
そうだ おれは 毎日 泊まってたから

マエバン トマッテダガラ (B アー) ホエデモ デンワ
毎晩 泊まってたから それも 電話を

カゲデアクテ トマッテタンダモン
かけたくて 泊まっていたためのもの。

B アー ンダノ (A ソー) ダレノガノ タカハス) コエ
ああ そうなの。 誰の(声)…。 高橋の 声(を)

キグデアグデダツチャ (A ソー) ミヨコ)
聞きたくてだよ。 みよ子の。

A アー ホンダ¹ ミヨちゃんラモ エダ²ンダ³ナ オンナ
ああ そうだ みよちゃんたちも いたんだな。

B ミヨコちゃんノ コエ キクテ⁴クテ カケテ ヨコスンダ⁵ベツチャー
みよ子ちゃんの 声(が) 聞きたくて かけア よこしたんでしょよ。

A アンドギー ホデ⁶ネァンダ⁷ アノ アレ⁽⁹⁾ ワダリ⁽¹⁰⁾ガラモ キッタン
あの時 そうでないんだ あれ? 亘理⁽¹¹⁾からも(交換手が)来ていた
ダッタナー ワダリガラ (B アー ウン) ンー (B ウン)
んだったな 亘理から
ワダリガラモ キテ⁽¹¹⁾デ^{~~~~~}
亘理からも 来ていて-----。

B ミサちゃん
みさちゃんですよ。

A オラー ナメァーモ ツシャ⁽¹²⁾ネァ カオモ シャ⁽¹³⁾ネァンダ マズ
おれは 名前も 知らない 顔も 知らないのだ。 だい
モッテ
いち。

B ン ミサちゃん
そう みさちゃんだ。

A ネレ ホシテ⁽¹³⁾ アー フタンデ⁽¹⁴⁾ デートスル ヤクソグステ (B 笑)
ね そして 二人で デートする 約束をして
ホシテ アラヤガラ⁽¹³⁾ダナー ハラコメ⁽¹⁴⁾ス フタツツ コシエ⁽¹⁵⁾アテ
そして 荒屋からだね はらこ飯を 二人分 作って
(B ン-) ステ デンワ⁽¹⁶⁾デ ホノ ショーコーカイ⁽¹⁷⁾ノネー アー ポスト⁽¹⁸⁾ン
それから 電話で 「商工会の あの ポストの
ドゴ⁽¹⁹⁾デ タツテ マッテ⁽²⁰⁾ッカラ ツー ハナス アッタ モンダ⁽²¹⁾ガラ
所で 立って 待っているから」という 話が あった もんだから

(B ン-) オレ ズーズコロ ハラコメス モッテ エッタオンナー
あれは 十時頃 はらこ飯を持って 行ったんだよ。

(B ン-) ズデンシャデ⁽¹⁵⁾ ホゴー トーッテ アルツタゲントモ
自転車で そこを 通って 行ったけれども

ン- カノジョノ ヨーナモン タッテネアド オモッテ エッショ
彼女の ような者は 立っていないと 思って 一生

ケンメー アルツタツケ ナンダベー ハルサーンテ コエ カゲ
懸命に 自転車を動かしていたら 「なんだ 春さん」って 声を かけ
ラッテ ミタラバ オラヨリ トス トッテ エタンダッタオンナー
られて、 見たら あれより 年を 取って いた(女)だったもんな。

ソノ トーズナー ンダガラ (B ン) バンサンニ ミエダオンナー
その 当時はね、 だから 婆さんに 見えたもんな。

(B ン-) オラ アノ アダリ ズーク グレァ ダガラ ンダ
あれは あの 頃 十九歳 ぐらい だったから。 そうだ。

マダ⁽¹⁶⁾ ワゲァモンダド アノ ワゲァー スカダ スツタド
xxxxxxxxxxxxxxxxx 若い 姿を している
(相手も)まだ

オモッテダラ^{~~~~~} ホデネァガッタモンダナー (B ン-) オレー アラハマ
思っていたら そうでなかったものだ。 あれは 荒汝

サ キツタトキ カオモ コエワ キーダゴド^{xxxxx} アッケントモ カオ
に 来た時 (彼女の)声は 聞いたことがあるけれども 顔

ダゲ ジェンジェン ワガンネァガッタガラ マズガッテ エッタッタ
だけは 全然 分からなかったから まちがって 行った

モンナヤー (B ン-) ンナヨーナ コトマデ デンワーニ ツエデワ
ものだよ。 そのような ことまで 電話に ついては

ホントニ セースンツーマノー オー タノスグ ホンニ
本当に 青春というものを 楽しく 本当に

オモシエグ スゴサシエデ モラッタナー アノ アダリ カンゲァーテ
面白く 過ごさせて もらったな あの 頃を 考えて

ミットナヤー
見るとなあ。

B ステ ホノ ハラコメス ナジョー ナッタノワ ホラ
そして その はらこ飯は どう なったの？

A ホステ オエテ キタベツチャワ タダ⁽¹⁷⁾
そして 置いて きたよ、 ただ。

B シタツケ (A ンー) ホノ
そうしたら？

A ンー アノ (B アノ) カノジョワ ホレ ウゲトツタダケデ
うん。 彼女は 受けとっただけで

(B ンー) アド
あとは(べつに何も)。

B カオ ミネァデ キタノワ
顔も(ろくに)見ないで(帰って)来たの？

A ンー
うん。

B アノ ミサチャン ヒト ミサチャン ツー ヒト ネレ (A ン)⁽¹⁸⁾
あの xxxxxxxxxxxx xxxxxx みさちゃんという人 ね

アンドキ ニジューサンダツタガ スタラ
あの時 二十三 だったか そうすると。

A ニズーサン ケァー
二十三 かい。

B ンー
うん。

A ホスット オラヨリー
そうすると あれより。

B ⁽¹⁹⁾ ヨッツモ ヨゲーナンダエツチャ ⁽²⁰⁾
四つも 余計なんだったじゃないの。

A ヨッツガ エズズ ヨゲーダツタンダ オンナー (B ンー) ンー (B ンー)
四つか 五つ 余計だったものな。

オラ マタ

あれはまた(もっと若いと思っていたが)。

B ホイズ コエバリ キーデ
それを 声ばかり 聞いて。

A ホンダ ホンダ ホーндаツチャ ウンブダガラ ホレ
そうだ、そうだ、 そうだよ。(自分は)「うぶ」だったから。

B ドゴニ ハラコメス フタツツ モッテ ホステ モーション
はらこ飯 ニつ 持って そして モーションを
カゲル キニ ナッタッタッテ ワガンメツチャ コノ ハルサンモ
かける 気になっても だめでしょう。 春さんも。

A ホイズー アツツア ウエダオンナ (B ンー) オラミデァ アンニ
それ、 あっちは 年上なものな。 おれみたいな 若造に

オメァ ⁽²¹⁾ チョコ チョコ サシエデ オガンネァサ ンダゲットモ
チョコ チョコ させて あかれないよね。 だけど

オメァ エロケノー デハズメツノ (B 笑) ホンニ (B 笑)
色気の 出始めというのは 本当に

ナニ スッカ ワゲ ワガンネァガンナ (B 笑) (A 笑)
何を するか わけが 分からないからね。

注記

- (1) [う]。「もの」にあたる。「モン」のようにも聞こえる。
- (2) 「アラハマ」(荒浜)の「ハ」の子音が聞きとれない。[h]か。
- (3) [wapeɾanɲɛ]。
- (4) 話者A,「春吉」の略称, 愛称。
- (5) 「セリバ」は魚のせりをする所, 河岸(かし), 魚市場。自分はその魚市場に勤めていたんだが, その魚市場の電話番号が-----。
- (6) 「ナンダツツタランバ」の部分は菓屋の親父ではない他の人が主語。
- (7) 「タッタ」は過去の継続, 完了, 確認, 回想などに用いる。
- (8) 「ヨル」の頭音は摩擦の[ɹ]。
- (9) 昔のことを思い出そうとしている口調。
- (10) 現, 亶理町の中心地, 収録地荒浜の西約4キロ。当時, 荒浜町と亶理町は合併前で別の町であった。
- (11) 大変目立つ尻上りイントネーション。このあとが聞きとれない。
- (12) [ɸɸaɾɛ]。
- (13) 料理屋の屋号。
- (14) 鮭の卵をまぶした弁当。
- (15) 乗り物などで, 出かけたり, あちこち行くこと。共通語の「走る」「走りまわる」にあたる。
- (16) 「スッタ」は「していた」の縮約形。2行下の「キッタ」も「来ていた」の縮約形。ともに, 過去の継続, 確認の意。
- (17) 「べー」(推量)と「チャ」(強意の終助詞)の複合したもので, 「当然のことながら～だよ」のニュアンスの強意の終助詞。
- (18) 「ネレ」は「ナ」よりややていねいな間投助詞。「ね」「ですね」にあたる。
- (19) 頭音は摩擦音の[ɹ]。
- (20) 「～エッチャ」は, 「～ッチャ」(強意)よりやや柔かい終助詞。女性などが多く使う。
- (21) 対称代名詞「あまえ」に由来する間投詞。

2 自転車で土手から落ちたこと

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |

A アド アズクラ⁽¹⁾ ホラ アノー フーリン⁽²⁾ ナンカ ナラシエ⁽³⁾
そして あせこら辺を ほら 鐘 なんか 鳴らして
アルグ ドギ ドテコ アルツタモンダヤ アノ ハルサーンツテ
(自転車)行く時は 土手を 行ったものだったよ。 (そうすると)「春さん」って
アズクガラ オメアラ~~~~ バガニ スナガラ ハンカズ フツタンダ
あそこから お前たろが (おれを) からかいながら ハンカチを 振った
ベケンド (B 笑) ハンカズ フラレツツート アダマサ
ようだったけど (若い女性に) ハンカチを 振られるというと 頭が
キタモンダオンナー クルクル (B 笑) メサギ マックラニ
カーッと なって (目が)くるくるとして 目の前が まっ暗に
ナルモンダオン ホレ ホーストゥー ズデンシャデ⁴ フーリン ナラステ
なるものな。 そうすると 自転車で 鐘を 鳴らして
アルグツード オラ カラダ チツェアエ ホーダガラ アス
走っていくと おれは 体が 小さい 方だから 足が
トドガネツガラ ホノ コス ヒンマゲデ⁵ スツテ アルグズド
とどかないから 腰を ひん曲げて 乗って 行くと
(B フン) カノジョニ ナンダヤ ハルサン コス マゲデ
彼女に 「何だよ 春さん 腰を 曲げて

ヌッテ アルグガラ ⁽⁴⁾ズワッタンデ エメーズ ダウンダモン
乗って 走るのね」と 言われたんで イメージ ダウンだもん。

ンダガラ コッツノ ホーガラ アノー バリギ カゲデ
だから こっちの 方から 馬力を つけて

ダリョグオ ツゲデ ソゴノ メァーダゲ サート スセーオ
情力を つけて その 前だけ さーっと 姿勢を

トドノエデ ホノ(B笑) ヌッテアルツ タモンダゲツトモ メァーニ
整えて 乗って行ったもんだったけど 前に

ショーガエブズ エダノ ホデナスデ ⁽⁵⁾ウッチャ (笑) ブツゲデ
障害物が あったのを 気がつかないで それに ぶつけて

ドデガラ タダギオッタゴド アッタッタガラヤ
土手から たたき落ちたこと あったからな。

B アー (A ンー) ホイナ コドモ アッタ~~ン~~ズー
そんな ことも あったのね?

A アッタタネー (B ンー) モド アレー ドデサ エロンナ
あったもんだね。 昔は 土手に いろいろな

モノ アゲツタモンダエッチャ
ものが 上げてあったもんだよね。

B ンーダネー (A ンー) エロエロネー
そうだね いろいろ(なものが)ね。

A ホイツァ オメァー メァーノ ホー ミネァーデ コッツノ ホーバガリ
それを 前の 方を見ないで こっちの 方ばかり

キー ツゲテンダモン ハールサン ナンテ ハンカズ フラレン
気をつけてるんだもの 「春さん」などといって ハンカチを 振られ

ノデ (B 笑) アダマ コッツノ ホーサ キテンノ メーノ ^ク
て 頭が こっちの 方に 来ているの 目の(前が)

マ マックラニナンダガラ ホーテ アー ホエッ⁽⁶⁾チャ⁽⁷⁾ ノリアゲデナ
xxx まっ暗になるんだから そうして それに 乗り上げてな

ホーテ タダギオッタゴド アッタッタガラヤー (B ン-) ホシテ
そうして たたき落ちたことが あったよな。 そして

ズデンシャノ リーム ヒンマガッタノ ズリヅリ⁽⁸⁾ ヒッパッテ
自転車の リームが ひん曲がったのを 無理に ひっはって

(B笑) ホエオ ハヤグ リコントコロ シカエガラ トーザカン
それを 早く その所を 視界から 遠ざから

ネァケア ナンネンダオン カノジョノ シカエガラ ン-
なければ ならないのだもの。 彼女の 視界から。

ヒドエモンダッタ アン^{xxxxxx} (笑) (B ン-) アエー ズダエモ
ひどいもんだった。 ああいう 時代も

アッタндаオンナー
あったんだもんなあ。

注記

- (1) 「アズク」は「あそこ」の意。
- (2) 「フーリン」は風鈴状の鐘。魚市場の開始を告げるもので、話者Aは魚市場に勤めていて、それを鳴らして町中に触れ回る役などもしていた。
- (3) 「ナラシテ」の「テ」の子音が弱くほとんど聞き取れない。
- (4) 「と言う」は[tsü:]、「言う」は[ɸü:]のはずであるが、これがいっしょになって[dzü]となったか。
- (5) 「ホデナス」は「放題なし」からきたもの。「思慮分別がなく」「無中で」「おかまいなしに」「気がつかず」などの意。
- (6) 「ソイツサ」(そいつに)の縮約形。
- (7) 土手の上に置いてあった障害物に自転車を乗り上げて。
- (8) 方言の語形としては「ギリギリ」であるが、この地点の音声では[jiɾijiri]と聞こえる。「無理矢理に」「力づくで」の意。

3 若夫婦の御年始

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |

- B ワカエドギナー アノ ケッコン スタ トーンジサ ウズノ ズッ
 若い時はな、 結婚した 当時にね うちの 実
 カサ オフグロノ ズッカサ (Aン) アノ ゴネンスニ エッタ
 家へ 母親の 実家へ 御年始に 行った
 ノサ (Aン) ムガスノ ゴドダガラサ (Aン) アノ フタンデ
 のさ。 昔の ことだからさ、 二人で
 ソロツテ アルグツツゴド アノー エマノ ヒトダラゴッタラ⁽¹⁾
 そろって 歩くということは 今の 人たちだったら
 フタンデ テー クンデネ (Aン) アルグノー (A ナントモ
 二人で 手を 組んでね 歩くの
シネケンドモナ)⁽²⁾ ヘー ナントモ スネデ ヘーキナモンダゲッ
 何とも (気に)しなくて 平気なもんだけど
 トモ ムカシ ソロツテ アルクツツノー (Aン) ハズガス
 昔は そろって 歩くというのは 耳かずかし
 エモンダッタモンネー
 いものだったよね。
- A ケツツァ クツツエテ アルガッタモンダナ⁽³⁾
 (昔は)後ろに ついて 歩いたもんだったな。

B ホステ エワヌマエキデ オリデサ ミナミハシエダ⁽⁴⁾ガラ (A ンー)
そして 岩沼駅で 降りてさ (実家が) 南長谷 だったから

ホッカラ ホノ アルグンダオンネ (A ン) ズーット マズ
そこから 歩くんだものね。 ずっと まあ

エズリ ツカゲモ アルグンダオンネ (A ン) エワノ⁽⁵⁾ センガン
一里 近くも 歩くんだもんね。 千貫

ムラダカラ⁽⁶⁾ ホレ センガンノ ミナミハシエダガラ (A ンー)
村だから ほら 千貫村の 南長谷 だから

ホースト アノ ドーロコーズ ヤッテル オトコヒトラ ホノー
そうすると 道路工事を やっている 男の人達が

ンー リョーガワニ エデ アノ ドーロ コシエデルワケサ
両側に いて 道路を こしらえているわけさ、

(A ンー) ソースット アーエヤ アノー スンコンサン キタ
そうすると(彼等が) あれよ、 新婚さんが 来た、

スンコン ツーノカエ アエツラ ナンテ (A ヒヤガスガ^{~~~~})
新婚 というのかい あいつらなんて (冷やかしか?)

ツヒヤガスア⁽⁷⁾ッテサ (A ン) ハズガスグ ナッテワ コンド
冷やか して さ、 (私達は) 恥ずかしく なってね、 こんど

リョーホーサ ミギド ヒタリサド ワガレデ ソステ (笑)
(夫婦は) 両方へ 右と 左とに 別れて そして

アルッテ ソステ アノー ゴネンスマワリ スタモンダッタ
歩いて そして 御年始まわりを したもんだった、

ホントニ ネー
ほんとに ね。

A ホントニ エッショニ アルガネァ ガッタモンダナー
ほんとに (夫婦は) いっしょに 歩かなかったもんだな。

B エッショニ アルグズード (A ン) ホンニ
いっしょに 歩くというと。 ほんとに。

A ハナレデナ (B ハナレデ) アルツタモン
離れてな (離れて) 歩いたもんだ。

B ハルサンラ ナジョスタモンデガスタ⁽⁸⁾
春(吉)さんたちは どうしたもんでした？

A オラー ハナレル ケューヨリ オラー アノー リヤカーダツタワ
おれは 離れる というより リヤカーだったよ。
ノンデ アルツテワ
(酒を)飲んで 歩いてね。

B リヤ (笑) リヤカーサ ノヒェラツテ
xxxxxx リヤカーに 乗せられて。

A リヤカーデ ムゲァニ キタツテワ (B ン ア) コンニズワー
リヤカーで 迎えに 来たよ。 今日

ナツテ アノ エグズドー ホツツ オンツァン エタオン
なんア 行くというと そっちに おじさんが いたもん

ネ オラエノ ガガノ⁽⁹⁾ オンツァン ダガラ オレモ オンツァント
ね。 うちの 女房の おじさん だから おれにとっても おじさんと

オナズダベ コンド オズ オエダガラ ドオエ^{~~~~~} ゴネンスニ
同じだろう。 こんどは おじ あいだから、 御年始に

キスタド⁽¹⁰⁾ ナンテ アガツテナ ゲダ ヌゲネ^{~~~~~}ゲクテ コンド ツカラ
来ましたよというて 上がってね 下駄が 脱げなくて、 こんど 力を

エレット ボンテ エンナガサ ゲダ フットンデ イ (B 笑)
入れると ポンと 家の中に 下駄が すっこんで(行く)

トンデモネァ ムゴ キタモンダ ナンテ ホステ (笑) (B ン)
とんでもない 婿が 来たもんだ なんて せして

ゴシャガッタ⁽¹¹⁾ モンダッタナ (B ン) ホーシテ ホゴテ¹¹ コンド
叱られた ものだったな。 そして こんど

オメァー モデル モノヤ (B ン) アー オメァー
ね, (おれは, 親戚に)もてるものね。

B ノマセラッテ ヒッ
(酒を)飲ませられて

A ヨメゴノ オメァー モゴダ モン モデルン ホレ アー オメァー
嫁御の ね, 婿だもの もてるんだ。

ツビツビ (B ン) サー メンドーダガラ オッケァナサ ケセァ⁽¹²⁾
(酒を)ちびちび やってさ, 面倒だから 大きなのに 下さい

ナンテ ホステ ホンド ゴーダラ⁽¹³⁾ ヒットラッテ (B ン) ホンド
なんていって そして こんど ひっそらえて こんどは

ヨメゴ オメァ リ (笑) リヤカーデ ヒッパッテ アルグ
嫁御 ね, ^{xxx} リヤカーで 引っ張って 歩く,

アルエデダッタナ (B ン) ダガラ ホンニ オラ ミデァーナノ
歩いたっけな。 だから ほんとに おれ みたいなものは……。

B ヨメゴ ヨメゴサンガ リヤカー ヒッパンノ
^{xxxxxxx} 嫁御さんが リヤカーを 引っ張るの?

A ンー ヒッパッテ エゲサー
うん 引っ張って 行けよー」といって。

B サー ヨー ヨー (A 笑) (笑)
それは まあ まあ。

A ソーユーコト スツタンダ ンー (B ン) トナル トンデモネァ
そういうことを していたんだ とんでもない

モゴサ (B ン) ンー
婿さ。

注記

- (1) 「ダラ」は「なら」, 「ゴッタラ」は「ことだったら」「のだったら」。
- (2) よく聞きとれないが, 「何とも気にしないけれども」の意らしい。
- (3) 「尻にくっついて」と表現しているが, 「二人で並んで歩かず, 妻が夫の後をある程度間隔をおいて歩いた」の意味。「アルガッタ」は「歩く」の自然・自発形, 過去。
- (4) 地名。南長谷部落。収録地点の亘理町と阿武隈川をへだてた北隣の岩沼市にある。東北本線岩沼駅の西南約四キロメートル。
- (5) 「岩沼」と言いかけて止めたものらしい。
- (6) 現岩沼市の西南部。明治22年に千貫村は岩沼町に合併した。
- (7) [ɕɕagasa:ute]. 「冷やかし合う」「あちらこちらから冷やかす」。
- (8) 「デガス」は「です」にあたるていねい語。「デガスタ」はその過去。
- (9) 「ガガ」は「鼻」にあたることば。「母」「妻」の意。また, 面と向かって呼びかける場合にも用いる。他人の母親や妻についても使う。
- (10) 「動詞の連用形+ス」はていねい表現。ここはその過去。
- (11) 「ゴシャグ」は「叱る」の意。「後世を焼く」あるいは「業を焼く」(「業が煮える」の意)に由来するか。ここはその受身・過去。
- (12) 小さい盃でちびちび飲んでいるのは面倒だから, 大きなもの(茶碗かなにか)でお酒を下さい。
- (13) 意味不詳。

4 ねずみのお汁

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |

B ホラ アノ (A) カンポーシャケキ⁽¹⁾ アノ アラハマサ
 ほら あの 艦砲射撃が 荒汝に

クル^{xxxx} クルナンテ エワッテサ (Aン) ホンドキ⁽¹⁾ ソー ヨナガ
 来るなんて 言われてさ その時 夜中

ツツーゴド アルンダ⁽¹⁾ ムガス リヤカーナンテ ネァーガラサ
 ということもあるんだ 昔は リヤカーなんて なかったからさ、

ニグルマサ アー アノ ニモツ ツンデ⁽²⁾ オ ヒトリムスメバ⁽²⁾
 荷車に 荷物を積んで^{xxx} 一人娘を

オンブッテダオン デンキヤノ ウラニ エダガラ (Aン)
 おぶってたもの 電気屋の 裏に いたから

ハガデンキヤノ ウラニ エダガラ (Aン-ン-) デンキヤデ
 芳賀電気屋の 裏に いたから 電気屋で

コンドモ スュー ニニンダオン (Aアー) ホエッチャ ジューニン
 子供 十二人 だもの それに 十二人

ノ コドモノ アルガンネァノバガリ ニグルマサ ノシェデ
 の 子供の 歩けないのばかり 荷車に 乗せて

アド オブーヤズ オブッテ コンド デンキヤノ アノー
 あと おんぶする子は おぶって コンビ 電気屋の

ハゲアダマ アー ナワデ アノ ニグルマ アノ ヒッパッテ
 禿頭(の親父が) 縄で 荷車を 引っぱって
 (A ンー) アド オラエノ オドーサンワ アノー カンズボー
 そして 私の家の 主人は (車)の梶棒を
 トッテ アドー オナゴヒトラ ウッショー オスガダ ステ
 取って それから 女の人たちは 後ろ 押し方 して
 ニモツ ヤマニ ショグリョーヒンカラ ナニカラ ツケデ アノ
 荷物を 山に 食糧品 から 何から つけて
 ズングーズ⁽³⁾ノ ヤマサ ニゲダデバ (A ンー) ホーステ アノ
 神宮寺の 山へ 逃げたってば。 そうして
 ボークーポー アノ ヤマダガラ リッパニ ホッテデネ (A ンー)
 防空壕を 山だから 立派に 掘ってね
 タダミ シエデデ ソステ (A ンー) ホーステ ホゴノ ヤマサ
 畳を 敷いて そして そうして この 山に
 オラエノ オトクエノ ヤマサ ニゲッセ⁽⁴⁾ ナンテ デンキヤニ
 私の家の お得意さんの家の山に 逃げなさい なんて 電気屋に
 エワッテサ (A ン) ホゴサ ニゲデ (A ン) ホーステ コンド
 言われてさ、 そこへ 逃げて そうして こんど
 アサーン ナッテワサ ニゲテ シタクタッテ エルウズ アサン
 朝に なってさ 逃げていて ずたもんだして いるうち 朝に
 ナッテワ ホーシテ コンドワ アサゴハン ソコデ アンドギ
 なってね。 そうして こんどは 朝御飯を そこで あの時
 アノ カエゴ オエッタダモンナー (A ンー) ホゴノ ウズデ
 蚕を おいて(飼って)いたんだもんな その 家で
 (A ンー) ホステ コンダ アサー ゴハンダッテ ジュージッコロ
 そして こんどは 朝 御飯だって 十時頃

ジュー ジョッコロナンダナ サケ ソコノ オバンチャン エー
 十時 頃 なんだな、 そしたら その おばあちゃんが 良い
 オバンチャンデサ アノー オスル ニデアゲッカラ ナンテ
 おばあちゃんです お汁を 煮てあげるから なん?言っ
 ステ ゴハン ワダシラ アノー ベンドー モッテ キタンデガス
 そして 御飯 自ら 弁当を 持って きたんです
 ナンツ ッタツケ ンデ オスル ^{xxxxx}アノー ニデアゲッカラ ナンツ
 なん?言っただけ、それでは お汁を 煮て あげるから なん?
 ッタツケ アノ ザイゴ アダリデサ コエナ オッキナ オケサ
 言っただけ。 田舎 あたりです、こんなに 大きな 桶に
 モロミ (Aノ) アン ^{xxx}アノ ニデア オグンダオンネ (Aノ) ミツツ
 (醤油)のもろみを 煮て おくんだもんね。 三つ
 グレャ (Aノ) ナラベデ トローット ホエズ ^{xxxxx}フタ ^{xxxxxxxx}トンネ
 ぐらい 並べて、 とろっとしたもの、それを
 フタ アゲデオエデサ ホテ ⁽⁵⁾シェッカク カンマガサナクテ
 蓋を 開けてあいてさ そして しょっちゅう かきまわさなければ
 ナンネンダオンネ (Aノ) ホステ アノー エモダ ^{xxx}ナ ^{xxx}ダエゴンダ
 ならないんだもんね。 そして 芋だ 大根だ
 ナンダ カンダッテ ナスタッテ エレテ オスル ニデアデ ホノ
 何だ かんたって 茄子だって 入れて お汁を 煮ていて その
 モロミ ⁽⁶⁾バ エレデ ゴツツォ スルンダオン (Aノ) ^{~~~~~}ッタツケ
 もろみを 入れて 御馳走 するんだもん。 そうしたら
 ヨメサン ホノ モロミ カキマワスッタツケ オラ コヤッテ
 (その家の)嫁さんが その もろみ かきまわしていたっけ。 私は こうやって
 メズラスエガラ コヤッテ ミッタノサ ホスタツケ モコーツツケ
 珍しいから こうやって 見ていたのさ。 そうしたら むっくりした

ケー ハエタ タワス ミデア ナノ コー デテ キタンダナ
毛の 生えた たわし みたいなものが こう 出て きたんだな。

(A ソー) ナンダガドモツタツケ ネンズミ (A アー オー ソー)
何だヒ 思ったら ねずみ!

ネンズミ モカーツケ オッキナ ネズミ ウルケデワ (A ソー)
ねずみ, ちっくりした 大きな ねずみが水ぶくれになってね

デテ キタノ ホーシテ コンド コイツ コノ ヨメゴサンガ
出て きたの。 せして こんど それを この お嫁さんが
ホテ コノ ミツタガ ナンダガナドモテ 今ラツキ ミツタンダ⁽⁷⁾
見ていたが どうかと 思って ちらちら 見ていたんだ

コエ ミネァフリ ステ ホツチノ ホー ミツタツチャワ (A ソー)
(私は)これを見ないふりして せっちの 方を 見ていたよ。

ツツケ ホイツバ アノ チットリ モツテ キテ エレデ
そうしたら(嫁が)それ(ねずみ)を ちりとりを 持って きて 入れて

ササーット キエデ エツタンダ コンド ホレ カメサ ホノ
ささーっヒ 消えて 行ったんだ。 こんど 瓶に

ドンブロクバ コー エレデ (A ソー) ソステ モツテツタノサ
どぶろくを こう 入れて そうして 持って行ったのさ

(A ソー) ホーステ コンド モツテツテ コンド ホノー ホノー
せして こんど 持って行って こんど その

モロミバ コンド オツユサ エレルンダエツチャ (A ソー) ホーステ
もろみを こんど お汁に 入れるんだよ。 そうして

コンドァ エロエロ ンマソーナンダツケナー ニンズンヤラ
こんど いろいろ うまそうなんだっけなあ 人参やら

アー エモヤラ ササギヤラ ナスヤラ エレデサ (A ソー) ホステ
芋やら ささげやら 茄子やら 入れてさ, せして

オバンちゃん ホエ ツシャネアガラ (Aン) サーサー アラハマノ
 おばあちゃんは それ 知らないから さあさあ 荒 汝の
 オバちゃんダズ オスル (Aン) デダガラ タベサエ⁽⁸⁾ タベサエツテ
 おばちゃんたち お汁が できたから 食べなさい 食べなさいって。
 ナンダ ホノ オスル (Aン) タベランネアランダナー
 なんだ その お汁は 食べられないんだね。

コノー ネズミノ
 ねずみの……

A ンー (笑) ンー ミネアランダラナー エーゲンドナー ンー ンー
 見なかったのならな 良い(のに)な。

B アシ ツショグ ナツテ モヤントナツテ ケー ワートナツテ
 (ねずみの)足が 白く なって もやーっとなって 毛が わーとなって
 エンノー (A ンー ンー) ミデ スマッタガラ (Aン) ホエズ デンキ
 いるのを 見て しまったから。 (ヒコカ)電気
 ヤノ カーちゃん ホエズ ツシャネアノサ (A~~~~) ミネア
 屋の かあちゃんは それを 知らないのさ (ねずみを)見ない
 ガラ (A ンー) ホシタツケア タベサイーン タベサエンテ
 から。 だから 食べなさい 食べなさいって
 ズーノサ (A ンー) ナンボデモ^(私) ハラ ヘッテンノヨ (A ンー)
 言うのさ。 (私は)いくらでも 腹が へっているのよ。
 アー クルマ オス ステテ キテワ (A ンー ンー) ハラ ヘッテス
 車 押しをして 来てね、 腹はへっているし、
 オッパイ ノマレツペス (A ンー ンー ンー) ダガラサ ハラ
 (赤ん坊には)あっぱいを飲まれてしまったようだし だから 腹は
 ヘッテンダゲットモ コノ ネズミ (A ンー) ミダガラワ
 へっているんだけどねも ねずみを 見たから

ナンボ ~~~~~ サ ヘァンネァンダワネ (A ン- ン-) ホ-ステワ
いくら (腹)に入らないんだね。 そうして

コンドウ ナンツッテ- ウソ コエダラ エ-ガナトモッテ コンド
こんどは 何と言って うそを ついたら いいかなと思って、 コンビ

ナンダガ ハラ キリキリッ エテァクテ- アノ ショグ
何だが 腹が きりきりと 痛くて あの 食が

ススマネァンダデバ ナンダガ フズンベナガラ ハラ オガスクテ
進まないんだよ。 何だが 昨夜から 腹が おかしくて

ナンテ エダサワ (A ン) ダッケ アラ ナンダベ コンナニ
なんて 言ったさ そしたら あら なんでしょう こんなに

オイシー~~~~~ダッケ コンナニ オエシエノ タンベネァ ナンテ アノ
おいしい----- こんなに おいしいの 食べない なんて。

タベサエ-ンタベサエ-ン ナッテ ホノ オバンチャン ンメ-ア-ガラ
食べなさい 食べなさい なんて その おばあちゃんは うまいから

タベサエ-ン アノ (A 笑) ハラ (笑) ア- オッパイ
食べなさい 腹(へって) おっぱいも(赤ん坊に)

ノマレッペス アンダ^ダ ホンナニ シテ エンリョステッコダー
飲まれてしまったでしょうし、あなた そんなに して 遠慮 してることは

ネ-ァンダガラ オラエデ ダレモ キ ツカウ ヒト ネ-ァンダガラ
ないんだから、私の家では 誰も 気を使う 人は ないんだがら

タベサイン タベサイン ハラナント エテァノ ~~~~~ナンテ スグニ
食べなさい 食べなさい 腹 なんて 痛いのも なんて すぐに

オオッカラテ (A ン- ン-) ハラ ヘッテ アノ ハラ エテァ
治るからって 腹が へって (かえって)腹の痛い

ドギモ アルガラ タベサインテ ズワレルンダエッチャ (A ン-)
時も あるから 食べなさいって 言われるんだよ。

カーンネァンダ^{オナ} アノ ネズミノ アノ モクット スタノ アノ
(でも私は)食べれないんだもんね。 ねずみの むくむくとしたの

(A ンー) ケノ ナン ダラダラト ナッタツケ アノ (A ンー)
もの だらだらと なっていたっけ。

コー ケー ミタツケワ (A ンー ンー) トートー カネーワ コンド
毛を見たっけね。 とうとう 食べなからたよ。それから

テ コノ ボークーポーサ ハエッテ コンド タダミ スカッテン
防空壕に 入って コンビ 量が 敷かれていたん

ダカラ ボークーポーン (A ンー) ナカデサ シテ コンド
だよ。 防空壕の 中でさ、そして コンビ

ゴドモ ネシエナガラ アノヒトア ナーンシテ アンダ ゴハン
子供を 寝かせながら あの(電気屋のかあちゃん)が どうして あなたは 御飯を

アノ タベネァーノ ツーガラ ズズワ ネレー デンキヤノ
食べないの というから、実は ね、 電気屋の

カーチャンバ カーチャン カーチャン テユーガラ⁽⁹⁾ (A ンー)
かあちゃんを(いつも) かあちゃん かあちゃん と言っていたから、

ハテ アノ カーチャン ネレー アノ ズズワ アノ モロミノ
はて、 かあちゃん よ、 実は あの もろみの

ナガサ コエナ オッキナ ネズミ ヒトツ ヘァッテデ オラ
中に こんな 大きな ねずみが 一つ 入っていて 私は

アエズ ミダツケァ ナンボニモ アノ ハラ ヘッテルンダゲットモ
あれを見たなら、 どんなにでも 腹は へっているんだけど

カンネァ ガッタネー ツタレバ (A ンー) アヤヤ オラ ホエナンダラ
食べれなかったね。 と言ったら (電気屋のかあちゃん)は あれれ! 私 そんなんだったら

カネァ ガッタノ マズ オラー (A 笑) アンダ オシエデ ケレー (笑)
食べなかったの ああ ね、どうしましょう。 あなた 教えて下さいよ

ツーンダッチャ (A ン-) ダッテ オシエルダッテ アンダ アノ
と言うんだよ。 だって 教えるといったって あなた

オバンチャンノ ソバニ ベッタリド クツツガッテ アンダ
おばあちゃんの そばに ぴったりと くっついて あなたは

エロエロナ オハナス ステンノニ アンダ ホエッチャ モロミサ
いろいろな お話を しているのに それを もろみに

ネズミ エタガラ カーチャン タベサンナト オレ エフレッケッ
ねずみが いたから(電気屋の)おあちゃん 食べてはいけませんよと私 言われますから

ツッタノ (A ン-) ホースタッケワ キモツ ワリードッテ
言ったの。 そうしたら 気持が 悪いと言って

オウエーッ^(u)テ ハァーテ (笑) エ^{xxx} エルンダッエチャ エヤー エヤー
ウエーッて 吐いて いるんだよ。 いや いや

アエナ コトモ (A ン-) アッタシネー (A ン-) エズデモ オモエ
あんな こども あったしね。 いつも 思い

ダステ (A ン-) コドモダツサ キカセットユード (A ン-) ナンダエ
出して 子供たちに 聞かせるというの 何だい

ナンテ エマ^{xxxxx} エマダガラ ホダ ゴワッテル ホーデモ
なんて いまだから そんなこと言われているが それでも

ゼータグナ ゴド アッタダエッチャ ナンテ ム^{xxx} ムガス
ぜいたくなことであった(時代も)あったよ。 なんて 昔

エクサチューニ ヒトノ ニクサエ クッタ ナニ ホダ ネズミノ
戦争中に 人間の 肉さえ 食ったよ。何よ, そんなねずみの

ツユ ナンデモ アンメアッチャ ナンテ コドモダツニ エマ
お汁(ぐらい)何でも ないはずだよ, なんて 子供たちに いま

バカニ サレテ エッケンド
馬鹿に されて いるけど。

A ダゲット ナ (B ソー) オラ カンネー
だけど なあ。 おれは 食べれないな。

注記

- (1) 太平洋戦争の終戦まぎわの話。
- (2) 「バ」は「を」にあたるが格助詞というより、そこを強める係助詞的なもの。
- (3) 地名。荒浜の西北方（海の反対側）約四キロメートル。
- (4) 「動詞連用形＋セァ(サエ)」はていねいな命令。
- (5) 「せっかく」。方言では「始終」「しょっちゅう」の意。
- (6) 目的格はふつう無助詞であるが、特に強調する時には係助詞的に「バ」を用いる。
- (7) 我々がその現場を見て知っているかどうか気になって、嫁さんがこちらの様子をチラチラうかがっていた。
- (8) [tambesaẽ], 主として女性が使うていねいな命令。語尾の微妙な鼻母音の響かせ方が特徴的である。以下、何回か出現する。
- (9) 「デンキヤノ----」からここまでは挿入句。次の「カーチャンネル」の「カーチャン」という呼びかけの説明のため。
- (10) [æwæ:ʔ], 吐く擬音。

5 昔の子供の様子

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生 年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |

B ンダゲット ハルサン メンコエガッタガラ ミンナニ モチーラッ
 しかし 春(吉)さんは 可愛かったから 皆に もてた
 ⁽¹⁾
 タッチャ
 さね。

A ナランデ ホシテ エツバン サエバットーダベ ⁽²⁾ ダガラ
 (私は)並ぶと 一 番 ぶりの方でしょう。 だから
 オドゴヒダズガラ ⁽³⁾ オメァ ナラブ ヒト ネクテワ オンナノコニサ ⁽⁴⁾
 男の子の中では 並ぶ 者が なくてね。 女の子に
 マジェラッテ エダモンダッタ
 混ぜられて いたものだった。

B ムガス マエカケ ステネ
 昔 前かけ してね。

A ンー
 うん。

B キモノ キテ マエカケ ステ
 着物 着て 前かけ して。

A キモノ キテ アルツタンダンダガラ (B ンー) コゴラ ソンデグズ
 着物を 着て 歩いたんだったよ。 ころら, 袖口を

ピカピカニ ステ⁽⁵⁾
ひかひかに して。

B (笑) ハナ カンデ ソデデ ハナ カンデ ピカピカニ ステ (笑)
鼻を かんて、 袖で 鼻を かんて ひかひかに して

A ピカピカダ ウーエー⁽⁶⁾ ウルス ヌッタ エジョーニ コータグ
ひかひかだ 漆を 塗った 以上に 光沢が
アッタダ (笑) (B 笑) モド ンダガラ アノ オラ ガッコーサ
あったんだ もとは。だから おれが 学校へ
アルグ ズデァーツーノー カサッコ デタモンダエネ
行く 時代というのは おできが できたもんだよね。

B ナーステ アエズ カサッコ デダングズ (A ナンナンダベー)
どうして あれ、 おできが できたのかねえ。 (どうしてかな。)
デダングズー
できたんでしょね。

A カタ カサッコト ホレガラ
xxxxxx おできと それから

B メッチャ⁽⁷⁾
目くされ。

A ンー トラホーム (B ンー) ヤッパリ アノ セーカズテギニ
(それに)トラホーム(にもなった) やっぱり 生活的に
(B ンー) アレ ヌガ⁽⁸⁾ タエダリ ホレガラ スカガラ ヒロッタ⁽⁹⁾
糺を 焚いたり それから 砂浜から 拾った

チグツ⁽¹⁰⁾ タグカラ ゴミ タズンダモンナ (B ウンダッチャネー ウン)
木屑を 焚くから、 ごみが 立つんだもんな (そうだね)

エーズキノ ツグリダタッテ⁽¹¹⁾ エマ ミテアグニ⁽¹²⁾ エーセーテキニ
今 みたいに 衛生的に

デテネァガラ⁽¹³⁾ (B ンー) アー ムガス アノー カジェ アタンネァ
できていないから 昔は 風が 当たらない

ヨーニ ステ アメ アタンネァヨーニ ステ クラークバリ ホレ
ように して、雨が 当たらないように して 暗くばかり

ヤネノ コーバエオ コー ツヨグ ステ ヤッテダモンダガラ
屋根の 勾配を こう 強く して いたもんだから、

カジェ アダンネァヨーニネ

風が 当たらないようにね。

B ダッテ オフロワ タデゲァー⁽¹⁴⁾ シダベシネ
だって お風呂は たてかえしだったろうしね。

A ンー オフロ コンド タテケァース ツーノ クスリナンダ
お風呂は たてかえし というのが 薬 なんだ

ナンテネ (B ンー) ドロドロ スルサ エレラッテ ホンニ
なんてね。 だろだろ するのに 入れられて

エマ カンゲァット ホンニ キモズ ワリー ホドダエット
今 考えると 本当に 気持ち 悪い ほどだけだ。

(B ホンニ ネー) ヌラヌラ ツーノ (B ソエナ) コエズ
ぬるぬるしているのが これを

クスリナンダ ナンテ クスリナンダ ナンテ タテケァース
薬 なんだ なんて言って。薬 なんだ なんて たてかえし湯を。

B ホエナ ソエナ オユサ エレラッテ カオ アラウガラワ メー
xxxxxxx そんな お湯に 入れられて 顔を 洗うので 目が

(A ンー) ワルグ ナルンダッチャネー ンダッチャ
悪く なるんだよね。 そうさ。

A アエナノ バガリ フエーセーテギナ ゴドバカリ ヤッテタモン
あんなことばかり、不衛生的な ことばかり やっていたもの

注記

- (1) 「用いられた」。「可變がられた」「からかわれた」「ちょっとした用を言いつけられた」ほどの意。
- (2) 「最末等」という語。
- (3) 「男人達」。この場合は学校時代だから「男生徒」。この地方では、自分の子でも「この子は----」に当たる場合、よく「このヒトは----」という表現をする。
- (4) 「ニ」と「サ」は同じ意味の共通語形と方言形。これは言い誤りではなく、重言的な用法で時々現実の会話に現れる。「サ」はイントネーションから見ても終助詞ではない。
- (5) 鼻汁を袖にこすりつけるから。
- (6) 「あまえ」(対林代名詞に由来する間投的な遊び詞)か、単なる言いよどみの発音か不明。
- (7) 「目くちゃ」の転か。目がくちゃくちゃになっていること。ただれ目。
- (8) 「靱ガラ」を「ヌカ」と言う。(『日本言語地図』参照。) これを焚くと煙が多くでて目にしみるので「メツチャ」になりやすいということ。
- (9) 「スカ」は海岸などの砂浜。
- (10) 洪水などで阿武隈川の川口から海に流れた木屑などが海岸の砂浜に押し返されてかわいている。
- (11) 聞きとれないが、「家の作りでも----」というようなことを言っているか。
- (12) 「ミタイ」が連用修飾になる場合、形容詞の連用形に似た形となる。たとえば「ミテァグナル」(みたいになる)。
- (13) 「できる」を方言で「デル」と言う。前頁の「カサッコ デタ」もそのように解すべきであろう。
- (14) 何日も風呂の湯を変えず、そのまま焚いて入ること。
- (15) 摩擦音が入り、[ɲe:]となっている。
- (16) 間投助詞。「ナ」よりていねいで、しかも親愛の情を込める。
- (17) 「ペツチャ」は「ベツチャ」(強意の終助詞)の音便形。
- (18) 「行く」は方言で[enjü]のように鼻音。

6 学校の弁当

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ

B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

A ベントーナンテ ツート ドコガデ オフルメァー シタ ドギ
弁当なんて いうと どこかで お振舞いを した 時

アレ カマボコナ (B ン) アエズ ツメデ モラッタラバ
蒲鉾をね。 あれを つめて もらったら

コレダ(1) カマボコ
これだ 蒲鉾。

B ミンナサ ミシエデ アルグノ
みんなに 見せて 歩くの。

A ンー カマボコナンテナ ツメデサ ベントーサ ソア テンカ
うん 蒲鉾だなんて言ってね つめてさ、 弁当に せれば 天下

エッピンダオン ンー マー フンバッテ ホノー メス クードキ
一品 だもん まあ ふんぱつして。そして 飯 食う時に

ホエズ ネックナンダド オカズ ダエ クッタード ドナンダ
それが なくなるんだぞ。おかずが。誰が 食ったと びなるんだ。

アー モド ベントー アッタ ウエニ ンーナ ベントー エレ
(というのは)もと 弁当が あった 上に みんな(また)弁当を(重ねて)入れ

ルンダ ハゴサ ソステ アッタマル ヨニナッテ ジェンブ
るんだ 弁当箱を そして 弁当が温まる ように 全部

アノ フグロ ト ホドエテ コー アッタメラレル⁽²⁾ アレ スット
 弁当袋^{xxx} ほどいて こう 温められる。 そうすると、
 ニダヨーナ ベントーモ アッペカラ トッテ コー フタ アゲ
 似たような 弁当も あるだろうから(他人の弁当を)取って こう 蓋を 開け
 ンダベー⁽³⁾ ホノウズ ホー ンメーモノ アッタド
 るんだろうな そのうち おう うまい物が 有ったぞ(ということぞ)
 ンダベ ネグナッテンダネ ホダガラ ホレモ オモエデノ
 (それは)そうだろう。(あかずが)なくなっているんだね。 だから それも 思い出の
 ヒトツダゲットモ ヤッパリ メズラシエガラ ヒトツ クツサ
 一つだけけれども、 やっぱり 珍しいから (あかずを)一つ 口に
 エレルンダワナ ホダコト スッタ モンダッタ ベント
 入れるんだよね。 そんなことをした もんだった 弁当(については)。

B オラダツワ ニンズー スクネアガッタカラネ (A ストーブモ
 私達は (クラス)の人数が 少なかったからね (教室には)ストーブも
 ナニモ) アンマリネ
 何も) あんまり(紛れることはなかった)。

A ネアーガラネ ツステ タダ ゴハンダゲワ ホレ スミオ エレ
 ないからね、 ただ 御飯だけは 炭を 入れ
 デ ソシテ アッタメテ ケラエンノ⁽⁴⁾
 て そして 温めて もらうの。

B オンパンキツ^{~~~~~}ーノネ (A ンー) エマデモ エマ ナンシッタ
 温飯器というのね。 今でも(あるよ)。今 何で温めているか。

A エマデモ ヤッテッカ
 今でも やっているの?

B エマ ナンダベ ナンダガ ガッコーテ ゴハン アッタメルニ
 今は 何だろう 何だか 学校で 御飯を 温めるに

ナニデ アッタメルンダベ デンキスカワ ナンダガ アラハマ
何で 温めるんだろう。 電気かな。 何だか 荒浜(小)

ガッコーデ アノー アエズ シタノワ ハルサン ツシャネアノ
学校で あれを しているのを、春(吉)さんは 知らないの？

アラハマガッコーデ オンパンキ アノ アエズ シタツツーノ
荒浜(小)学校で 温飯器を、 あれを しているっていうのを。

A ショーガッコーデ (B ン) コシエアーダツツーノ
小学校で？ (うん) こしえたっていうの？

B エマ ナンダガ アレ オンパンキ アエズ アノー ゴハン
今 なんだか 温飯器を、 御飯を
アッタメンノー アエズ シタツツーノ デンキーンダガ スミ
温めるのを、 しているというの 電気でしているのか 炭
ナンダガ
なのか。

A トエカグ ホダニ エマ ベントー モッテ アルガネァンダバー
とにかく そんなに 今は 弁当を 持って 行かないんだろう。

B ダッテ ネレ ゲズヨード スエヨービニ モッテグノ ダッチャ
だって ね。 月曜と 水曜日に 持って行くんだよ。

A モッテグノ アー ソー
(弁当を)持って行くの？ ああ そう。

B ンダ ホエズ オ^{xxx} ナンダガ ゴハン アッタメデ ケラレルンダ
そう。 それを 何だか 御飯を 温めて もらうんだっ
ツーンダケッドモ デンキナンダガ スミ ツカウンダガナード
ていうんだけど、 電気なのか 炭を 使うのかなと

オモッテ (A デンキダベー ンデ ソー) キクノ ワスエッタ
思っ (電気 だろう、 それでは。) 聞くのを 忘れていた

ゲンドモサ (A ン デンキダベ) オンパンキワ アー
けビもさ。 電気だろう 温飯器は

(A デンキダヨ) ホーエー シタッテ コト キータノ ムカシワ
電気だ。 そのように したって こと 聞いたの 昔は

スミダオンネ
炭だものね。

A ンダネ スミスカ ネエアンネ
そうだね。 炭しか ないからね。

B アノ コズガエ ズンツァン エサ⁽⁶⁾ モラエサ エグドキナー
小使の おじいさんの家(お湯)もらいに 行くときね。

A オユ モラエサ エグンダモンナ
お湯をもらいに 行くんだもんな。

B オユ モラエサ エッテ
お湯をもらいに 行って-----。

注記

- (1) 両手の拳を鼻の上に重ねて、「鼻高々」という仕ぐさをしたもの。
- (2) 効果的に温めるため、個々の弁当袋（それぞれ色や模様がついていて識別できる）から、弁当箱を取り出して、じかに温飯器に入れる。
- (3) 「結局」か。（話者にこの所 意味を問うても記憶になかった。）
- (4) 「呉れられる」（受け身）という表現。よく使われる。全体の意味は、「ストーブがあればその上に薬罐を置いてお湯をわかすこともできるが、炭で温飯器の御飯を温める」。
- (5) 「アエズ」は温飯器を指す代名詞のようでもあるが、単なる遊びことばのようでもある。「シタ」の「タ」は、現在の事実を具体的に表現するのに使われている。過去ではない。この直後にこの句が三回現われるが、皆同様。
- (6) 「小使さんの家」。学校の一部に夫婦で住み込んでいて、子供たちは昼食時にそこへお湯をもらいに行ったりした。

7 お祭

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |
| C | 木村 精一 | 男 | 大正7年生まれ |

A マー ナンデモー コレァ オマズリデモー オショーガズデモ
 まあ 何でも これは お祭でも お正月でも
 ムガスノホー ナンダガ エー ヨーナ キー スル ナー ネー
 昔の方が 何だか いい ような 気がする なあ、ねえ。

C ンー ショーガッコノ トギノ コドナンカ オモエダステ ネー
 うん 小学校の 時の ことなんか 思い出して ね。

(A ンー マンズン) コエナ コトア シャネァ ⁽¹⁾ベガラネ
 こういふ ことは 知らないだろうよ。

オマズリン ドキ アノー サンチョーメノ キクジヤノ メーサ
 お祭の時 ミ丁目の 菊地屋の 前に

アレ アノ ロテン (A ンー ソー ソー ソー)
 露店

B アズク ナランデネー
 あそこに 並んでね。

C ンー アン ドキネ マダ ショーガッコノ サンネン
 あの 時ね、まだ 小学校の xxxxxxxx

ニネンシェーガ エジネンシェーノ コロダナー (Bン) ソコサ
二年生か 一年生の こうだな。 そこへ

エッテネレ (Bン) コエナノ キッタダエ アレ コレ
行ってぬ。 こういうのが 来ていたんだよ

ナダガ コー ボーガラ ノゾグド (A ノゾギメカネ)
なんだか こう 棒から のぞくと (のぞき眼鏡)

(Bン) マ_{xxx} マンナカサ コー
真ん中に こう

B エロエロナノ ン
いろいろなの

C マンナカサ (A ~~~~~⁽²⁾) (B ン) ノゴンノサ (Bン)
真ん中に 残るのさ

ソエツネレ ソースット コッチ エッカンニ ヤル ヒトモサ
それをぬ そうすると こっちに(人が)いるから やる 人もさ

エンピツナンカ モッテ クンダ ハー コッカラ ミット
鉛筆 かなんか 持って 来るんだ。そして ここから 見ると

エンピツノ シンノ フトサガ コッカラ ミエルンダ ナンテサ
鉛筆の 芯の 太さが ここから 見えるんだ なんてさ。

(Bン) ソシテ コンダ タマゴ モッテ クンダ (Bン)
そして こんどは 卵を 持って 来るんだ。

スット タゴ_{xxxxx} タマゴノ キミノ オーキサ ミエンダ ナンテサー
すると 卵の 黄味の 大きさが 見えるんだもの。

(Bン) (A笑) ナガミ アンノバリ (笑) モッテクンダ
中味が あるのばかり 持ってくるんだ。

(Bン) (ン) ホーシテ ンダガラ ホーテ クジ アエデ モッテ
そうして だから ほうっと 口を 開けて いて

ホレ カウンダッチャ コレ (B ン-) (笑) カネ ダステ (B ン-)
買うんだよ これを 金を出して

ソシテ イヤ ナニ ヨロコンビ エサンデ エーサ モッテッテ
そして いや なに 喜び 勇んで 家に 持ってって

(B ン-) ナガ ミツツート ナンデモ コノ ミエンノワ アノ
中を 見るというは 何でも 見えるだよ

ソー (B ン) ネレ ナニ コノ バカニ シラッテ⁽³⁾
ね、 何 だまされて

ミナ カッタダオン ソー (B ン) エンピツ ミット ナルホド
みんな 買ったんだものさ。 鉛筆を 見ると なるほど

シン ミエッペゲンドモ ダエド (笑) ホ^{xxx} ホンダラ アト
芯が 見えるようだけれども、 だけれど そんなら さらに

テモ ミシェラッタモンダ^テ ネレ (B ン) ハー ホネモ
手も 見せられた もんだ 手 ね。 もう(手の中の)骨も

チャント ミエル ソー (B ン) ネ (A ホンダラ メアノ) ア
ちゃんと 見える のさ。 ね (せしたる 前の)

ホイナノ ナガガ アンノ ミナ ミシェンノサ (B ン) ホノ
そういうもの、 中が あるものは みんな 見せるのさ

キシエル ダノネレ ナガニ アノ コー クードートガ アット
煙管 だのね 中に こう 空洞が あると

ホエナノバリ ミシェデ ナガ ミナ ミエンダド⁽⁴⁾ シャ トゴロガ
そういうのばかり 見せて 中が みんな 見えるんだってさ。 ところが

エーサ エッテ コンド ホンデワ ユノミチャワン ミロ
家に 行って こんど それでは 湯呑み茶碗を 見る

ナンツワッタオン (B ン-) ユノミチャワン ユノミチャワン
なんて(誰かに)言われたもの。 湯呑み茶碗を。 湯呑み茶碗を

ミタケァ ユノミチャワンサ ホエズ ナカミ アンダワネヤ
見たところ 湯呑み茶碗に 中味が あるんだよね。

(B ン) コヤッテ ミット ホンダエツチャ (B ンー) ナンダベ
こうやって 見ると そうだよ。 何だろう、

ユノミチャワンニ ナカミ シン ネァーベ ナンテ (B ンー)
湯呑み茶碗に 中味, 芯なんて ないはずだなんて

ワッテサワ エークラェー シェズラッテ タダ バカニ シラッテ
言われてさ。 いいかげん からかわれて ただ だまされて

ソエデ コノ カネバ ツカッテンダ ナンテ ズワッテ⁽⁵⁾ サー
それで 金 を 使ってるんだ なんて 言われて さ。

ソنداッテ ナーサエガラ ホガサ モンク カダッセ⁽⁶⁾ エグ
それでも, 小さいから 他に対して 文句を 言いに 行く

ハズ ネァーノサ ダマッテ ナキネーリ ソー
はずが ないので。 だまって 泣き寝入りさ。

A マズ アズク サンチョーメサ コー デッタ モンダネ (C 笑)
あそこ 三丁目に こう(露店が)出ていたもんだね。

(B ホシデ) ホエズ マダ アノ タノシミデナー ンー
そうして) それが また 楽しみでな。

B オマズリツード アノ ハガマ ハオリデ チャ (A タノスミデ)
お祭 というと 袴 羽織で

カワグツズンジャ⁽⁷⁾ サ オマエリ シテ ソレガラ ハヤグ
川口神社に お参り して それから 早く

サゲラッテネ オマツリツート
下校させられてね, お祭 というと。

A ヨエマズリ ツト アンモズガー
宵祭 というと 餡餅か?

B ンー ヨエマズリ ツート アンモズ
うん 宵祭 というと 餡餅だ。

A アッチノ オンツァン カエッテ キタ コツツノ オンツァン
あっちの おじさんが 帰って きた , こっちの おじさんが
カエッテ キタ (B ンー) ホスター ~~ズー~~ アノー ズッ シェン
帰って きた そうすると ^{xxxxxx} 十 銭

グレア ネレ ケラッテサ (B ン) ン オマズリ アット ホレ
ぐらい ね もらってさ。 お祭が あると

コンズゲァー ナンテ ズッ シェンケァ エッ シェンケァ アノコロ
小 遣い なんて 十 銭 かい , 一 銭 かい? あの頃
エッ シェン アレ
一 銭 だった あれ?

B ホントニ オエワエダ オンネ
ほんとうに お祝いだものね。

A エッ シェンバ ズーメァ グレア ズッ シェン ケラレツ ツート
一 銭 玉を 十 枚 ぐらい , 十 銭 もらうと いうと ,
カー ⁽⁸⁾ コノ グレアー アルナンテ ナー ヤ ヨロゴンデ シタン
ああ この ぐらい ある なんて なあ 喜んで したん
ダッタ ⁽⁹⁾ (B ンー) シテ オマズリア ホノ サンチョーメサ
だった。 お祭は 三 丁目 に
デル ヤデァーサ エッテ アノ モト ハヤッタノ テッポーダナ
出る 屋 台 に 行って , もと は やったの 鉄 砲 だな ,
(B ン) ピストル (B ン) ンー アノー コーヤッテ コー
ピストル こうやって こう
アレ タマ ツット ハサンデ デ プツット (B ン) ツト ソテ
玉を つっと はさんで それで ぷつっと せして

プツット ソテ トビアガンノ タマデ (Bン) ツブツブ シテ
ぷつっと 飛びあがるの 玉が つぶつぶしていて

(B ツブツブ) アレ キレー ナッテル ヤズネ アンナノ
きれいに なっている ものをね。 あんなのを

カッテ ホシテナー アノ エー エー エクサン コロニネ
買って そしてな

B スカス トーリキランネァクレアー ヒト トーツタンダオンネー
しかし 通ることができないほど 人が 通ったものね。

オマツリツツートネ
あ祭というとね。

A ホステ マダ タメットキ オマツリダガンナ マダ ガクヨー
そして また(金を)貯めるときも あ祭だからな, また。 学用

ヒン カウ タメットギ アレ (Bンン) モラッタナー
品を 買う(ため)金を貯めるときだ。 (金を)もらったなあ

ツカワネァーデ タメットギ オマズリド オショーガズダガラ
それを使わないで 貯める時機は あ祭と お正月だから

アレ アレ
あれ あれ。

C アト オマズリア ニチョーメノ アタリサモ ミセ ダスツタ
そして あ祭は ニ丁目の あたりにも 店を 出していた

ンスカ キンタローサン テーウス
のですか。 金太郎さんの家の所

A マー ニチョーメ アド マ カワグツツァン⁽¹⁰⁾ ネ
ニ丁目のほかには, 川口神社の境内(にも店が出ている)ね。

B ンダネ アノ ヨエマズリツツート カワグツツァンネ
そうだね。 宵祭という川口神社の所だね。

C アト ナニカ カンケー ナクトモ デタ ヨク アメッコヤ
あと、何か(祭と)関係 なくとも(店が)出たよ。 飴 や

ナンカ マエ アメ ナガステサ (B アメ ナガステ) カタグ
なんか、昔 飴を 流してさ (飴を 流して) 固く

(B カタグ) (A ソーソーソー) コー コワスン ダッチャ
固く こう こわすんだよね。

(A ソーソーソ) ナガ ⁽¹¹⁾クンビレデデサ (B ソーソー) ホエズ
中が くびれていてさ それを

(A アエズ) ンマー ケットノ オッキナ アメ クルンダ
うまく やると 大きな 飴が くるんだ

(A アメ クルンダ アエズ アレー) ホエズバ ナンボ ヤッ
それを 何回 やっ

タッテ ホノ クンビレドッガラ ポキント (B ポキントネ)
たって くびれているところから ほきんと (ほきんとね。)

オレデ スマウンダ (B ンダオンネ) ン
折れて しまうんだ。 (そうだね。)

A アエズ アレ ズンツァンダネ チョーシェンズンダッタネ (B ソー)
あれを売っている人は あじいさんだったね。朝 鮮 人 だ っ た ね。

アノー アレ クルマ ヒッパッテ (B ソー) ソステ コー
車を 引いて そして こう

フクベン ミデァーナノ ナニ コー (B ソー) ステ ネー
ひょうたん みたいなの こう して ね。

(B ソーソー) カーデ エッシェン ヤッテ カッテ カーシテナ
一 銭 やって 買って こうして

⁽¹²⁾ケッツァ ベロベロ ナメット エーнда ナンテ ケッツァ
その尻を ペろペろ なめると いいんだ なんて 尻を

ナメット ホレ ポロット トレルワケ ソエ ウスグ ナッカラ
なめると ぽろっと 取れるわけ 薄く なるから

コエズ ウスグ エナー ナンテ ナメダナ ズワッテ (C 笑)
これは 薄くて いいな なんて なめたな

ナニヤ コンド ハリ モッテッテ ハリ コーヤッテナ (B ンー)
こんどは 針を 持って行って 針を こうやってな

ホステ ポツット モゲット アリヤー ナンテ ガッカリシテナー
そして ぽきっと もげると あれれ なんて がっかりしてな

ホーシテ ドゴガニ エッシェン ツケ ⁽¹³⁾ホロガッテネァー ベガド
そうして どこかに 一 銭 落ちて いないだろうかと

エン ナガ ズート サガステ (B 笑) ⁽¹⁴⁾カズマカズマ サガスタ
家の中を ずっと 探して 隅々まで 探した

モンダッタナー ンー
もんだったな。

B ムガス オマズリニ ズッシェンナンテ ケラレド⁽¹⁵⁾ オニノ
昔 お祭に 十 銭 なんて もらうと 鬼の

クビダオンネ

首を取ったようなものだもんね。

A アー オドケデネァー ⁽¹⁶⁾ズッシェン ナット
ああ 大変だったね。 十 銭 になると。

B ンー ズッシェン ナットネ ケラッタンデワ
うん、十 銭 に なるよね。(それを)もらったんでね。

注記

- (1) 録音者に対して言った発言か。
- (2) この話と関係なく、「お茶を持ってこい」と誰かに言っている。
- (3) 「バガニスル」は、「だます」「ばかされる」の意。「狐にバカニサレル」というように使う。
- (4) 「シャ [ɸa]」は「サ」にあたる間投助詞。「サ」よりややていねい。仙台方言では頻発されるが、この話者たちは稀にしか使わない。
- (5) [zūwatte]。「ユ」の頭音が摩擦音となる。
- (6) [kadassæ]。「カタリサ」(語りに)に「エグ」(行く)の「エ」が影響してこのような発音になったか。
- (7) 荒浜の町の中にある神社。
- (8) [qab:]。口蓋垂を震えさせる。方言の感嘆音。
- (9) 「いろいろなことをしていた」の意か。
- (10) 「川口サン」にあたる形。前出の川口神社の通称。
- (11) 「マメコワシ」とか「カタコワシ」とか称されるもの。飴を型に流して固くして取り出そうとするが、ひょうたん型にくびれていて、そこから折れて失敗する。成功すると大きな飴がもらえる。
- (12) 「ケツサ」(尻に)、あるいは「ケツバ」(尻を)の縮約形。
- (13) 「ホロク」は「落とす」「落として失くす」。「ホロガル」はその自動詞。
- (14) 「カズマ」は「角間」「隅」。
- (15) 「ケル」(呉れる)の受身形で、「もらう」の意に使っている。
- (16) 「おどけでない」にあたる形。「大変だ」の意。

8 アイスキャンデーとお婆さん

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |
| C | 木村 精一 | 男 | 大正7年生まれ |

A アド アレ ナズニ ナッツード スケンカンサ アノー アエツ
夏に なるというし 試験管に あれを

エレテ アレ コーリ エレテ バ トガスンダベ エマノ
入れて 氷を 入れて 溶かすんだろう。 今の

キャンデー (B ン キャンデー ン) (C アエス キャンデー)
キャンデー (うん キャンデー) (アイス キャンデー)

(B ン) エヤ シャ.....⁽¹⁾

B アエズ ネレ アノー タガハッシャデ エズバンサギ ハズメダノ
あれは ね 高橋屋で 一番先に 始めたの。

(A ア ンダガ) ホースタケ タガハッシャデ ホントニ
(ああ そうかい。) そうしたら 高橋屋で ほんとに

ナズ ハズ xxxxxx ナズダエッチャ アノ アタリ タノクサ ⁽²⁾ ハズマッ
夏 夏だよ。 あの 頃 田の草取りが 始まっ

タノサ タノクサ アタリンドギ ナーンスタノサ ホスタッケ
たのさ 田の草取りの 頃 (アイスキャンデー売り) 始めたのさ。 それで、

タカハッシャデ トナリグミサ ジッポンスズ ミナ クバッタノサ
高橋屋で 隣組に 十本ずつ みんな 配ったのさ

(A ンー) ハンズメデ ハンズメタダガラ (A エー エー ハズメデ)
はじめて 始めたんだから (ええ はじめて)

ホーステ コンド ホレー トナリグミサ ミナ アノ サラッコサ
そして こんど 隣組に みんな 皿に

コー ホノー ジッポンスズ チャンデー⁽³⁾ クバッタノサ
こう 十本ずつ(乗せ?)キャンデーを 配ったのさ

(A ンー ンー ンー) スット オラエ アダリデモ モラッタノサ
すると 私の家 あたりでも もらったわけさ。

トコロガ オラエノ オバンチャン ツー ヒト ホレ アノー
私の家の お婆さん という人は

チャンデーツノ ハンズメデダガラ (A ンー) ムカシビドダガラ
キャンデーというものはじめてだから 昔者だから

(A ンー) コノ キャンデーツノ エズマデモ ノコッテット
キャンデーというのは いつまでも 残っていると

オモッテルノサ (A ンー ンー ン) ネ トゲネァ デ (C ン)
思っているのさ ね、溶けないで

トゴロガ ホノ アー ワゲァー ヤズラ エマ アノ アズグデ
ところが ああ 若い 者たちは 今 暑くて

ケッテ クッペガラ (A ンー) エガラ アノ コエズ スマッテ
帰って 来るだろうから いいから これを しまっ

オゲ ナンテ ホーステ アノー アエツ トダナン ナガサ
おけなんて言って、そうして (キャンデーを) 戸棚の 中に

エレデ スマッテダ (A ン) スット オラワ エッポン
入れて しまっていた。 私は 一本

カシェラッタサ (A ンン) スタラ ジュッポンモ アッタッケ
 食べさせられたさ。 すると 十本も あったが
 ホノ ズンブンガ モー エッポン ナンダガ シャッコクテ⁽⁴⁾ ヤン
 もう一本をお婆さんは自分で(食べて), 何だか 冷たくて いや
 ダナ ナンテ ホステ ハンブン ンー クッテ オレサ ヨゴス
 だな なんて言って そして 半分 食って(残り)私に よこし
 テサ アドワ ハツホン エマ タノクサガラ ケアッテ クッカラ
 てさ。あと(残り)は 八本。 今 田の草取りから(みんなが)帰って来るから,
 アズグテ ケアッテ クッカラ (A ンー) アド クッテ ワガンネ
 暑くなって 帰って 来るから あとは 食っては 駄目だ
 ガラナ ナンテ トダナサ エレッタエツチャ ホノ タノクサガラ
 からな なんて言って 戸棚に 入れたんだよ。 (みんなが)田の草取りから
 ケアッテ クル ウズワ ワリバス (A 笑) ハツホン ノゴッテ
 帰って くる うちに, 割り箸が 八本 残って
 タエツチャワ (A ン) ドロドロツツーノー サハツツァ ノゴッテサ⁽⁵⁾
 いたんだよ。 どろどろというのが 大皿に 残ってさ。

A ダレ クッタンダッテが
 誰が 食ったんだ てことになったか。

B オーワレァ スタコト アッタガラサ サー ネー
 大笑い したことが あったからさ。 ね。

注記

- (1) 「いや シャッコエ (冷やっこい)」と言おうとしたか。
- (2) 七月頃, 田んぼの中の草取りをする農作業。
- (3) [c̣ãnde:].
- (4) [çakkoküde] 「冷やっこくて」。
- (5) アイスキャンデーが溶けて, 中の棒が割り箸のようになって皿の上の溶けた水の中に残っていた。

Ⅲ. 千葉県たてやま館山市あいはま相浜

収録・文字化担当者 加藤 信昭

A 収録地点とその方言について

1 地点名 千葉県館山市相浜

2 収録地点の概観

位置——千葉県、房総半島の最南端に位置し、千葉駅から南南西へ約80km、館山駅(国鉄内房線)から南南西へ約10km弱。

交通——千葉駅から国鉄内房線で下り約2時間、館山駅下車、国鉄バス富崎線で南南西へ約10km、約30分終点で下車。



地勢——房総半島の最南端、南と西は太平洋に接している。東は100m程度の山地、北は神戸地区南部の狭い平地であるが、神戸地区北部は150m程度の山地である。平地はほとんどなく、海岸沿いのわずかな土地に集落が形成されている。北と東を山で囲まれているため、海洋性気候で冬でも割合に暖かいが、冬には西の季節風がよく吹きあてる。

行政区画——館山市は約390年前に里見氏が城を築いてから城下町として発展したが、この地はそのころすでに漁村として存在していた。古くは関西方面からの漁民が住みついたものといわれ歴史は古い。明治22年市町村制により、北条町、館山町、西山岬村、神戸村、豊房村、館野村、九重村、風原村(那古)。

船形村とともに富崎村も形成した。昭和14年、館山北条、那古、船形地区をもつて館山市制を施行。昭和29年5月3日、市町村合併促進法により、西岬、神戸、豊房、館野、九重と一緒に富崎村も館山市に併合された。この相浜と、隣りの布良とを合わせて、現在富崎地区と呼んでいる。

戸数、人口——昭和51年1月現在

館山市 世帯数 17038戸、人口 56953人。

富崎地区世帯数 607戸、人口 2274人。

相浜 世帯数 261戸、人口 995人。

主な産業——平地が少なく、農業はあまり振れない。海を利用した水産業が主である。しかし、若い世代は、漁業離れをしていて、現役で働いている漁民は、50歳を超えた人達ばかりである。

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

千葉県方言は、隣接する利根川以北の関東東北部の方言（栃木・茨城など）の崩壊アクセントの方言）とは一線を画し、また隣接する江戸川以西の関東南西部の方言（埼玉・東京・神奈川の方言）とも、語彙やアクセントなどでやや異なる面を持ち、関東方言の中にあつては、関東南部方言として位置づけられる。

千葉県方言を大観すると、まず、上総と下総との境で南北に分けられ、北の下総では、東北部と、西北部とに細分される。また、南の上総と安房との間にも、かなりの点で、差異が認められる。収録地点は、安房に属する。この安房の中でも、相浜は、その南端に位置し、歴史的にみても、現在に至るまで主要交通路から外れた地域にあるため、古いことばの相を多々みることが出来る。

② 音韻上の特色

(1) 老人層の間で、限られた語に「合拗音」が認められる。たと

えび、「菓子・火事・食われない」を「クワシ・クワジ・クワ
ンネー」のように言う。/k^wa/ {k^wa} が認められるのは、
関東方言の中では珍しい。この「合拗音」は安房地区で広く聞
くことができる。

(2) タ行音の前に促音が立つ。たとえば、「自分・やられるのだ」
を「オッタ・ヤラレッタ」のように発音する。

(3) 「イ」と「エ」の混同がみられる。ただし、「イ」を「エ」
と発音する傾向の方が強い。

(4) 連母音 [ai] や [ae] を [e:] のように長音化させる。
たとえば、「見たい・お前」を「ミテー・オメー」のように。

(5) 長音を短音化する傾向がある。たとえば、「祝儀・先生」な
どを「シュギ・センセ」のように。

(6) ラ行音の「ル・レ」を [i] と発音する傾向がある。たと
えば、「あれ・～に行くと」などを、「アイ・～ニナイト」
のように。

(7) 語中・語尾のカ行音の子音が脱落する傾向がある。たと
えば、「ニコ(場所)・焼く」などを「コー・ヤウ」のように。

(8) 語中・語尾のガ行音の子音は [g] である。

(9) 語中・語尾のカ行音・タ行音の子音を有聲化させる傾向があ
る。たとえば、「坂・道」などを「サガ・ミジ」のように。た
だし、この有聲化の傾向は、県の北部地方に比べると弱く、語
彙も限られるようである。

(10) アクセントは東京式で、二拍名詞の二拍目に [a・e・o]
を含む「跡・稲・船」などの語も、{o o Δ} に発音される。
(Δは一拍の附属語を示す)。

③ 文法上の特色

(1) 方向を表わす格助詞は「サ」を使用する。

(2) 格助詞の「の」は、しばしば「ン」に発音する傾向がある。
たとえば、「昔の人」は「ムカニンヒト」のように。

(3) 推量や意志を表わす助動詞は「〜ッペ」を用いる。

(4) 否定の助動詞「ナイ」は、「ネ」が使用され、たとえば、「知らない」は「シラネ」である。

(5) 接頭辞を多用する。たとえば、「叩く」は「ヒツパタク」のように。

(補注) 同じ富崎地区でも、相浜と隣りの布良との間に、多少の方言の差がある。たとえば、人称代名詞(一人称)の場合、相浜では「ワレ(常体)」、布良では、「ワガ(常体)」と言うし、二人称でも、布良では、「ニシ・ウンダ(いずれも卑体)」を用いるが、相浜では使わないなどの差がある。その他、語彙の使用で差のあるものを拾うと、「お爺さん・お婆さん・沖」などを、相浜では、「ジー・バー・オイ」と言うのに対して、布良では、「ジージ・バーバ・オキ」などのように言うことなどを挙げることができる。ただし、両方言は、そのような違いがあっても、大きくみれば、ほぼ似た方言と言えよう。

4. 地点選定の理由

① 房総半島の南端に位置し、歴史の古い地点であるため、方言の保有量が多いこと。

② 漁村であり、漁師の間に、まだほゞ残った漁業関係の方言が生きていることによる。

B 話者・録音環境など

1 昭和50年12月7日録音

2 千葉県館山市相浜76の1(武田由蔵氏宅)

3 話し手

H 広瀬ます(女) 明治25年生まれ 無職

相浜生まれの相浜育ち。広瀬さんの御両親は、ともに館山市出身である。

S 鈴木 与一 (男) 明治 28 年生まれ 漁業 (相浜に四代続いて
住まわれている)
相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

T 武田 金市郎 (男) 昭和 11 年生まれ 教職員 (司会者)
相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

4 録音内容とその環境

・二人の共通話題である地曳網漁業に従事した当時の回想から、海付網漁業、棒受け網漁業等の各種漁業における苦勞や自慢話等を男それぞれ経験から話していただいた。また、広瀬さんは一家の主婦として育児に携わる立場からの苦勞話、躰けのみり方などにも触れている。関東大震災には二人とも、大きな被害を受けた経験を持ち、印象も強烈であったとのことで、当時を回想していただいた。

・できるだけ平素の状態でお話していただけるように努力したが、広瀬さんはやや丁寧な語り口であった。鈴木さんは、ほぼ平常通りの状態で話されていたようである。会話の進行は自由な雰囲気重視のため、時々話題から逸れがちであった。

なお、司会をしていただいた武田金市郎氏には並々ならぬお世話になりました。深く感謝申し上げます。

昔の漁業

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|--------|-----|---------------|
| S | 鈴木 与一 | 男 | 明治28年生れ |
| H | 広瀬 ます | 女 | 明治25年生れ |
| T | 武田 金市郎 | 男 | 昭和11年生れ <司会者> |

T アンダノ一 テンキガ ワリツケン ジイサンアンカ アンシテッ
あれだねえ 天気が 悪いけど じいさんねんか 行にシマ
カノ一 メンチノ一。
いるかねえ 毎日ねえ。

S ン ベツニ アンモ ナニモシテネアデ ハー アンモシテネア
ん 別に 何も ねんにもしていいいで。ほあ ねんにもしていい
デ ハー。
デ ほあ。

T デー ケーヅケア^ウ アレカイ ン一 コトシ ナンカイグライ デ
(それ)デ 海付 ほ あれかい ン一 今年 何回 ぐらいい 出
タカノ一。
たかねえ。

S マー ヨーカ デタツケンノ ヨーカ デタツケン アト ハー
まあ 八日 出たけどね。 八日 出たけど 後は ほあ
ホントニ ハタラッタノ タッタ ミツカカ ヨツカシカ ネーノ
本当に 働いたのは た、た 三日か 四日しか 行いね

一 エー。

え ええ。

T フーン。

ふうん。

S アトワ ウンナ ヨーカノウキ イツカグレー カ カラ アノ
後 は ええと 八日のうち 五日ぐらい xx xxx あの

カラデ ケツテキタカンノ一。

空で 帰って来たからねえ。

T (咳) ンデ" サカナワ イネンカノ一。

んで" 魚 は いいのかねえ。

S サカナワ アンマリ タ タクサンデ"ワ ネーノ一 スクネ スク
魚 は あまり 沢山で は いいねえ 少しい 少し

ネ トシダー。

い 年だよ。

T ンデ" ヤッパ^ッ ヤッパリ アレカノ一 ホンデー エー ヨーキア
んで" ^ッヤッパ^ッ ヤッパリ あれかねえ それで ええ 陽気な

ニカト カンケーアンノカノ一。

んかと 関係 あるのかねえ。

S ソーサノ一 マー ヨーキニモ カンケーモアッペケン アンダナ
そうさねえ まあ 陽気にも 関係 もあるだろうけど" あれだ"ッ

一 マー ホノトシ^ッ ホノ^ッ ホノトシ^ッ ホノトシデ" サカナガ" ク
あ まあ ^ッホノトシ^ッ ^ッホノ^ッ ^ッホノトシ^ッ ^ッホノトシデ" ^ッサカナガ" ^ック
その年 その年で 魚 が 来

ルトキモアル コネトキモアイカンノ一 ホンナー ヤッパリ コ
るときもある 来たいとももあるからねえ。そんなあ ヤッパリ コ

一ユーフーニ シケ シケデ"モッテイーカンノ ヤッパリ サ^ッヨ
うやうふうに 時化てしまっているかねえ ヤッパリ ^ッ陽

一キノ グエデノ一 サカナモ ヤッパ オニモイ ケガウワノ
気の 具合がねえ 魚 も やっほり 大変 違うねえ

一ズーット ヒョーリツズキバツテモ オイネシ アメツズキバ
え。 ぶう、と 日和 続きばかりでも いけなし 雨 続きは

ツデモ オイネシノ一 サカナアンカキューモンア ヤッパリ エ
かりでも いけなしねえ。 魚、ほんかというものは やっほり え

一トカニイッペングレー アメガ フツタリ カゼモ フイタ
え 十日に 一揃ぐらい 雨が 降、たり 風も 吹い

リ シナウテア エー ヤッパリ ダメダノ一。(咳)

たり しほくまほ ええ やっほり だめだねえ。

T ニデムカシ トレタツキューノアー アジヨ アジヨダカ アノ
ムが 昔 採れた、というのほ どう どうだろうか あの

一ヤッパリ ヨーガ⁽²⁾ イタンカノ一。

う やっほり 魚が いたのかねえ

H ヨーモ イタワケダデネ一。

魚も いたわけだねえ。

S マー ムカシト イマデワ アツダノ一 ジューブングラ イツク
まあ 昔 と 今では あれだねえ 十分 なら いけ

ン ニジューブンモ サンジューブン マー ヒヤッピノウケ イ
ど 二十分 も 三十分 (も) まあ 百匹のうち 一

ツピグレシカ イネーノ一 アー (咳) デ コノ一 コガツ

匹ぐらしか いけねえ。 ああ で このう 小鯉

アンカキューノガ アンダモノ イッピーモ イノウナツキマツタ
ほんかというのが あれたもの 一匹も いはくほ、ました

モンノ一 コンデ コトシラー。

ものねえ。 これで 今年あたりは。

- H コトシラー マシデ イネダモンノ一。
今年らほ まるで いたいたのねえ。
- S アジ^ア アジモ マルッキリ イネダモンノ一。
鯨 鯨 も まる, きり いたいたのねえ。
- T アノ一 バーサンアーカーサー アノ一 シビ⁽³⁾キ ヤッタッペ。
あのう ほあまんほんかほさめ あのう 地震 や, たまらしよう。
- H アイ。
あい。
- T アノジ^アグンワ ヤッパリ ヘエーガウラニ⁽⁴⁾ イタンカノ一。
あの時分は や, ほり 平 砂 浦に いたのかねえ。
- H アイ。ヘーガウラニ⁽⁵⁾ イタデスワデョー。コマシユ一ネ。
あい。平 砂 浦に いたまらよう。 しましというね。
- T ウン。
うん。
- H アノ一 ナニガ コマツケ ホラ アミ アミチユ一デスワデネ一。
あのう あれが 細かい ほら 醬 蝦っまいうでまらねえ。
- T ウン。
うん。
- H アレガ^ア ショツチユ一 ナザニ イタデスツテ ダカラ テーゲナ
あれが いっも 渚に いたんまら, だ。だから 天鰈
ガエト ホノ エサ タベベガタメニ アンノ サカナニヨラズ
渚へと その 餌 たべたいかために 何の 魚 によらま
まー ナザエ イタデスダヨ。エン イタカラネ ンデマー イワ
まめ 渚へ いたんまら, だ。 いたからね だまめ 鯨⁽⁶⁾
シアンカラダテモ ヤッパシ キタトキニワネ ホントニ タマデ⁽⁶⁾
ほんか ども や, ほり 来たときにはね 本当に たまら

スールヨニ キタデス ダカラ デ アントカスルト アノ モト
掬うように 来たぞよ だから で 何とか すると あの 元(a)
トメンカワエネ ドーット イワシガ ヘエーッテ ホラッチューテ
留 の 川へね どう、と 鰯 が 入、て せら、てい、て
ミンナ スーッテ アンタ イッコ スールシデニ スーッテ モ
みんな 掬、て みた。 一向 掬いしだいに 掬、て 持
ッテキテネー シタダカンネ ホントニ ハー アンデスアデヨ
って 来てね しただからね 本当に ほあ あいぞよ
モトト マッデ アノ サカナ ダカラ アノー ナンデスダヨ
元といは ますぞよ あの 魚 は だから あら 何ぞよ
イトーノ ヒトガ アノー シリサガリ⁽⁷⁾ッテッテネ マイニンノヨ
伊戸の 人が あら 後下り と い、てね 毎日のよ
一ニ ヤテ スズキ アノ ツッテ ホッ カゴサ イレテ ソイ
うに 来て 鱸 あの 釣、て ほ、籠 に 入、て せし
デ⁽⁸⁾ ワタシラ ホノ ハンバイサ ケールトキア イトーマデ シ
て 来た、ら ぞよ 販売に 帰る ときは 伊戸 まで 背
ヨッテ イガンネカラ オイテアネ オッテ ケーッタデスヨ ホ
買、て 行かれ、らから 置、て、ね 置、て 帰、た、ぞよ ほ
イガ エッタリッチューテ メンチ ナギサデ ツッテタデスダヨ
れが 幾人 と い、て 毎日 渚 で 釣、て、た、ぞよ
スーット ネ エッタリッテ ネ ホイデ⁽⁹⁾ コイー カゴイ ミン
な、ら、と ね 幾人、て ね それで ミニへ 籠へ みんな
ナ ショッテ テテネ カゴサ イレテ ソシテ マー ショッテ
は 背負、て 出、てね 籠へ 入、て せして まあ 背負、て
イッタクレネ ダカラ イナダ⁽⁹⁾ダテ アンタッテ ヤッパ⁽⁹⁾ッ アノ
行く、と ね だから い、た、た、て した、て や、ほり あの

ホノ コマシガ イナウナッタ セデスタヨ コマシガ イマ イ
 その こましか い行く所、た せいであふ こましか 今 い
 ネソデスタヨ ヘーダグラニ ホガ コマシ ワタシラガネ アノ
 かいそうであふ 平砂浦に そが こまし わたしらがね あの
 ワケトキヤネ (笑) コマシ ヨル ヒーイッタデスタヨ ホシテ
 若いときはね こまし 夜 引きに行ったであふ せして
 アノ ナミノ コナミガ アルトキア アタマゴシン ナツテ ヨ
 あの 波の 小波が あるときは 頭越しに 行った 夜
 ルデスタヨ イクラ スキツケユッタテネ アキダカラ サビデス
 であふ いくら 温いとい、た、てね 秋だから 寒いであ
 だよ

ソシテ アンタ ホイデ アノ コマシブロッケューテネ コノッ
 せして あんた それで あの こまし 袋、てい、てね この
 けダレー ナガサノ アンデ ユッショーダレ ノー アノ スー
 ぐらい 長さの あれで 何斤ぐらい のう あの 掬
 ッテサ ノノ コー マッセナ ヤッセナツテ コーヤツテ フタ
 ったさ こう や、せね や、せね、て こうや、て 二人
 リッツ コーヤツテ ナニシテ マンナカエ ヘーツテ コーヤッ
 ぽつ こうや、て ねにして 真中へ 入、て こうや、
 テ ションビテ ズーット ナンバ⁽¹⁰⁾ンジロケツテ アスコマデ イ
 て し、引いて ぶう、と 何番代⁽¹⁰⁾ とい、て あまこまで 行
 ッテネ ソシテ アノ ハー アスコカラ マー コンダ ケール
 ったね せして あの はあ あまこから まあ 今度は 帰
 トキア カツツテ ケンデスタヨ ホシテ ソレガ イナウナッタ
 るときは 担いで 帰るんであふ。せして それが い行く所、た

カラ ヤッパイ ナダエ サカナガ ヘーラナウナツタモニヤラ
から や、ほり 渚へ 魚が 入らばくば、たものヤラ
コノズツツット アツデスワ ヘーダウラへ ズツツット マツガ
平砂浦へ 松が
ネ マツモリガ ミンナ クラガンデ イタデスヨ クラガンデイ
ね 松森が みんな 暗か、て いた、て、よ 暗か、て、い
タノガ コノ ミンナ イクサカラ ミンナ キツクマツタカンネ
たのが この みんな 戦から みんな 切、て、しま、た、からね
アカルーナツタセモ アンダツペツテ ユーケン ダイイチ エサ
明るくば、た、せ、い、も ある、た、ら、う、て いうけど 第一 餌
ガ ナウナツタデスモノヨ コノ コーバガ デキタタメニ コー
が ばくば、た、て、ま、もの、よ この 工場が 出、ま、た、た、め、に、エ
バノ ナニガ ソノー ナ ^{xxx}カワエナガレテ ヘーラウラ工
場の ば、に、が、や、う 川へ 流、れ、て、平砂浦へ
オケルカラネ コマシガ アラガツキヤツタデスツテヨ キツト
落、ら、る、から、ね、こ、ま、し、が、離、れ、て、し、ま、た、て、て、よ、き、と
ソノセデスヨ エンダカラ コノ マー コーバガ デキテ ミ
よ、の、せ、い、て、ま、よ、た、か、ら、この、ま、あ、工場が 出、ま、て、み
ンナ カセガレーツカラ イーデスケンネ リョーシガネ ソラ
ん、ね、縁、が、あ、る、から、よ、い、て、ま、け、ど、ね、漁、師、が、ね、や、ら
コマツキヤウデサアデヨ ネ カナラズ アンデツサア アノ一
困、て、し、ま、う、て、ま、よ、ね、必、ま、あ、れ、て、ま、あ、う
ホノ一 ナニ キツタネモンガ ナガレネバ イママデニヨニ コ
よ、う、ば、に、汚、い、物、が、流、れ、け、け、れ、ば、今、ま、の、よ、う、に、こ
マシガ イタカンネ イロンナ サカナガ キマスヨ デー アン
まし、が、いた、から、ね、い、ろ、ん、ね、魚、が、来、ま、る、よ、ま、え、あ、ん

タ ノー アレ ホラ アノー マルママダシ⁽¹¹⁾ ホラヨ ヒロネ⁽¹²⁾
 だ のう あれ ほら あのう 丸山出し ほらF 広根
 ネ アノー カミア アラ アンダテヨ ノー ジサン ホノー
 ね あのう 上げ あら 何んだ、てF のう じいさん そのう
 ~~~~~ ネネニハ エー サカナガ ツツテタデスヨ。  
 根根には よい 魚 が ついていたてF。

S アン。  
あん。

H ネー。  
ねえ。

T ジサンワサー アノー ヤッパリ ジビキ イッタダッペアデノー。  
じいさんほさあ あのう や、ほり 地曳へ 行、たんだらう。

S アン。  
ああ。

H ヤッパリ イッタデサアデヨ。  
や、ほり 行、た てF。

T エー ジサン コツツグレントキカラ イッタカイ。  
ええ じいさん 幾つぐらゐのときから 行、たかい。

S ホダ ニジューゴノ トシカラ イッタノー ニジューゴノ トシ  
 そうだ 二十五の 歳 から 行、たねー 二十五の 歳  
 カラ シー ハー シューセン ニジューゴノ トシカラ シュー  
 から ほめ 終 戦 二十五の 歳 から 終  
 セン マ ヨンジューネングレ イッタッペノー ヨンジューネン  
 戦 ま 四十年 ぐらゐ 乗、たたらうねえ。四十年  
 イツテ (咳) ジビキデ イロンナコトモ アッタヨ ヒトオ タス  
 行、て 地曳で いろいろこども あったよ。人を 助

ケテサ コ ヲドモオ ヒトリ タスケテ シンジマッテカラ オ<sup>(13)</sup>  
 けたこ ニ 子供モ 一人 助けて 死んでしまつてから 陸  
 カエ アゲテノ ホッカ イロンナコト シロ ミンナ シロトダ  
 へ 上げての それから いろんな事と しろ みんな 素人だ  
 ッペ イロンナゴト シ<sup>xx</sup> シタツケン シタツケン アンダノ一  
 ろう いろんな事と したけど あれたねえ  
 エー イッコ イキ<sup>xx</sup> ダサナウテサ (咳) ホイカラ アシツカ  
 一向 息 出さなくてさ それから 足掴  
 メテ サンニン ヨツタリデ アシツカメテ サガサン シテミタ  
 手え 三人 四人で 足掴手え 逆さに してみた  
 リサ オゴシテミタリ サガサンシテミタリ シタトロ イクラカ  
 リサ 起して したり 逆さに してしたり したところ 幾らか  
 ミズ ヘータトコアンダ ヘタダヨ ヘタ エー コンデ コンデ  
 水 吐いた ことあるんだ 吐いたんだ吐いた。ええ 二れで 二れで  
 マー ゴロックイ マツタトロ イキダシタカラオー エ コン  
 まあ 五・六回 や、たところ 生き出したからさう え 二れ<sup>(14)</sup>  
 デワ タツシャニ ナンナシツテ ホイカラ マー ノハラ タノ  
 では 達者に なるよといつ それから まあ 野原 頼  
 ミ イツタツケン ノハラガ イナウテサ ホッカウ フレカワサ  
 みに 行、たけれど 野原が いなくてさ それから 古川さ  
 ン<sup>(15)</sup> タノンデキテ ホシタトロ アトワ アトワ ワカラネツタッ  
 ン 頼んできて そうしたところ 後は 後は ねから 行った  
 ケンノ イシャガ ツエーテ イツタカラ ホイカラ ホノ オト  
 けれどね 医者が 連れて 行、たから。それから その 男  
 ゴワ タツシャン ナツテ タツシャン ナツテ アンダ(咳) ホ  
 は 達者に なる 達者に なる あれた それ

ノ アスコ ドーダ アラー スノミヤノ<sup>(6)</sup> スノミヤダ<sup>XXXXXX</sup> ゴロベ  
の あつこ どなた あれは 州の宮の 州の宮だ

ゴロベ<sup>(7)</sup> ヲウチノ セガレダデオ ホイガ デー ス ホノ  
五郎兵衛<sup>(7)</sup> という 家の 件 だ。それが(それ)で その  
セガレワ アツダナ コンダノ センソーデ シンダノ一。  
件 は あれたら 今度の 戦争で 死んだねえ。

H コノマエ イクサガ アツテ マーノ一 ミンナ チガツテ シマ  
この前 戦 だ あ、て まあねえ みんな 違、て レキ  
ツテ。  
って。

T デ バーサンアンカワ ヤッパリ ジビキオ ヤツタンダッペケン  
で はあさんはんかほ や、ほり 地曳 E や、たんたろうけど  
アンデ<sup>〃</sup> オンナモ ズイブン ジビキ ヤツタダッペノ一。  
あれた 女 も 随分 地曳 や、たんたろうねえ。

S ソーサナー ナナジュー。  
そうさほあ セ ナ

H アンデ<sup>〃</sup> ユ ユッタリダレー フキキョー フキコガ アツタダン  
あれた<sup>〃</sup> 幾人 ぐらゐ 引き子が あ、た。だ。ら。う。

マアミ サカミイ タテワカッテ カゲマシテ ホシテ アノ  
真網 逆網 縦に分かれて 掛け回して 外して あの  
ナダエ ヒキヨセテネ ソシテ(咳) フーロオ シメテ アノ ナ  
渚へ 引き寄せてね 外して 袋 E 締めた あの  
カナオ アノ ヘツタ フーロオ マー ミンナ オンナタチデ  
魚 E あの 入った 袋 E まあ みんな 女 達で  
ユ一 シバツテ ソシテ フネサ オキエ ダシテ ヤツテネ シ  
こう 縛、て 外して 船さ 沖へ 出して や、てね し

タデスケン メンチ メンチ マー ナギ<sup>テ</sup>センアレバ メンチ  
 たのですがね。毎日 毎日 まあ 風 <sup>で</sup>まえあはは 毎日  
 ホノ マー ミズアゲガネ テキテ マ ジビキガ イチバン ハ  
 その まあ 水揚がね 出来て 地曳が 一番  
 ンバイノ ノー マー ブエ アゲルトカッテユー ハナシデシタ  
 販売の のう まあ 歩合 上げるとか いう 話 でした  
 テヤ ダカラサ マー アノ ムカシノヨニ ダカ イマデモ ア  
 よ。 だからま まあ あの 昔 の ように だから いまでも あ  
 ノ タイ ア アラ アンチユー ネダガナ タイトネ ホノ イ  
 の 鯛 あ あはは 何と いう 根<sup>(18)</sup>た<sup>(18)</sup>たかほ 鯛とね その 良  
 一 サカナガ ツーテル ナニ ウシマツノ アノ ツリブネノ  
 い 魚 が ついて いる 様に 丑 松の あの 釣 舟の  
 ミンナ アノ ヒトオノセテ ソシテ ホレ ショベニ ヤッテ  
 みんな あの 人 を 乗せて ました ほれ 商売に やって  
 ンデスケンネ ホシテ ホノ ヒトガ ホノ ネオ オホエテ ソ  
 いるのですがね。そして その 人が その 根を 覚えて いて  
 シテ ソコデ タイ ヤッパシ ツッデスツテヨ ツルト ホカノ  
 して きて 鯛 や、ほり 釣るんではない。釣ると 他の  
 サカナワ デワ ミンナゲ クレテイッテ ソシテ ジブンタチ  
 魚 は どの みんなに くらべて いて して 自分達  
 ワ イー サカナオ モッテイグツテ ハナシデスケン マダ ホ  
 は 良い 魚 を 持、て 行く、て 話 ですけど。また、そ  
 ノ イー サカナガ ネガ アツデスダテヨ ダカ マ ムカシノ  
 の 良、い 魚 が 根が あるんではない。だからま 昔の  
 ヨニ ジビキオ ヤレバ マ アノ ネジビテユー ジビキ ムカ  
 ように 地曳を やれば、ま あの 根地曳という 地曳 昔

シ オカミ ナニ一 ツキトシテ<sup>(19)</sup> アツタデスチャデヨ ソシテ  
 お上 方に 月として あ、た、というにてです。そして  
 ヘーザウラ ホノ一 ナギサオ ホノ一 イクラツチユー ケンリ  
 平砂浦 その 渚 と その いくらという 権利  
 オ ホノ ジビキガ モツテネ ソシテ アノ マー アノ一 シ  
 と その 地畝が 持、て、ね、そして、あの、まあ、あのう、指  
 キ シタデサアデヨ ホレ マー ミンナワ シラネカラ アノ一  
 揮、した、です、。ほれ、まあ、みんなは、知ら、ば、から、あのう  
 アンデスケン ンデ<sup>ン</sup> ヘーザウラ ダーノ一 ナニガ キソクガ  
 あ、れ、です、け、ど、ん、で、平砂浦、だ、あ、ね、え、。何、が、規則、の、  
 カワツテ ソシテ イマ ヘーザウラガ アイノハマノ ヘーザウ  
 変、て、そして、今、平砂浦、の、相、の、浜、の、平砂  
 ラデ<sup>ラ</sup> ネットカツチユー ハナシデサ アイノ ヘーザウラツテ  
 浦、で、た、い、と、か、と、言、う、話、で、さ、相、の、(浜)、平砂浦、で、  
 ユツテイタデサアデ<sup>ア</sup> アイノハマノ ヘーザウラ ソシテ ジビキ  
 言、つ、て、い、た、です、。相、の、浜、の、平砂浦、で、して、地畝  
 ガ ホノ ケンリオ モツテ ソシテ マー アノ ナギサ イク  
 が、その、権利、と、持、つ、て、そして、まあ、あの、渚、い、く  
 ラテユー ワタシラ ホノ アイノハマノ ケンリデシタデヨ ソ  
 ら、と、い、う、わた、し、ら、その、相、の、浜、の、権利、で、し、た、です、。そ、  
 レ、ガ、ケンリ、ナ、ク、シ、タ、カ、ラ、マ、ア、ツ、デ、サ、ア、デ、ヨ、ト、ド、ア、ツ、チ  
 の、が、権利、た、く、し、た、か、ら、ま、あ、れ、です、。あ、ら、  
 ノ、ス、ノ、ミ、ア、ジ、タ、ノ、モ、ノ、ワ、キ、ツ、ケ、リ、ナ、ギ、サ、マ、デ、ノ、ケンリ、ダ、キ、  
 の、州、の、宮、下、の、者、は、ま、ら、り、渚、ま、で、の、権利、た、と、  
 ユー、ノ、デ、ネ、フ、ジ、ャ、ラ、ジ、タ、ワ、ナ、コ、ナ、ニ、ス、ル、イ、ヌ、イ、シ、ノ、モ、ン  
 っ、う、の、で、ね、藤、原、下、は、た、こ、た、に、あ、る、天、石、の、者



ワ イヌイシノモンデ コ セメテ アラ アンナニ ナツキヤッ  
 は 犬石の者で 攻めて あら あんまり ば、てしま、  
 テ ナギサガ イクラモ ネデサアデヨ ズーット ナギサカラ  
 7 渚 が いくらも ばいである。 ぶら、と 渚 から  
 ナンゲンツテネ アイノハマノ ケンリニ キヤント ナツテタデ  
 何 間、てね 相の 浜の 権利に ちやんと ば、ていた  
 スツテヨ ソレオ アンタ ドー キゲタン シラネツ ノー ナ  
 であ、てよ。 それを あんた どう 違えたのか 知らばい のう ば  
 ニ アノ イミ<sup>(21)</sup> アノ カズマヤン<sup>(22)</sup> オトツツアノヨ ドー アレ  
 に あの 伊衛門 あの 数馬屋 の お父 さん よ どう あれ  
 シタダン シラネツケンネ ソシテ ケンリオ ホンダカラ ウル  
 したのたか 知らばい けれどね されて 権利を それだから 売ろ  
 トキニ ホノ ケンリオ アノ ナニシテ シラベテ ソシテ ウ  
 ときに その 権利を あの ばにして 調べて されて 売  
 レバネ イマデ アノ ジビキノ ナカマエ ホノ ケンリガネ  
 ばばね 未だに あの 地曳の 仲間に その 権利が  
 モラワレツテスツキヤデヨー ホレオ ガラ ムヤミニ ウツテシ  
 貰わゆるん であ、てよ。 それを つい ぶやみに 売、てし  
 マツテサ コイバイワ ビックリシキヤッタノー マツタク アノ  
 ば、てさ こばばかりは び、くりしてしま、てねえ。 全く あの  
 トキヤ。  
 ときば。

- T ニデ アイカノー アノジブンワ ヤッパイ トツタンカノー ジビキワ。  
 んで あれかいねえ あの 時分は やはり 採れたのかねえ。 地曳は、  
 H マー ジビキワ アンタヨー アレ。  
 ああ 地曳は あんたよう あれ。

S アー マ ジビキワ アッダノ ジビキワ ソートー カネニナッ  
あま ま 地曳は あ水だわ 地曳は 相当 金に付、  
タッケンノ一。

たけとねえ。

H カネニナッテ ソシテ。

金に付、マシテ。

S カネニワ ナッタッケン。

金に付 付、たけとねえ。

T アンガ ヘエーッタニカノ一。

何が 入、たのかねえ。

H エー サカナガ ヘッタデスヨ。

良い 魚 が 入、たであら。

S マー シマアジ イサギ ホイカラ タマニワ タエモ ヘエーッ

まあ 縞 鯨 伊佐木 それから 天手には 鯛も 入、た

タッケンノ一 (咳) マ イー サカナデワ シマアジ イサギダ  
たけとねえ ま 良い 魚 には 縞 鯨 伊佐木だ

一ノ イサギ タイ ンテ ナ ニー ナカニワ アジダトカサ

あね。伊佐木 鯛 んが 付 付かには 鯛だとか

アイ ムカシャー アーユー サカナワ マスッタダオ イマワ

昔 は ああやう 魚 は 安か、たであ 今 は

ネガ イッケンノ一 アジダトカ アンカチユー サカナワ アン

値が よいけとねえ。鯛だとか 付んかという 魚 は あん

マリ。

マリ。

H イサギモ カタマツトキニワ カタマツテネ ノー プレー ソ

伊佐木も 塊 ま、たときには 塊 ま、てね。かう あ水 曾

一タロネトカッキュー マー ネー カエルト カタマッテテテ  
 太郎 根とかという まゐ 根に 懸けると 塊まゝでいて  
 ホラ ヨッポド ナギノ ショーノ イー トキデネバ アレー  
 ほら 余程 風の 潮 の 良ゝ ときでなければ あれ  
 オキカラ カ カエルカラネ ショーノ グエーデ アンタ チョ  
 沖から <sup>xxx</sup> 懸けるからぬ 潮 の 具合で あんた ちよ  
 ット ヨコニ シタリアンカスルト ホラ サカナノ ナニガ ニ  
 っと 横に しにりたふかすると ほら 魚 の けいにか 逃  
 げてしまふカラ ホノ グウエーガ ナカナカ ヨイトデナウテ  
 げてしまふから 今の 具合が つかつか 容易でなくて  
 ノー。マ マ マ キノ ナゲ マ ハナシデノー。ムカシワ ホ  
 ねえ。ま ま ま 気の 長ゝ ま 話 づねえ。昔 は 本  
 ントニ タイハンデシタ アレー ネサカガッテワ ネオオコスノ<sup>24</sup>  
 当に 大変 でした。あれ 根に懸ってほ 根を起すの  
 マッテテテワ マタ ヒキアゲテサネ マタ ネサカガッテワ ヤ  
 待っていては また 引き上げてさぬ ちよ 根に懸ってほ や  
 メテ ホシテ ヒキアゲテ ソシテ ナダエ ネー ツケルマデ  
 めて せして 引き上げて せして 渚へ ねえ 着けるまで  
 ヨイトデ ネデスモノ ハンニキ ハンニキズツ カガッテヤウデ  
 容易で ないで済むもの。半日 半日 づつ つか、てしまふ  
 スモノ ソレ アンタ アツツー スナノ ウエエサネ ソシテ  
 済むもの。 あんた 暑ゝ 砂の 上にさぬ せして  
 オンナタケヤ ソシテ ベックリシテア シタエト オリテワ ソ  
 ヤ 達 は せして びくりにしてほ 下へと 降りてほ せ  
 シテ マタ コー ヤッサヤッサ ヤッサヤッサッテ ヒーテサネ  
 して また ニう や、さや、さ や、さや、さ、さ、さ 引いてさぬ

ホッホッ マータ アンタ ホラッツイアイト ノー サツケエン<sup>(25)</sup>  
 ほ, ほ, まあた あんた ほら, であ, て ねえ 左久衛の  
 アノ アソノ ジーサンノ メダッケン サツケノ ダンナガ  
 あの あやこの じいさんの 前だけと 左久衛の 旦那が  
 イケド シリサ アノー シツテタオリニ<sup>(26)</sup> キテ バサンガ ホノ  
 一度 後に あのう し, であ おりに 来て ほあさんがその  
 オヤガネー アツツペツチ ホラ アツツペカラ ア ホラ アー  
 おやか 暑いたろう, て ほら 暑いたろうから あ ほら ああ  
 ツチ キョード ミンナガ オツ ジブー ジビー ファーズニ  
 とい, て ろうと みんぱが お, 地曳 地曳 引か, ばに  
 オヤジノ ア ジブンノ ムスユノ ヘーホー オツテルキユツテ<sup>(27)</sup>  
 おやじの 自分の 息子の 躰 と 追, いてとい, て  
 ワ ミンナ ワラッタッタッケンネ マッタク アツツーデスカラ  
 ほ みんぱ ねら, たことかあ, ただけとね 全く 暑い, て, ねから  
 ヨ アツツー サナカオ ソシテ マー ヨー マーツチ ワタシ  
 と 暑い 最中と やし, て まあ よう 全く ねたし  
 ラ シツ~~xx~~ コドモ ブツテイツテ ソシテ マー ホーン ホント  
 ら 子とて 背負, て やし, て まあ ほふん ほんと  
 ニ マー ヤッタッケンネ。  
 に まあ や, ただけとね。

T ナンガツカラ ナンガツダレマデ ヤッタンカイ。  
 何月 から 何月 ぐら, まで や, たのかい。

H エー。  
 ええ。

S ナンガツカラ。  
 三月 から。

H モトワ ミガツダッタデノ一 ミガツダツケン コシダ サンガツ  
元は 四月だ、たゞねえ、四月だ、たけと 今度は 三月  
ノ一。

のう。

S サンガツカラ ロクガツマデ ゴガツ イッペダノ一。  
三月 から 六月まで 五月 いっはいだねえ。

T (咳) ナンジゴロカラ ヒーダスダカ。  
何時頃 から 引き出すたか。

S エー マー ショトキニヨツテダカンノ <sup>xxx</sup> ア アサ ニジゴロ イ  
ええ まみ 潮時 によつたからね。 朝 二時頃 行  
グトキモアル ジュージゴロ イグトキモアルサ マー ショト  
く と き も ある 十時 頃 行くときも あるし、 まみ 潮時  
キ シオノ カゲニデ イグダ ヤニダカンノ ニダカラ ナンジ  
潮の 加減で 行いだ やるんだからの だから 何時  
キューコトワ デキネ イワンネーワノ。  
ということ は できない しゃべれないねえ。

T アサノ ニジゴロカラ ヤシノカイ。  
朝の 二時頃 から やるのかい。

S アー ニジゴロカラ デテッテサ。  
あめ 二時頃 から 出て行、ね。

T ホー。  
ほう。

S テンタマ アガラ <sup>xxx</sup> アガラ <sup>xxx</sup> アガルカ アガラネートキ ショーベーシ  
天道様が 上がるか 上がらないとき 商売 し  
テサ キュートキモアル マタ (咳) ショトキニヨツテ ジュージ  
マシ というときもある。また 潮時 によつ 十時

ゴロ ミナトカラ デルトキモアルサ マ ンサ アサ ジュージ  
頃 港 から 出るときもあるま ま 朝 + 時

ゴロ イグトキガ ~~~~~ ニジゴロ イグトキガ イチバン コ  
頃 行くときが 二時頃 行くときが 一番 こ

ノ イダオ (咳) マー アンダナー サカナアンカキューノワ ア  
の ~~~~~ じよ。 まあ あれた<sup>じよ</sup> 魚 なんかというもあけ

ノ<sup>xxxxxx</sup> アノジブンノ カンゲシタグレ ヒヤクブシノイチシカ イ  
あの時分の 考えをしたら 百分の一しかい

ネーノー アジアンカ アンナモノワ トッタッテ ゼニンナラネ  
はいねえ。 鯨 なんか あんまりものは 採ったて 銭にたらない

ツペ ナラネカラ アンナモナ ミンナ クレタリ オカズニシキ  
たろう たらはいから あんまりものは みんな くれたり おかずにして

マツタリ<sup>(お)</sup> シタツケンノー イマ ホノ アジガ ネガ ヨーテ  
しまたり したけどねえ 今 その 鯨が 値が 良くて

-----  
-----

T ニギ アイカノー イクラグレ トレタンカノー。  
んじょ あいかわねえ 幾らぐらい 採れたのかねえ。

S ソーサノー マ イチンチ マ イサギガ イサギアノカデ アッ  
そうさねえ ま 一日 ま 伊佐木が 伊佐木なんか? あい  
ダノー イチンチ シ <sup>xxx</sup>ゴヒヤツカンモ ヘーレバ イホーダツタ  
だねえ 一日 四 五百 貫 も 入れは 良<sup>い</sup>た<sup>ら</sup>た  
ノー アン シマアジアンカダ<sup>ダ</sup> ニヒヤツカン ヘーレバ ダイリ  
ねえ あん 精 鯨 なんかだ<sup>と</sup> 二百 貫 入れは 大  
ヨダカンノー (咳) デ<sup>デ</sup> シマアジキュー サカナワ アンマリ タ  
漁<sup>た</sup>からねえ。 <sup>じ</sup> 精 鯨<sup>つ</sup> という 魚 は あまり 沢

クサンナ シナデ<sup>レ</sup>ネダ<sup>ク</sup>カンノ ヒトアキニ サンビ<sup>ヤ</sup>ツカン ヨン  
山 頂 品 だ<sup>レ</sup>ア<sup>タ</sup>からぬ ひと秋に 三 百 貫 四

ヒヤツカン トレバ マ ヨツキ イツツキノウチノ ヨンヒヤツ  
百 貫 採れば ま 四月 五月 のうち 四 百

カントレバ イーホーダ<sup>ツ</sup>タノー マー イサギ<sup>ア</sup>ンクワサ マー  
貫 採れば 良<sup>イ</sup>ネ<sup>タ</sup>だ、たぬえ。まみ 伊佐木<sup>ア</sup>んか<sup>ハ</sup>ま<sup>ミ</sup>

シ<sup>xxx</sup> ゴセンガングレ フトアキ<sup>xxxxxxx</sup> ヒトアキダカンノ ゴセンガング  
四 五千貫ぐらい ひと秋 ひと秋<sup>タ</sup>からぬえ 五千貫ぐ

レ<sup>xxx</sup> トラネバ オイネ<sup>ツ</sup>タツケン マー コツデ<sup>ヨ</sup> ヨンヒヤク  
らい 採らなければいけ<sup>タ</sup>か、た<sup>レ</sup>ぬえ。まみ 二<sup>レ</sup>で 四 百

エン カセダ<sup>ト</sup>シ<sup>ト</sup>シガ<sup>イ</sup>チバン<sup>デー</sup>リヨ<sup>ダ</sup>ツタノー ヨ  
円 稼いた<sup>xxxx</sup> 年か 一番 大 漁<sup>タ</sup>だ、たぬえ。四

ツキデ<sup>ヨ</sup>ンヒヤクエン。

月で 四 百 円。

T<sup>ン</sup>デ<sup>グ</sup>アイリヨ<sup>ント</sup>キワ<sup>アイ</sup>カノー<sup>ミン</sup>ナ<sup>ヤ</sup>ツパリ<sup>マイ</sup>ウ  
んで 大 漁<sup>ア</sup>ときほ<sup>み</sup>ぬか<sup>ぬ</sup>え<sup>み</sup>ん<sup>ア</sup>や、<sup>ハ</sup>り<sup>万</sup>祝

E<sup>ア</sup>ンカ<sup>キ</sup>タンカノー。<sup>(29)</sup>

ア<sup>ん</sup>か<sup>着</sup>た<sup>の</sup>か<sup>ぬ</sup>え。

S<sup>ア</sup>ー<sup>キ</sup>タノー。

あ<sup>み</sup>着<sup>た</sup>ぬえ。

H<sup>マイ</sup>ウエ<sup>サン</sup>カイ<sup>キ</sup>タカイ<sup>ジ</sup>サン。

万 祝 何 回 着<sup>た</sup>か<sup>い</sup>じ<sup>さん</sup>。

S<sup>サン</sup>カイ<sup>マイ</sup>ウエ<sup>サン</sup>カイ<sup>キ</sup>ヲノ。

三 回 万 祝 三 回 着<sup>て</sup>ぬ。

H<sup>ハ</sup>ー<sup>ノ</sup>ー<sup>オ</sup>ラ<sup>イ</sup>マダ<sup>ニ</sup>-----。

ほ<sup>み</sup>の<sup>う</sup>お<sup>ら</sup>乗<sup>た</sup>に-----。

S マー ナニ エート ヨンジューネンノウチ マイウエ マイウエ  
ま かに ええと 四十 年のうち <sup>xxxxxxxx</sup> 万祝

キューノウ サンカイ キタツケンノ。

マウアハ 三回 着たけどね。

T (咳) アイカノー マイウエ キューノウ ヤッパリ アノ タノ  
あかかぬえ 万祝 マウアハ や、ぱり あか 頼

ンデ ソメテモラウンカノー。

んで 染めてもらうのかぬえ。

S アー。

ああ。

H アイ タノンデ ソメテモラウ。

あゝ 頼んで 染めてもらう。

S ダー ホノ ホノ マイウエオ アンダデ<sup>カ</sup> カイ カイ キタモン  
その その 万祝を あかた<sup>カ</sup> 買いに来た者

ガ アツテノ ミンナ ウッチャッタッペオ ダカ イマ アイノ  
が あ、ぬえ ほんほ 行くほ、まほ、ただらうほ。だから 今 租の

ハマデ<sup>カ</sup> マイウエ アンカ キモノアンカキューノウ ネーゼン  
浜で 万祝 ほんか 着物 ほんかというものは 無... 全

ゼン ネーノ。

然 無...ぬえ。

T アイカネ バアサンアンカサー アノー ショトキニヨツテ ニジ  
あかかぬえ ばあさん ほんかまあ あかう 潮時 にお、二時

ゴロカラ フネガ デタ アンカーキユバ ヤッパリ イッショニ。  
頃 から 船が 出た ほんかといえは、 や、ぱり 一緒に。

S ヤッパリ イッショニ デネバ オイネノー。

や、ぱり 一緒に 出たけぬは、 いけほんぬえ。



H イッショニ イッテ。  
一 緒 に 行、て。

T ウン。  
うん。

H イッテテ ミンナ ホラ アノー ミンナ ヨソノ トシヨリガ  
行、て みるほ ほら みるほ よその 年 寄 が  
アルカラ ハヤ デテクレテノ シルケン ワタシラワ アンデシ  
あるから 早く 出、てくわ、てね するけど 出、てしらは みるほ  
タヨ デー コドモン ガッコーエ イグニモ コマツキマワカラ  
たよ。でえ 子どもの 学校 へ 行くにも 困、てしうから  
ホレー ハーホ オッテランネカラ チヨイミン<sup>(30)</sup> アノ コドモ  
ほれえ 蠅 追、ていらねから 長衛門 みる 子どもの  
ガ イグモンデネ タノンデワ ホシテ オメラワ イグトキニワ  
が 行くものね 頼、てしほ せして みるたらほ 行く ときには  
ツレテッテ クラツシエー チッテネ ホシテ デテイッタデス  
連れ、て行、て くた、さいよ とい、てね せして 出、て行、たぞ  
ヨ ウン マー マツタク ヨーイトネ ワタシラー イッコネ  
よ うん まみ またく 容易ではほ 出、てしらは 一向にね  
アンタ オブツテ イグダカラ オブツテ カゴオ コー ヨコニ  
みるた 背負、て 行くのだから 背負、て 籠 へ こう 横に  
ショツテ ホシテ デテイッターネー ンダカ ワスレラレネモン  
背負、て せして 出、て行、たみるほ んだから 忘、れらねほのもの  
ネ デー シベキノ オカゲデ ワタシラモ ネ アントカ マー  
ね。でえ 地曳 の お陰で 出、てしらね ね 何とか まみ  
アッデスヨ タベテイカレタデスヨ デネバ ナカナカネ オヤ  
みるほよ 食、べてい、か出、たぞよ せ、てしほ ね、てしほ ね、てしほ ね、てしほ 親

ジ ヒトリノ カセギデワ コドモ一 タベサセテネ クラスゴト  
 父 一人の 嫁 でお 子どもも 食べさせてね 暮 るとは  
 デキネッタデスヨ デン マ ジビキノ オカゲデ ソシテ マ  
 できなかつた。でも ま 地曳の お陰で そして ま  
 アツデシタワ ナントカネー。  
 あいでしたよ ほんとかねえ。

丁 ダツケン サビッタッペヤデ アサ ハヤク。  
 だけど 寒か、ただろうに 朝 早く。

H エー サビーニ アンタ ~~~~~ ホッカブリシテサー ホーヤッテ  
 ええ 寒いのが あんた 頬 冠リしてさあ そうや、  
 コドモニモ マッパイ ナニスダカラ ワタイレガモヤオ<sup>(91)</sup> アノ  
 子どもにも や、ほり ねに するんだから 綿入れかもや あ  
 オイテキキヤツタリ カモ カンコ<sup>(92)</sup> オイテキキマツタリシテネ  
 置いて来てしま、たり かも かんこも 置いて来てしま、たりしてね  
 ソシテ アノ シテ マツタク ヨイトデネッタデサ アツツト  
 そして ああ して 全く 容易で ほか、た、でさあ 暑いと  
 アツツトキワ アンタ マタ バカアツツーテサネ ヒルイエ  
 暑いときほ ああ、た、また 馬鹿暑くてさあ 風の 盛り  
 ナレバ テツテ タイヘンデシタワ マー ミンナ カサ カブッ  
 ねば、照、て 大 変 でしたは ちあ みん、 笠 かぶ、  
 テ ナイシ ワタシラー コドモガ イテテ カタ カサ カブラ  
 て いたし、ねたしらは 子どもが 居て、<sup>xxxx</sup> 笠 かぶら  
 ンネ ウツツシカンノ カサ<sup>xxxx</sup> カサナシデ セナカワ ビツシヨリ  
 れた、 どうし、からね 笠 ねして 背中ほ び、し、り  
 ねー アセケテ デン コドモモ オトナシユー アレ シテ ダ  
 ね 汗かいて。でも 子どもも おとほしくて みれ して た

カラ ワタシラーネ コドモガ アッデシタデヨ カミサマミタヨ  
から 中たしらぬ 子どもが あいびるア 神 様みたいな様

ニ マー オトナシユー シテクレタカラ マー アントカ コー  
に まい おとほしく? しにくれたから まい ほんとか こう

ヤッテ キリヌイテ ケーラレタダカラ ダカン マー オヤ オ  
や? 切り抜けた 乗られたのだから。だから まい <sup>xxxx</sup> 親

マワ ヤッパシ コドモデスカラヨ アンモ ニクテー マー ネ  
は や、ほり 子どもで可からよ。ほにも 憎くて まい ね

一 シツケルワケデ ネットン ヤッパリネー コドモワ シツケ  
え 躰けるわけ? ほいけど や、ほりねえ 子どもは 躰け

テ イマワ ホラ カワイカラネ フタリグレシカ コドモガ ネ  
て。今は ほり 可愛いからね 二人ぐらしか 子どもが ほ

カラネ オヤガ カワイガ ッチャッテ トシヨリガ アンタ <sup>xx</sup>  
いからね 親が 可愛いから、ちや、年寄が あんた

アノー コゴト ユート ヤッパリネ イクラ コドモノ コダ  
あいう 小言を言うよ や、ほりね いくら 子どもの 子た

カラ ッチユテ マー エンリヨナシニ シタクレネ キモクワルガ  
からという 遠慮なしに したりするからね 気持ち悪か

ルカラネー ハー (笑) コノゴロア アキラメテネ (笑) スルケ  
るからねえ。はい この頃 は 諦めた 可るけ

ンネ マー <sup>xxxx</sup> イヤ コドモデスヨ センセー エー カワイバ ヤ  
だね まい 子どもで可よ。先生。ええ 可愛いければや

ッパリ <sup>xxxx</sup> カワ アノ カワイガ ッテ ソダテタ コワ イママデワ  
っほり あの 可愛いから、育てた 子は 今までほ

ネ オヤココシタ コドモワ マリマセンヨ。\*  
ね 親孝行した 子どもは ありませんよ。

T ジビキアンカ ヤリナガラモ ミンナ ウタアンカ コー ウタイ  
地曳 ほんか やりながらも みんな 唄 ほんか こう 歌い  
ナガラ ヤッタンカノー。  
ほんか や、たのかねえ。

H ウタ ウタイナガラ ヤッタデスヨ オンナタケワ。  
唄 歌いほんか や、たですよ。女 達ほ。

S アー オンナタケワノー。  
あゝ 女 達ほねえ。

H ウーン。  
うん。

T ド<sup>xxx</sup> ドンナ ウタ ウタッタンカノー。  
どんほ 唄 歌ったのかねえ。

H ウン アゲテ <(唄) ハーエー アゲテ オクレヨ エ ウワゴシオ<sup>(33)</sup>>  
うん 上げて ほみええ 上げて おくれよ え 上 腰 E  
キュートネ ホカノ シトガ <(唄) アラ ヨーイトネ アー ア  
って言うのとね ほかの 人が あら よういとね あゝ あ  
リアアリア アリアサ >ツツテネ ホシテ ケカラ イレテ コーヤ  
リアあリアあ ありあさ、ってい、ね。そして カ 入れて こうや  
ツテ ソノ ヒョーシテ" コーヤツテ。  
って その 拍子で こうや、て。

S アー。  
あゝ。

H <(唄) ハー エー オキノ マネ<sup>(34)</sup> ミロ センリョバコ アラ  
ほみ ええ 沖の 真似 見ろ 4 両箱 あら  
ヨーイトネー アラ ヨーイトネ アー アリア アリア アリア  
よういとね あら よういとね あゝ ありあ ありあ ありあ

サ> ツツテネ ソシテ ミンナ ソシテ ヤッテタデスダヨ ニー  
さっといえね。やうして みんな やうして やっていたであらう。

ハンニチ。

羊 日 。

ト ハー。

ほみ。

ト ハンニチ ヤッテ ソツテ" マタ ケールトキャネ ハー コツテ"  
羊 日 ヤッテ それで また 帰る ときほみ ほみ これで  
イヤエ ッチテネ ホツテ" マー アノ ホノ ニー ホツトシテサ  
良いたらうてね それで まあ あの その ほみとしてさ  
ネ ンデ" マー ナガノウラダカラネ ダマツテ コネ ワタシラ  
ほ んで まあ 長 の 浦 だからね 黙 して 来ない。わたしら  
ー アノ アノー ナニノ オー ホラ オッキエノ アノー ト  
ほ みの あのう ぼにの おう ほら 船 頭 の あのう 藤  
ー スケン<sup>(35)</sup> バーサント ロクサーガ<sup>(36)</sup> ウタ ウタツテネ ワタシ  
助 の ほみさんと 六 佐 が 唄 歌 ったね わたしほ  
コドモ ブツテーカラ ハヤシ シテ ウター ウタツタコトネー  
子ども 背負 っているから 囃 して 唄 歌 ったことほみえ  
ノ ムカシャ アワブシノー ヨー ウタツタツケン ツイシカ  
の 音 は 安房 節 ねえ よう 歌 ったけれど ついに  
ワレワレワ ホノ アワブシオ ウタツタゴト ネーカンネ ヤッ  
かれわれほ その 安房 節 を 歌 ったこと ぼみからね。や、  
パイ ダカラ コドモモ アンデモ ヤリツケサシタホーガ イッ  
ほり だから 子どもも ぼんでも やりつけさせた方が 良  
い  
ペ ネ クチグサニ シタリ マ ヤツタリ シタリ シグト ウ  
だらうね 口 癖 に したリ ま やったリ したリ すると 億

ック一デナクテ マー キガツイテ ヤレル ヨシ ナリマスカラ  
 劫 で 行くて 手あ、 気がついて やれる ように 手り手あから  
 ヨ ホシ アタシガネ マッパイ イマ コーシテ ウタ ヒトツ  
 よ。それ わたしがね や、ほり 今 こゝして 唄 ひとつ  
 モ ウタウヨニ ナツテシマスケン ウタドコデ ネットカンネー  
 も 歌うように 行、てしまふけど 唄とこゝろで 行か、たからねえ  
 ウタワネットタツケンネ。  
 歌わねか、たけれどね。

T ジサンモ アイカイ アノー ジビキノ オッキエー マツタンカ  
 じいさんも あれかい あう 地曳の 船頭 や、たのか  
 イ。  
 い。

S シン アラネ ホノウチ ハー ウッチャッタモン。  
 ん やらない。やうら はみ 売、てしま、たもの。

T ウン デ ジサンワ ケズケノ オッキエワ ズイブン <sup>ナガ</sup> ナ  
 うん で じいさんほ 海付の 船頭 は 随分 <sup>xxxx</sup> 長  
 ガウ マツタッペ。  
 く や、たでしょう。

S アーン ソラー マツタツケンノー。  
 あめん そうあ や、たけれどねえ

H ワタシラー アツダモンネー。  
 わたしらあ あれたものねえ。

S コガ コガ マイベツキュー ジキカ キタトロノ ハー モー  
 子どもが子どもが やろうという 時期が 来たところ はみ もう  
 ダメダカラ ウッチャウベ シツノ ハー シューセンダッペ  
 だめだから 売、てしまおう とい、たの はみ 終戦 たろう

シューセンデネ イクサガ<sup>(37)</sup> ハジマッチャッ tappo ンデ ハ ア  
終 戦 ではない 戦 かも 始 ま, ち ま, た た だ ろ う そ れ で ち  
ンモカンモ ハー ダメダカラ デア ウルバーシテサ マ チョ  
にもかにも た ぬ だ から だ け 売 ろ う と い っ て ま 朝  
一センジンガ キテ イヤンバーニ アノ トージ アンモカンモ  
鮮 人 かも 来 て いい 控 排 に あ の 当 時 ち にもかも  
ゼンブデモッテ ロッピャクエン グレダ ッタネ ウン。(咳)  
全 部 ま と め て 六 百 円 ぐ ら い た だ ね。うん。

ロクシッチャクエンデ ウッテ エ ロクセンエンカ ロクシチセ  
六・七 百 円 で 売, て え 六 千 円 か 六・七 千  
ンエンデ ウッテナ ナナセンエンダレテ ウッタッポオ イッケ  
円 で 売, た ち 七 千 円 ぐ ら い で 売, た だ ろ う よ。一軒  
ンメ ゴヒャクエングレスツ ワケタカンノー。  
前 五 百 円 ぐ ら い づ つ 分 け た から ねえ。

T ニー ケーズケンー オッキエ ヤッテット ヤッパリ ムツカシ  
うん 海 付 の 船 頭 や, て いる と や, は っ り む ず かし  
ノア アンカノー。  
いのほ 何かねえ。

S マー ケーズケノ オッキエ シテ ムツカシモア ムツカシッケ  
まみ 海 付 の 船 頭 して む ず かし も あ っ て む ず かし け  
ン アンダノー アッパリ ~~メカ~~<sup>(38)</sup> メカリダノー アー ソノ ワ  
ど め れ た ねえ や, は っ り 目 錨 り た ねえ。あみ ち の 若  
ケーウチダカラ ヤマー<sup>(39)</sup> キ ャ ッ カ イ ワカッ ダ ッ デ モ ワカ イ  
い う ら た だ から 山 は し っ か り わ か 誰 れ で も わ か る  
ケンノー ワカルケモ マー コノ コノ シ オ ガ コ ッ チ ー  
けどねえ わかるけどもまみ この この 潮 かも こ, ち の オ

ト マワルトカ アッチート マワルトカシテノ ソノアタマー  
へと 回るとか あ、ちへと 回るとかしてね その頭み

ツカラ ヤッパリ ツカウダカンノ一 (息を吸う音・咳) コノシ  
xxxxxxxx  
や、ほり) 使うた"からねえ。 この

ヨニア コノショニア ハリイカリガ<sup>(42)</sup> イートカ エ コノショデ  
潮には この潮には 張 錨 が いいとか え この潮で

ア ツボイカリガ<sup>(43)</sup> イートカノ デ マ イロンナゴト一 ジブン  
は 壺 錨 が いいとかね。で ま いろいろことと 自分

デ カンゲテ ヤッテ ホイガ マ フツ一 フツ一ワ ミッカ  
で 考えて や、て それが ま 普通 普通は 三日

デレバ フツカバタライノ デ ワリニンゲンガ<sup>(44)</sup> ヤッタグレ ワ  
出れば 二日 働まね で 悪い人間 が や、たりすると 悪

ルーシタグレ フツカガタ イチンチデモッテ ミッカガ イチン  
く すると 二日 一 一日 ても、て 三日が 一日

チデ" フツカガ ハズレチヤウカンノ ソコダ リョーシチューモ  
で 二日が 外 れてしまうからね。そこの 漁 師、ていうも

ンワノ メイカリシッテ (咳)。

のは 目 錨、といて。

H デ タイヘンダッタペノ一 ムカシャノ一 ボーケノアンカ セン  
で たいへんだ、たろうねえ 昔ほねえ 棒受のつかか 船

ドースル ト一モッタトラ オラ マタベノ オジサンガ コノ  
頭 あり と思、たところ おら 又 平の 伯父さんが この

ボーケガ ヤ アンテユーカ アタマガ ワリリダンアジヨダン  
棒受が や 何て言うか 頭 が 悪いのた"かどうた"か

イッコ リョーガ キャーテウテノ オラー アノ ナニ オッカ  
一向 漁 が 利かなくてね おらみ みの なに おらか



一ガ コッババリ トッテキテ ヨソノ オカズグレン モンダト  
 あか これ位ばかり 採ってきよ よその おかみぐらいの ものだ<sup>(45)</sup>と  
 カ アンダトカ シテ アノ トキオツカキューノガ モグッテ  
 か 何だとか いて ああ とき おっかあというのか 潜って  
 シブンガ カセグカラノ ホシテ オジサンガ オラー カワイソ  
 自分か 椽ぐからね 出して 伯父さんか おらみ かわいイ  
 がッテ ホラ オンダガ オンナオヤガ セーハチ<sup>(46)</sup> アンダーヨ  
 かって ほら おれらが 女 親か 清八 あれだあよ  
 キョウノ アレ サンヤサマダカラ<sup>(47)</sup> オキヤガ デキテツカラサ  
 今日ほの あれ 三夜様だから お茶か できて いるから  
 オキヤノンデ イガッシエヨウツテ ヲツテノ ホシテ シタッタ  
 お茶飲んで 行きなさいよ、て 言、てね 出して したけ  
 ヲケン タイヘンデシタヨ ミンナ アノ ホノ アレ ヲツン  
 と 大変 でしたよ みんな ああ 今の あれ 何艘  
 デテタダオカ アイノハマデ ノー ボーケノ ノー ナンニヤ  
 出たのだから 相の浜で のう 棒受の のう 何には  
 ナンゾッテ アッタッペ ノー。  
 何艘と あ、ただろうねえ。

T ホノシブンワ ナンゾグレ アツタンカノー。  
 今の時分は 何艘ぐらい あ、たあかねえ。

S ソーサ ボーケカイ。ボーケワ ヒヤクニジュー ヒヤクニジュー  
 棒受かい。棒受は 百二十 百二十  
 ナンベツキューノガ イキバン ヲケダッタノー。  
 何ぼい、ていうのか 一番 夕か、たねえ。

T ホー。  
 ほう。

H ホカノ タビビト イレテヤッダデスダヨ ムカシア ウーン タ  
 外の外の 旅人を 入れてや、たんですよ 昔は。 ううん  
 ビカラ キーキンドリオ タノンデ" イレテヤッタ ダカラ トラ  
 旅から 給 金 取りを 頼んで 入れてや、た、だから 採ら  
 ネット タイハンダ" ウン アノ センドワ ヨーイトデネッタ ウ  
 ほんと 大変 だ" うん ぬの 船頭は 容易で ほか、た。 う  
 ン ノー リョーノ キューモンモアル キャーネモンモ アッテ  
 ぬのう 漁の 利く者も あり 利かほい者も あって  
 ノー ボーケガヨ リョーノ キューモンモアル キャーネモンモ  
 ねえ 棒受かよ。 漁の 利くもんも あり 利かほい者も  
 アッテ ホシテ オメ ゴンシロマリワ<sup>(48)</sup> ノー イッコ リョガ  
 あ、て して お前 権四郎丸 はねえ 一向 漁か  
 キャーナウテ トートーノー アレシキマッテ。  
 利かほくて どうとうのう ぬれしてしま、て。

S ハチ ハチジッペ グレン ジブンガ イチバン サカリダッタノ  
 ハ ハチほいぐらいの 時分が 一番 盛りた、たね  
 ー ウーン ダンダン ダンダン スクナウナッチャッテサ シー。  
 え。 ううん だんだん だんだん 少ほくなってしま、てさ。 しい。

H モトワ イチイチ ワセンオ ヒータデスヨ ノー イマワ キカ  
 えは いらいら 和 船を 引いたてすよ。 のう 今は 機  
 イセンデ" ウケッパナシデ" ツート イグニモ ナニカラ クツヘ  
 械 船が 浮け、ほろして" つうと 行くにも ぼろから 靴はい  
 テ ピョットト イガレッケン モトワ ハダシデモッテ アノ  
 て ぬいと 行かれるけと" えは 裸足でも、て ぬい  
 ホノ アンデ" ヲマデ" イチイチ ノセジラ<sup>(49)</sup> コー ナラベテ フネ  
 その ぬれてすわて" いらいら 乗せじら ころ 並べて 船

ダシテ ヤッターカラ オンナタケモ タイヘンダッタ ノー ホ  
 出して や、た、の、た、から 女 たらも 大 変 だ、た、 の、う、ほ  
 ントニ ヨイトノ ハナシデネッタ オンナタケモ オトドモト  
 んとに 容易の 話 で、た、か、た、 女 たらも 男 共 と  
 イツシヨニネ イツテサ シラオ アゲテ クツダサデヨ シラオ  
 一 緒 にね 行、て、さ しらエ 上げて 来るんで、た、ま、し、ら、エ  
 イチイチ アゲルダカラ ヨーイトノ ハナシデネ ノー。マッデ  
 いろいろ 上げ、る、の、た、から 容易の 話 で、は、い、い、の、う、。ま、た、で、  
 コンドア サンマンナツテ サンマオ オトハ<sup>(50)</sup>マンホエ ヘーツテ  
 今度は 秋カ魚に、な、て、秋カ魚を 乙 浜 の方へ 入、つ、て  
 ノ (ネー チョーダイ) ホツデ アレー マー オトドモモ ヨ  
 ね <子どもが、入、て、くる> それで、 あれえ、 まあ 男 共 も 容  
 一イトデ ネットワノー。  
 易で、 た、か、た、わ、ね、え。

T ホンデ アノー ハナシガ カワッケン アノー シンサイ<sup>(51)</sup>デワ  
 それで、 あのう 話 が 変、る、け、ど、 あのう 震 災、で、は  
 ホ ホノ シタマデサ ナミガ キチヤッタツチヤデ ノー。  
 は、ま、の、下、ま、で、さ、 波が、 来、て、ま、た、て、い、う、で、ね、え。

S ウン ウン ソダノー。  
 うん うん そうだ、ね、え。

S シンサイア アツダオー マ チョード オラー ハマカラサ オ  
 震 災、は、 あれた、よ。ま、ち、よう、ご、 おらあ、 浜、から、さ、あ、  
 ヒンネ ウチエ アガツテ キタダオ ウチエ アガツテ キテ  
 昼、に、 家、へ、 上、か、つ、て、 来、た、だ、よ。家、へ、 上、つ、て、 来、て  
 ホイカラ ハマ<sup>xxxx</sup> ハマカラ オマンマダヨシテ ヨビー キタカラ  
 それから 浜、から、 おまんまた、よ、て、 呼び、に、 来、た、から

キョード デタシタトロ ンデ ジューニジ マー ジュッポンメ  
 ちようど 出たしたところ せいで 十二時 ちよ 十 分前  
 グレダッタノ一 ホット キョード ジンジャ ウチカラ ジンジ  
 ぐらいたたねえ そうすると ちようど 神社 家から 神社  
 ヤノ アイダグレ イツタトロ ジシンダッペ ンデ バサンガ  
 の 間ぐらゝ 行、たところ 地震だらう せいで はあさんか  
 ヒトリ ネテカンノ ホラシテ ウチー ~~モド~~ ~~モド~~ ~~モド~~ ~~モド~~ モド ヲツテ アルア  
 一人 寝ているからね くら、て 家へ 戻、て 歩かれ  
ン ネットオ モド ヲツテ イツテ バサン ブーベシ ツタトロ バ  
 ンカ、たよ。 戻、て 行、て はさん 背負うと したところ は  
 サンワ オラ シンデモイ一カラ ネゲロネゲロシテ オガゴト  
 あさんけ おら 死んでもいいから 逃げろ 逃げろ とい、て 俺れがと  
 ユーダオ キョード コマツキヤッタ フトツデモツテ エ ホノ  
 言うたよ。 ちようど 二つ、てしまった 一人 ても、て。 その  
 ハレ イーヤンベニ (咳) オジサンガ キテサ ホレ ブツテ デ  
 うら いい控排に 伯父さんが 来、て、 それ 背負、て 大  
 一カインヤママデ <sup>(52)</sup> ネゲタダ デーカイン ニワマデ ネゲテイ ヲツ  
鑑院 山 打、て 逃げた 大 鑑院 庭 打、て 逃げ、て 行、  
 テ ホイカラ ハマエ キタツタラ ハ フネマン フネ ハ ナ  
 て それから 浜へ 来、てみたら は 船 フネ 船 は 流  
 ガレテイツキヤウサ ホイカラ アンモカンモ ミンナ ハ ナガ  
 れてい、てしま、うしよ それから 何もかも みんな は 流  
 レテ ナガレキヤッタカラ ウチー キテ アンシタツケン アン  
 れて 流れてしま、たから 家へ 来、て あれと した、けど あれ  
 ダノ一 ハー シンサイデワ ミンナ ズイブン ナンギ シタツ  
 たねえ はあ 震 災 じゃ なんだよ さいふん 難儀 した

ペオー。  
たろう。

H マツタク ナンギシタワノ一。  
全く 難儀したわねえ。

S ツブレタ ウチガ ナンゲン ゴロツケン アルシサ。  
潰れた 家が 何軒 五・六軒 あるレ。。

H ジシンデ ツブレタ ~~~~~。  
地震で 潰れた ~~~~~。

S マ ナミワ アンダノ一 ナミワ <sup>xxx</sup> ソート <sup>xxxxx</sup> アガッテ  
ま 波は ぬれたわねえ 波は 相当 上がった。

マ ジンジャノ ウシロマデ アガッタダカンノ ジンジャ ナミ  
ま 神社の 後 まで 上がったからわねえ 神社 波  
ワ アゲタンネカノ一。

は ぬけたのでは つかいかわねえ。

H コシドリデ キット スンダダヨ キット ナンミヤノ一。  
腰取りで き、と 滑んだんだよ き、と 波はねえ。

S サカナアンカ ヘンナ サカナ オンモリ ブッチャガッテタカン  
魚 ほんか 変な 魚 沢山 打ち上がったいたか

ノ一 (笑) ブッチャガッテ オヨッテッダヨ タマリコエ ウン  
らねえ 打ち上がった 泳いでるんだよ 溜り穴へ。うん

ホイカラ <sup>xxx</sup> シンサイノ アシタダナ アシタワ (咳) ヒョガ  
それから 震災の 翌日だわ 翌日は 潮が

ズーット ヒチャッテルモンダカンノ ハマエ ハマエ イッテ  
ずう、と 干して、たものだからね 浜へ 浜へ 行、て

アワビダノノ トコブシダトカ アワビトカ サデトカ トッタモ  
鮑 たのね 常節たとか 鮑 とか 菜螺とか 採、た者

ンガ アルヨ ウーン。

か みるま。うらま。

H へーザウラガノ へーザウラエ ズート……オラ コドモ一カ  
平砂浦がね 平砂浦へ ぼろ、と うらま 子ども 牡  
キオ アノ ハンギリテ<sup>(53)</sup> イッペ トツテキテノ ホシテ マシ  
編をみる 羊 切で い、ほい 採、てきてね やして まし  
タ ホーノトキ ミンナ アノ ショテ<sup>(54)</sup> エー モノガ オケコバ  
た。やのとき みんなみる 潮、て 良い 物が 桶・小  
牛ニヨラス<sup>(55)</sup> アンニヨラス<sup>(56)</sup> ナガレテ キテテノー ホンデ<sup>(57)</sup> マ  
鉢によらす<sup>(58)</sup> 何によらす<sup>(59)</sup> 流れて 来たのでねえ。やれて<sup>(60)</sup> ま  
ー アノ ヒトノ ナンギダカラ ヒロワンネテ<sup>(61)</sup> キチジロン<sup>(62)</sup> シ  
みみるう 他人の 難儀だから 拾わ行い<sup>(63)</sup> 吉次郎のし  
サンガノ ココニ イテテ ~~~~~ ヤッドモ アノ アノ モッ  
さんがね ここに 居て 野郎共<sup>(64)</sup> <sup>xxxx</sup> 何ぞ 持、  
てきた アンカッテ オコラレテヤ ホシテ ミンナ ア ホエ  
て来た ほんかとい、て 怒られて、 やして みんなみる やこへ  
ウッチャッテキタ ナンチテ ハナシガ アッケン オラ コドモ  
打ら捨てて来た ほんとか 話か みるけど<sup>(65)</sup> うらま 子ども  
モ モツテキタカラ ホレ ワタシラ ニテ タベタデスヨ ソシ  
も 持、て来たから やれ わたしは 煮、てたべたんであるよ。やし  
たら オガ シャク オコラシテヤッテ ソラホドノ ハンギリテ<sup>(66)</sup>  
たら わたしが 癩 起、こしてしま、て、 やれ程の 羊 切で  
イッペ トツテキタノモノ モツテネ ネ チットバイ タベテ  
い、ほい 採、て来たもの 持、てね ね 少しばかり たべて  
ホシテ ウッチャリーイッテ ウッチャッタコトガ アルケモ マ  
やして 打ら捨ててに行、て 打ら捨てた ことか<sup>(67)</sup> みるけれど<sup>(68)</sup> ま

一 アッデシタヨ アラホドノ ウラエ アッデシタ ッテヨ ドロ  
あ あれでしたよ あれ程の 浦へ あれでした、てよ そろ  
ーイト イッペデシタ ッテヨ ミンナ シタドシノ <sup>(55)</sup> ナガサレタ  
ウリと い、ほ、い、でした、てよ みんな 下 通しの 流された

アノ ショド一グガ ネー キモンニヨラズ オケコバチニヨラズ  
あの 諸道具が ねえ 着物によらる 桶小鉢によらる  
タイヘンデ<sup>(56)</sup> ンデ コノ オテンドシ<sup>(56)</sup> シタドシノモナ ミンナ  
大 変で 二の お天道の 下 通しの 者は みんな

アノ アライ キマシタ アノ コンナナ センタクモノ アノ  
あの 洗いに 来ました。あの このような 洗濯物 あの  
ヘスケン<sup>(57)</sup> バサンダノ アノネ ミンナ ナガサレテ チョード  
兵助の ぼ、あ、さん、だ、の あ、ね みんな 流されて ちようこ

マー ビックリシテ ✕  
まゝ び、く、り、し、て

ト ンデ<sup>(58)</sup> コレテルトキ バーサン ドニイタタガイ ✕  
ん、て 震れているとき ぼ、あ、さん ど、こ、に、いた、の、かい。

ト コーノ コーガ アンタ ハタケミタオニ ナッテテテネ コイ  
この このが みんな 畑 みたいだ、て、て、て、ね このに  
ミンナデ<sup>(59)</sup> アノ ヒナンシテタデスヨ ソシテ メン ジサンモキ  
みんな、て あの 避難してた、て、あ、よ。そして 前の じいさんも来  
て コニ マツガ アッテネ アメマツシッテネ マツノ オーキ  
ト このに 松が、あ、て、ね 天 松とい、て、ね 松の 大き  
ノガ アッタデスヨ アッテ ホノ エダガ マー タオレッテネ  
のが、あ、た、ん、で、あ、よ。あ、て その 枝が、まゝ 倒れるん、で  
ダオカテ シンペシタ ッチユガ ワタシラ ホンナノ シンペシテ  
はい、かしら、て 心 配、し、た、て、い、う、か、 わたし、ら、 みんな、の、 心 配、し、て

ネットケンネ アノ アンギナシデ" イタツケンネ コイ ミンナ  
 何か、たけどね あの 何の気なしで" いたけとね ニンに みんね  
 ワタシラ コイ スワッテ ヨル マー ムコネ アノ アノ ヒ  
 わたしら ニンに 座、て 夜 まい 向うね あの 避  
 ナンシテタツケンネ カー ホノ アッデッヤ ホノゴニ ホノ  
 難 して、いたけどね ほの あれで"あま 今の後に 今の  
 マツガネ エダガ" コンナデシタヨ エダデ"ネ マ アノ コッチ  
 松がね 枝が" こんど"したよ。 枝でね ま こ、ち  
 ドテナンニ オレタカラ イーデスダヨ ホシテ コンダ"ワ ニド  
 エ手取りに 折れたから いって"したよ。 今度 は二度  
 メニ コノー ガフリト ホノ オレタ外キヤネ ヤッパシ コッ  
 目に こ、う さぶりと その 折れた時にほわ や、ほり こ、  
 午エ ジドサマ ムコンホイト アノ オレテネ カラ コー エ  
 ちへ 地蔵様 向うのオへと あの 折れてね。だから こ、う 枝  
 ダガ" コー エゴッテ ワタシラ ヤネノ オニガワラ ハラワレ  
 が" こ、う 動いて わたしら 屋根の 鬼瓦 松われ  
 テナモ ムキューダカラ ワカラネットケンネ オニガワラアン  
 ても 夢中 だから わからず何か、たけどね 鬼瓦 なん  
 カ トラレチャッテネ ソシテ ホント アノ ミンナ アレガ  
 か 取られちゃ、てね。そして 本当 みんね あれが  
 オトドミワ ミンナ コイラ フネガ アンダ"キューツ ナミガ  
 男 共ほ みんね こ、い、ら 船が" あれた"と、いって 波が  
 クルツキューツ ヒトツコ ヒトリ イナウテネ ホノ マタ エ  
 来ると言、て 人、子 一人 い、て、く、て 今の また 枝  
 ダガ" デンキンバシラガ" タッタ イッポンシカ タスカッテイネ  
 か 電信柱 が 下、た、一本 しか 助か、て、い、ない



デンキンバシラガ コーカッテ ホノ マツガ フッカガッテ ホ  
電 信 程 が ニラヤ、テ その 松が 引、掛か、テ そ  
ノ ストント シ<sup>xxxx</sup>シネデ<sup>xxxx</sup> エダガ コウ ユラユラ ユレテテ  
の むとんと 、「はっ」 枝が ニラ ヅラユラ ヅレテいて  
キョート<sup>xxxx</sup> コマツキヤッテネ ワタシラデ<sup>xxxx</sup> ショガネカラ ハマエ  
ちようど 困、テ しま、テ ね。 わたし、ら、テ 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」  
イッたら ハマー オトドモガ テガ アノ アワナウテ アンダ アントカ  
行ったら 誤あ 男 共 が 手が あの あかなくて あれだ 何とか  
ナミガ クツダッペキッテ ミンナ ホエ デバッテデ<sup>xxxx</sup>テ ショガ  
波が くるた、ら、う、テ みんな 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」  
ナウテ ソッカアー ショーボニ ホノー ナニシキテモラッテネ  
好く？ それから 消 防に 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」 、「はっ」  
キッテモラッテ タツカッタ アレガ ドフロント ワタシラー コー  
切、テ もら、テ 助 かつ、テ あれが どふんと わたし、ら、み こ  
エトネ ツブレキヤウデシタヨ。

えと つぶれてしまうところでしたよ。

## 注記

- (1) 敷網漁業の一種。根付きの魚(鰻<sup>ウナギ</sup>等)を三隻の舟で台形に敷いた網に、餌付け用の小舟によ、て誘い出し捕獲する漁業。
- (2) 日常でも、ほ、きり発音するときには「いほ」と発音する。
- (3) 地曳網。
- (4) 千葉県館山市の伊戸地区から相浜地区まで続く約10キロの砂浜。
- (5) みじ、むろみじ<sup>ウナギ</sup>と採る時の餌。
- (6) たも網
- (7) 釣糸を沖の方へ投げ、陸の方へ下り舟から引く釣の方法。
- (8) 相浜漁業協同組合の水揚げ場所及び事務所を通称「販売所」と言っている。
- (9) 鰻師の初期の名。この地方では、いただ・わらさ・ぶり、と大きく異なるに従、て呼び名が変わる。
- (10) 網代につけた番号名が地名化したもの。
- (11)・(12) 共に漁場の名前。
- (13) 死んでしま、てから意識不明の状態にあ、たこと。
- (14) 館山市本郷の野原医院。
- (15) 館山市犬石の古川医院。
- (16) 館山市州の宮。
- (17) 家号
- (18) 家号
- (19) 月の当番として、浦を使用する権利を持つ月。
- (20) 館山市藤原。
- (21)・(22) 共に家号。ここでは、数馬屋さんに対し、間違えて伊衛門と言いかけて次に改めている。
- (23) 漁場名。
- (24) 海底の岩に懸、た網をほとくこと。
- (25) 家号
- (26) 地曳の引き上げを網を丸く輪に纏める係。(一番楽な仕事のため、半人前的存在である)。

- (127) 縄を追いまわることから、余分なことをするの意に用いられている。
- (128) 漁業組合に水揚げしても、水揚げの低い漁種は、乗組員で各自の家庭用に又は自由に処分してしまうこと。
- (129) 年間を通して大漁続きのときに、万両祝いを行なう。万両祝いを記念して、めでたい図柄を描いた着物を乗組員に配る。それを芳祝ヨシイを着るといふ。
- (130) 家号。
- (131) 綿の入った長い防寒着を「綿入れかもや」と言った。
- (132) 綿の入った短い防寒着。
- (133) 地曳の綱を引くときの構え方で、腰より上のところに綱をみて引くこと。
- (134) 沖にいる船から陸へと送る動作。合図。これによつて綱を速く引いたり、止めたりする。時には綱に入っている魚の多寡なども知らせる。それによつて魚市場では受け入れの準備をしておく。
- (135) 家号。
- (136) 家号。
- (137) 第二次世界大戦
- (138) 錨の打ち方を予測すること。転じて甚かの鋭い人間のことを「目錨の利く男」などと用いる。
- (139) 沖から陸の山の位置を見て漁場を確認する。
- (140) 潮の流れのゆるい時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (141) 潮の流れの速い時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (142) 技術の下手な船頭の意。
- (143) 棒受け網漁業。
- (144) 家号。
- (145) 海女で稼ぐこと。人によつては一夏で一年の生計が立つ。
- (146) 家号。
- (147) 「神にたのんでかたわらぬ時は、二十三夜の月を待つ」旧暦の二十三夜の月の出を待間、お茶などを飲みながら時を過す。月の出を見

て解散する一種の宗教的行事。

(48) 船名。

(49) 船を引き上げる時に用いる横木。檣の木に可へりをよくするため  
に油を塗る。

(50) 安房郡白浜町乙浜。

(51) 大正十二年の関東大震災。

(52) 大鑑院山。

(53) 半切桶。

(54) 家号。

(55) 海岸に近い一帯と言う。

(56) 家号。

(57) 家号。

# IV. 静岡県<sup>しずおか</sup>静岡市<sup>みなみ</sup>南字<sup>なかむら</sup>中村

収録・文字化担当者 日 野 資 純

## A 収録地点とその方言について

1. 地点名 静岡県静岡市南字中村(旧安倍郡<sup>アサバタ</sup>麻機村)

### 2. 収録地点の概観

静岡市中心街から北へ約4キロの農村地帯。中心街へは昼間10分間隔でバスの便がある。西側の<sup>ニギハク</sup>賤機山の斜面にはミカンの栽培が盛んである。

静岡市は明治22年(1889)4月1日に市政を施行し、同7月1日市役所開設時の人口は37,681人であり、た(静岡市政要覧)。

そのころは安倍郡麻機村であり、た、麻機村としての人口は、その後大正元年(1912)の記録によると、男1599人、女1585人、計3184人で、戸数は442戸となつてゐるが(静岡県安倍郡誌)、昭和8年末(1933)には482戸、3386人と記録されている(同資料)。昭和9年(1934)10月1日には、麻機村は、安倍郡<sup>イノヤ</sup>牛代田村、<sup>オホヤ</sup>大谷村、<sup>タケノ</sup>久能村、<sup>ナガノ</sup>長田村とともに静岡市に合併された。当時市全体で35,734戸、人口191,005人とあるから、市全体<sup>(注)</sup>から見るとほぼ1.7パーセントにあたる寒村であった(同資料)。

しかし今日では、ミカン農家だけでなく、麻機は新興住宅地として発展しつつある。自然会話の中に話題として出てくる「沼のぼあさん」(「通称麻機沼」)は埋め立てられて団地と化した。

### 3. 収録した方言の特色

#### ①方言区画上の位置

静岡県の方言を、i)伊豆の方言 ii)駿河の方言 iii)遠州の方言 のように分けるとすれば、静岡市麻機方言はii)の一つの代表とも見られよう。伊豆・遠州との細かい比較は別として、形容詞・助動詞につく回想の「ケ」、逆接の「ケーク」、反語の「ジャ(-)」、限定の「バカ」「バッカ」などがその特徴形の一部である。

録音には出ていないが、「せいせいした、さっぱりした」をあらわす「ゴセッポイ」は特に駿河の特徴的俚言と見られている。また伊豆や遠

州に比べて、母音の無声化が少なく、無声子音間の〔i〕〔u〕が有聲のままのことが多いのも、駿河の一つの特徴である。

②音韻上の特色

モーラ表

|   |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |   |
|---|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|---|
| / | a  | æ  | i  | u  | e  | o  | ʃa  | ʃu  | ʃo  | wa | / |
| / | ka | kæ | ki | ku | ke | ko | kʃa | kʃu | kʃo | /  |   |
| / | sa | sæ | si | su | se | so | ʃʃa | ʃʃu | ʃʃo | /  |   |
| / | ta | tæ |    |    | te | to |     |     |     | /  |   |
| / | ca |    | ci | cu |    | co | çja | çju | çjo | /  |   |
| / | na | næ | ni | nu | ne | no | ɲja | ɲju | ɲjo | /  |   |
| / | ha | hæ | hi | hu | he | ho | hja | hju | hjo | /  |   |
| / | ma | mæ | mi | mu | me | mo | mja | mju | mjo | /  |   |
| / | ra | ræ | ri | ru | re | ro | rja | rju | rjo | /  |   |
| / | ga | gæ | gi | gu | ge | go | gja | gju | gjo | /  |   |
| / | ɲa | ɲæ | ɲi | ɲu | ɲe | ɲo | ɲja | ɲju | ɲjo | /  |   |
| / | za | zæ | zi | zu | ze | zo | zja | zju | zjo | /  |   |
| / | da | dæ |    |    | de | do |     |     |     | /  |   |
| / | ba | bæ | bi | bu | be | bo | bja | bju | bjo | /  |   |
| / | pa | pæ | pi | pu | pe | po | pja | pju | pjo | /  |   |
|   |    |    | /  | T  | N  | /  |     |     |     |    |   |

共通語との比較で言えば、/kæ, sæ, tæ.../の系列が加わ、ているのが第一の特色で、例えば/kæ/と/kʃa/, /sæ/と/ʃʃa/と区別がある。また/ca, co/も比較的自由に現れる。

{ /sæ/                    /ciisææ/ (小さい)  
 /ʃja/                    /waʃja a/ (わしゃー〔わし〕)

{ /tæ/                    /kubotææ/ (くぼ、たい)  
 /çja/                    /hitpatçja a/ (引、ほ、ちゃー)

{ /næ /            /kakenææ /    (かけかい)  
   /n̂ja /            /'i n̂ja a /      (いにゃー [稲刈])

{ /ræ /            /hanbunjurææ /    (半分ぐらい)  
   /r̂ja /            /kuraber̂ja a /      (比べりゃあ)

{ /dæ /            /dææẑjobu /    (大丈夫)  
   /ẑja /            /koreẑjaa /      (これじゃー [これでいい])

ただ具体的母音声としては「一杯」が [ippæ:] のようにも [ippja:] のようにも実現されることがある。またまれには [æ:] が [e:] にもなる。    例 /cumanneeTkenja /

また /ca / の例では

/gi'i TcaN / (義-あん)  
 /too'i TcaN / (総-あん)    ∴ /zicaa / (実け)

がある ( /T / のおヒノミ)。

各行音の前に促音が現れうるのも注意される。

/'ii Tde /    (いいので)  
 /so'edmondaTde /    (それだもので)

### ③ 文法上の特色

#### 1 助詞

##### 1-1 副助詞

○限定をあらわすものに /-baTka, -baka / がある。

mukoonibaTka 'itadajo.

korebaTka no ninzunina

ẑjuugoĥjoobaka

○動作の並用をあらわすものに /-nacura / がある。

kasio jarinacura

gohan cuinacura

##### 1-2 接続助詞

○順接に /-dante, -dande / がある。



soredante sa

koncurida mondande nanno kotaa nee

○逆接に / -ken, -keeya, -keya, -dattemo / がある。

nonbirisitetaken Kjonenwa jararecjaTtada

ẑjooĵjoo cukuruda keeya soho perade kanẑjoositahoonya  
hajææda

senseeni juTtadakenana

tatamija dattemo dæækudaTtemo ŝjakansandaTtemo

1-3 終助詞

○反語に / -ẑjda, -ẑja / がある。

'azee taTĉjau ẑjda

micisitano ŝjuudaTkeẑja

○強意に / -dee / がある。

jakuboo made 'ittadee

○回想に / -ke / がある。形容詞・助動詞の終止形に / T / を介してつ  
き、自分の経験を回想する。

ninijaka'iTke

hijaTkeTke

micisitano ŝjuudaTkeẑja

2 助動詞

○話手の意志をあらわすものに / -zu / がある。

sinudara 'it̂sjoni sinazujoo

○現在の推量に / -zura /, / -ra / がある。

'ore 'otoko hitorizura

'dtemo siTterura romaTci

○過去の推量に / -cura / がある。

kanyææ neetkeTcurana

○断定の / -da / は動詞・形容詞・助動詞などの終止形につく。

'ano koomo jarudade

kaneya nææ da ken

## nisjoomo tottadajo

以上のほか、語彙の面から言うと、/sjonbai/ (塩からい)、  
/cinbii/ (小さい) などの形容詞が本県方言としての特徴形を有すると  
見られる(前者は、もちろん/sjonbae/が古形である)。

### 4. その他

#### ①地点選定の理由

2に記したように、麻機地区は新興住宅地として人口の流入が多いの  
だけあるが、古くから住みついでいる農家の人々も依然として多いの  
で、そういう人を求めることにより、古い状態の方言を探ることができ  
ると思われたことと、被調査者A氏は以前から面識があり、比較的  
気軽に引き受けてくれると予想されたこともあった。

また疑問点が出た場合も、事実何度か拙宅まで来てくれて、それに答  
えてくれたので、ありがたかった。したがってA氏は協力者であるとも  
に出演者でもあり、談話の進行係をも同時につとめてくれた。

#### ②協力内容

A氏は自分の幼なじみのB・C両氏をさそって、A氏の自宅で座談会  
を開いてくれた。その内容が収録されているわけである。

(注) 昭和45年10月1日の国勢調査時における静岡市の人口は、  
男205,470人、女210,908人、計416,378人とあり、  
麻機学区だけで見ると、男2,553人、女2,641人、  
計5,194人である(静岡市編「昭和45年静岡市国勢調査結果  
概況」による)。

## B 表記について

麻機方言の音韻体系は共通語（東京方言）とほとんど変わらないので、片仮名表記で可成りしたが、前述A②音韻上の特色と合わせて、いくらか補足的な説明をしておく。

① /kæ, sœ, tœ.../ の系列は /カア, セア, テア.../ で表記した。

ヘアーチャッタ / hææTc̃jaTta /

クボッテアトコ / kuboTtæætoko /

シンメア / sinmææ /

しかし、音声として {-ja:} のようになる場合は、

イッピャ / 'iT̃p̃jaa /

のようにした。

② /ca/ は「ツァ」とした。

ギイッツァン / gi'iTcaN /

トイッツァン / too'iTcaN /

③ /ɲa, ɲœ, ɲi, .../ の系列は /カ, ケ, キ.../ で表記した。

カミナリサンカ / kaminarisanya /

カンゲアテ / kangææte /

④ あいづちの {uN} {N:} 等は「ニー」に統一した。「ソー」{so:} とまぎらわしいかもしれないが、すぐ下段に共通語訳があるので区別がつくと思う。

⑤ 特に著しい上り音調はクイであらわしたが、下り音調は特別に記号化していない。「。」が基本表示である。

コドモワ ドーナッタク

## C 収録内容の概説

1. タイトル 「静岡の集中豪雨」～「昔の生活の思い出」
2. 録音年月日 昭和50年10月4日
3. 録音場所 話し手A氏の自宅（静岡市南字中村1603）
4. 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生まれ

(Bは「サワバタノオジサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。昭和6年(満20歳)～7年兵役(浜松航空隊)。昭和16年(満30歳)～17年南方方面出征(台湾・フィリピン・ミンダナオ島)。純度の高い方言の話し手。ただし「自分の歴史へ刻んである」とか「川が断層に付、てる」とか折々漢語が出てくるのが、女性B・Cとの相違点である。話し好きのオトが特に早口ではない。

B 後藤百々代 女 大正2年生まれ

(Aは「モモサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。他地へ出ていない。やや早口だがCより頭の回転はよい。話した量もCより大分多い。A・B・Cはいずれも幼なじみだが、BのオトがCよりもAに対する「親密度」が高いようだ。またCよりもはるかに話し好きだ。声の調子も高いので、録音を聞いてもCとは明瞭に区別がつく。

C 佐藤 とし 女 大正4年生まれ

(Aは「オトシサン」と呼んでいる。)

小学校卒業後農業。他地へ出ていない。Bより話し方はおそく、お、とりした口のききオトである。前項に書いたように、Aに対する「親密度」はBよりやや低いようで、話への参加もBに比べてやや積極性を欠いていた。年齢の開きということもあるのだろう。

## 5. 録音環境

私と私の家内が同席していたが、家内はAに菓子をすすめられた時に一回礼を述べただけで、もちろん積極的な発言はしていないから、全体への影響はない。全体としては、Aのリードの下に、非常に自然に

話が進行したと思う。私も何も言わなかった。A, B, Cは幼なじみだったのでアット・ホームな雰囲気になれたのであろう。

# 1. 静岡の集中豪雨

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ~~~~~ コツキワ コズニサー<sup>(1)</sup>。キヨネンノ (笑) ボーフーニ  
(台風が) こらには 来たか? 去年の 暴風に

ヤー ヨワッタッケナー。

は 弱、た、けなめ。

C ヨワッタッケナー。コトシャー アエデモ イネン エーント  
弱、た、けなめ。今年け あれでも 稲(出来)がいいので

アレダケドナー。

いっけねどねえ。

B コトシャー イネア イーネ。

今年け 稲(出来)はいいね。

C イーッテ<sup>(2)</sup> タノシミダ。

いっのま 楽しめた。

B アー アンタツキモ チット……。

ああ あつたの家も(去年の暴風の時)少レ(被害が あ、たかね)

A ヤケター。カミテリリシカ<sup>o</sup> 才キター。

焼けたよ。雷さまが 落ちたよ。

B ウツツテクト コマルサント シンパイシテタヨ一。(笑)  
(火が燃えたの家に)移ってると 困るなんて(私は)心配しましたよ。

A ヤー ソレダケン アレデ オワリダデー。ニー。  
やあ それだけだと あれ？ 終わりましたよ。うん。

C ソーダエナ。  
そうだよな。

A ニー。  
うん。

C ニー。  
うん。

A イーッケダケカト。ニー。  
(今年の稲の出采は)よかったんがな。うん。

C ニー。  
うん。

B オラウチニター スゴク イニャー エーヨ一。  
私の家では すごく 稲(の出采)はいいよ。

A ニー。  
うん。

B オワバタノ<sup>(3)</sup> ウチニ ウツツテクト コマルト オモッテ シン  
澤端の 家に(火が)移ってくると 困ると 思って 心  
パイッテター。(笑)  
心配をしましたよ。

C ウチラッチター キョネンワ アレダ ジョソーガイオナー……。  
私なんかの家ではねえ 去年は 除草剤をな……。

B キョネンワ マチカッテナ……。  
去年は 間違ってたよ……。

- C マチグッテ カケタモンデ ツマンネーツケカ コトショー ソイ  
間違、て (稲に)かけたもので まるか、たか 今年 は それ  
デモ……。  
でも……。
- B ジョソーガイ ウント ドンドント カケネアーツケ。  
(今年)除草剤を 沢山 どんどんと かけたら、た。
- C キョネンワ アレジャー ジョソーガイ カケネアーツケモ イネ  
去年 は あれで、は (かりに)除草剤を かけたら、ても 稲(の出来)  
ワ ヨク ネアーツケカサ。  
は よく たら、たらうべね。
- B アノー タイフーデ ダメニ ナツチャツタ。  
台風のために (稲が)のために たら、ました。
- A キョネンワ オレンナー アノ モテゴメンナー ナンニモ トレ  
去年 は おれは、たあ もら 米 が、さ 何も とれ  
ネアデ。ホー。タイフーデナ アノー マー カワカ ハンランシ  
た、いよ。 台風 が、たら 川が 氾濫し  
チャツテサ……。  
ました、てさ……。
- C ー。  
うん。
- A ソエデ アノー 又マカ カブツチャツタ。  
それで (田に)泥が かる、ました。
- C ー。  
うん。
- A ー。ソエダモンダツテ……。  
うん。それだ、もんで……。



C ダメダッケナ。

ためた、たは。

A ゼンブデモッテ ニショーモ トッタダヨ。

(私の田の)全部で ニキモ と、たんだよ。

C ハー。

はあ。

A ニー。ソナンコンダ。キョーワ<sup>(4)</sup> アノー シケルサントコモ  
うん。そういうことだ。今日は 茂さんの家でも

アノ ニー イヤマノシユカ ソコ カッタダワ。デ アノー

畑山の衆がその土地を買ったんだよ。そして (ヤニへ)

ソー ウキョー タッタ。ナー。

家を 建てた。はあ。

B ドコ。

(それは) どこ?

A ウキオ。アノー ハンジョーサンカ<sup>(5)</sup> ソレ アノー ソーコニ タ  
家を(建てた) 半十さんが それ 倉庫に 建

ったッケジャンカ。

てたのではあいか。

B ニー。

うん。

C ニー。キョゾーコノ アスコントコノ

うん。貯蔵庫か。あそこの所か。

A ニー。オーオー アスコントコモサ……。

うん。そうた あそこの所もさ……。

C ニー。

うん。

A アノー マチノ シューグ カツテサ……。  
町の 衆 が 買、てさ……。

C ニー。  
うん。

A ソエデ アノー……。  
それで あの一……。

C アレ アノー マチノ シュージャナイ イヤマノ シューダツテ  
あはけ 町の 衆 ではない 油山の 衆だ"(皆が)  
イッタクケジヤ。  
言、たではないか。

A ニー イヤマ イヤマノ シューモ イリヤーサ……。  
うん。 油山の 衆 も いれは、て……。

C ニー。  
うん。

A アスコダケガ<sup>(6)</sup> アノー マチノ シューガ カツタダ。ソレカラ  
あそこだけか" 町の 衆 が 買、たのだ。それから  
アトワ イヤマノ シューガ カツタダ。  
あとの所は油山の 衆 が 買、たのだ。

C アー ソーカ。  
ああ そうか。

A ニー。  
うん。

C ミンチ イッショジヤ ネアーノ。  
(あの土地を)皆一緒に(買、たの?)はないの?

A ニー。アノ シンセキド一シナンダナ アレ。  
うん。(町の衆と油山の衆は)親戚同志なのだや あは。

C ニー。ン。  
うん。

A ンー。ソイデ アレ アノー ヤッパリサ……。  
うん。それで あれ や、ほりさ……。

C ニー。  
うん。

A イシカケオ ツンデサ……。  
石垣を積んでさ……。

C ニー。  
うん。

A アスキー コイテ クルラシーヨ。  
あそへへ、越してくるらしいよ。

C アノ イシカケー アノー アレ サイカイノ アレデ ツンデア  
あの 石垣は あれ 災害の防止の目的で積んであ  
るネ。アノ ウチノ シューブ  
るね。(積んだのは)あの家の 衆か。

A マー シタワサ サイカイデモツテ シヤクショデ ツンデクレテ  
ああ 下はね 災害防止のために市役所で積んでくれて  
サ……。  
さ……。

C ニー。シタワ シンダダケンネ。  
うん。下は積んだんだからね。

A ソイカラ アノー ソノー アレ イッペアーワ ツマレネアーモ  
それから あれは 沢山は 積み厚いも  
ンダカラ……。  
のだから……。

C ン一。  
うん。

A ン一。シヤクショノ ホーデ……。  
ねえ。市役所 の オで……。

C ン一。  
うん。

A ア一。ヒトツ サカッテサ……。  
ああ。一段 下が、てさ……。

C ン一。  
うん。

A ツンダンダヨ。ヒトツ……。  
積んだのだよ。一段 ……。

C ア一。ウチノヤツ ソイジャー ソノウチノ シューガ ヤッタノ。  
ああ。(その人の)家の石垣はそれでよ その家の 衆 が や、たの?

A ン一。ソノ ジヒデサ。  
うん。 自費でな。

C ン一。  
うん。

A ン一。ソエデ オマエ キョーモサ アノ ソノ タイフーグ フ  
うん。それで お前 今日 もさ 台風が来  
て ヒドカッタッテ イッテナ……。  
て ひとか、た と 言、てな(話せしめたのだよ。)

C ン一。  
うん。

A ココマデ キタダナーナンテッテ キョーモサ……。  
(水が)にまで来たんだ「町あつと」と言、て 今日 もさ……。

C ニー。  
うん。

A ニー。シゲルガシナノ ウチエ ホー ハイッ チャットンダナ。  
うん。 茂 さん の 家 へ (水か)入、てしま、たんだ。トコ。

C ソーダヨナ。  
そうだよ。

A ニー。  
うん。

B ソシテ マタ アノー ドコ ドコノ アレデ マタ ニー ダイ  
キレテ また <sup>xxxxxx</sup> ビこの 責任で" また (その上のエ) 第  
ニージコージデ.....。  
ニ 次 エ 事 で.....。

A ニー。  
うん。

B ヤルダクナート オモッテタ。  
やるのかトコと 思、っていた。

C ソーダト オモー。  
やるのだと 思、う。

A アノコーモ ヤルダデ。ニー。マー ダイイッキワ アスコデ オ  
わの奥の方(エ事エ)ヤルんだぞ。 まあ 第一 期は あそこを 終  
ワリ.....。  
わり.....。

C ニー。イッキワ オワリデナ.....。  
うん。 一 期は 終わりでナ.....。

A ソエカラ アレカラ ウォーナ.....。  
それから あそこから 上をトコ.....。

C ニー。  
うん。

A コンダ カルラシーダヨ。  
今度 やるらしんたよ。

C ニー。  
うん。

A マー イツニ ナルカ シランケーガナ。カネカ° ネアーダケン。(笑)  
まめ いつに ぼるか 知らんけいけい。金か けいのだから。  
ニー。エ モーカッタノワ オテラダデー。  
うん。 もうか、たのほ お寺 たよ。

B オテラワ ヨクナッタナ。  
お寺は 立派にたよ。

A ニー。オテラワ ソー アノー……。  
うん。お寺は そう ……。

C ソー……。  
そう……。

A ヘッコンデ カケテ トレチャッタトコサ……。  
(台風のために)へ、こんでかけて 取れてしまった所ね……。

C ソーダナ。  
そうたよ。

A マタ ボキン デキテ アレン ウリヤー エーカン<sup>(ク)</sup> ゼニニ ナ  
(そに)また 墓地ができて あれを 売れば 相当 収入ニ なる  
らだ。  
るのだ。

B オテラワ ホント アレダネ。アノー タイフーデ (A 笑) ミハ  
お寺は 本當に 台風で 見晴

ラシン ヨクナッチャッテ <sup>xxxxxx</sup> イー イーオテラニ ナッチロッタネ。  
らしか ぶくば、アシマ、ア いいお寺に ば、アシマ、たね。

A ニー。アノトキニャー モモサンキアタリヤー ヤッパ アノー  
うん。あの時には 百々さんの家 ば、アシマ (水バ)  
ツイタツケダカ。  
ついたのだ、けか。

B ニー。エンノシタマデ ハイッタ。  
うん。縁の下 まで(水バ)はいた。

A エンノシタマデ。  
縁の下まで。

B ニー。  
うん。

A マノー サトクンワ。  
佐藤君は？

C ワシラノ イーッケダヨ。  
私たちの(家)は、たよ。

A イーッケ。  
よか、た？

C ニー。  
うん。

A マー。  
ああ。

C ワシラノ ウチワ イーダケーガサ ヤックン<sup>(P)</sup> ヒドク ヤラレ  
私たちの 家 は いいのだ"か" ハ津口(の家)がひどく やられ  
キョッテサ。  
アシマ、ア。

A ニー。ヤツグチナー。  
うん。八津口はあ。

C ソー。  
そう。

A ニー。ガイショクナー。  
うん。在所がはあ。

C ガイショク ヒドク ヤラレキョウタモンデ アノ ソレコソ  
在所(の家が)ひどく やられてしま、たので それこそ  
ヨサカニ オコサレテ……。  
夜中に 起こされて……。

A ニー。トシテツタ?  
うん。かけついで行、たか。

C ワキニヤ イタクテ ムコーニバツカ イタダヨ。  
(自分の)家には いなくて 五ノウ(八津口)にはばかり いたんだと。

A ニー。  
うん。

C ヒトバンジュー オキテ……。  
一晩中 起きて……。

A ニー。  
うん。

C ソレコソ ミテタ。ミキントコ ナガレルノオ。モノスゲーツケナ。  
それこそ 見ていた。道路を (水が)流れるのを。ものすごい、たな。

A ニー。  
うん。

C ホントニ……。  
本当に。



A ナンセー アントキニカー マー シニモノグレイダッキャナ。  
何しろ あの 時(には)は まあ 死に物狂いた、た、まあ。

アー。

ああ。

C ソーター。

そなた、まあ。

A マノー ソノアシタノアササー オレ ヤクボーマデ イッタデー。  
その翌日の朝さ 私は 谷々保まで 行、た、よ。

C ニー。

うん。

A ガブガブガブガブ" シャーッテ……。

かぶかぶかぶかぶ(浸水した場所へ)入、て……。

B ニー。

うん。

C ニー。

うん。

A ソシタラ マノー キャーリニサー アノ サンカクセシキノ カ  
やうしたら 帰りにさ あの 三角屋敷の

一サンカト アノ クロニ マノー コシカケテサ サワバタノ  
奥さんがね (地所の)端に 腰かけてさ 「澤端の

トーサンテ イッテ ナンダーッテッタラ オリヤー コマッタヤ  
父さん」と言うので「何だ」と言、たら 「私は 困、た、よ。

ゴケドンジャー アルシ オランウキオ ミョーレーッテッタ  
ひとり者では あるし 私の家 を 見てくれよ(こゝろはどい

ッケ。(B 笑)テメーノ ウキバッカジャネーワ。ゼンブ ソー  
被害を受けた」と言、た、け。(そこで私は)「お前の家ばかりではあ、わ。全部(の家が)そう

だ。オンナシコンダ。ソナナコンデ オクナッテ ソーイッタ。  
た。(被害を受けた点では)同じとた。そんなことで泣くやと そう言、た。

B アノ トーサン シンダダカヤ、  
あの 父さん(主人)は 死んだんだ、たかわ。

C シンダ。  
死んだ。

A シンダヤ。  
死んだよ。

B ハー。  
ほあ。

A ンー。ソイデ アノー コノー アリナガノヤ<sup>(9)</sup>-----。  
うん。それで 有 永のよ-----。

B ンー。  
うん。

A アノー シエージュータクヤ。  
市営住宅だ。

B ンー。  
うん。

A アッキエ ヤッタダ。  
(そへ) (三角屋敷の奥さん) 入れるようにしてや、たのた。

B アー ホントア  
ああ そうた、たの。

A ソイカラ アノー サトーキンサククンノヤ-----。  
それから 佐藤 金作君 のヤ-----。

B ンー。  
うん。

A オカミサンサ アレカ° アノ一 シエージュータクノサ オヤカタ<sup>(10)</sup>  
おかみさんさ その人が (その)市営住宅 のさ 親 オエ  
ー シテルラノ  
レているた"らう。

B ン一。  
うん。

C ン一。  
うん。

A ソイデ" アノ一 イツカケツ" ニカケツツテ ユーカモ シンネー  
それで「(その住宅の責任者は、入居期間を)一ヵ月 二ヵ月と 言うのも しれたい  
ケ一カ°……。  
か" ……。

B ン一。  
うん。

A マー オンナナンデ"……。  
まあ (奥さんは)女房のて"……。

B ン一。  
うん。

A イラレルツタケ オメーワナ アノ一 ヤクショノホーエ ハナシ  
居られるた"け(居られるように) 役所のオへ 話  
ヨーシテ ハーデ"テケ ハーデ"テケナンテコトワ イワネアー  
エ レテ 早く出て行け 早く出て行け"て"というんといは 言わたい  
ヨーニ カヤ一カッテ ヤツテクレヨツテ オレ ソーイッタクケ  
ようにして かわい"が"て や"てくれよ"と 私ほ 言う言、たの  
だ。  
た"。

B ニー。  
うん。

C コドモモ アルズラケンド コドモワ ドーナツタダ  
子供も あるだううか 子供は どうして、た？

A コドモワ ドーナツタカナ。ソレマデワ (笑) シラネーダケーガ……。  
子供は どうして、たか。それまでには 知らんたけれど……。

C アノヒト オカシナコカ<sup>XXXXXXXX</sup> ヒトリ ヒトリ アツタツケジャ。  
あの人 (頭)おかしな子が 一人 あ、た、で、は、い、か。

B ニー。  
うん。

C アノー <sup>XXXXXX</sup>アノヒトノ コデナイ アノー マエノヒト……。  
あの人 の 子ではない。 前妻(の子か)……。

A マエノヒトノ  
前妻 ?

C ニー。  
うん。

A アー アノヒトワ ジャ ゴサイカ。  
ああ あの人 は だけ 後妻か。

C ゴサイダヨ。  
後妻だよ。

A アー。  
あ、あ(そのか)。

B トシン 千カウダモノ アノー ダンオサント……。  
年が 違ふんだもの 旦那さんと……。

C ソーダエナー。  
そうた、は、あ、。

A アノ ダンナサンワ オメー ヨルナンチャー オメー サキョー  
あの旦那さんは お前 夜 何でか お前 酒 ち

アノ サキョー ノンジャーサー……。  
酒 ち 飲んで 何でか さあ……。

C ンー。  
うん。

A へーカラ アノー ジテンショー モッチャー グラングラン……。  
それから 自転車 ち 持、ては (ぐらぐら(しほがら寄っていた))。

B ドッカ アッキノ エキナンノ<sup>(11)</sup> ホーノ カワヤエ<sup>(12)</sup> ドジョーダカ  
どこか あららの 駅 南 の 赤 の 川 へ とびょうたか  
ナンダカ トレー イッタナンテ ヨク イッタツケジャー。  
何たか 捕りに 行、た 何でか よく 言、た 何でか (何いか)。

C ンー。ヨク ビクモッチャーナー ジテンシャニター ビクツケチ  
うん。よく びく ち 持、て 何でか 自転車 に 何でか びく ち つけ  
や……。  
ては……。

A クロー シターナー アノヒトモ……。ンー。  
苦労 ち した 何でか あの おかみさん ち……。うん。

B イマモ アスコニ スンデルノ アノー……。  
今も あそこ に 住んで いるの? あのー……。

A ドコノ……。ヒャー ヤ<sup>xxx</sup> ヤクボエ イッタジャネーカ。  
どこの……。もう 谷久保へ 行、た 何でか 何いか。

B ンー。  
うん。

A ンー。ナンセ イマデモ オモイダスヤーッチワケダ。ンー。ソイ  
うん。何しろ 今でも 思、い 出、る 何でか というわけだ。うん。それ

カラ アノー ソー ンー オランウチー キタ アノー イシオ  
から そうだ うん 私の家へ 来た 石尾

クン。アノヒター ヤネニウエー ナー ダンダンダンダン オマ  
君。あの人は(自分の家の)屋根の上へ たんたんたんたん お前

エ ミズガ アカッテキテサー イクトコ ネーダッテサ。ソエデ  
水が 上が、てきてさ 行く所が ないんだ、てさ。それで

ヤネノ テンジョー ツキヤブッテ イタラ タスケー キテクレ  
屋根の 天井を 突き破って いたら 助けに 来てくれ  
た。

た。

B ンー。

うん。

A デ オランウチー キテ イッシューカンバカリ イタ。ンー。

それで 私の家へ 来て 一週 間ばかり いた。うん。

B ドコノヒトダ ソレ。

どこの人？ それほ。

A ソリャー アノ タビカラキタ シューダケンドサ……。

それほ ぶせから来た 衆 たけれどさ……。

B ンー。タビダ

うん。ぶせから？

A ンー。ソエデ オランウチワ オテラノシューカ ニゲテキテサ……。

うん。それで 私の家には お寺の衆 が 逃げて来てさ……。

B ンー。

うん。

A ミンナ ニゲテキテサ……。ソエカラ アナンナツタラ ゴハンシ

皆 逃げて来てさ……。それから 朝に たらたら 食事の支度を

ヨウツテ ユートキニサ……。オンオシユワ ミニナ オクマンナ  
レキョウト いう時にサ……。女の人 は 皆 共同してくれ  
レヤー……。  
よ ……。

B オテラノウチノ シューモ モー ジッポン オクレリヤー……。  
お寺の家の人もあと十分遅れれば……。

A シンジャツタヨ。  
死んでしまったよ。

B オカサレキツタ。  
流されてしま(うとこらだ)った。

A オレカ オメー ツレー イツタダモン。ニー。オレン ツレイッ  
私か お前(あなたらE)連れに行、たのたもの。 私か 連れに行、  
た。  
た。

B ニー。  
うん。

A ニー。ソーシタラ オテラノ オシヨー イワクダヨ……。  
うん。そうしたら お寺の和尚が 日くだよ……。

B ニー。  
うん。

A オワバタヨーテシテ オンダツテツタラ アケツチノ<sup>(13)</sup> ヒガナ ケ  
「澤端 よう」と言うので「何だ」と言、たら 「土土の 灯が 消  
一タラ ニゲヨウツテコト (B笑) イワレテルンテ マダ ツ  
えたら 逃げろというんとも 言われているので 手だ(その灯が)

イテルジャーネーカツテ ユーケン バカユータ オマエ オテラ  
ついているのでは「はいか」と言うので「はかE言うな。お前 お寺

ノナ オメア アンナカ コノクレアー<sup>(14)</sup> アルジャーネーカ。ドン  
 のア お前 あの 中 (水かきが)のくらい あるではアいか(と言って)どん  
 ドンドンドンフテ ミタラ オマエ オラー オーダン<sup>(15)</sup>ノホーカラ  
 どんどんどん来て みたら お前 私は 大段のオから  
 ウラカラ キタ。  
 (つれ)裏から 来た。

C ンー。  
 うん。

A コリャ タマランテッテ ハヤク ニゲョーツテッテ ヘーカラ  
 これは たまたまいいと言って 早く 逃げようと言って それから  
 ソーシタトコロ マー ソー ケンキョーエ イッテル マノ  
 そうしたところが そうだ 県庁 へ 行っている(人)あの  
 オクサンがサ……。  
 奥さんがサ……。

B ンー。  
 うん。

A サイファー ワスレタツテ サイフオンテ イラネーワツテ ヘーカ  
 財布を 忘れたと(言、たが)財布持って いらあいいよ(って(私が言、たの))それから  
 ラ ウチー ニゲテキタ。  
 ら(私の)家へ 逃げて来た。

B ンー。  
 うん。

A ソエカラ ソノアト オレガ ソーット ミカンノ キカラ イッ  
 それから そのあとで 私が そーと 蜜柑の 木の所から 行、  
 タワケダ。イッたら マー オテラー テアージュゴブダツタケド  
 たれた。行、たら お寺は 天丈 天だ、たけれど



サ。

さ。

C ニー。  
うん。

A ニー。シゲルサンノ ウチー ニゲテッタ。  
うん。(母は)茂さんの家へ 逃げて行った。

C ソーダサ。  
そうだね。

B ヨワッタツケナー。  
弱った、けつめ。

C シゲルサンノ ウチー サケー マナー キタジャネアノ オテラ  
茂さん の 家へ 先に 来たのではありませんか お母  
ノシュー。  
の 衆(は)。

A ニー。キタ。ソイカラ オラントコエ キチャッタ。  
うん。来た。それから 私の家へ 来てしまった。

C シゲルサンチマデ" ミズ" ヘアーッキヤッタ。  
茂さんの家まで"水が"入、てしまった。

A タイヤガラダツケヨ。  
(タイヤガラの滝のように)水のすごい水勢だったよ。

C ニー。  
うん。

A ダケンゴ ソー コンクリダモンダシナ サンノ コターネー。  
だけれど (その家は)コンクリート造りなので 何の 被害もない。

C ニー。  
うん。

A ソイデ ソノアシタノアツ アノー ゴハンオサ シヤクショノ  
それで その翌日の朝 御飯エテ 市役所の  
シューカ クレルツツタツケカ……。  
衆 が くれると言ったが……。

C ー。  
うん。

A イーッテツタダヨ。ー。コレバツカノ ニンズニナ。  
いらぬと言ったのだよ。うん。これ(ぐらいの)人数には。

B イママジャー ネー ココラ ナンニモ サイガイナシテ ソーユ  
今までは ねえ さらば 何も 災害 何だ そうい  
ーノ ナクテ ノンビリシテタケン コン キョネンワ ヤラレチ  
の(が)何くて のんびりしていたけど <sup>xxxxxx</sup> 去年 は やられマ  
ヤツタツケジャ。  
しまったよ。

A ヤラレキヤツタ。  
やられしまった。

C ソーダヨナ。  
そうだよ。

A アー。ゴヒャクゴジューミリジャーナー ヘーキン ゴジュータン  
あめ。 550 ミリまでは、 平均 5 3  
センチダモン ソレー アノー クボツチャートコエ クルンテ……。  
センチ(の厚みが降ったの)だもの それに(水が)低い場所へ 来るのだから……。  
ー。  
あめ。

C ソーダヨナー。  
そうだよあめ。

A ア アツマルトカー イッピャーノワケダヨ。アー ソレーモツテ  
(水が) 集まる所は 一杯に貯るわけだ。 以上

ツテ リューソーノカワー キレテサ ミガー シタエ イクジョ  
に 竜 爪 の ツバ 切れてさ 水は 下へ 行くので

ネー ワエー ハンランシテキチャッタ。ソイダモンダカラ ゼン  
ばい、上へ 泡 濺して来りました。それだもの下から 全

ブコノネ アー タンボンナカノシューワ コレ ヤネノネ テ  
部 田の中(に家のある)衆は 屋根のわ

シジョーマデ ツイテチャッタ。アー。ガブガブガブガブ……。

天井まで(水が)ついてました。貯め。がぶがぶがぶがぶと……。

C ワシラン ヤツミチデモ アレダニテ アンナンナルトワ オモワ  
私たちの ハッ道でも ぬれたら ぬんばに貯るとは 思わ

オカッタ。アー ワエノ ホーダツキカー……。

貯かった。貯め 上の オ下、てさあ……。

B ホント。ワエノ ホーデネ コツキノ シタノホーノ コトバッカ  
本当だ。上の オでね、さらの 下のオ a ことばかり

シンパイシテ……。

心 配して……。

C ニー。

らん。

B アー アレダツケ フントー コンド シタエイキヤー アノ  
本当に 今度は 下のオへ行くのは

ミスガヒャーツチャワ。ワエカラ クリヤー ドシャデ フントニ  
(低いから)水が入、てしろう。上 から くるのは 土砂で 本当に

ドーショモ ネーツケ。

どうしようも 貯かった。

C イチバン イチバン タカクテ アノ タタミノウエマデ" タタミ  
xxxxxxx  
一番 高く(水が来た場合は) 畳 の上まで(来て) 畳

ノウエ コナチ ツチニ ナッチャッタダ。ニー。

の上が" こんどに エに 行、てしま、たのだ。うん。

A オラシロキノ キューゾーコワヤ コメー ツカナイッテバック イ  
私の 家の 貯蔵庫は、(浸水して)米に(水が)つかないとは"かり 言  
ッタダケンサ。

っていたのだ"だけとね。

C ウラカラ ガンガンガンガシ ヒャーッテ キチャッタダサ。

裏 から ざんざんざんざん (水が)入、て 来てしま、たのだ"呀。

## 注記

- (1) 昭和49年7月7日の静岡県集中豪雨の話題から録音に入った。冒頭は、その時台風が静岡県へ上陸するかと思、たら来否か、たという話から入っている。
- (2) タ行音の前が促音化しているが、それほど強い習慣ではないと見られる。
- (3) 「澤端」は男性話者Aの屋号。以後「澤端のおじさん」などと、よく出てくる。
- (4) 「今日は別の所でその話が出たのだが」というつもり。
- (5) Aにあとで聞いたら「羊十さん」と言、たと言、た、どうしても〔handzo:sanna〕と聞こえる。
- (6) 「あそにだけと」の意。
- (7) {i:kanen → e:kanen → e:kaen → e:kan}。静岡県方言では〔e:kan〕の形で安定している。「よい加減→相当(の量)」の意。
- (8) 女性Cの実家がある場所。
- (9) 収録地である麻機アサキの近郊。
- (10) 「管理人」。
- (11) 静岡市内も国鉄東海道本線が東西に走っているが、その国鉄静岡駅の南側一帯(登呂遺跡行きのある地域)を「駅南」とよぶ。
- (12) 「カワヤエ」は「カワエ」の言い誤り。
- (13) 「上土」は静岡市東北部の地名。話者の居住地の麻機から東へ2キロほどの所。
- (14) 「コノクレー」は「膝頭ぐらいまで」。
- (15) 寺の裏側の地域。

## 2. 米作状況

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)   |
|------|--------|-----|--------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生 |
| B    | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生  |

- A オカフラワズニ<sup>(1)</sup> コトシノ コメワ ドーナツタ。キョネン ソー  
めけ「くゝ」果々に 今年の 米は どうな、た(と思う)。去年も「それほど」  
トレネアズラ。ターラ ゴビョー モッテ クリヤー ミンテ モ  
豊作が「な」たろう。(それでも)俵五俵 持、てくれは(私が貸してやる)皆(俵五)  
ッテ クリヤーッテサ モット カセルダツチダケカ<sup>(2)</sup>……。  
持、てくれは(貸してやる)と言、て も、と 貸して「おいた」オカ「よか、た」の「た」が……。
- B ドコ<sub>xxxxxx</sub> ドコダツケ。コメン ゼンゼン タベラニナクナツチャツテ  
ど「こ」た、け、米が 全然 食べられな「く」な、てしま、て  
コマツタツテツタノワ。  
困、った と言、た家は。
- C ミキシタノ シューダツケジャ。  
道 下 の 衆 た、たよ。
- A ソーダ。  
そ「う」た。
- B ドコダ。ニー。  
ど「こ」た。うん。

A オクサン ヤッテクレ。<sup>(3)</sup>  
奥さん 食べてくれ。

X エー アリガトゴザイマス。<sup>(4)</sup>  
ええ ありがとうございます。

B ワシラン アツミチデモ エーカン ハンブングレマー アレダヨ  
私たちの ハン道でも 相当 半分 ぐらいは  
コー ミズ ハイッチャッテナ。  
(家に)水が 入、マシマ、マシ。

A コトシモサー オラーウチノ コメマ マワリワ フケチヤッテナ。  
今年も、 私の家の 米は まわりが ぶやけてしま、マシ。

B ンー。  
うん。

A コーイッテ ホントー(笑) ユート アレジャー ミンチ カセル  
本当と 言うと あれマシ(去年)マシ(自家の米)賃  
ダッケン。(B笑) カセリヤーサ コトシ シンメアーデ クルシ  
いおくおがよかつた。 賃せば 今年(それか) 新米として もど、マシ  
ダナー。 オー。  
んだ「お。おお。

B ソーダヨサ。  
そうだ「マシ。

A ンー。  
うん。

B コトシャー……。  
今年は……。

A トクオ シタッケダケンガ……。  
(賃しておけば) 得マシたの「だ」が……。

B ホントニ……。  
本当に……。

A ミンナモ エーシテ……。  
皆(借財も都合が)いいしな……。

C コトシャー マタ エーダナ。  
今年は また(米作は)いいんだな。

A マダ ジューゴヒョーバカ アルダヨ。ニー。コメン。  
また ナ 五俵ばかり あるのだよ。 (去年の)米が。

B ニー。イツノ。キョネンノ。  
うん。いつの? 去年の?

A ニー。キョネンノ。ソイデ ミンナ モッテッテ クッテルダヨ。  
うん。去年の。それで(それ)皆が 持ッテ行ッテ 食ッているんだよ。

ニー。ウチニ アルダヨ ジューゴヒョーバカ。ソレン フケチャ  
うん。家に あるんだよ。ナ 五俵ばかり。それが ぶやけて  
ツテカ マルデ ションネア。ムシン イッピャーデ。  
しまッて、全く しょうべい。虫が いいけいッて。

B ニー。  
うん。

A コーイツァンチンチャー オメー ワ ワライキレネー。ソエダ  
光一さん 何と 何 お前(去年米<sup>xxx</sup>貸しておいた)笑い切水かい(ほと利益がある)

ンテ イット モッテクトナ ヨクツクト ロクショーバカシカナ  
だべー斗 持ッて行くと よく春くと 六ヶくらゝ しか  
イ。

い。

C コメモ マズイッケダヨナ。キョネンワ。  
米も まあかっただよ、去年は。



B アジワ ドー?  
味は どう?

A アジャー チート ミズオ ヨブンニ イレナイト ションネー  
味は、少し水も余分に 入れたいと だめだ  
す。アー。また コトシモ タイフーモ クル。アメカ<sup>ノ</sup> 千タホー  
す。ああ。また 今年も 台風も 来る。雨が 来たオ  
カ<sup>ノ</sup> エーヤ。ダケーカ<sup>ノ</sup> ソーカガツカイノ シューワナ コーユー  
が いや。たけど 創価学会の 衆は 言う  
ヨ。タイフーモナ タイガイモ アツタホーカ<sup>ノ</sup> エーツテ。  
よ。台風もす、災害も あつたオ<sup>ノ</sup> が いい、て。

B ナゼ?  
なぜ?

A タイフーカ アリヤーナ タタミヤダツテモ テアークダツテモナ  
台風が ぬれはす、畳屋 ども 大工 ども  
シャカンサンダツテモ ミンナ ヤッパリ ゼニオ トレル。ダン  
左 官屋さん ども 皆 や、ほり もうかる。た  
千 タマニヤーナ アツタホーカ<sup>ノ</sup> ナ ケーキンヨクナツテ テンノ  
から 太子に はずす、あつたオ<sup>ノ</sup> が 空気が よくす、て(いい)天皇  
一へーカノ ウマミテアーニ イツモ タタミノウエニナンカ イ  
陛下の 馬みために いつも 畳 の 上に はずす<sup>(5)</sup> い  
タツテ オモシロクモネー。(笑) ヨーヤク……。  
まも おもしろく はずさう。(太子には一般の馬の糞に糞の上になつたはずさう。)フーヤ(……)。

B アノー ヒャクシヨ一ノシューカ(笑) クローシテ ネ クローシ  
百姓の 衆が 苦労して ね 苦労し  
て アノー……。  
て ……。

C サイカイカ アリヤー モーカルヒトワ モーカルダヨナー。  
災 害 が あれは" もうかる人 は もうかるんた"とてあ。

B ソーダヨ。  
そうた"と。

C アー。  
あめ。

A ソエカラサー アノー アベカワカ イタンダ ワラシナカワカ  
それからさあ 守倍"川"が いたんだ", 薫科"川"が  
イタンダ" ナー-----。  
いたんだ", てあ-----。

C ー。  
うん。

A ミチー イタンダッテ イヤー コケーラノシューダッテ ドカタ  
道路が いたんだ"と いえは" この辺 の 衆 ども 土オ  
ニイキヤー ヤッパリ カネカ° ヒャールダ。(し笑)  
に行けは" や。ほり 金 が 入る のた"。

A アレー オトナシク キタジャーナ ドッコエモ ツカウトコモ  
あれが(何の災害がなく)無事に来た"のではな。ど"こへも(人)使う場所も  
ネーダ。シンジャワーエ。ニー。ホントニ。  
た"んだ。(それでは)皆(働か場がない)死んでしうよ。うん。本当に。

C ホントニ。  
本当に。

A ダケンカ° サイカイオンテノワ ワスレタトキニ ウルダンテナ。  
しかし 災 害 何と"というものは(人)忘れた時に 来る"んだ"からてあ。

## 注記

- (1) 話者 A は [ajekunohateni] (挙句の果てに) と言っている主張。
- (2) 去年も、と貸しておけば、今年も、と返、てきて得とまるはずだったということ。
- (3) A が、同席者 区 (私の妻) に茶菓子を用意したもの。区は最後まで積極的発言はしていない。
- (4) 区 の答。
- (5) 天馬には変、たことがある方がよからう、という意味を、天皇の馬は畳の上に寝ているだろうから (ユーモア)、天馬には普通の馬のように藁の上に寝たいだろう、というつもりで言ったもの。

### 3. 関東大震災の思い出

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A ジジサンテ ミヨーダヨ。カントーダイシンサイダ。アノトキヤ  
地震 時と 妙 時とだ。関東大震災 だ。あの時は  
一 モモサンテ……。

百々さん 時と……。

B イママテ シズオカ ワスレタ ジブンサンテ ユーコト モナク  
今更(お水更) 静岡は 忘れた 時分:(災害が来る)時とというに もよく  
アレダ。ネー。コシタ ヤラレ ヤラレキヤツタ。  
(河も来りから:に)ゆえ。今度は <sup>xxxxxxx</sup> やらねました。

A ダイシンサイシ トキニャー オマツキワ イクツグレアーノ ト  
大震災 の 時には お前たちは 幾歳ぐらゐの  
キダ。アノ トキョーノ……。  
時だ。あの 東京 の……。

B ー。アノトキー ワシラ ニニネンダ。  
らん。あの時は 私は 二年生だ。

C ワシラ イチネン……。ニネンダ。  
私は 一年 ……。(いや)二年生だ。

B ココノツ ジャネター。  
九歳 どれかい？

C イケネンダト オモッタツケヨ アタシラ。 イケネンダラ。  
一年生だ"と 思ひ、たよ 私 は。一年だ"らう。

B ジャ ワシラ サンネンダ。  
どれ 私 は 三年だ"。

C サンネンダナ。  
(あはたは)三年だ"は。

A オラモ ドーモ アレダナ コシーツケダシテナ。ソイデオマエ<sup>(1)</sup>  
私も どうも 幼い時 だ、た 仔。それで"お前  
アシノコノ ヤブエ ネタリサ。ウラツカタノ アー アマエト。  
アシノコノ 藪へ 寝たりさ。裏側の 山へと(逃げた)。

C ワシラン ウラノヤブワ ホントニ ニギヤカクッタ カヤー ツ  
私の家の 裏の 藪は 本当は(文勢集、?)にギヤかた、た。かヤエ 吊  
ツタリナニカ……。  
、た、り ばにかして……。

A ー。  
らん。

C マキノ マキノノ アキチャンカ アカ……。  
xxxxxxxx 牧野の アキちゃんか ……。

B モトチャン モトチャンモ イタシンテ ヤブニオカデ"……。  
xxxxxxxxxxxxx モトちゃんも ハツとけ……。藪の中て"……。。

C ホントニ……。  
本当に……。。

A アントキダツテ ウチガ オマエ イツシャクノヨー エスレタゾ。  
あの時 だも 家か お前 一尺以上 揺れたぞ"。

イッシューカンバカ オマエ ビクビクビクビク……。

一週間はかりお前びくびくしていた……。

C アントキニャー アノー ナカムラノ シューカラ ヤツミチノ  
あの時には 中村の 衆も ハッ道の  
シューカラ ミンナ アソコノ オーヤノ ヤブエ イッチャッタ  
衆も皆 みやこの 大谷の 藪へ 行っていました  
ンダナー。  
んたはめ。

B アソコノ イマノアノー アソコニアノ コーミンカンノトコ……。  
みやこの 今の みやこに(ある) 公民館の所……。

C ンー。  
うん。

B アソコガ° チャバタケン ナッテタジャ。  
みやこが 茶畑に 行っていました。

A ンー。  
うん。

B ソエテ° オギンサンテ アノ シンナーサンテ<sup>(2)</sup> バーサン……。  
それで° お銀さんて(いう)あの しほさんという おばあさん……。

A ンー。  
うん。

B アノ バーサンガ° ソノ エスレル アノ テ° コー カラダガ°  
あの おばあさんが しゃんぷうに 揺れるの?" こう 体 が°  
エスレタモンテ° ソノ チャバタケニ コー シガミツイテ シ又  
揺れた の?" その 茶畑に レがみついて 死ぬ  
ダラ イッショニ シナズヨ一ッテサ……。  
やら 一緒に 死のうよう、マサ……。

A ニー。  
うん。

B ワシラ コーニ コーニ チャバタケンネ……。  
私たらは こういふうに： こういふうに： 茶畑にね……。

C ニー。  
うん。

B イッショークンメー シガミツイテ コー コスレチャツテルカラ  
ー 生 懸 命 レがみつゐいた。こう 揺れてしま、ているから  
……。  
……。

C ニー。  
うん。

B ソレ メニツクヨ。  
それが(今も)目につくようだ。

A シンダラ イッショニ シオズ<sup>(3)</sup>ツテ……。  
死ぬ付ら 一緒に 死ぬう、て……。

B アノ ミケデ ワシラ ジテンシャ テラツテタダヨ。(笑) ソノ  
あの 道で 私たらは 自転車者を 習、ていたにや。 その  
ドローテ……。  
道 踏、て……。

A アー。(笑)  
みみ。

## 注記

- (1) 「コシー(こすい)」は「量が少しい」意から、「年齢が少しい、幼い」の意にもなる。こはそれにあたる。
- (2) 「シナ」という女性名を第一音節と第二音節の間に撥音を入れ、第二音節を伸ばして {sinna:sāN} としたもの。
- (3) この前の部分でBが「シヌダラ イッショニ シナズヨー」と言ったが、そのことはの意味を、Aが私に解説したもの。



## 4. 静岡地震の思い出

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百合代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A ソレカラ イシャシクサー アノ リシンヤナニカ ネットオモ  
 それから 久しく さ、 地震ヤ何か 怖いと思  
 ヲテ イズノホーノ リシンヤ アノー ホッカイドーノ リシン  
 ヲテ(昨年)伊豆のオノ 地震ヤ 北海道 の 地震  
 ヲ アツテモナー ネットオモツタラ コンダ ハマノオーヤノ  
 は あ、アモさ、 怖いと思、たら 今度は 浜の天谷の  
 リシンガナ<sup>(1)</sup>……。  
 地震がア……。

C ンー。  
 うん。

A アレモ シツテルラ オマツチ。  
 あれも 知、てるアろう お前たらは。

C シツテルアネ アノ……。  
 知、てるア あ……。

A ロウカツダカ シキガツジブン<sup>(2)</sup>……。  
 六月だか 七月のころ……。

C アノトキニワ ヤマニイタダヨ。ヤマニ イタラ カックーサンガ<sup>(3)</sup>  
あの時には(私は)山にいたのだ。山に いたら 南 さんか  
.....  
.....

B ンー。  
うん。

C ソシタラ コンナノ イシ イクアーイシ ゴトゴト オチテキタ  
それなら こんな 石 大きい 石が ごとごと 落ちてきた  
ンー。  
うん。

A ソレダンテサ キョーモ センセーニ ユツタダケガサ シズダイ<sup>(4)</sup>  
それだから 今日 先生に 言、たのたが(後に)静岡大学  
が アノクレーノ イキヤーモノ ボツタツタケガサ ホントー  
か あのくらい の 大きい建物も 建てたのだから 本当  
ワ アノー ウドヤマノシター リューキシタトコデモツテナ ア  
は あの 有度山の下 の 隆起した 地点?  
ノー アベカワノ ジャリミテアーナモト ナニカ コー ダン  
守備川の 砂利のほうのものか 何か こう 断  
ソーニ ナツテルニ.....  
層に 入っているのに.....。(ふつから地震が大きいほう)

C ソーガサ。  
そうた。うん。

A ンー。アスコントコワ フーントニ アノトキノ リシンワ アス  
うん。あのころは 本当に あの時の 地震では あの  
ケーラノシユーフ タツテルワキヤー ネアーツケダゾ。  
あたりの 衆は 建っている家は つかたぞ。

C ンー。  
うん。

A ンー。アノ シズダイカラナー アノー タイショージナー<sup>(5)</sup> ハマ  
うん。あの 静大 から 静大 大正 寺 静大 浜  
/.....  
の.....

C ンー。  
うん。

A ンー。アスキーラ オメアー オラン クジータヤンダ<sup>(6)</sup>。  
うん。あの 辺を お前 私に 崩して歩いた (おた)。

C ンー。  
うん。

A ンー。ト アリヤー ジャー アノ シズオカノ タイカー モッ  
うん。おと あれは では 静岡の 大火は もっ  
ト コツキダツクカ。  
と あとた、たか。

B アレワ ショーワジューゴネンダ<sup>(7)</sup>。  
あれは 昭和十五年だ。

C ショーワジューゴネンダ。  
昭和十五年だ。

A ショーワジューゴネン。ンー。ソイジャー ハマノ オーヤノワ  
昭和十五年。うん。それが 浜の 大谷 (地震は)  
イクネンダ。  
幾年だ。

B ジシンダ  
地震？

A ンー。  
うん。

B イクネンダローター。  
幾年たろうほめ。

A ナンセ シチカツジブンダヨナー アノー タノクサトルトキダン  
フにしろ 七月ごろたつほめ 田の草を取る時た  
て……。  
から……。

C ンー。ソーダナ。  
うん。そうたつ。

A ンー。  
うん。

C シチカツダッケナ。  
七月たつて。

A ンー。シズオカノ アノ……。  
うん。静岡の あ……。

C エーカケンマエ……。  
相当以前……。

B ソレワ マダ <sup>XXXXXX</sup> セン センソーキュー……。  
それは また 戦争中……。

C センソー オフツタ  
戦争 終わった(か)?

A バカ オメー センソーメーカー アレ……。  
ほか お前 戦争前 たつ あれは……。

C センソーメーカーヨ。  
戦争前 たつ。

A ソーサ。  
そうだよ。

C ヨシキョウキト シゴトシテタモン アノ バンバーノ……<sup>(8)</sup>。  
よしちゃん と 仕事をしめたもの、あの バンバーの……。

B ホー。  
ほう。

A アノー タイカントキカ。  
あの 大火の時か。

C ンーン。ジシンノ トキニナ。アノー ケーボーチャンキデシヨ  
うん。地震の 時にね。 ケーボー ちゃんでしょう。  
ヨシキョウキダノ……。  
よしちゃん達の……。

A ンー。  
うん。

C ヨシキョウキト ヘーカラ ハマチャンカ。  
よしちゃん と それから ほまちゃんか。

A ンー。  
うん。

C ハマチャン。ソノシュート シゴトシテ……。  
ほまちゃん。そういう人たちと 仕事をして……。

## 注記

- (1) 昭和10年7月11日の、静岡市・清水市の地震。
- (2) 特に静岡市<sup>大谷</sup>・<sup>不震</sup>・高松方面に被害が大きか、た。  
全潰237戸 半潰1412戸 死者8 重傷26 軽傷192  
(静岡市編「静岡市史・近代史料」〔昭和44年4月1日発行〕による。)
- (3) 「角太郎」の「角」を (kakku:sAN) と略したもの。
- (4) 録音の前にA氏が私に話したこと。
- (5) 静岡市東南、西<sup>大谷</sup>にある寺。駿河湾から800mぐらいのところなので「浜の」という。
- (6) 地震で崩れた家と、当時青年団の一員としてこわして歩いた、ということ。
- (7) 昭和15年1月15日。被災者約28000名、5275戸焼失。
- (8) 「バンバー」は静岡市麻機地区山田あたりの通称。表記は定かでない。

## 5. 復員のころの思い出と戦後の復興

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)    |
|------|--------|-----|---------|
| A    | 山本 俊男  | 男   | 明治44年生れ |
| B    | 後藤 百々代 | 女   | 大正2年生れ  |
| C    | 佐藤 とし  | 女   | 大正4年生れ  |

A オリャーナー センソーニイッテサー ウキー キャーッテクルト  
私は 百々代 戦争 に行、マ、 家へ 帰、マ、 行く時  
キニナ アノー アノ ダエダ アノー エンドーノナ ホリウキ  
には、 あの 大木だ 遠藤の母 堀内  
クン ト イッショニ キタダヨ。ホリウキクンワ オレン ブタ  
君 と 一緒に 来たんだ。堀内 君が 私の 部  
エニイルッテコトワ シラネーモンデ オメア ドコマデ キャー  
隊にいたというニトを(私は)知らないのぞ(堀内君が)「お前はどこまで 帰  
レダッテ シズオカダッテ オレモ シズオカダヨッテ オマエ  
のた」と言うのぞ(私が)「静岡だ」と(言う)「おれも 静岡だよ」と言うから(私が)「お前は  
ドコノ部隊だ」と言、たら(堀内君は)「何を言、マ、 ヤがるんだい、 王 長、  
ヨー オマエ オラントコノ アレジヤネーカ。ヨク ナタヤナニ  
あつたは 私のところの(班の) 班長だは かい。(私は)よく 銃や何  
カ コシラエニキタジヤネーカ ナンテイッタケカ。ホーカーナン  
カを さらえに 来たマは かい」 母と と言、たら、 「やうか」 母と

ナナ オリタダネーカ。アレダッケヨ アノー コノ カナヤノナ  
(私に言て)(汽車を)降りたのだから、 金谷の好み

一 トニネルオコエテナ ズーットクルト コンダ アノ オーイ  
トニネルを越えらば、おー、と来ると 今度は 大井  
ガワノ テッキョーエ ワタルダケガ トーッテキタラナ ウッス  
川の 鉄橋 へ 渡るのだから(おに)通ってきたらば、う、す  
リナ フジサンガミエテ イツモナガラヤ フジノヤマテンテナ。  
りとは、富士山が見えて、いつもおからや 富士の山ほどと(う感じな)

ニー フントニ ソー オモッタッケヨ。ソエカラ アレカラ ズ  
うん 本当に そう 思、た よ。それから あれから お  
ーッテキテサー アノー コノー アイズイキ へーカラ アノー  
一、と 来らば、 焼津へ行き、それから

アスコノ トニネルオ コスト アー アレダ モチムネノ ハマ  
あやみの トニネルを 越すと 用宗の海

ン メールトオモッテ へデ シズオカノ エキー キテナー ウ  
岸が見えるなと思、て(いるうちに)おれで 静岡 の 駅 へ 来らば、う

レシーッテナー エメジャーネアーカトオモッテ <sup>ウ</sup> フタリデ  
れしかったらば、 夢 でば ばい かと思、て <sup>xxxx</sup> (堀内君と)二人で

ツメキリッコーシテ……。

つねりあいをして……。

B  
~~~~~

A オー。ホーシタラ コシン マケチヤッテナ。ニー。コシン マケ
おお。そうしたら 腰が 振けてしま、らば。うん。腰が 振け
チャッタ。(笑)ソレカ° ヒャー ナンジューネンダ°。アー。ウチ
てしま、た。 それから もう 何十 年もたつ。ああ。(初時)家

一 キャーッテキタラ コシナノウチデモ オリャー ネラレルダ
 へ 帰って来たら こんぼ 家でも おれは 寝られるの
 カナート オモツタツケ。(C 笑) イキャーウチニバーツカ イ
 かほあと思つた、け。 大きぼ 家にはばかり い
 タモンダシデ。ニー。ヘーデモ オリャー オトシサンナー イチ
 タもので……。うん。それでも おれは おとしさんほあ、一
 バシ ウレシーコトワナー マー タンボウッテ ウチョータツ
 番 うれしいことはほあ、まあ 田んぼを売って 家を建て
 タツカモ シレネアーケーガ マー ミンナ トモダチカナー キ
 タかも しれない が まあ 皆 友だちかほあき
 レーナウチニ キャーッテユトカナー コレガ オレ ナニヨ
 くいほ家に 入、たということかほあ これか 私ほ 何より
 リダト オモエヤー。
 (aと)だと思つうよ。

C ソーダナー。
 そうだほあ。

B ソーダナ。
 そうだほ。

A ニー。ニー。クローワシタケーガナ。ニー。マー ナイチニイルシ
 うん。うん。苦勞はしたけれどほ。うん。まあ 内地にいる
 ユーダツテモ ゴハンモ クワズニサ……。
 人 でも 御飯も 食わすにさ(苦勞はしたろうべ。)

B ニー。
 うん。

A アノ ニケテモ ヤーシダリ セーカラ アノー ショイダシニモ
 逃げた 歩いたリ それから 買、出しにも

イッたり マー アノ ジブンノキモノナー シテ ヤット ア
行、たり 時分の衣類(売、たり) レテ ヤ、と

ノ ベーゲンニ アノ トンモロコシノ ウマノ ハノヨナノオ
米 軍 に トウモロコシの 馬 の 齒のようぢのモ

モラッテクッテサ。ソイデモ イマンナリヤー セカイデモ ヤー
もら、て 食べ、て、サ。それでも 今 に、は、れ、は、 世界でも

ケーザイコクニヤー ナッタワ。

経 済(大)国 に、は、 好、た、わ、い。

C ソーダナ。

そう、だ、な、。

A ソーシテ カクジンノ ウチャー ミンナ エーウケン ナツチャ
そう、レ、テ 各人の 家 は 皆 立派な家 に、な、て、し

ッタダケン……。

ま、た、の、だ、か、ら……。

C ニー。

うん。

A ニー。ソレダケモ マー シヤワセダト オモナー。ニー。ニー。
うん。それ、だ、け、で、も ま、あ、 し、あ、わ、せ、だ、と 思、う、な、あ、。うん。うん。

C ソーダナ。

そう、だ、な、。

6. ベトナム僧のお経

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生 年)
A	山本 俊男	男	明治44年生れ
B	後藤 百々代	女	大正2年生れ
C	佐藤 とし	女	大正4年生れ

A リンサイジノナー オラン オククロン シンデナー ソーシキオ
 臨濟寺の 私の 母親 が 死んで好あ 葬式を
 シルトキニ⁽¹⁾ マクラダ⁽²⁾ニ キテクリョーッテッテナ、リンサ
 する時に 枕 団子 に 来てくれ と頼むために好臨
 イジー イッタ。ソーシテ アノ リンサイジノ オショーガ フ
 濟寺へ 行、た。それで 臨濟寺の 和尚 が ニ
 ターリキタ。
 人 来た。

B ンー。
 うん。

A オリヤー ニホンジンダト オモツチャー イタラナー ヒトリヤ
 私は 日本人だと 思って いたらぬ 一人は
 一 オメヤー ベトナムノ ニンゲンダヨ。
 ベトナムの 人間だよ。

B ンー。
 うん。

A ニー。ホンカ° 午カウダヨ。

うん。(お経といひ読んでいる)本が(漢字と)違ふんだよ。

B ニー。

うん。

A オンナシコンニナー ローロートシテオ ヨンデルダケーカ°ナ……。
(普通の日本語の本と)同じようにいひあめ 朗々と 読んでいるんだ”が”ア……。。

B ニー。

うん。

A ホンカ° 午カウダ。

本が 違ふんだ。

B アー ホント。

ああ そうかね。

A オリャー シラナイツケダケンナ ミテイルヒトカ° アノヒトワ
私 は 気が付かへからんだ”が”ア。(お経)見ている人が「あゝ人 は
ベトナムノ / ヒトカヤー ジカ午カウデ”ンテューダ。オカーシ
ベトナムの 人 か”あめ 字が 違ふ”ア」といふんだ。 妙
ナ オシャカサンノヨーナジオ……。
ア お釈迦さんのよう”ア(形の)字を……。

C アー ジワ 午カウダ”ナ。

ああ 字は 違ふんだ”ア。

A ニー。

うん。

B ソイテ ジワ午カウツタツテモ ソノ オキョーツテノワ……。
それで” 字は 違 っても その お経 というのは……。。

A オキョーツテモノワ オンナシ……。。

お経 というものは 同 じ……。。

A ナンキューカト オモツタラ ナサケネアーカーナ ベトナム ベ
 何 と言いかと 思, たら 「情 け 好い 好い,
 ベトナムイッテナ コノ ミンナシテ タツタルウケワナ コラ
 ベトナムへ行, て 好, 共 同 で 建, て 好 家 好 好
 エーウケモ アルケーカーナ コジンテキデモツテ アノー ウケア
 よい 家 も 好る が 好 個人 で 建, て 好 家 好
 一 コケラノヨーナウチャー ベトナムニヤー イツケンモネーッ
 (日本に普通に好る) よう 好 家 好 ベトナム には 一 軒 も 好い」
 テ ソーイッタクケヨ。
 と 好う 言, たら 好。

B ニー。
 うん。

A ジイシダトカナ……。
 寺院 だとか 好……。

B ニー。
 うん。

A へーカラ ガッコーダトカッテノワ アルケーカーナ ガイガクダトカ
 それから 学 校 だとか 好いのは 好る けれど 好 大 学 だとか
 ……。

B ニー。
 うん。

A ケンチョーダトカッテノワ アルケーカーナ……。
 県 庁 だとか 好いのは 好る けれど……。

B ニー。
 うん。

A ダケーカ コジニデナ アノー……。
だのれと 個人 だの ……。

B ニー。
うん。

A コーユーナ ニホニノヨーナ アノ ミンカノヨーナ……。
こういうふうだ 日本 の ふうだ (か) 民家の ふうだ だあ……。

B ニー。
うん。

A ウケー ハーッテルッテウケー オジサン ア マー ナンニ
家 へ 入、て いる という 人 は おじさん 何に
モネアッテ コーイッタヨ。
も たい と 言う、たよ。

B ニー。
うん。

A ソエダンテ ニッポンノナ ミナサンワ シアワセダッテ。ニー。
それだから 日本 の だ 皆 さん は しあわせだ。うん。
ガクモンワ ハツタツシテルシナ……。
学 問 は 登 達 して いる し だ……。

B ニー。
うん。

A ソノ ウケモ ハツタツシテルシ……。
家 も 登 達 して いる し……。

B ニー。
うん。

A ソエカラ アノー ナニカラナニマデナ イクワマケテモ セカイ
それから 何 から 何 まで (登達して) いくら (太平洋戦争には) 負けず世界

ノオ ヤッパリ オーゴクダッテ……。ニー。マ イワバサ イシ
の ヤはり 王国 だ。て……。うん。ま いわは 石
バシワ ツバレテモ⁽³⁾ ヤッパリ クサッテモ テアーッテユーヨー
橋は 磨滅しても ヤ、はり(石橋だ)腐、ても 鯛 というよう
オモンダナ。ニー。(笑)アー。ホントニ……。
なもので。うん。 ああ。本当に……。

注記

- (1) 「私の母親が死んで、臨濟寺に頼んで葬式をする時に」の意。
- (2) 死者の枕もとに、椀に搗かいた米を盛り、供えるもの。
- (3) 「ツブ」は「磨滅する」の意。「イシバシワ ツバレテモ」とは、立派な石橋は、たとえ磨滅してもやはり石橋だというこゝとで、直後に出る「腐っても鯛」と同趣好。（「石橋のあつた家は旧家だ、だから今でも権威がある」の意）。

7. 昔の生活と今の生活

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	山本 俊男	男	明治44年生れ
B	後藤 百々代	女	大正2年生れ
C	佐藤 とし	女	大正4年生れ

B ソイデ⁽¹⁾ ムカシツカラ クラベリャー イマノシューワ シアワセ
 それで 昔 と 比べれば 今の人 は しめわせ
 ダヨ一。
 だヨ。

A シアワセダ。
 しめわせだ。

B ミンチ ソレニサー エーウケ ヘアーテル。
 みんな 立派な家に入っている。

A ソレニサー キョービノ コドモナンテ ワレワレワ オマエ エ
 それにさ、このじろの 子供 ほど われわれは お前
 メニモ カンケアータコター ナイヨ。アノ テレビダナンテコト
 夢にも 考えた ことは ないよ、 テレビだつてふんてニと
 ワ。
 は。

C ソーダ^ナ一。
 そうだ^ナつめ。

A ゴハン クイカツラ エーガミルナンテコターネー。
御飯を 食いつから 映画を見つめて ことほねえ。

C ニー。
うん。

A ニー。
うん。

B ナンデモ ムカシカラ クラベリヤー イマノ コドマー シアワ
何でも 昔 と 比べれば 今の 子供は しあわ
せニヤー シアワセダヨナー。
せには しあわせだよなあ。

A シアワセダ。
しあわせだ。

B キルモノカラシテ……。
着る物からして……。

A アー。
ああ。

B ムカシヤー ネ ズーット(笑) オサガリ オサガリテ(笑)……。
昔 は ぶーっと おさがり おさがりて……。

A ニー。
うん。

C ソーダヨナー。
そだよなあ。

A イマノモナー オマヤー ホニナンテ イチネニツカヤー ウッチ
今の者は お前 本で 一年 使えば 捨
ヤツキヤウモンデナ。ムカシヤー オマツキウチノ コドモニヤー
てしあうものであ。昔 は お前の家の 子供には

ホンカ アウカシラ⁽²⁾ アルカシラナンテッテ ヤーンダノカナ……。
本が アウカシラ あるから何とて言て 歩いたのかとて……。
xxxxxxx

B ソータヨ。
ソータとて。

C ソータヨ。
ソータとて。

A オー。モラエーヤンダリ カレーヤンダリ……。
おお。もらいに歩いたり 借りに歩いたり……。

B シツテルウチノ コンノー カレリヤーイーワナンテッテ イツチ
知人の家の 子(本を) 借りれば「いれ何とて言て 言て
ヤー……。
は……。

A ニー。
うん。

B ソーシキヤー ヒトツノホンデ エーカン アレ アノー オーゼ
そうしては 一冊の本で 相当 大勢の
トータ ソノホンデ マニアワシテ……。
人が「よんだ」。その本で 間に合わせて……。

C ソータヨナ。
ソータとて。

A ニー。マニアワシテ……。ニー オラ マー ヒトリッコダモンダ
うん。間に合わせて……。うん 私は まあ 一人、子だ「もので
ンデサ マー ズーット カッタケーガサ……。
さ、まあ ね、と 買ったけれどとて……。

B ニー。
うん。

A ダケーカ……。
たけと……。

C オーゾーアルウキジャー……。
天勢 いる家では……。

A ニー。オラホーノ シューワナ アノ サーバタノウキノシューシ
うん。私の(近くの)人 はは 澤端の家の人
ノ アノー アルカヤーナニテ キタシューカ オハナサンキアタ
の (本は)あるかよ 何と 来た人 が お花さんの家あた
リノシュー アッタヨ。
リの人 に あ、たよ。

B アルヨ。
あるよ。

A ニー。ショージギン。
うん。本当に。

C ニー。
うん。

A ニー。
うん。

C サイショ ニューガクシルトキニャー アタマ ワニユツテ……。
最初 入学 する 時には 頭を 輪の型に結、て……。

A ニー。
うん。

C ナー ハマカ ヒャーテ……。
何あ 袴 E はいて……。

A ニー。
うん。

C キモノキテ ハカマハイテ イッタダヨナー。
着物を着て袴を歩いて行、戻らなすおめ。

A ダケーガ キョービワ オリヤー アレダキヤー シタホーカ° エ
たけれと” このころは 私は あれだけには 来たおが い
ーと オモナー。コノナー アノ ヤッパリ へーカノオ オイ
いと 思うおめ。(つまり) や、はり 陛下のお お祝
ワイノトキニヤーナ……。
い の 時 には 好 ……。

C ニー。
うん。

A アー ナンテツタツチ ヤッパリ ヒノマルノハター アゲテサ……。
あめ 何と い、まも や、はり 日の丸の旗を 揚げた……。

C ソーダヨナ。
そうたよお。

A カクジンカ……。ナー。
各人が……。おめ。

C ソー。
そう。

A へーカラ オマエ ガッコウエイツテル コドモニヤーナ タトエ
それから お前 学校へ行っている 子供には好 たとえ
ヒトツデモ イーント センベーノ ヒトツモナ ムカシノヨーニ
一枚でも いいから 煎餅の 一つも好 昔のように
クレテモライタイヨ。ジブンノ コドモアルンテ ユーワケジャー
与えてもらいたいの。自分の 子供があるために 言うわけでは
ネアーケーガ……。
好いけれと” ……。

- B ムカシヤ コーハクノ マンジュー 一ダカ クレタヨナ。
昔は(やういふ日には)紅白の 饅頭 一ダカを くれたよナ。
- C ニー。ムカシワ コーハクノ マンジュー クレタヨナ。ヨク。
うん。昔は 紅白の 饅頭を くれたよナ。よく。
- B ヒノマルガ ハタノツイタ アノ フクロイレチャー クレタケー
日の丸の 旗の ついた 袋 に入れたよ くれたけれ
カ°……。
と°……。
- C ニー。ソーダナ。ニーン。
うん。そうナナ。うん。
- B ナツカシクナツキヤウ。
ナツカレク ナ、アレマウ。
- A ソシキョーサンカ° キンオモウニナンテツテ ヤツテナ……。
村長 さんが「朕 惟 フニ」ナと ヤ、アナナ……。
- C ニー。
うん。
- A アレ ヤッパリ シキラシーツケ。ニー。ダケン キョービャー
あれは や、はり 式らしかった。うん。ただと このニナは
オメヤー ヒノマルノハター アケルワケジヤナシ ナ。
お前 日の丸の旗を 揚げるわけではナシ、ナ。
- C ソーダヨナ。
そうナナ。ナ。
- A ニー。ソレデ" イ一ダカモシレンケーカ° ヤッパ ニッポンジンワ
うん。それで いいのかもしれは、か" や、はり 日本人 は
ニッポンジンラシーヨーナ ガクモンノアリカタン イケバン イ
日本人 らしいよナ 学問のありかたが 一番 い

一「ジャネーカト オモウダケンナー。ヤッパ キミカヨワ ヤリタ
いのでほほいかと 思「うたけれど「ほあ。やほり 君 が代ほ 歌いた
イヨ。マズナー コケーラノシューワ マダ カンジネアーダケ
いよ。まお この 辺の 人 ほ まだ(やかうとE)感じほいいけれ
カナー……。
どほあ……。

C ニー。
うん。

A ガイコクイ イッテ ヒノマルノハターミテミロ オメア コノク
外国へ 行,ア 日の丸の旗を見よう。お前 ころ
レアー キモクノ イーコターナイズ。
らい 気持ちの いいことほほいぞ。

C ソーダ⁽³⁾ヨナ。
そうだ「ほほ。

A ニー。ホントニ……。
うん。本当に……。

注記

- (1) 「ムカシ ッカラ カンガエルト」と「ムカシト クラベリヤー」との混交。
- (2) 「アルカシラ」の言い誤り。
- (3) Cはこういう体験がないはずだから、この「ソーダヨサ」は、単なる相づちである。

8. 兵隊生活と君が代

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	山本 俊男	男	明治44年生れ
B	後藤 百々代	女	大正2年生れ
C	佐藤 とし	女	大正4年生れ

A へー オマエ カンタンナユトダケーガ オマエ オラー へー夕
 お前 簡 何ニトダ"けれど" お前 私ハ 兵隊
 イニイッテナー オマエ オリヤー イローキューカ イチンチ
 に行ッマアお前 私ハ 慰勞 休暇 一日
 モラッタコター アルケーガ ソーシタラ ビンタトラレタト。
 もらった ことが あるのだが" そうしたら ビンタを食わされたよ。

B ー。
 うん。

A キミカヨノ イミヨー ユッテミヨッテイッタラナ ダーレモ テ
 (上官が)君が代の 意味ヲ 言ッマアト 言ッたらア だ"れモ 手
 オアケ"ネア"ンテ" オレカ" ヒトリデ" ヤッタヨ オメア"。ソ"ー
 ヲあけ"ア"ンテ" 私カ" 一人デ" 言ッたよ お前。そう
 シタラナ イチンチ ホーショーキューカー モラッタ。モラッタ
 レたらア、一日 報賞 休暇ヲ もらった。もらった
 アカツキニヤ"ーナ ビンタ"ーナ サンジューダ"カ モラッ"キヤッテ
 翌日 にはア、ビンタヲ 三十 だ"か もらッてしまッて

-----。ソナモナー ダレデモシッテラーッテ-----。アー。
-----。そんなものは だれでも知っている、て-----。ああ。

B (笑)

A ソイデ⁽¹⁾ ニネンヘーニ ナッテナー ハンクヨーガナー ジツアー
それだ⁽¹⁾ 二年兵に 任せてあげ、班長があげ、「実は
ヤマモト オレモ シラネーツクダヨッテ-----。ウタウコター シ
山本、おれも知らなかったよ、て(言、た)。「歌うことは^{xxx}
ラデ⁽¹⁾ ソラデ⁽¹⁾ ウタウケーガナ オレモ シラネーツクヨッテ オ
^{xxxx} それで 歌うけれど⁽¹⁾は 私も(意味を)知らなかったよ、て「お
マアニ オソワッテ ハジメテ キミガヨノイミヨー シッテル
前 に 教わ、て はじめて 君が代の意味を わかる
ヨーニナッテルッテ(笑) ハンクヨーモ セーイッタクケヨ。ン
ように 任、て いる、て 班長 も そう言、た、けよ。う
ー。ウタ ウタウニャーウタウダケン イミカシラネーツク。ソエ
ん。歌を 歌うには 歌うのだけれど 意味を知らなかった(と)。だか
ダンテ アノ モモサン イマノ ホタルノヒカリデモナ ヒトツ
ら 百々さん 今の「螢の光」でもは「一
ノボリデデモナー ソエカラ アノー アレデーナー コノー イ
のぼりて」でもあげ、それから
キガツイケンケノ ナー カドマツノ ウタデモ ヤッパ アレア
月 一 日 の 門松の 歌でも や、ほりあげ
ー エーモンダヨ。
ほ いいものだよ。

C ー。
ん。

B ニー。ナー。
うん。なあ。

A ニー。イマノシューワ ドーカ シラネーケーガ ワレワレンキク
うん。今の人はどうか知らないけれども我々が聞く
トナー ヤッパリ アノ コノ ショーカ ッテモナー コノー ガ
となあ、や、ほり 唱 歌といふものは(つまり) 学
ッコーデモッテ コツカオヤルトカ ナー アーユー アノ キケ
校で 国家を歌うとか なあ、ああいう 紀元
ンセツノ ウター ウタウナンテコター ヒジヨーニ ムカショー
節の歌を 歌うたど」といふことは 非常に 昔
オモイヂァーテ エート オモナー。
思い出して いいと 思うなあ。

B ソーダナー。
そうたなあ。

A ニー。オラ スキダヤー。イミカ° ワカルダモノナ。
うん。私は好きだよ。(イミカとエ取)意味が(よく)わかるんだものなあ。

B ニー。
うん。

A ニー。
うん。

注記

- (1) 「ソラデ」の言い誤り。
- (2) 小学校の卒業式で歌った歌。「一つのぼりてむつまじく 歌い合
いたる野辺の鳥」で始まる唱歌だという。「螢の光」のメロディーで
歌う。

9. 昔の生活の思い出

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	山本 俊男	男	明治44年生
B	後藤 百々代	女	大正2年生
C	佐藤 とし	女	大正4年生

A ソーシテミルトサ ムカシオ カンゲアーテミルト ナゲアーナ
 そうレ? みるとさ 昔 エ 考エ? みると 長い 所
 オラモ……。

私も……。

B ナゲアー マツタケ……。
 長い 全 く……。

A ー。
 うん。

B ヨク イキテルト オモー。(A B 笑)
 よく 生きていると 思う。

C ミンナ ソー オモーヨ。ヨク イキテルト オモーダナ。
 皆 そう 思うヨ。よく 生きていると 思うんた"所。

A キーセアー キーセアートキニャーサー イマ アノ リューツ一
 xxxxxxxxxx 小さい 時に ぼさ 今 流通

センターナンテ アンナンナッテ テ"キタケカサ アスコントコ
 センター 所と"と みみいうふうに(並派に)できたけれども めそのの所

ノ マアノ カワナンキヤー ソイジャッテナ。ニー。アノ
の 前 の "I 好ヒ" は えぐれましま、マア。うん。
コ アノ。

C ママノ バーサン⁽¹⁾。
沼の ほみさん。

A スワジン……。オー。ママノ バーサン……。
諏訪神……。 沼の ほみさん……。

C ママノ バーサンナシ イッテツケヨ。
沼の ほみさん好ヒへ 行、た、け好み。

A スワジンジャ。
諏訪神社。

B イッタヨナー ヨク。
行、たよ好み よく。

C オベーターヨ。
覚えているよ。

A アノトキニヤーナ ヤッパ フネーナ サキヤ サカダルオ ツン
あの時には好 ち、ほり 船へ好 xxxxxxx 酒樽を 積ん
デ……。
で……。

C ソー。フネー……。
そう 船へ……。

A イセーオンドー ウタッテー……。
伊勢音頭を 歌、て……。

C アスコノ ヤクボー……。
あきの 谷久保……。

A ヤクボーカラ
谷久保 から

C ヤクボーサージリカラナ フネデモツテナ イツタダヨ。
谷久保 沢尻 から行, 船で 行, たんぱ。

B ヤクボーサージリ……。
谷久保 沢尻 ……。

A アー。アー。ヌマノバーサンテツテ イシバシノ バーサンガ コ
あみ。あみ。沼のほみさんという 石橋の ほみさんが
ドモ一 ツレテナ……。
供に 連れ来行……。

C チーセパートキノホーガ コー……。
小まゝ 時 の オカ ころ……。

B ムカシノホーガ コー アレダナ アノ ナニカ アノ コー
昔 の オカ 何か

アレダネ オークナツテツカラ エーオモイデガ イクツモアツ
大きく 行, マから いい 思い出が いくつもあ,

テ ムカシノホーガ タノシミー (笑)
て 昔 の オカ 楽しい。

C タノシミー。
楽しいね。

A タノシミー。アー。アー。
楽しい。あみ。あみ。

C イマワ ソレコソナ アレダケン……。
今は それこそ行 (どういふう? 行いから)……。

B イマワ ナンニモ ネー。
今は 何にも 行い。

C ムカシャー アレダヨナ ソーユー オマツリオシテノワ……。
昔は そういふ お祭りほどというのほ……。

A ジブアンノ レキシエ ソノネ アタマエ コノ キザンデ アルダ
(昔のこゝは) 自分^の歴史へ (つれ^に自分^の) 頭へ 刻み込んであるん
ネ。ニー。
だね。うん。

C ニー。
うん。

A ニー。ナカナカ アノー 又マノバーサンダナンテネ マノ スワ
うん。つかつか 沼のほ"あさん"ほどというて 諏訪
ジンジャナンテモンガネ コノ オドリオ オドッテヤ キンチキ
神社 (の祭壇とかありて) 踊りを 踊、まじ ちんちき
キンチキ キンチキ キンチキヤッテ……。
ちんちき ちんちき ちんちきと踊、て……。

C オドリ オドッテ……。
踊りを 踊、ま……。

B イマノ イマノコドモワ ヘーダンテ ソーユウタ マノー ジブ
xxxxxxx 今の子供は それに"から" そうい、た 自分
ソノネ ワマレタトコノ フルサトノ……。
のね 生まれた所の ふる里の……。

A ニー。
うん。

B ソーユー ネー コー エーオモイデナンテ イマノ コドモワ
そういふ いい 思、い出ほど" 今の子供は
オーキク ナツテカラ コー ナイ ネアート オモイヤ。
大きく ね、まから いい、いいと 思うよ。

A ネアダナ。

おんたは。

B ヘーダンテ……。

おんたから……。

A オモイデッテコトガナ。

思っ出と いうことが (おんたは)。

C ソー。オモイデッテモノカナ。

そう。思っ出と いうものが。

B 又マノバーサンオンテ フネニノツテ イツタダネ。フネノ シュ
沼の はみさん(という沼へ) 船に乗、て 行、た。ね。船の 人

一ト ミカンオ 十ヶタリ モラツタリシテ アシラ ソノ アノ
と かんを 投げたり もら、たりして 手は

カワノ クロオネ……。

川の ぶちをね……。

A ンー。

うん。

B ズーット イイツタノオ オベ オベテル。

おーっと (歩いて) 行、た。の。覚、えてる。

A ンー。

うん。

C オフドーサンダッテモ オフドーサンオンテ ヒャー ニジューシ
お不動さん でも お不動さん 呼んで もう ニ十セ

キンキノ ヒニャ ゴロゴロゴロゴロ オバーサンキンニナ……。

日 の 日には ぞろぞろぞろぞろ おはみさんのいる家には……。

B ソー。

そう。

C コー。
こう。

B ンー。
うん。

C アノー ナカク レツツクツチャーサー……。
長く 列 を 作, り け, した ……。

A アー。
あめ。

C タンボノ ホーカラ タンボミチオ クルヒトモアリヤー コノ
田んぼの 旁から 田んぼの道に 来る人もあるし どちらの
ミチオ トールヒトモアリ ニギヤケアーツクダケンナ。
道に 通る人もあり にぎやかだ、た、た。

B オトモノ シルシユ……⁽²⁾
おともは 静か、た、たして……。。

C コノゴラー ナンノコター ネーモノナ。
このごろは 何の(変わった)ことばでもない。

A ソイツカサ イデバン ハジミヤー コノ ネ ミチカネ(C、ンー)
そういう場合には 一番 初めは 道がね
コレバツカダカラネ。
これは「かり(狭かた)からね。

C ンー。
うん。

A ニシャクバカリノ ミチダ。
二尺ぐらゐの(幅の)道だ。

C ソーダツタナ。
そうだ、た、た。

A ソイツカ イマワ オマエ アノ イケアー トラックカ オメア
それが 今ワ お前 ああ 天まで トラックカ お前
ーズーズー トールヨーニ ナツテネ。
おん おん 通るよう(ほ広い道)に行てね。

C ソーダヨ。 シー。
そうた"エ。 うん。

A フナトナンテ ユーモノワ アノ アンタツチモ シツテルダロー
船着場何と"というものは 見たことも 知、ているた"うう
ケカ アノ フネカ" ドコデモ マーツタダカラネ。
か" 船が(多くの船着場)と"どこも 回、たのた"からね。

C ソーダヨ。
そうた"エ。

A シー。 ソレカ" アンナ キーセアー カワニ ナツチャツタ。アー。
うん。 それが あんた"に 小さい 川に 行、てしま、た。 ああ。

C ソレコサ アノ ビョーインノ ホーカラ ズーット アノーイ
(昔)それがあ"の 病 院の ちから ぶー、と(長距離)を
ネデモ ナンデ"モ ワシラ アノー サガツタバツカノ コロワサ……。
船でも 何"でも 私"たちが 卒業した"ばかりの ころはね……。

A シー。
うん。

C アノ ショツテ キタダ"ヨ。
背負、て 来たのた"エ。

A シー。
うん。

C ショツタリ カケーダリシタ。
背負、たり かつい、た"りした。

A ンー。
うん。

C ソイデ アノー フネデモツテ ヤクボ一サージリノ ホーエズ
それだ 船で 谷久保 沢 尻の 牙へあ
ーット ツンジャー ヒトリ アノ ヒツパツチャーサー……。
ーと 積んでほ 一人か 引、ほ、まほ さみ ……。

A ンー。
うん。

C アノオ オトコシユラガ コー アノー オンダツケ フネオ フ
男の人たちか 船を
ネオ コー アノー ……。

A ロオ コイダ コイダナ。ウルマモナシ リヤカモ ネア一ダモン。
槽を 漕いだ仔。車 もほし リヤカーも 行ったもの。

C ワシャ イクドモ コー フネ ヒツパツタコト アル。ツナデ。
私は 何度も 船を 引、ほ、たこがある 網で。

A ナンセ センソーニ マケテッカラ ブンカツテコトワ キューニ
何れも 戦争に 負けたから 文化、というよりは 急に
ヤツキタダヨナ。
ヤ、てきたんだ"仔。

C ンー。
うん。

A ンー。ソノマエワ オナジ ブンカツテモ ……。
うん。その前は 同い 文化とい、まも ……。

B オセガキ オセガキ テート マチノ アノ ミセガ コケー ス
お施餓鬼、お施餓鬼 とい、と 町の 店か こゝへ(近付)

ーット……。

おー、と……。

A ニー。

うん。

B ナランジャー……。

並んでけ……。

A ナランジャッター。

並んでしま、たけあ。

B ネー ソーユーノ……。

ねえ そういふのよ……。

C ホントニ……。イロイロ コー ムカシノ シュー オモイデガ
本当に。いろいろ 昔の衆は思い出か
アツタ。

あ、た。

B ソーユーノ ミンナ ナツカシク オモイダス。

そういうのよ 皆 つかかしく 思い出す。

A ムカシャー オメマー アリヤガ⁽³⁾ カンノンサンダナンテネ……。
昔は お前 有永の 観音さんだてけ……。

C カンノンサンテ ソー。

観音さんて そう。

A ハナビョー ウツテ……。ソイデ⁽³⁾ ムスメドマ……。

花火を 打って……。それで 娘 どもは……。

C ホントニ……。

本当に……。

A ネー。アノー コー アケマー オビョー シメテ……。

ねえ。 こう 赤い 帯を しめて……。

C ニー。
うん。

A ソイカラ アノ ナンダネ アノ ユカター キテ ソイカラ
それから 浴衣を 着て それから
ワケアージュワ ヨコブヨー フイテ ナー。
若い 衆 は 横笛 を 吹いて 居る。

C ソー。
そう。

A ピーチャラ ピーチャラ。
ピーチャラ ピーチャラ。

C スイカノ アノ タタキウリト ナントナ……。
西瓜の 叩き売りと 何れと何れ……。

A アハハ。アツチ イツチャ ケンクガ ハジマリ コツチ イツチ
あはは。あ、ちへ 行、まは けんかか 始まり こ、ちへ 行、て
や ケンクガ ハジマリ……。
は けんかか 始まり……。

C アノー サー ギイツツアンキウチ フルヤギイツツアンキウチ。
義一さんの家 古谷義一さんの家。

B ウン ソーソー。
うん そうそう。

C アノウチデ ミセヤ シテチャーナ アノウチデ コーリ ノンダ
あの家で 店屋をしていて、 あの家で 氷を 飲んだ
り……。 (笑) (B ホントニ。)
り……。 ほんとは

B ノンダリオンカシタナー。カエツテ ~~カエツテ~~ ソコノ
のんた"リ 何と"レト、居る。 帰、て くる とさ その

イバノ イバノウキエ ヨツチャー コーリノンジャーナー……。
×××××× 湯場の家(温泉)へ 寄,ては 氷を飲んではおけ……。

A アノトージワナ トンモロコシノ ニオイガ タマーンナク エー
あの 当時はおけ どうもろこしめ においが たまらなく いい
ニオイダツケヨ。ビシビシビシビシ ヤエーテナ。ソリョー カッ
においた,たよ。びしびしびしびし 焼いておけ。それエ 買,
チャー クツタヨ。ニー。ソエカラ オデングナ イクラクツテモ
ては 食,たよ。うん。それから おでんがた いくら 食,ても
オデン クイテアーケツヨ。ニー。イマジャー アンマリ クイテ
おでんを 食いたか,たよ。うん。今では あまり 食いた
アート オモワネー。
いと 思,おけい。

C ムカシャー トンモロコシダツテモ ソーダエネ……。
昔 は どうもろこしでも そうた,たよ……。

A ニー。
うん。

C アノ ヒオ スミオ クベテチャー ウキワデ アオツテチャーナ
火を 炭を くべていては うらわ? あお,ていてはおけ。
一。(笑)

A ソエテ" オメー……。
それ? お前……。

B トニカク イマノ コドモン アノ イカクサツテ ナンノ コー
としかく 今の 子供が 大きくお,マ(から) 何の
オモイデか アルト オモウ。ネー。ムカシノ アシラ ソレコソ
思,出か あると 思う? ねえ。昔の 私らには それこそ

アレダヨ フントニ アレモ コレモッテッテネ イローイロナ
本当に あれも これもといふは 色々 ね

コトガ コー オモイダサレテ……。
いなか 思ひ出されて……。

A ニー。
うん。

B アノー アレダケン イマノコドマー ソー ソーシルト マー
今の子供は ^{xxxxxx} そうすると ね

ソコ ミニナリヤー ハタシテ ツマンネヤーカドーカ ソリ
その子の 身に子供は けだして (昔のいなか) づから子供かどうか それ
ヤー マー ワカラネアーツケガ フント アシラー コー カン
ね ねから子供 が 本当に 私たちが ね

ギャールトネ ジブンノ イマノ マゴガネ ソー イカクナッテ
えると ね、自分の 今の 孫がね 大きく子供、
ツカラ ネー……。
から ねえ……。

C イマノ シューワ ソレコサナ テレビバツカ ミ ミキチャーイル
今の 人は それこそ テレビばかり ^{xxx} 見たりいる
モンデナ……。
もどか……。

B ソーソー。
そうそう。

C ソーユー オモイデ" ネアードヨナ。 トシトツテツカラ ナツカシ
そういふ 思ひ出は ねんていふは。 年をとるから ねっかし
一ヨ一ナ。
いふはね。

A ムカシャーネー アノー オキヤツミヨー タノムトネ アノ オ
昔 ぼね お茶 摘みエ 頼むとね (その)お

キヤツミントケー アスベーイッタモンデス。ソイデ ジブツガネ
茶 摘み(エマセ(水)家へ 遊びに行, たものぞ。それで 自分 ぼね。

アノー クワモツテネ ヤマエ コーサクニ イツテネ ヘーカラ
鎌を携, ぼね 山へ 耕作に 行, ぼね それから

アノ トモダチン オキヤツミントコデ アスンデルダロ。ソース
友 天(ら)は お茶 摘みの家へ 遊んで(いる)ぞ。そうぞ

ト サーバタ ソンナニ アノー シゴトナンカ シナクツテモ
ると(その)返達が)「澤端、そん(に)に 仕事 ぼね」 して(は)く とも

イージャンカ。クワエナ アノー ベントーバコ クツツケトキャ
いいぞ(ぼ)ぼねか。鎌へ(は) 弁 当 箱を ぐ, づいて(お)けば

クワ ヒトリデ シゴトシラーナ。ア ホーカシラ。ジャ オレモ
鎌は(は)ヒリで 仕事を(する)ぞ(と(言)うぞ)「あ、そう(は)ら。ぼ(ぼ)ぼ(ぼ)私(も)

アスバゼー。(笑) アスビテアーノ イッシンダモンダンテ ヒヤ
遊(ぼ)う。」(とい(う)に(は)遊(んだ。)) 遊(び)たいの - 心 ぼ(ぼ)の? ぼ(ぼ)に

ー ムストドモントケーイッテ ミツカツニ カエツケル。フン。
娘 天(ら)の 所へ 行, ぞ 三日も経, たら(り)帰, ぞ(く)る。

ソイデ イツテミリヤー ヤクボーヤマニヤー ヤー マー ホニ
それで(畑へ)行, ぞ(み)れ(ぼ) (畑(の)あ(る)) 谷久保 山(に)は 草(が)

ホガ サエキマツテ……。(4) ナー(笑)。オヤジワ キレーニ ナッ
ぼ(ぼ)う(ぼ)うと(は)え(て)れ(ぞ), ぞ……。ぼ(ぼ)み (私(の)) 父(は) (畑(が)) きれ(いに) (は),

テレト オモヤー カタイッポワ ホー ホニホガ サエキ……。(笑)
い(う)と 思(い), (いた)と(り)が (その) - (ち)で(は) 草(が) ぼ(ぼ)う(ぼ)う (ぞ) ……。

ソエデモ オコラネマーツケナ。(笑)
それ(ぞ)も(父(は)) 怒(ら) (は)か, たら(り)。

C ムカシノ シューワ ミンナ ソーダックダヨナ。ホントニ。
昔の人皆 そうだ、たのたよナ。本当に。

A ヘーカラ ヤックチノサー トクチャン トクチャンチントコナ……。
それから ハッロ のさ 徳ちゃん 徳ちゃんの家ノ所ナ……。

C アー。
あゝ。

A アスコントケー ヨク アク…プリニ イッチャーター ヘーカラ
あそこの所へ 行く 雨降りノ時に 行、マホシ それから
アノー ジョーリョー ツクルダ。ジョーリョー ツクルダケーガ
草履ヲ作るノた。草履ヲ作るノたが
リノペラテ⁽⁵⁾ カンジョーシタホーガ ハエマーダ。イッソクニ
(草履目片一オウ 勘定 したほうか 早いノた。一足ニ
ソクジャーニニ^{xxxx}マーガ イッソクダモンダ⁽⁶⁾ナー。
足(と数エトノて)ニ枚が 一足に あたるモノ……。アゝ。

B ムカシャー トニカク ノンビリシテタダナ。
昔は とにかく のんびりしていたナ。アゝ。

C ノンビリ……。
のんびり……。

A ノンビリシテタ。ナー。
のんびりしていた。うん。

B ヒト ツッコロカイテモ⁽⁷⁾ ジブンガ シュツセシルトカ ナントカ
他人ヲころはし マも 自分が 出 世するとか 何とか
ソーユー カンガエ……。
そういう 考 え……。(の者はいいから、)

A ソレモ ノンビリシテルワケナ。アノー ソー オマツチノホー
それも のんびりして いるわけナ。 お前 のオの

ノナー……。

アハ……。

B ニー。

うん。

A アノー ターコー……。

ター公……。

B ニー。

うん。

A ターヤー。

ターヤー。

B ニー。

うん。

A ト ジサヤー。ナー アノー シャテート ソーリョート ケシカ
(ヤル)とジサヤー。 弟 と 総 領 と けんか

バツカ シテケー……。ジサヤー ナワ ナツテルダエナー ナワ
は「ッカリ」して……。ジサヤーは 縄を 打っているんじやない 縄
一。ホエデ アトデミタラ ミニナ ヒダリマワリ……。 (笑) ハナ
エ。それで みとび見たら 皆 左 回リ……。 (縄が)鼻

ツクソー ンー コンニヤー ナツテルヨーナ。ソエデモツテ ア
糞 を こん中に(丸めたおりに決く)打っているようじや。それで

ミヤー フツケタルシサ。ソイカラ アノー セーニーガヨンデ
雨 は 降、てくるしよ。それから セーニー(お尻)が(私)の鼻で

ツツーナンデ オイ タンボカ ナカレレンデ⁽⁹⁾ クイオ ウテート
ツツー呼んで(出れば)「おい、田んぼが 流れるんで 杭を 打て。」と

コーユー。タンボーカ ナカレレ。ナニオ シルダート オモツタ
こう言う。「田んぼが 流れる? (お尻)何を するのだ。」と 思、た

ラ ニケンクレーノ クイオモッテナ セーカラ ドーユーワケ
 ラ ニ間ぐらい の 杭を 持った時、それから「どういうわけ
 で」ナガレルダヨッタラ ウエタタンボカネ ミズン クルモンダ
 だ(田んぼが)流れるのだよ」と言ったら、植えた田んぼが水が 来るもんだ
 カラ コー ウイチャウンデスネ。(10) コーニ ポツカリ ウイチャウ
 から 浮いてしまうのであね。こういう風に ぼろ、かり 浮いてしま
 ンデスネ。ソシテ コノ ワキノウチノ ホーノ アレ イッチャ
 ンであね。そして 脇の家 の オの(角へ) (流れる)行、れ
 ウンダネ。ソイダモンダンデネ アノー ナゲアークイオネ ホー
 ンであね。それから「もんで 長い杭をね オ
 ボーエ ウツンダ。モチャカッテモネ アノー コレガ ナガレテ
 タへ 打った。(田が)持ち上から、ても こ水が 流れて
 カナイヨ一ニ。イマ ソンナトコワ ネーモンナ。
 行かないように。今 そんな所は 悪いものだ。

C ソーナー。
 行ったよあ。

A イマワ ソンナトコワ ネー。
 今は そんな所は 悪い。

C ー。
 うん。

A タンボーカ ナガレル。ウエタ タンボカ ナガレル。バカナ ハ
 田んぼが 流れる。植えた 田んぼが 流れる。バカナ
 ナシダ。ニー。トナリノウチ イッチャウデナー。コー ミズン
 話だ。うん。隣 の 家へ 行、れようんだよあ。こ水が
 ヒキケルト。
 干てくると。

C ニー。
うん。

A ニー。ニー。ホーントニ。コドモノ トキナンテナー モモサンオ
うん。うん。本 当に。子供ゝ 時 時ど 時ど 百々さんエ
エーカケン ナグツタリ ケツタリシテ イジメタモンダ。
相 当 なく、たり 蹴 ったりして いじめたものだ。

C ニー。
うん。

B オッカネーツケヤ。(笑)
こい、た、よ。

A ダケーカナ ヤッパ ソーダモンダシテサ。
た、け、い、と、も や、ほ、り(幼、れ、み、と、ほ)ん、ほ、も、の、た、ら、さ。

B ニー。
うん。

A コノメーター マノー オーシューエ イツタトキサ……。
こ、の、前、ほ、み 奥 州 へ 行、た、時、さ、……。

B ニー。
うん。

A マノ モモサント トシチャンカナ。オレ オトコヒトリスラ。ア
百々さんと とし ちゃんが、ほ、おれが 男 一人だ、うう。あ
ー オトコシユワ オトコシユテ" ドコノシューモ オンナシコン
め。 男 は 男 で ど、こ、の、人、も、同、じ、こ、と
デ" トマルダート オモツタダヨ。オンナシューワ オンナシュー
で(男は男同志で)泊らのだと 思、た、の、ら、さ。 女 は 女
デ"……。
で"……。

C ドコイッタトキダツケ。アレ アー。
どこへ行く、何時だから。あれ(は)。ああ。

A アレア オマエ バンタイザンダ。
あれは お前 磐梯 山だ。

B ウラバンダイ-----。
裏 磐 梯 -----。

C ウラ ウラバンダイ イッタトキ-----。シー。
xxxxx 裏 磐 梯(へ)行く、何時(だ)。うん。

A ダケン オマツキガサ オレオ トツテクレテナ ソシタラ マタ
とこりが お前たらがさ 私を 呼び寄せてくれるは、やうしたら また
オマツキモ コツキ テテクレヨ-----。イーカケンナモンダ オマ
お前たらも(私に對い)ころへ来てくれる(は)と言った。いいかげんはもた。お
エ。(笑) オテラノ バーサンダ。^(//)
前。 お寺の はあさんだ。

B マー アノー コドモノコラー アノ ナエシロノ ズイムショー
子供のころは 苗代の ズイムシエ
-----。

A シー。
うん。

B マノ コー トツテヤンダジャ。コドモノ コロ。
捕って歩いたじゃ(は)か。子供のころ。

A シー。
うん。

C シー。
うん。

B ソイデ[〃] ヒルヤ ナニ ナニカガクレト オツカナク ナツチャツ
それで 蛭ヤ ^{xxxxxx} 何かか[〃]来ると こわく 立、マレオ、
テ アゼー タツチャウジャー。
テ 畦に 立、マレオうじゃ(はいか)。

A ニー。
うん。

B ソースルト コノ サーバタノ オジサンガ(笑) アオダキョー
やうになると 澤端の おじまんが 青竹を
モツテキテ アシオ ピーンテツテ……(笑)。
持、マレオ 足を ぴーんと(私う)。

A (笑)アノトキニヤー ソノ ズイムシオ トルトナ……。
あの時には ズイムシを 捕るとは……。

B ニー。
うん。

A アリヤー……。
あれは……。

B エンピツオ クレタダネ。
鉛筆を くれたんだね。

A ニー エンピツオ クレタリ アノ キョーメン クレタモンダ。
うん 鉛筆を くれたり 帳面を くれた(リレ)もア。
ミンナシテ トツタダケーカ……。
(だから)皆で 捕ったんだか……。

B ヒル クルモンデ[〃] オツカナクテ アゼー タツテルト……。
蛭が 来るもんで こわく て 畦に 立、ていると……。

C アー。
みみ。

B アシノ シンボ一 タタクレキヤッタ。(し笑)
足の 心 棒を 叩かぬりました。

A マー ヒトリ カシオ ヤリガツラ……。オキヤー ネアカノラ……。
まあ ひとつ 菓子と 食べながら(話し休),お茶は つかしら……。

C イーヨー。オキヤオシカ……。
いっふ。お茶はどいほ……。

A オキヤモ一 ノンデサ……。アノ……。
お茶も 飲んでマ……。

C イーヨー。アトデ"モラウデ"……。
いっふ あとで"もらうから……。

A アー オキヤモ ノメヨ。ホントニ アノ ナンダゼ。ネア マー。
まあ お茶も 飲めよ。本当に (お茶がどい)はいや。まあ。

B エーヨ。
(お茶は)いらはいよ。

C ホントニ アレダナ ムカシノシユーク オモシロイツケダナ一。
本当に 昔の人 は おもしろか、た つか。
アメデモ フツタリシルト ミント アツマツチャー ジョーリ
雨でも 降、たりあると 首(で)集ま、ては 草履を
ツクルヒトモ アリヤー ナワナウヒトモ アリヤーナ一……。
作る人も あれば 縫(は)う人も あれば つか……。

A ソレニナ一……。
それにつか……。

C ヨウ トウキヤンキウ キタダヨ ワシランキ……。ニ一。
よく 徳(ちやん)は 来た(た)ら 私たちの家へ……。うん。

B イマノシユウ テンデ"ンバラバラダ"。
今の人 は(共同(と)はとせす)はらばらだ。

A ソレンナー アスコントコノナー オマエ ニワオ ホジクリタテ
 そのにほめ あそこの所 のほめ、お前 庭を掘り返し
 テナー フカーウ。(笑) オモテノホーウ ウエダケ一カ シタニ
 てほめ 深く。 表のオは 表面を掘るが(もと内側の庭の)
 ナルト ハエキヤツテ ハエキヤツテ オメアー ツチャー ドコ
 下のオは"掘り返(草)生えては、生えては、お前 エはどこ
 だカエ モツテツキヤツテ……。ナ。
 かへ 持って行、ま、ま……。ア。

C ヨウ ソーユーウキガ アツタツケナー。ニワン ムカシワ コン
 よく そういう 家が あった、けほめ。庭が 昔はコン
クリモ ナンデモネー……。
 クリでも なんでもない……。

A ソリヤ ミンナ ホーダツケ。コンクリデ ネーダンデ……。
 それほ 皆 そうだらう。コンクリデ ほんもので……。

C コンクリデ ネーモンデ……。
 コンクリデ ほんもので……。

A エーウキデ タタキグラマーノ モンダ。
 いい家でも たたき(で作、ある)ぐらゝのもんだ。

B へーカラ ムカシワ アノ ウキンナカデ ソーユー サフヨーシ
 それから 昔は 家の中で そういう 作業をシ
 タモンダンテ ドコノウキモ ニワノ アノ エーカントコ コ
 たものだから どの家も 庭の 適当な場所にこ
 レバカノ イシ イヤツテルジャ。
 むねの 石が うめであるでせう。

A ンー。
 うん。

C ワラト……。
藁 と……。

A ワラト ナ……。
藁 と 呼……。

C アレダ。アノ ナノ アノ ツイタ アレデモツテ ポクポクポク
キの ついた 種でも、テ ポクポクポク
ポク……。
ポク……。

B ソー タタイキヤ オーザイクオ ヤッタ。
(藁E) たたいては 大工事 E や、た。

C タタイキヤ……。(笑)
叩いては……。

A タキーガト モモサンキトナ アノ キーキヤントナ オラ ニケ
たけとては 百々さん と キ枝さんとては 私がニ
マーデ アソブトキナングー アレオ ナー オマツキ アノ キ
階で 遊ぶ時 呼はは お前
一キヤンノ ナー アリヤー ドコダツケナ……。
キ枝さんの(家)呼あ あはは どんた、けは……。

B キーキヤン キーキヤンテバ タカジョーマキノ
キ枝さん キ枝さんといは鷹匠 町か?

A タカジョーマキ。オレ アノー イツテ コッキーサント⁽¹³⁾ イツタ
鷹匠 町だ。私が 行、テ 小郎次さんと 行、た
トキニナ センコ アケテキタダ⁽¹⁴⁾ヨ。
時に 線香をあげてきたんだ。

B ニー。
うん。

A シャシンマデ" キャント アル。
(千枝さんの)写真まで"ちゃん"と ある。

B ンー。
うん。

A ンー。エー フリョーデナー。アー。ナンセ ワケアーシューノ
うん。いい きりょうまで"ほめ。あめ。何とい、でも若い 衆 の
トキニアーナー オマツキホーノ ブンキヤンキニ ニケアー イ
時には ほめ お前"の(家"の)おの 文 ちゃん(文次)の家"に ニ階(に)行
ツキチャーサー……。
マはマめ……。。

C アソコニ コ トールニ オツカネーツケナ アノ ミチオ トー
あそこの所 通るのに: こわかった: ほめ あめ 道"を 通
ルニ……。 (笑)
るのに……。。

A シズヤナンテ……。
静や(静天)は"ど"(はい)奴)

C イッモ アノ ソー……。
いッモ ………。

B ア ヤツミチノ アノー ミチバタントコニ ニケアーカ アツタ
あ ハツ道"の 道端"の所に ニ階"が あ、た
ツケ。アスコ?
ッケ。あそこ?

C キョージ"ローサンキノ ………。
長 次郎"さんの家"の

C アソコニ イッモ ニケアーカラ クビョー ダシキヤー イキヤ
あそこに いッモ(男"に)が)ニ階"から 首"を 出"しては いッほ

一……。
……。

A (笑) フリョーセーネンダシナー ゴニシバカ……。
不良 青年 たはめ。五人 ぐらい……。

B タマリバダツク。(笑)
(お男の子) たまりはたはた。

C タマリバ……。 (笑)
たまりは……。

A ムスメドモン クリヤー ションベンシタリ……。 (笑)
娘 たちか 采れば 小 便をしたり……。

B アンタツク アノ ニケアーエ ヨク イッテ……。 (笑)
あつたの家(a) ニ階 へ よく 行て……。

A シズヤラー オカナカ オヤダマダツクダヨ。ゴーヤダノ……。ア
静夫の奴は 母か母か(お母さん) 親分肌 たはたよ。五郎 たの……。あ
一。
あ。

ブンキヤンワ エーヒトデオ ハジメツカラサ。ニー。ブンキヤン
文 ちゃん は いい 人 だ。初め からさ。うん。文 ちゃん
ワ オトナシー。
は おとほしい。

C ブンキヤン オトナシー ックダナー。ニー。
文 ちゃん は おとほしか、たよはめ。うん。

A ニー。ホンバッカ ヨンデ……。デ マクラダテンキヤーナー ア
うん。本 はかり 読んで……。それで 枕 ほんかははめ
タマー ソレ アブラシルズラ。イッギアーニ アラツタコターネ
頭に 油 をつけるだろう、いっにも 洗、たんとはは

ー。

い。

テカンテカン ヒカッヒカッテナ。(笑) ヒヤッヒヤッ。アー。
(だから) つかつか 光ってしまってる、 冷や、こかった。 ああ。

アー。ホントニ。

ああ。本当に。

C ムカシャー オモシレーツケナー。

昔 は おもしろかったなあ。

A ソイデ" アノー ヤッパリサ アノー エーガナンテモノワ ソレ
それで や、ほりて 映画 何と"というものは

ナカナカ コネアーモン。カラセエナー アノ カレススキシキ
何か何か(麻機おは)采採のもの。唐瀬へなあ 枯 薄 が 采
夕。(L 笑)

た。

ナー。カレススキガ……。ハジメテミタヨ アレ……。

なあ。枯 薄 が……。始めで見たら あれ……。

C ー。

うん。

A カレススキ。

枯 薄 。

B ナニ エーガノ

何 映画(なに)?

A エーガ。

映画(なに)。

B アー。

ああ。

A アー。ソレカラ オーヌマノナ アノ一 ミツアキサンニ ヲレラ
あめ。それから 大沼の 光彰さんに 連れら
レチャー アノ デンキカンエ イツタリサ。
れマは 電気館へ 行ったリマ。

B ニー。
うん。

A ニー。ムカショー カンケアールト ナケアード。アリヤー。ニー。
うん。昔 を 考 え る と 長い(もの)だ。あめは。うん。
ソレカラ……。
それから……。

C ソノコラー アノ一 マチー アレ メークツテモ ヤーンデッタ
そのころは 町へ 映画を 見に行くといマも 歩いて行った
ダナ。
ムト:「ア」。

A ヤーンデッタ。エー エートキニャーナ……。
歩いて行った。(都合の)いい いい 時にはア……。

B ヤーンデッタ。
歩いて行った。

C ニー。
うん。

A ロクジツセンデナ……。
六十 銭デナ……。

C ニー。
うん。

A サカキバラノ ジドーシャヤンナ⁽¹⁵⁾ ジテンシャヤー ジドーシャ
榊原の 自動車 屋にアめ 自転車 者 屋に 自動車を

カッテアッテヤ……。

買、てあ、ってさ……。

C ニー。

うん。

A ハチジッセンダカ ロクジッセンダツケヨ。デンキカントコマデ……。
八十 銭 だか 六十 銭 だ、た。 電 気 館 の 所 まで……。

C ニー。

うん。

A ニー。ソイデ ニジッセンダカデ エーガー ミテヤ……。
うん。それで 二十 銭 ぐらいて 映 画 を 見 て さ……。

B ムカシャー……。ムカシャー ヨウ ヤーシタ。
昔 は 昔 は よく 歩 いて た。

A カツベンノ トキダモイナ。ニー。

活 弁 の 時 だ も の だ。うん。

C ニー。

うん。

A ハナオカキクコノ オヤジガナ……。ニー。
花 岡 菊 子 の 親 じ だ。うん。

C ニー。ニー。

うん。うん。

A アノ カツベンデ……。コノゴロマタ カツベンダナンテユーノ
活 弁 で……。この ころ は 又 活 弁 だ、何んて いうか

シングシニ ノッテルデー。

新 聞 に 載 っ て いるよ。

C ソーダエナ。

そ う だ よ。うん。

A ニー。カツベンモ エーッケヨ。
うん。活弁も 良かったよ。

C ニー。
うん。

A ニー。ホントニ……。
うん。本当に。

C カツベンモ エーダヨナ。
活弁も いいんだよ。

A アー。
あめ。

C ウケラモ ミタコトアルヨ カツベンワ。
私も 見たことがあるよ 活弁は。

A ホーズラ。
そうだろう。

C デンキカン デンキカンダツケカ。
電気館 電気館 下、たか。

A ニー。
うん。

B ソレコソ アシラー コートーイケネンダカ ニネンノトキニ ア
私らが 高等 一年 だか 二年の時に
ノー アレダモノ トーキーガ ハヤツタ。コンダ トーキーガ
トーキーガ じゃ、た。「今度 トーキーガ
デキタ。ナンデソーイッタ。ソノ マエワ ズーット ベンシガ
できた」 して、そう言った。その 前は あー、と 弁士が
ツイタ。
ついた。

A シー。
うん。

B ソイデ" ミタダ"ヨ。
それで 見たんた"フ。

A トーシワ オマエ オマツチン メア-ナンキヤ- オーヨシツテ
当 時は お前 お前の家の 前 ほど は 大吉 と 言
ツテナー……。
っ？ 何み ……。

C シー。
うん。

A オーヨシ ソエカラ コヨシナンテアツテ マワリン イチリバカ
大吉 それから 小吉ほどという(地名が)あり(その)おわりが 一里ほどかり
アルノニ……。アンナカ ヘア-ツタラ テ"キエネ-ツケテ……。
あるのに……。あの中へ 入ったら 出て来られんか、たぞ……。。

C シー。
うん。

A シー。
うん。

B ドコ。オーヨシツテ。
どこ？ 大吉、て。

A オーヨシツテ イマ オメア アノー アレジャンカ アノ アス
大吉、て 今 お前 あれでいいか あの アス
ハルト コシャエテルアタリ アリヤ- オーヨシダエ。
ハルト(舗装の)工事をしてるあたりか あれか 大吉た"フ。

B シー。
うん。

A ンー。セーヨードンブリダナンテ……。ナー アツタ。
うん。(あめたりは)西洋井田「なまて(いうものを売った)」。なまめ、た。

C ンー。セーヨードンブリッテ アツタツクナー。
うん。西洋井田「なまて」なまめ、た。なまめ。

A ンー。セーヨードンブリ……。
うん。西洋井田……。

ソラ カエンドリ⁽¹⁶⁾ セーッテナ コレバツカノ アナダトオモッテ
ソラ 替えん捕りにしよう、なまめ これ「らいの(小田)穴だ」と思っ
て
エート オモッテ オレト セーチャント カエンドリシタラ イ
わけはいいと思っ、て 私と 清ちゃんと 替えん捕りにし
たら タツタツテモ ミズン ヒネアーダ。ヒネアーワケダ。アシ
くら(時間が)経、ても 水が なくばらばらいた。なくばらばら
わけた。足
オ ヤッテ コーシテミタラ ミンナ クッキーテルデー。(B.C笑)
エ おろして こらして(深、な)みたら(穴が)皆、くっついてんだ。(水が
海に連絡してある。)

A ウワッカーバツカナ ソー クサノネカ イッテ……。ナー。アー。
上側は「かり」な 草の根が、なまめ……。なまめ。なまめ。

C ムカシャー カエンドリニ ヨク(笑)イッチャーナー。
昔は 替えん捕りによく 行、てはなまめ。

A アー ドクナカシニ⁽¹⁷⁾ イツタリ……。ンー。
なまめ。毒流しに 行、た。り……。うん。

C マノ オースマノ ホーエ アノ トーイツツアノ タンボツ
大吉の オへ 統一 まんの 田んぼを

クツタ トキニサー……。

作、た 時にさ……。。

A ンー。
うん。

C ソノ ミチノ クロニ カワアツテ コレバカリノ⁽¹⁸⁾ カワ……。
道^a 脇に 川が^aあ^aり、こ^a 位^a(幅^a) 川……。

A ニー。
うん。

C ソコ^aントコ カエンドリシテ ナ オジューヤント フタリデ カ
ヤシ^a 所^aニ 替えん捕^aりシテ 母(私^a)お^aい^aら^aんと 二人^a 子(水^a)
エタダツケンナ。ソーシタラ ウナギン タント トレテナ ソノ
かい出^aした、け^a母。それ^aたら 鰻 が たい^aん とれて母
ソントキ……。ニー。
そ^a 時^aに……。うん。

B ニー。
うん。

C コー アノー カジクルトナ イツクラデモ デテケル。
ニ^a ほ^aじ^aく^aると い^aくら^a だ^aも 出^aて^aく^aる。

A ニー。ソーダ ソーダ。
うん。そう^aだ^a。そう^aだ^a。

C ニー。
うん。

A アノ トーシ^aワ ウナギン カエンドリ シリヤー ウナギ^a オー
あ^a 当時^aは 鰻^aニ 替えん捕^aり する^aは 鰻^aが 多
イツケ^aダ^aナ。ニー。
か^a、た^a 母^a。うん。

C アンナントコノ カワニ イルトワシラズナー。
あ^aん^a母^a 所^aの 川^aに いる^aと^aは 知^aら^aる^aに^a母^a。

B ムカシャ ワシラ アノ ヤクボノ ニーサント イツシヨニ
昔^a は 私^aが 谷^a久^a保^aの 兄^aさん^aと 一^a緒^aに

イルコロ ワシラ ガッコー ニネンカ サンネンノ コロダシラ⁽¹⁹⁾
いるころ 私が(小)学校 二年か 三年の ころか
……。
……。

A ニー。
うん。

B ヨク シマ⁽²⁰⁾ツテノ……。
よく「島」ツテの……。

A ニー。シマ シマ……。
うん。島 島……。

B ショウキョー シマー カエンドリ シキヤー……。
いっアても 島を 替えん捕り レマは……。

A ニー。
うん。

B ソエダンテ アノ フナノ カエンドリナンテノワ ソノコラー
それだから 鮒の 替えん捕り(レマ)レマは そのころは
ヨク タベタツケヨ。イマジャー ソレコサー ソンナノワ……。
よく 食べたもた。今では それニヤ そんなのは(食べるに好い)

A ニー。
うん。

B マレダケンガ。アノ ダイズノマノトサ……。
大豆の豆とさ……。

A ニー。
うん。

B ホイデ^ニ ソノ フサト ネー アー……。
それニ 鮒と ねえ あの……。

C シー。
うん。

B トロトロトロトロ ニルダヨ。
とろとろ とろ とろ(一緒に)煮るんだヨ。

A シー。
うん。

B キーセアートキニ……。イマ ソンナノ タベタコトナイ。
小さい時に……。今は ぐんぐんもろろ 食べたことはいない。

A ソイデサ シー コノナー アノー ソノトージニ アノ カモダ
それから、 その 当時に 鴨だ
トカサ ソエカラ ガン……。
とかさ それから 雁 。。。。。

B シー。
うん。

A ガンテユーヤツ イテサ。キーセアートキニヤー アノ ユーガタ
雁 というヤツか" いまね。(私が) 小さい時には タネ
ニナルトサ コー ガンガ" ズーツトナ トンデクトキ……。
にたるとは 雁か" あー、と 飛んで行く時(があった)。

C ソーダヨ。
そうだよ。

A アレ ミタコト アルラ アルラ。ガンノ ガンノ トンデクトキ……。
あれを 見たことがあるだろう、あるだろう。雁の 雁の 飛んで行く時……。

C イッペン イッペン ミタヨ。アノー コノ クジラカイケノ 不
一度 一度 見たよ。 鯨ヶ池のオ

E イクダヨナ。
へ(雁が)行くんだ"ヨ"。

A シーシー。
うん うん。

C コー ムイテ……。アレミタツクヨ。アレガンダツテ……。
ニう 向いて……。あれを見た、け。あれは雁だ、て……。。

A ソノ トージナ……。
その 当時、て……。。

B アノ ソレコソ カギニナリ サオニナリツテ 何タノ トーリテ"
鉤 にナリ 棹 にナリと(いう)歌の とおりに、
コーイニ カギニナツタリ マツスグニナツタリ シルダナー ア
こういふうに 鉤 にナ、ナリ ま、あぐ にナ、ナリ あるんだ、てあ、あ
りやー。
れは。

A ニー。ニー。ニー。ニー。
うん。うん。うん。うん。

C ソー……。
そう。

B マツスグニナツタリ……。
お、あぐ にナ、ナリ……。。

A ガン ガン ワタレナンテツテナー。
雁 雁 渡れ、てと、言、て、あ。

B, C ニー。
うん。

A オーキナガンガ サキニナリ キーサナガンガ アトニナリ……。
大き、て雁が 先にナリ 小、さ、て雁が 後にナリ……。。

B イマジャー ヒャー ソンナノワ……。
今、では もう そんな、て、あ、は……。。

A ネアー。ネアー。
たひい。たひい。

C ソンナナー ミタコトネーナ。
そんたひのは 見たんとはたひいひ。

A ソイデアノー オーノマヤンノ ヤマナーナ……。
それで 大沼さんの 山 たひあ……。

C ンー。
うん。

A アノー ツボー イツペアノ クツテサ サー……ツテ トールダ
(雁が)たひいし 沢山 口に含んで さーっと 通るんだ
ツテサ。
つまさ。

C ンー。
うん。

A ソイデ ソノー ナー ヤマノナ ニシャクグレアノ トコ ト
それで 山のたひ(下から)ニ尺ぐらいの 所を 通
ールダ。
るんだ。

C ンー。
うん。

A ンヨー トーレナクテ。オモタクテ。
(もと)上を 通水たひくて。(口の中たひいし)重くて

B, C ンー。
うん。

A ソーシテ シモムラノイケ⁽²⁾ イツタズラ。
そうして 下村の池へ 行、たんだらう。

C ニー。
うん。

A へーカラ ソレーナ コー アミョーハッテ……。
それから それに正 網 E 張って……。

C ニー。
うん。

A ソーシテ ガシオ トツタッテ……。
それで 雁 E 捕ったって(1)……。

C ニー。ソーダナー。ヤマノ ミネー アノー アミョー ハッテ
うん。そうだねえ。山の 峯に 網 E 張って
トツタッテツタツケナー。
捕ったって言った、けあ。

A ニー。ニー。ソイデ" アノー ハタカーナシテユーモノモナ フョ
うん。うん。それで" 羽高 ほどと いうものも正、今日
一モ ハショー シタケ⁽²²⁾ーガサ……。
も 話 E したんだがさ……。

C ニー。
うん。

A コノ ガシノナ……。
雁 の正……。

C ニー。
うん。

A ハオトガ タカクシテナ……。
羽音が 高く 響いて正……。

C ニー。
うん。

A トーッタダッテ……。
通, テんた, て……。

C ニー。
うん。

A ソエデンテ ソノ ハタカー。
それだ"もので 羽高ー。

C ハタカ……。
羽高……。

A ハネガ タカイ。タカイ ハネ。ナ。ハタカーツテノワ ソーユ一
羽が 高い。高い 羽。好。ハタカというのは そうい
イワレカラ ハタカーツテ ュ一。
いわれから ハタカ と 言う。

C ニー。
うん。

A アノムコーツカーニ ソー クジラガイケ アルモンナ。
あの 向こう 側に そう(いば)鯨ヶ 池が あるもの好。

C ニー。
うん。

A アレー イツチャウダ。
あそこへ 行, てしまのた"。

C クジラガイケナ……。
鯨ヶ 池好……。

B アスコナー ハタカノ ウラトーツテ ヘジャー イツタダ一。
あそこ好め 羽高の 裏を 通って それでは 行, たのた"(好)。

A ニー。ソイダ"モンデ" ハタカーツテ イツタダ"。
うん。それだ"から 羽高 と 言, たのた"。

C アー。
めあ。

A ソイテ" アノ ムコーツカーガ クジラガイケデサー アスキー
それで あの 向こう側の 鯨ヶ池でさあ あそこへ
イキヤー ソー ヒヤー テッポーワ キカネーダ"モン……。
行けば" そうだ" もう 鉄砲は しかたないだ"もの……。。

C ニー。
うん。

A アスコワ ソー ネンニ イッペンシカ ソー カモバレーツテノ
鯨ヶ池は 一年に 一度 レカ 鴨 飛んでいるの
……。

(Eやらはいから。)

B イマデ"モ ソノ ガンキュートリ イルダ
今でも その 雁 という鳥 いる？

A イヤー イマー イナカンナナー。イヤー イナカンナナー。ミズ
イヤ 今ほ いたいたろうほあ。イヤ いたいたろうほあ。(今ほ)水
モ ネアーダ"モン。
も はないだ"もの。

C コノ ヘンニヤー イネーナ。
この 近くには(雁ほ)いたいた。

B ニー。
うん。

A カモワ クルケンドナ。ニー カモワ コマ……。
鴨ほ 来るけれどほ。うん 鴨ほ こま……。

B テレビデ" ナニカ アノー ソーユーノ ミルケド" ガンナンテコ
テレビで" 何か そうい(ニュース)E 見るけれど" 雁 飛んでこ

(23)
ト アンマ キータコト ナイ。
とほ めんまり 聞いたことが正しい。

C ニー。ガシナンテナー。
うん。雁 ほんまてはあ。

A ニー。イケアーツケダネ。ガンワ。ニー。ニカニメグレアー アッ
うん。大きか、た、は、雁 は。うん。ニ貫目 ぐらい あ、
タツテツタモノ。
たとい、た、もの。

C ニー。
うん。

A イケアーノワ。
大きいのは。

C アー ソンナ イケアーノカ トリカ……。ニー。
あめ そんなに 大きいのか 鳥 が……。うん。

A ソレコサー ハクキョーグレアー アツタズラ。アー。
それこそは 白鳥 ぐらい あ、た、らう。あめ。

B アー。
あめ。

C トニデシノ ミタツテ ワカンネアサ。ニー。
飛んでいるのを 見ても (雁だとほ) 中からはい、る。うん。

B コドモノコロ ミタツケヨ。
子供のころ 見た、は。

A アー ジツパカラ ジューゴワグレアース……。
十羽から 十 五羽 ぐらい、はあ……。

C ニー。
うん。

A パタパタパタパタ シテテ ドコー トーンノモ ヨクワカル。
はたはたはたはた していて どっこも 通るのも よくわかる。

B ヘーデモ リコーナ トリダズラナ。コナ サオンナツタリ カ
それでも 利口な 鳥たろうな。こんなには 棹に上りたり
ギンナツタリ シタミタイ……。
鉤に上りたり したみたい(で)……。

C ニー。
うん。

A ニー。ダケン シタカラ ミルニ ソーユーヨーニ ミエタズラ。
うん。たけれど 下から 見ると そういふように 見えんたろう。

B コトモ/コロ ホント コー カギンナツタリ サオンナツタリ……。
子供のころ 本当に 鉤に上りたり 棹に上りたり(は見えんた)。

A ハナビョーミルヨーナ モンデサ。ハナビャー マルーク ウツノ
花火 みたいや ものでさ。花火 は 丸く 打つ
オ コツチカラ ミルモンダンテ コーニ ミエルダケンサ。アレ
を 麻機がわから 見るものだから こら(平らな内⁽²⁴⁾のよう)に見えるのだからな。あれ
ヤツパリ オメアー アベカワノ ホーカラミテモ⁽²⁴⁾ アーユーフー
は や、はり お前(白村) 安倍川の オから 見ても あめいふう
ニ ミエル。ハマノホーカラ ミテモ オンナシコンデ アレ マ
に 見える。海岸のオから 見ても 同じこと で あれは 丸
ルーク コー デルンテ ナー。カタエツポーカラ シルモンナン
く 出るの で だめ。(打上げている場所)片-オの側から 見るもの
デ ソー マンナカン/ヤラナニカ コー アーユニ ミエルダ。
で 中央の所や何か あめ(平らな内⁽²⁴⁾のよう)に見えるのだ。
ホントワ ミンナ オンナシコンニ コー デルズラ。
本当は 皆 (どっこも)同じように 出るたろう。

B ニー。
うん。

A ニー。
うん。

ソイカラ ムカシャー アノ コイツキイシオンテナー。
それから 昔 は 鯉つき石 作られてた。

B ニー。
うん。

A ニー。
うん。

B コイツキイシツテノ アツタナー。
鯉つき石というのが、あ、た、た、た。

A ニー。
うん。

C コイツキイシツテノ アノー ムカシャー ムカシツテヨリモ
鯉つき石というの、昔 は 昔というよりも
アシヲ コドモノコロ コノ アノー メアノホーニナ アノ
私が 子供のころ(いたのは) 前 の オニに

コイツキイシ ^{xxxxxx}イシカ アル トコダカラサ アノー ヒガシムラ
鯉つき石、石が ある 場所だから 東 村
ノホーエ カケテナ コー ミテルトナ ヒトツ ヒトツノアツニ
オニへ かけてた 見ると、一つ 一つの石に

パカッと ツクダヨナ。

パカッと (あかりが)つくると、た、た、た。

A ニー。
うん。

C ソースト ムコーノイッテ コロコロ アノ ソレ パカッパ
ケルと(おまわりが)先のオへ行、
パカッ

ケルトナ……。

消えろと……。

A ニー。

うん。

C コックノ アノー ヒガシムラノホーエイッテ イツツニモ ムツ
ニララの 東 村 の オへ行、(おまわりがまた)五つにも六つ

ツニモ ナルダヨ。ニー。

にも つかんた。うん。

A ゴロゴロゴロゴロナ。

ごろごろごろごろ。うん。

C ホイデ ソーナツテルト マタ パカッ キエキチャーナ マタ
それで そう、たかと思、また パカッ 消えろとまた

ズーッと コシダ コックノホーエ ポカッ ツクダヨナ。

おーっと 今度は 別の オへ ポカッ つくた。うん。

A ニー。

うん。

C ソーユーノ イクドモミタヨ アタシャー……。ヤマノ……。

そういうのを 幾度も見たよ 私 は……。山の……。

A ソリヤー ミタ。

それは 見た。

C ダケン ソレ フーントニ アツタダヨナ。ニー アレ フシギダ
だ、これ、それは 本当 に、みた。うん、それは、ふしぎだ

ツクナ。

った。

A ソイデ^ニ ソノウエノホーカ スズナリイシデサ……。
それで その上のネが 鈴鳴り石でさ……。

C ニー。
うん。

A ゼニオ イレテアルト ナリナリーツテ ナツキヤーナ……。
(知れ) 銭を 入れやると ナリナリーツテ 鳴ってほす……。

B イシカ ナツテルナンテ ユーヒトアツタツケヨ。
石が 鳴っているはずで 言う人があつた。さ。

A ニー。ソリヤーナー アノー アナカアツテナ。イマデモ アレオ
うん。それは 好め (石に) 穴があつた。今でも あれを
オツブタイテミタラ ムカシノカネン エーカケン ハイツテルダ
たたいて 見たら 昔の音が 相当に 入っているんだ
ヨ。
さ。

C ニー。ソーダナー。
うん。そうだ。好め。

A ニー。
うん。

B ソノイシ イマデモ アルダ
その石は 今でも ある？

A アル。
ある。

B アー。
あめ。

A イマ ノザラシニ デキヤツテナ。
今 野ざらしに(ほす)出されてさ。

B へー。
へえ。

A トーヅワ アノー コノー アレダヨナ シナノ タイユーザンミ
当時は 支那の太行山
テアーニ クレアーヨーナ ウスツクビノワリートコダツクダケガ
たいに 暗いようは 薄気味の悪い所だつたけれど
イマワ オメア ノデンニデキヤツテ ネアーツクダ。
今は 野天に出たよ、(と石は) 面白い。

B ー。
うん。

A アソコデモツテ センゲンサンノ⁽²⁵⁾ イシドリーガ ソー トレタダ。
あそこは 浅間さんの石鳥居が できたのだ。

B ー。
うん。

A セツパ⁽²⁶⁾ イツペアーナシダ。
「せつぱ」が一杯呑んだ。

B ー。
うん。

A ソシテ アスケーラガ ソー イツタイニ ソノー マダツクダ
そして ああたりに 一帯に 沼だつた
う。
う。

B ー。
うん。

A ソイデ ソノ フネン ツイテ ンデアノ コイツキイシ コイツ
それで(沼) 船が(石に)付いて それで 鯉つき石 鯉

キイシツテ ユーケーガ フナツキイシツテノガ ホントー。
つき石 と いうけとど(船がうつしたから)船つき石というのが 本当(だ)

B ニー。
うん。

A アノー アサバタノナ アレカラ ミテミルト……。
麻機の 歴史から 見てみると……。

B ホー。
ほう。

A ニー。フナツキイシツテユー コイツキイシノユト。
うん。船つき石 という(べきだ), 鯉つき石のことだ。

B ニー。
うん。

A ニー。フネオ ソノ ツネアーダ。
うん。船を (その石に)つづいたのだ。

C ソコツカラ センケンサンノ⁽²⁷⁾ イシガ トレタ。
(それ)そこから 浅間さんの 石 が できた。

A ニー。イマ イツタツテモ コンナノ セツパバツカダヨ。
うん。今 行ったとしても こんど 「せつぱ」ばかりだ。

C アー ホント⁽²⁸⁾。
ああ そうですね。

A ニー。イツペアーダヨ。ガラツガラ シテルヨ。
うん。(それが)いっぺだ。ざら ざら している。

C ニー。
うん。

A センケンサンノ オー イシドリীগナ アスコカラ トレテサ。
浅間さんの 石 鳥居 が 浅間さんから できた。

C ニー。
うん。

A ヘーカラ アンドーノ ジューニソーマートノウエ アガッテイッ
それから(石のせいで船が)岸東の十 = 双 マートの上(おへ)上がって行っ
タダケーカ……。
たんた"か"……。

C ニー。
うん。

A ソノ イチバンウエノ カサオチ オトシタカタメニ……。
その 一番上の 笠 を打 落としたために……。

C ニー。
うん。

A ソイツダケワ テキネアズラ⁽³⁰⁾
その 部分だけ(鳥居とい)完成していただろう。

C ニー。
うん。

A ソイチ^ニ イサーシク アノ センゲンサンノヨコニ コロバツタダ
それで 久 しく (笠にあたる石が)浅間さんの 種に ころか"ていた
十。
のた"て。

C ニー。
うん。

B アー。ソーダ十。
ああ。そうた"て。

A イジンサンノ ウチノ アノ モンゼンニ ニー ナツタリナニカ
(お石が)外人の家の 門前(お石)に て、て"りてんか

C ソーダ^ダ。
そう^ダ。^ダ。

A ニー。
うん。

C ニー。
うん。

A ソイデ^デ ヤマノ ミネー イキャーナ……。
それで^デ 山の 峰へ 行けば^デ。^デ。

C ニー。
うん。

A ムコーツカーノ シュート ケンカシキヤーナー……。
向ミウ 側の 人と けんかして^デ。^デ。

C ニー。
うん。

A ナー。
おめ。

C ニー。
うん。

A ソエデ^デ モー アノー イマリシューワ ミラレネアー アノ ケ
それで^デ もう 今の 人は 見られ^デ ない あの 軽
ーベンカ^カ……。
便^カが……。^カ。

C ニー。
うん。

B ケーベン……。
軽便……。^カ。

A ピー——ナンテナ。アー イノミヤカラ オメア ウシズママデ
ひ———アム? (音を出し)ア 丹官 から お前 牛 専 まま
イッテタンダナ。
行、たいたのたアア。

C ケーベンカ ナツカシイ。ニー。
軽 便が アツかしい。うん。

A アー。
ああ。

C ニー。ソーダナ。
うん。そうアアア。

A アレカラ ウヤー オメア— ミンナ カツキデナ……。
あそこから 上げ お前 皆 (荷E)担いでアア……。

C ニー。
うん。

A アスコントケー トマツテサ……。
あそこへ 泊、マサ……。

C ニー。
うん。

A ウシズマエ……。
牛 専 へ……。

C ニー。
うん。

A へーカラ オマエ ウメガシマダトカ イカワエ イツタダケトナ。
それから お前 梅ヶ島 下とか 井川へ 行、たいたけ水とマ。

B ソエデ" コンドワ……。
それで" 今度は……。

C トチューエ トマツチャ イカチケリヤー ~~イカ~~ イカレネエーツ
(~~イカチケリヤー~~)途中に泊、マは 行かれまければ 行かれまければ
ケダナー。

んいごひみ。

A アー。

あゐ。

B イマデモ ナンダカノ⁽³¹⁾ アトガアル。ソノ ケーベンノ……。
今でも 何だかの 跡がある。その 軽便の……。

C ニー。

うん。

A アー。

あゐ。

B ナンダカノ アトガ アルツテ。ソイデ アレ テレビデ ヤッタ
何だかの 跡がある(いう)。それで あれを(いつか)テレビで 放送
ツケ。ケーベンノ……。

レトは。

A アー。

あゐ。

C ワシズマニ アルダヨナ。

(その跡は)牛車にあるんだよ。

A ソリヤ オラン ホシ センゴロマデ オベーターヤツダナ。

それは 私ほ っい 先ころまで 覚えてるものだよ。

C ニー。ケーベンワナ。ワシラ イツタコトモアルシ イクトモ……。

うん。軽便はな。私 乗ったこともあるし、幾度も……。

A ソノトージツカラサ ミカンカナー……。

その当時 からさ みかんが 好き (よくとれた)。

C ン一。
うん。

A ミカンオ ツクッテリヤー ヒャー オッカネアーコトワ ネアー
(当時は)みかんを 作っていわは"もう ニわ い ンとは 好いわ
ワ。アノ一 ミカンワナ ヒャー モー コケーラノ イチバンノ
い。 みかんは好 もう もう この 扱りの 一番繁盛
アレダ"アノ一 オキヤドコノ シューオンチャー モンダージ
にいて お茶作りの 家の人とは"は 問題では
ヤーネアーワ オンテツタノカ ナ一。イマノ一 ミカンジャー
好いわい 好"と言っていたのが"好あ。現在の みかんでは
ミカンノトコノ シューガ° ビンボーシテテ オキヤドコノシュー
みかんを 作る 人 が"貧乏を して いて お茶作りの 人
アラナニカノホーガ ラクオシチャワダケドサ。ン一。コレジャー
やら 何かの 才が 楽を して しまうの だ"が"サ。うん。これでは
ヤッテケネアーダ"ンデ"……。ワシャー。ハハ。コマツタモンダ ヨ
や、て 行け 好い から……。私 は。 困、た もの だ"世
ノナカッテ……。
の 中 という もの は……。。

ソイデ" オトシサンダ"ッテモ モモサンダ"ッテモ アレズラ。ウチ
やれで おとしさん ども 百々さん ども みれた"らう。家
デモッテ ヒーオサンノ クビョー コシャエタリナニカシテ マ
で おひさまの 首 を これらえたり 何かして(むす"らうが)
サカ ソノト一ジャー ソンナコター カンゲアーネーッケツツラ
おまか その 当時 は そんな ことは 考え 好かった ろう 好。
ナ。(B 築) イマワ ミーンナ ソーダ"。ヒトリノ コラス"。
今 は 皆が そう(いふ"に"は"ま)だ。ひとり 残らす。

C ムカシワ コドモモ タント ウンダニャー ウンダダケーカ° ア
昔 は 子供 も 沢山 産んた"には 産んた"のた"か"……。
レダヨナ……。

A ニー。ニー。
うん。うん。

C ミーナ ヒャー トショートリャー コドモノモリョーシキャー
(昔は)皆 もう 年を とれば" 子供の 守りをしては
アッチノウチー アツマツタリ コッチノウチー アツマツタリダ
あちらの家へ 集まったり こちらの家へ 集まったり(してん)
ナ。
た"た"。

A アー。
あめ。

C ミーナ アソンデイタツケカ° イマジャー ソシナヒトワ ダーレ
皆 遊んでいた か 今"は せんた"人は た"れ
モネア。
もた"い。

A ダーレモネー。
た"れもた"い。

B コモリシタリ シルヒトワ……。
子守りをしてたり する人は……。

C ワシラウチアタリャー ホント オバーサンチノ スダツケ。(笑)
私 の 家 ほど" は 本当は (子守りして)おばあさんたちの巣だった。
ミーナ コドモ ツレテキキャー……。
皆 子供を 連れてきては……。

A ダケン オトシサンナ……。
た"けど" おとしまん ぽ……。。

C エ？
え？

A オレン ヒトツ オモヘーガナ オラン カーサンカヨク イ
私 は ひとっ 思のた"が"ナ、私 の 妻 が" ぶく (私エ)
ジメルダヘーガナ……。
いじめるのた"が"マ……。。

C ー。
うん。

A オネンブツワナー⁽³²⁾ マー アルトシークルト ヒャー モー ジブ"
お念 仏 は ぽめ まめ 一定の年令がくると(つり) もう 自分
ンノコガヨメツコオ⁽³³⁾ モライハジメテクルト……。
の子が 嫁 エ もらうようにしてくと……。。

C ー。
うん。

A ドンナニ ワカクテモ ヒャー イッコクメア⁽³⁴⁾ーリッテノ ヤツタ
どん ぽに 若くても もう 一 国 ま"り といのを や、た
ダヘーガ ヤルダヘーガ……。
のた"が", やるのた"が"……。。

C ー。
うん。

A ヒャー ソラ オラン トナリノオ イヨデセア⁽³⁵⁾ー オマエ……。
それ 私 の 家 の 隣 の 「いよ」でさえ お前……。。

C ー。
うん。

A イッコクマイリニ イクダケーガ……。
一 国 まいに 行くのたが……。

C ニー。
うん。

A コーイツツアンケウチノ ヨメッコモ イツタズラ。
光 一 さんの 家の 嫁 さんも 行ったろう。

C ニー。
うん。

A イクズラ。
行くたろう。

C ソイダケーガナ……。
それたけれとて……。

A ニー。
うん。

C アノシューガ ワケアートオモケシナ……。
あの 人 が 若いと(あつたは)思いうけれとて……。

A ニー。
うん。

C ヤッパリ ワカカネマーダヨ。
や、ぱり 若くはていんじよ。

A ヤッパリナ……。
や、ぱりて……。

C ニー。トシデ アレシルトナ……。
うん。年 で 考えるとて……。

A ニー。
うん。

- C ヤッパ ソーダヨ。
や、ほり そうだ"よ (若くほり"よ)。
- A ヤッパリ。
や、ほり。
- C ー。
うん。
- A オマツキノトキ オンナシコシカ。
お前 が 行、た 時 も 同い"よう"て"んとか。
- C ソーダ"ヨ。ー。
そうだ"よ。うん。
- B ソーダ"ヨ。
そうだ"よ。
- A ー。ワケ"ア"ーモノ……。
ふーん。若い もの……。
- C シジューニデ" シジューニデ" イツタダ"ヨ。シジューニデ" イツテ
四十二歳"で 四十二歳"で(私ほ)行、た"ん"だ"よ。四十二歳"で 行、て
ナンシロサ……。
ほんしろさ……。。
- A ー。
うん。
- C ソイデ" マノ ムカシノ"シューワ ホー カゾ"エデ"ネア"ー……。
それで 昔 の 人 は 教え"年"で"ない"……。。
- A ー。
うん。
- C カ⁽³⁶⁾
カゾ"エデ"ネア"ネア。マシ"デ"ナクテ カゾ"エダ"。ナ。ー。
教え"年"で"ない"。満"が"て"て 教え"年"だ"。ア"あ。

A シー。シー。
うん。うん。

C ホイダモンデ シジューニダツテモ モット ワケアーツケダヨナ。⁽³⁷⁾
それだ"から 四十ニ ても も、と 若かったんた"で"す。

A ンー。
うん。

C イマノシューワ ソー マンデ シルンデナ。
今の人 は それだ" 満で" 数えるんで"す。

A ンー。
うん。

C ソエダ"ンデ マサコサンワ サンジュー ワシラナンデ⁽³⁸⁾ シ~~キ~~ シ
それだ"から 正子さんは 三十 私が(数えるには)
キケレアーデ" イツタジャネアーカナ。
セ"ぐらいて" 行、たんで"は" 好いか"す。

A マダ ムスメドモデー ヨメツテ カンジデネー。
(三十七で"は) 来た" 娘ども"だ"す 嫁"という 感"で"は"好い。

C ソエダ"ンデネー マダ ハヤカーイミタイダ"ケンサー"……。
た"から始(四十ニで"は) 来た" 早"いみたい"だ"けれ"ど"す" ……。

A ンー。
うん。

C ハヤカー ネアーダ"ヨ ヤッパ。ンー。
早く"は" 好いんだ"よ、や、ほ"り。うん。

A アー。アー。
あゝ。あゝ。

C へ ミエキヤンキワ シジューニケレアーダ"ツケナ。
三枝ちゃん は 四十ニ"ぐらいた"ら" け"す。

A トコロガナ ソリャ エーダケーガナ オネンブツガナー ムカシ
 ところがナ 忘れ 悪いのたがナ お念仏 がナめ 昔
 ノオネンブツノホーカ ドーモ オリャーナ コノー ニー タカ
 のお念仏 のオカ どうも 悪いナ 他
 イシタナ ホトケサンガナ コー ゴクラクエイクヨーナカンジン
 昇れたナ 仏 さん がナ 極楽へ行くようナ 感レバ
 シルダケン ドーユーモンダヤマー。
 悪いのたが どういうものたろうナめ。

B ソイダケーカ°……。ムカシノ……。
 しかし……。昔の……。

A モットモサ ジテアーツテモノワ アルンダナ。
 もっともナ, 時代(の変化)というものがあるんナ。

B ネンブツワ ムカシノネンブツワ キーテテ ナンニモ イミガ
 念仏は 昔の念仏は 聞いていて 何も 意味が
 ワカンネアージャー。
 わからナいでナナ。

A ムカシノワカ。
 昔の(念仏)はナ。

B ニー。
 うん。

A ホーカ。
 そうナ(ナ)。

B ネー アンタ ナンニモ ワカンネア。
 ナニも 何にも わからナ(ナ)。

C ソーダヨナ。
 そうナ(ナ)。

B イマンノワ コー フント キーテルト ヨーク ナニカ ワカル
今のは 本当に 聞いてると よく 何か わかる
ダケーカ ムカシノネンブツワ ソノ ソノコトバガ ワカンネア
のた"が" 昔 の 念仏は そのことば"が" わからずい
ージャー。ソノコトユート オコラレルケド……。
ではいいか。そんなことを言うと 怒られるけれど……。

A (笑) ダケンドサ オラン キーテテナー……。
た"けと" 私が 聞いています……。

B ー。
うん。

C ダケンド……。
た"けと"……。

A アノ フダラクヤナンテノワ ヤルケーカナ……。
補院落ヤアと"というの は やるけれどア……。

B ー。
うん。

A ダケーカ ムカシノネンブツダトナー イカニモ ホトケサンガサ
た"けと" 昔 の 念仏 た"と"アア いかにも 禿^ぼ者^とさんが"さあ
ー アノー タカイシタ ホトケサンガ ゴクラクジョードエナー
他界した、禿^ぼ者^とさんが 極楽 浄 土へアア
イクヨーナキモチノ……。イマンナー オメナー ナョードサー
行くようにアア持ちの(私もだが)。今のは お前 アアと"さあ
イマノ ワカイシューガ ウター ウタウヨーナモンデナ (C笑)
今 の 若い 衆 が 歌を 歌う ようアアものでアア、
ワタシワ ナンテ ユーヨーナ ヨーナ キーチャツテサ。
「わたしはー」アアアア言うアア (ふいに) 聞こえてアアアア。

B フダラクヤツテ ソノ フダラクヤツテコトワ ナニノコソダ。キ
補陀落や、て その 補陀落や、てというんとは 何のことだ。

シウツナミツテノワ マー ワカルケト".....。

岸打ッ波というのは まあ わかるけれど".....。

C ソリャ アノー サンジューサンバンデ⁽³⁹⁾ フダラクヤツテ.....。
それは 三十三 番 で 補陀落や、て.....。

A ニー。ダケーカ° イミオ シツテルヒトモ アルメアークーガサー。
うん。た"けれど"(物)意味を知、てる人も あるまいけれど"さあ。

B ニー。
うん。

A アノー ヨクサー コノー ネンブツオ ヤルトナー アノー フ
よく 念仏を 唱えろとて フ

ールオ ヤツタリサ⁽⁴⁰⁾ ナニカヤルト イカニモ コノ ホトケサン
ールを やつたりさ、何かやると いかにも 屍著さん

カサ ゴクラクジヨードエ コノ イクヨーナカンジシルケン フ
か"好 極楽浄土へ 行くよう"感じ"があるか"こ

ヨービンノワ ドーモ オランカーサンガ° ナンダカ ウナッチャー
の"ころ"のは どうも 私の 家内が 何だ"か"う"好、て"は

(笑) ヨク ヤツテルケーカ° ソレデモ アリャー アノー アレ
よく やつて いるか" 「それでも それは

カー ネンブツカー ヤツチャ オレー ヨクユー。
念仏 か"好"と"と 私 は よく言うよ。

B ノリャー.....。
それは.....。

C ヤッパリ ムカシツカラ コー キキナレタ ジュンテ.....。
やはり(念仏には)昔から 聞き"好"れた "順と(いうものが"ある。)

B ソーダヨ。ヒトリ コノ オトーサンワ ヒトリッコデ ソダッテ
そうた。 この お父さんは 一人子で 育って

.....。

.....。

C ソー。

そう。

A ソリャー ワカルヨ。

それは わかるよ。

B アンマシ イツマデモ オヤノソバニ (笑) イテ ネンブツオ-----。

あまり いつまでも 親のそばに いて 念仏を(聞いていたから)

A ソリャー ワカルヨ。

それは わかるよ。

ムカシノナ アノー カレススキナキユエノワナ オラニ 行々
昔のな 枯れ薄 せんい歌 は 私人に 歌

ワセルトナ アノー コノ カレススキカ フントニ ソノ バメ
わせるとは 枯れ薄が 本当に(生き生きと)場

シカ° デルケーガナ キョーゼノ アノ カレススキジャー ソノ
面が 出るのたがは この(人歌う) 枯れ薄 では

バメシカ° デテコネアードモノナ。

場面が 出るとはほんとにものな。

C ソーダヨナー。

そうた。よ。あ。

A ナー。

あ。

C アノー ムカシノシユエガ ウタツタノト ヤッハ° イロイロ コ

昔の人が 歌ったのと(比べると)やっぱり(現在)色々

一 向タ向ケ一カ° ヤッパリ ムカシノヨー十 アノ シー カン
歌うけれど" や、ほり 昔 のようぢ 感

ジ".....

レ"(か出たかい)。

B ソリヤー ソーダ。カレススキツテユート ヒャー バイオリンが
それほ そうだ"。枯水 薄(の歌)というも もう 必"バイオリンが"

ウキモンデ".....

ついで

C シー。

うん。

A シー。

うん。

B アレシタケン.....。ネー。フント。

歌、た から。ねえ。本当。

C ニー。ニー。

うん。うん。

A ホントニサ。

本当にさ。

C ナンデモ.....

何でも.....

A クルシマスミコモ オモイダ"スシサ.....

(映画俳優)栗島すみ子も 思...出たレさ.....

B シー。

うん。

C キミコイシダ"ツテ ソーシヤンナー。

「君 恋"レ」(の歌)だ"て そうだ"と"けみ。

A アー。

ああ。

C コノゴロノ一キーテリヤー ナンニモ アジャネー。タシカム
このころの(歌を)聞いていれば 何も 味 べない。たしかに
カシノフシノホーカ エーナトオモ一ナ。

昔の節のオカ いいつと 思いうつ。

A ニー ジッダーワナ カワッテクダケーカサ ムカシ オメヤー
うん 時代 はつ、 変わ、て 行くんだがね、 昔は お前

アノ コートーガッコー シズ⁽⁴¹⁾コーエナンテ イクシューワナ ア
高等 学校(つり) 静高へつと 行く者 はつ、

ノ シズキューエ イクシューモ スケネアーダケーカ シズコー
静中 へ 行く者 も 少ないの だが 静高

ナンテ イマノ シズオカコートーガッコーエ イクシューナンチ
つと(つり)今の 静岡 高等 学校 へ 行く者 つとと

ヤー アマヨニホシダツタ。ナー。オマツケン オマエ……。

いえは 雨夜 に 星(ほし)少ないから。つあ。お前たち お前……。

B フタリカ サンニン……。

二人か 三人……。

A モーットダオメヤー。アサバタデモツテ サンニンカノ ラーダ。

もつと(少ない)お前。麻機 だ 三人かその(らいた)。

B ハタダノ モンタローサンテヒトダ。イマノ シバ シバヌエサン
旗田の 紋太郎さんという人だ。今の シバ 芝末さん
だ。

だ。

A ニー モンチャンニ サブローニサ……。

うん 紋ちゃんに 三郎 にさ……。

ニー。へーカラ オマエ ヤクボ¹ノナ アノシューガ² イツタケ
 うん。それから 谷久保の³おめ⁴の人⁵が⁶行⁷、た⁸い
 レア⁹ノモンダ¹⁰。イーマ ヤセテモカレテモ ミーンナ コートー
 らい¹¹のものだ¹²。今は ヤセ¹³てもカレ¹⁴ても 皆 高等
 ガッコ¹⁵デサ¹⁶。ドコノシューダ¹⁷ッテ アノダイカクイキ コノダイ
 学校¹⁸へ行く。ど¹⁹この人²⁰ ても²¹ おの²²大学²³へ行き²⁴この大
 カクイク。ニー。ナンテ ジテ²⁵ア²⁶ワ カワ²⁷ツタ²⁸ダヨ。アー。ダッ
 学²⁹へ行く。うん という³⁰と³¹で 時代³² は 変わ³³、た³⁴んだ³⁵よ。あ³⁶め。た³⁷、
 テ オマ³⁸ツキ³⁹ン カーサン⁴⁰カ⁴¹ オメ⁴²ア⁴³ー コートーガ⁴⁴ッコ⁴⁵エ ツ
 て お前⁴⁶の家⁴⁷のお母⁴⁸さん⁴⁹が⁵⁰ お前⁵¹、高等⁵²学校⁵³へ 勤
 トメ⁵⁴テル⁵⁵コ⁵⁶ラー アレン⁵⁷ デキ⁵⁸テサ⁵⁹ー ナー。シズ⁶⁰オカ⁶¹ アノ オ
 め⁶²ている⁶³ころ⁶⁴は(お⁶⁵高校⁶⁶が)あ⁶⁷い⁶⁸に⁶⁹ でき⁷⁰て⁷¹あ⁷² け⁷³あ⁷⁴。静岡⁷⁵(あ)の⁷⁶大
 ーイ⁷⁷ワノ コートーガ⁷⁸ッコ⁷⁹ガ⁸⁰ ⁽⁴²⁾デキ⁸¹テ オイ⁸²ワイ⁸³オ スル⁸⁴ニ⁸⁵ネ
 岩⁸⁶の 高等⁸⁷学校⁸⁸が⁸⁹ でき⁹⁰て お⁹¹視⁹²い⁹³を⁹⁴ する⁹⁵の⁹⁶に⁹⁷ね
 アノー ハナ⁹⁸ビ⁹⁹ョー ウ¹⁰⁰ッテ¹⁰¹サ ソイ¹⁰²カラ ハタ¹⁰³マ¹⁰⁴デ¹⁰⁵ア¹⁰⁶ケ¹⁰⁷テ……。
 花¹⁰⁸火¹⁰⁹を 打¹¹⁰って¹¹¹さ、それから 旗¹¹²まで¹¹³挙¹¹⁴げ¹¹⁵て……。

B ニー。
うん。

A ホシ¹¹⁶テ オマ¹¹⁷エ アノー オイ¹¹⁸ワイノ アノー ミセ¹¹⁹テモ¹²⁰ラ¹²¹ツタ。
 うれ¹²²て お前¹²³ (お¹²⁴)お¹²⁵視¹²⁶い¹²⁷(お¹²⁸行事¹²⁹を) 見¹³⁰せて¹³¹もら¹³²、た。
 ソイツ¹³³ン オラン¹³⁴ イケ¹³⁵デ¹³⁶ア¹³⁷ー マデ¹³⁸ タタ¹³⁹ネ¹⁴⁰ア¹⁴¹ーウ¹⁴²キニ¹⁴³ ヒャー
 それ¹⁴⁴が¹⁴⁵ 私¹⁴⁶の 一¹⁴⁷代¹⁴⁸が¹⁴⁹ また¹⁵⁰ 経¹⁵¹過¹⁵²レ¹⁵³た¹⁵⁴。う¹⁵⁵ち¹⁵⁶に¹⁵⁷ も¹⁵⁸う
 アノ ガ¹⁵⁹ッコ¹⁶⁰ン トレ¹⁶¹テ ハマ¹⁶²ノオ¹⁶³ーヤ¹⁶⁴エ イッ¹⁶⁵テ ダイ¹⁶⁶カク¹⁶⁷ニ
 お¹⁶⁸の 学校¹⁶⁹ が¹⁷⁰ 廃¹⁷¹止¹⁷²さ¹⁷³れ¹⁷⁴て 浜¹⁷⁵の 大¹⁷⁶谷¹⁷⁷へ 移¹⁷⁸転¹⁷⁹し¹⁸⁰て (静岡)大¹⁸¹学¹⁸²に
 ナ¹⁸³ツ¹⁸⁴キ¹⁸⁵チャ¹⁸⁶ツ¹⁸⁷タン¹⁸⁸ダ¹⁸⁹ナ¹⁹⁰ー。マ¹⁹¹ー ジ¹⁹²テ¹⁹³ア¹⁹⁴ワ カ¹⁹⁵ワ¹⁹⁶ル¹⁹⁷サ。アー。ナン
 ば¹⁹⁸、し¹⁹⁹ま²⁰⁰、た²⁰¹んだ²⁰²け²⁰³あ²⁰⁴。あ²⁰⁵め(うれ²⁰⁶) 時代²⁰⁷ は 変²⁰⁸わる²⁰⁹の²¹⁰よ。あ²¹¹め け²¹²に

セムカシオ カンケアールト ナガイヨ。
レヲ 昔 エ 考 え る と 長 い ㇿ。

B ナガイネー。ズイブン。
長 い ㇿ ㇿ。 ㇿいぶん。

A ニー。
うん。

B ジーブン ナケアー。ホントニ。
ㇿいぶん 長 い 。 本 当 に。

A アー。(笑) ノイダケアーガナー……。
あゝ。 ㇿから ㇿめ ……。

B ヘダケン ヨクイキテルト イキテルト (笑) オモダヨ。
ㇿから よく 生 きて いる と 生 きて いる と 思 ㇿんㇿㇿ。

注記

- (1) 麻機地区にある沼の通称。
- (2) お不動さんの祭のお供に仔、たしるしとして大勢の人が列を作、て後とついて行、たということ。
- (3) 有永は麻機の南地区の地名。
- (4) 草取りをしほいために草が生い茂ることをこう形容した。「穂に穂が咲く」ということ。
- (5) 一足で一対に仔ののだが、その片オだけを「ペラ」と言、た。
- (6) 片オだけで一つと教えたオが、多く作、たことにほるので、そのようにいわばゴマカシタということ。
- (7) 「ツッコロカシテモ」の「イ音便」。
- (8) 左回りに仔れを仔、たため、仔れがピンとせず、丸く仔、てしまふのを「鼻糞を丸めたようだ」と形容したもの。
- (9)(10) 植えたあとの田んぼの表面が持ちあが、て物動してしまふ。水が多い時に起こる現象だという。
- (11) 寺に入り込んでくる、素行の悪いばあさんのような仔のものだ。
- (12) 「コンクリモ ナンニモネー」と「コンクリデモ ナンデモネー」との二つの表現が混交したもの。
- (13) 「小郎次」という名の愛称。
- (14) 千枝さんという女性、若くて死んだらしい。
- (15) 「自動車屋」は誤り。
- (16) 水の出口をふさいでしま、て、中にいる魚を捕ることに。ただし、こゝでは水をかき出してしま、て中の魚を捕ることに使、ている。
- (17) 毒を川に入れて魚を殺して捕るオ法。(毒はトバネという植物の根を砕いたもの。)
- (18) ほんのわがかの幅の。
- (19) 「コロカシラ」と「コロダ」との混交形か。
- (20) 洪水などのあとでできた小さい小たまり。そこに魚がそのまま住みつくように仔、たものを「シマ」という。
- (21) 静岡市西北部の池。正式には「鯨ヶ池」という。

- (22) この談話に入る前にAが私にしてくれた話。
- (23) 静岡県方言では「ヤッパリ→ヤッパ、アンマリ→アンマ」の
ような短縮形が多い。
- (24) 安倍川は静岡市の西部を東南方向に流れて駿河湾に入る。話者の
住む麻機からは、2キロほど西にあたり。
- (25) 静岡市中心部よりやや西寄りにある^{ヒシガン}浅間神社。
- (26) 「セツバ」は、材木・石などをけずり取った残りがすえいう。こ
こでは石をけずって鳥居を作ったあとの石のかけらのことを言う。
- (27) → (25)
- (28) この「ホント」は降り音調で、「ああ、そういうものかわ」とい
う、軽いあいづらの気持ちを表わす。
- (29) 十二の船が上か、へ行、たというので、本来は「十二」とい
う地名。今は「十二又」と書く。
- (30) 鳥居の一番上の部分がいいので、鳥居として完成しない。
- (31) 「ナンダカノ」は「軽便」ということばがすぐ思い出せよいために
便、たもの。
- (32) 「オネンブツワナー」を受けると述語文節が見あたらなく行、てい
る。
- (33) 「ヨメッコ」の「コ」は指小辞的の「コ」。もちろん、こういう
個別的な用法に限られている。
- (34) 嫁が全国33の所の観音の霊場をまわって極楽往生を願うという風
習。
- (35) 「いよ」はAの隣家の嫁の名。
- (36) はじめ、「昔は数え年でいい」と考えたが、それは誤りだと感じ
たため、「カゾエデネアネア」と二度打ち消しの語を便、たもの。
パロール的のもので、この方言の習慣ではいい。
- (37) 数え年で42歳だから、現代ふうに考えれば、もっと若かったこと
に行るといっているのである。
- (38) 「正子さんは、私の考えでは、37歳で参りに行、たと思う」という
のである。「三十七」という数詞が途中で切断され、「ワシラサンテ」

が介入している。

(39) 西国三十三ヶ所観音の第一番の札所ということと云おうとするのであろう。

(40) 念仏のことは「エ、一音節ごとくに長く引いて唱える呼法を「フル」という。永年の修練を要するという。

(41)(42) 旧制静岡高等学校。大正11年(1922)4月開校。A氏満11歳。

(43) 実際は、大学昇格はむしろ昭和24年で、焚谷でなく大岩地区。大谷への移転は昭和42年(教養部)。

昭和56年1月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号
電話 東京(900) 3111(代表)

国立国語研究所刊行書一覽

国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 ——白河市および付近の農村における——	〃	〃
3	現代語の助詞・助動詞 ——用法と実例——	〃	2,000円
4	婦人雑誌の用語 ——現代語の語彙調査——	〃	品切れ
5	地域社会の言語生活 ——鶴岡における実態調査——	〃	〃
6	少年と新聞 ——小学生・中学生の新聞への接近と理解——	〃	〃
7	入門期の言語能力	〃	〃
8	談話語の実態	〃	〃
9	読みの実験的研究 ——音読にあらわれた読みあやまりの分析——	〃	〃
10	低学年の読み書き能力	〃	〃
11	敬語と敬語意識	〃	〃
12	総合雑誌の用語(前編) ——現代語の語彙調査——	〃	〃
13	総合雑誌の用語(後編) ——現代語の語彙調査——	〃	〃
14	中学年の読み書き能力	〃	400円
15	明治初期の新聞の用語	〃	品切れ
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	〃
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	〃
18	話しことばの文型(1) ——対話資料による研究——	〃	〃
19	総合雑誌の用字	〃	〃
20	同音語の研究	〃	〃
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) ——総記および語彙表——	〃	〃
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) ——漢字表——	〃	〃
23	話しことばの文型(2) ——独話資料による研究——	〃	〃
24	横組みの字形に関する研究	〃	〃
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) ——分析——	〃	〃
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	2,100円
27	共通語化の過程 ——北海道における親子三代のことば——	秀英出版刊	品切れ
28	類義語の研究	〃	〃
29	戦後の国民各層の文字生活	〃	400円
30-1	日本語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-2	日本語地図(2)	〃	〃

30-3	日 本 言 語 地 図 (3)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-4	日 本 言 語 地 図 (4)	〃	〃
30-5	日 本 言 語 地 図 (5)	〃	〃
30-6	日 本 言 語 地 図 (6)	〃	〃
31	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究	秀英出版刊	450円
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) ——親族語彙と社会構造——	〃	品切れ
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II) ——新聞の用語用字調査の処理組織——	〃	品切れ
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) ——マキ・マケと親族呼称——	〃	450円
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	5,000円
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	品切れ
38	電子計算機による新聞の語彙調査(II)	〃	2,800円
39	電子計算機による国語研究(III)	〃	700円
40	送 り が な 意 識 の 調 査	〃	1,500円
41	待 遇 表 現 の 実 態 ——松江24時間調査資料から——	〃	900円
42	電子計算機による新聞の語彙調査(III)	〃	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	〃	5,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	〃	3,000円
45	幼 児 の 読 み 書 き 能 力	東京書籍刊	4,500円
46	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IV)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3) ——性向語彙と価値観——	〃	700円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(IV)	〃	3,000円
49	電子計算機による国語研究(V)	〃	900円
50	幼 児 の 文 構 造 の 発 達 ——3歳～6歳児の場合——	〃	品切れ
51	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VI)	〃	1,000円
52	地 域 社 会 の 言 語 生 活 ——鶴岡における20年前との比較——	〃	1,800円
53	言 語 使 用 の 変 遷 (1) ——福島県北部地域の面接調査——	〃	2,500円
54	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VII)	〃	1,000円
55	幼 児 語 の 形 態 論 的 な 分 析 ——動詞・形容詞・述語名詞——	〃	品切れ
56	現 代 新 聞 の 漢 字	〃	3,000円
57	比 喩 表 現 の 理 論 と 分 類	〃	6,000円
58	幼 児 の 文 法 能 力	東京書籍刊	5,500円
59	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VIII)	秀英出版刊	1,300円
60	X線映画資料による母音の発音の研究 ——フォネーム研究序説——	〃	2,500円
61	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IX)	〃	1,300円
62	研 究 報 告 集 (1)	〃	1,700円
63	児 童 の 表 現 力 と 作 文	東京書籍刊	6,000円
64	各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1)	秀英出版刊	2,000円

国立国語研究所資料集

1	国語関係刊行書目(昭和17~24年)	秀英出版刊	45円
2	語彙調査——現代新聞用語の一例——	”	品切れ
3	送り仮名法資料集	”	”
4	明治以降国語学関係刊行書目	”	”
5	沖繩語辞典	大蔵省印刷局刊	3,500円
6	分類語彙表	秀英出版刊	1,800円
7	動詞・形容詞問題語用例集	”	1,700円
8	現代新聞の漢字調査(中間報告)	”	500円
9	牛店安愚楽鍋用語索引 雑談	”	1,500円
10-1	方言談話資料(1) ——山形・群馬・長野——	”	6,000円
10-2	方言談話資料(2) ——奈良・高知・長崎——	”	6,000円
10-3	方言談話資料(3) ——青森・新潟・愛知——	”	6,000円
10-4	方言談話資料(4) ——福井・京都・島根——	”	6,000円
11	日本語地域語形索引		

国立国語研究所論集

1	ことばの研究	秀英出版刊	品切れ
2	ことばの研究 第2集	”	”
3	ことばの研究 第3集	”	”
4	ことばの研究 第4集	”	1,300円
5	ことばの研究 第5集	”	1,300円

国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭和24年度	品切れ	16	昭和39年度	品切れ
2	昭和25年度	”	17	昭和40年度	250円
3	昭和26年度	160円	18	昭和41年度	300円
4	昭和27年度	160円	19	昭和42年度	300円
5	昭和28年度	品切れ	20	昭和43年度	品切れ
6	昭和29年度	200円	21	昭和44年度	”
7	昭和30年度	品切れ	22	昭和45年度	”
8	昭和31年度	”	23	昭和46年度	450円
9	昭和32年度	”	24	昭和47年度	450円
10	昭和33年度	”	25	昭和48年度	品切れ
11	昭和34年度	”	26	昭和49年度	600円
12	昭和35年度	350円	27	昭和50年度	700円
13	昭和36年度	160円	28	昭和51年度	非売品
14	昭和37年度	220円	29	昭和52年度	”
15	昭和38年度	250円	30	昭和53年度	800円

国語年鑑 秀英出版刊

昭和29年版	品切れ	昭和33年版	年版	品切れ
昭和30年版	”	昭和34年版	年版	”
昭和31年版	”	昭和35年版	年版	”
昭和32年版	”	昭和36年版	年版	”

昭和 37 年版	品切れ	昭和 47 年版	2,200円
昭和 38 年版	〃	昭和 48 年版	2,700円
昭和 39 年版	〃	昭和 49 年版	3,800円
昭和 40 年版	〃	昭和 50 年版	3,800円
昭和 41 年版	〃	昭和 51 年版	4,000円
昭和 42 年版	〃	昭和 52 年版	4,500円
昭和 43 年版	〃	昭和 53 年版	4,600円
昭和 44 年版	1,500円	昭和 54 年版	4,800円
昭和 45 年版	1,500円	昭和 55 年版	5,200円
昭和 46 年版	2,000円		

日本語教育教材

1	日本語と日本語教育 ——発音・表現編——	国立国語研究所 文化庁 共編	大蔵省印刷局刊	650円
2	日本語と日本語教育 ——文字・表現編——	〃	〃	850円
3	日本語の文法(上)	——日本語教育指導参考書4——	〃	450円
4	日本語教育の評価法	——日本語教育指導参考書6——	〃	450円

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 日本新聞協会 共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所 共編	金沢書店刊	品切れ
国立国語研究所三十年のあゆみ ——研究業績の紹介——		秀英出版刊	1,500円

日本語教育教材映画一覧

(各巻16ミリカラー、5分、日本シネセル社販売)

巻 題 名	プリント価格
第1巻 これはかえるです——「こそあど」+「は～です」——	30,000円
第2巻 さいふはどこにありますか——「こそあど」+「が～ある」——	〃
第3巻 やすくないです、たかいです——形容詞とその活用導入——	〃
第4巻 なにをしましたか ——動詞——	〃
第5巻 しずかなこうえんで ——形容動詞——	〃
第6巻 さあ、かぞえましょう ——助数詞——	〃
第7巻 うつくしいさらになりました ——「なる」「する」——	〃
第8巻 きりんはどこにいますか ——「いる」「ある」——	〃
第9巻 かまくらをあるきます ——移動の表現——	〃
第10巻 おかねをとられました ——受見の表現1——	〃
第11巻 どちらがすきですか ——比較・程度の表現——	〃
第12巻 もみじがとてもきれいでした ——「です」「でした」「でしょう」——	〃
第13巻 きょうはあめがふっています——「して」「している」「していた」——	〃
第14巻 そうじはしてありますか——「してある」「しておく」「してしまう」——	〃
第15巻 おみまいにいきませんか ——依頼・勧誘の表現——	〃
第16巻 なみのおとがきこえてきます ——「いく」「くる」——	〃

(第1巻～第3巻は、文化庁との共同企画・VTR価格1/2インチオープンリール21,000円、3/4インチカセット20,000円)

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATIONS

SOURCE X-V

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 5)

CONTENTS

Foreword

Purpose and Outline

Text

Part 1 : IWATE PREFECTURE (Hamlet Hontyō, City Esasi)

Part 2 : MIYAGI PREFECTURE (Hamlet Arahama, Town
Watari, District Watari)

Part 3 : TIBA PREFECTURE (Hamlet Aihama, City Tate-
yama)

Part 4 : SIZUOKA PREFECTURE (Hamlet Minami-Nakamura,
City Sizuoka)

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
TOKYO JAPAN

1981